



JUNTENDO UNIVERSITY
SHIZUOKA HOSPITAL

順天堂大学医学部附属 静岡病院 年報



2025年度版

2025 年度 病院年報 刊行にあたって

順天堂大学医学部附属静岡病院院長 山本拓史

2025 年度、当院は診療・教育・研究の各分野において着実な成果を挙げることができました。私は 2026 年 4 月に院長に就任しましたが、この一年の歩みを振り返る中で、順天堂大学静岡病院が地域医療に果たしてきた役割の大きさと、その責任の重さを改めて実感しております。

昨今の医療情勢は厳しさを増しておりますが、当院は地域の基幹病院として、高度かつ先進的な医療の提供に努めてまいりました。2025 年度は、新設された H 棟において、救命救急センター機能やハイブリッド手術室、ロボット手術室を含む高機能手術室の運用が本格化し、高度急性期医療体制を一段と強化することができました。あわせて、脳卒中ケアユニット（SCU）12 床を開設し、専門的な診療とケアの充実にも取り組んでおります。

当院の大きな特色であるドクターヘリは、2025 年度も 1,029 件の出動実績を記録し、全国トップクラスの活動を維持いたしました。また、次世代を担う医療人材の育成にも注力し、コード・ブルーセミナーや高大連携事業を通じて、幅広い世代の皆様へ医療への関心を深めていただく機会を提供しております。

地域連携においては、静岡県との地域医療体制確保に向けた協定締結により、県東部地域における産科・小児医療の充実と医師育成に向けた取り組みが進められております。初期臨床研修ではマッチ率 100%を達成し、35 名の新たな研修医を迎えることができました。また、地域医療連携推進法人「静岡県メディカルネットワーク」への新たな参画や、3 月に開催した医療連携フォーラムにおいて 95 施設・130 名を超える皆様との交流を通じ、「顔の見える連携」は一層強固なものとなりました。

これらの成果は、職員一人ひとりの献身的な努力と、地域の皆様をはじめとする関係各位の温かいご支援の賜物であり、心より深く感謝申し上げます。

今後も医療を取り巻く環境は厳しい状況が続くことが予想されますが、当院は高度急性期医療、救急医療、人材育成、そして地域医療連携のさらなる充実に努めてまいります。本年報が当院の活動をご理解いただく一助となれば幸いです。

最後に、地域の皆様、関係医療機関ならびに行政機関の皆様に心より御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

行事写真



新入職員講習会



病院見学会（静岡聖光学院高校）



病院見学会（モンゴル国ウランバートル市）



子ども医療体験会（コード・ブルーセミナー）



こころざし育成セミナー



高大連携 病院見学会（富士高校）



高大連携 病院見学会（菰山高校）



高大連携 病院見学会（沼津東高校）



ドクターヘリ運航調整委員会



医療連携フォーラム



看護師特定行為研修 修了式



臨床研修医修了証書授与式

ミニレクチャー(動画 WEB 配信)

順天堂大学医学部附属静岡病院
第17回 ミニレクチャー動画

Web配信

『キズは洗った方が治る！

「創傷衛生」

を知っていますか？』

配信期間：

2025年4月1日(火)～4月30日(水)

講師：

順天堂大学医学部附属静岡病院
形成外科 苅部 綾香 医師



◆約10分程度のミニレクチャー動画

QRコード
から動画視聴
専用ページへ
移行します。

◆視聴無料・申込不要

URL : <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/pr/public/>

【お問い合わせ】

順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp>

順天堂大学医学部附属静岡病院 第18回ミニレクチャー動画

WEB
動画
配信

その脂肪肝、
大丈夫？

配信期間

2025年7月1日(火)～7月31日(木)

講師

当院 消化器内科 准教授

佐藤 俊輔 先生



◆約15分間のミニレクチャー動画

◆視聴無料・申込不要

右のQRコードから動画視聴
専用ページへ移行します。



【お問い合わせ】 順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111
病院ホームページ: <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第19回 ミニレクチャー動画

Web配信

知って安心！
手術後の痛み、どう対応？



配信期間：

2026年1月7日(水)～2月7日(土)

講師：

手術室 特定看護師

内田 佳月



◆約10分程度のミニレクチャー動画

QRコード
から動画視聴
専用ページへ
移行します。

◆視聴無料・申込不要

URL : <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/pr/public/>

【お問い合わせ】

順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第20回 ミニレクチャー動画

Web配信

栄養科って
どんなところ？

配信期間：

2026年3月1日(日)～3月31日(火)

講師：

順天堂大学医学部附属静岡病院
管理栄養士 高山 卓也



◆約10分程度のミニレクチャー動画

◆視聴無料・申込不要

URL : <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/pr/public/>

【お問い合わせ】

順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111
病院ホームページ: https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp

市民公開講座

順天堂大学医学部附属静岡病院 第93回 市民公開講座

呼吸器チームによる 肺がんのお話し

講師
順天堂大学医学部附属静岡病院
呼吸器内科 准教授 三森 友靖 先生
呼吸器外科 准教授 市之川 英臣 先生

日時
2025年6月6日(金)
17時00分～18時00分 (開場: 16時30分)

会場参加
当院 H棟大会議室 (定員300名)
(〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地)
◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。
◆病院内では、手指消毒等の感染症対策にご協力いただきますようお願いいたします。
◆発熱・咳・風邪の症状がある場合につきましては、参加をご遠慮いただいております。

オンライン参加
◆ZOOMウェビナーにて視聴可能です。
◆事前申込は不要です。開始時刻になりましたら下記URLまたはQRコードよりご視聴ください。
ZOOMウェビナーID: 927 4022 0448
<https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/92740220448>

【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院 第94回 市民公開講座

知っておきたい**血液**のお話し

～免疫細胞が血液がんと戦う～免疫細胞療法について

【講師】
順天堂大学医学部附属静岡病院
血液内科 古川 芳樹 先生

日時
2025年9月3日(水)
17時00分～18時00分 (開場: 16時30分)

**参加無料
申込不要**

会場参加
〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地
当院 H棟大会議室 (定員300名)
◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。
◆病院内では、手指消毒等の感染症対策へのご協力をお願いいたします。
◆発熱・咳・風邪の症状がある場合は、参加をご遠慮いただいております。

オンライン参加
◆ZOOMウェビナーにて視聴可能です。
◆事前申込は不要です。開始時刻になりましたら下記URLまたはQRコードよりご視聴ください。
ZOOMウェビナーID: 942 3315 7100
<https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/94233157100>

【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院 第95回 市民公開講座

外部開催

地域の理解と協力で 命を救うドクターヘリ

日時
2025年11月15日(土)
13時30分～14時30分 (開場: 13時00分)

講師
順天堂大学医学部附属静岡病院
救急診療科 大森 一彦 准教授

会場参加
静岡県総合コンベンション施設
プラサ・ヴェルデ
〒410-0801静岡県沼津市大手町1-1-4
電話: 055-920-4100 (代表)

**参加無料
申込不要**

◆本講演は外部開催のため、当院ではおこないません。
◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。
(プラサ・ヴェルデ 会場定員: 250名程度)
◆会場内では、手指消毒等の感染症対策へのご協力をお願いいたします。
◆発熱・咳・風邪の症状がある場合には、お近くの会場スタッフまでお声掛けください。

【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>
主催: 順天堂大学医学部附属静岡病院
共催: 日本航空医療学会(第32回日本航空医療学会総会・学術大会)

順天堂大学医学部附属静岡病院 第96回 市民公開講座

ガンと同じくらい怖い 骨粗鬆症

～“リエゾンチーム”で挑む骨折予防と治療～

日時
2026年2月25日(水)
17:00～18:00 (開場: 16:30)

講師
整形外科 特任教授 大林 治
リエゾンチーム 看護師 井上 大輔
リエゾンチーム 薬剤師 天海 琢磨
リエゾンチーム 理学療法士 小池 教文
リエゾンチーム 管理栄養士 石川 有理湖

会場参加
当院 H棟大会議室 (定員300名)
(〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地)
◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。
◆病院内では、手指消毒等の感染症対策にご協力いただきますようお願いいたします。
◆発熱・咳・風邪の症状がある場合につきましては、参加をご遠慮いただいております。

オンライン参加
◆ZOOMウェビナーにて視聴可能です。
◆事前申込は不要です。開始時刻になりましたら下記URLまたはQRコードよりご視聴ください。
ZOOMウェビナーID: 936 3823 7820
<https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/93638237820>

【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

目次

1. 病院概要

1-1. 2. 3 病院理念・基本方針・施設概要	1
1-4 組織機構図	2
1-5 所属長一覧	3
1-6 医師名簿	4
1-7 職員数	5
1-8 各種委員会	6
1-9 (1) 活動報告	8
1-9 (2) 講演会	10
1-10 社会貢献・地域交流活動	12
1-11 指定・認定・許可事項	14

2. 診療科報告

2-1 膠原病・リウマチ内科	17
2-2 血液内科	19
2-3 消化器内科	21
2-4 呼吸器内科	24
2-5 腎臓内科	26
2-6 糖尿病・内分泌内科	28
2-7 循環器内科	31
2-8 小児科	42
2-9 小児外科	44
2-10 外科	46
2-11 脳神経外科	55
2-12 整形外科	59
2-13 脳神経内科	63
2-14 心臓血管外科	67
2-15 呼吸器外科	70
2-16 形成外科	73
2-17 眼科	75
2-18 耳鼻咽喉科	79
2-19 麻酔科・ペインクリニック	81
2-20 放射線科	83
2-21 メンタルクリニック	85
2-22 皮膚・アレルギー科	87
2-23 泌尿器科	90
2-24 産婦人科・総合周産期母子医療センター	96
2-25 救急診療科	100
2-26 病理診断科	108
2-27 リハビリテーション科	110
2-28 臨床検査科	113
2-29 歯科口腔外科	114

3. 部門報告

3-1	薬剤科.....	116
3-2	栄養科.....	122
3-3	放射線室.....	124
3-4	検査室.....	127
3-5	手術室.....	129
3-6	血液浄化センター.....	130
3-7	臨床工学室.....	132
3-8	輸血室.....	134
3-9 (1)	看護部.....	136
3-9 (2)	看護総務課.....	146
3-9 (3)	看護入院業務課.....	149
3-9 (4)	看護外来業務課.....	151
3-9 (5)	看護教育課.....	155
3-9 (6)	看護安全管理課.....	163
3-10	救命救急センター.....	166
3-11	ドクターヘリ運航対策室.....	167
3-12	新生児センター.....	171
3-13	がん治療センター.....	173
3-14	こどものこころのケアセンター.....	175
3-15	肝疾患相談支援センター.....	177
3-16	予防医学センター.....	179
3-17	GCP センター.....	182
3-18	臨床研修センター.....	185
3-19	看護師特定行為研修センター.....	188
3-20	地域医療連携室.....	194
3-21	医療福祉相談室.....	195
3-22	入退院支援室(入退院支援看護師).....	196
3-23	患者・看護相談室.....	198
3-24	受診相談・総合案内.....	199
3-25	医療安全管理室.....	200
3-26	感染対策室.....	202
3-27	健康安全推進センター.....	205

統計

4-1.2	病床利用率・在院日数.....	207
4-3	診療科別延患者数(外来).....	208
4-4	診療科別延患者数(入院).....	209
4-5	新患者数(外来).....	210
4-6	新患者数(入院).....	211
4-7	退院患者数.....	212
4-8.9	年齢別延患者数(外来・入院).....	213
4-10	地区別延患者数(外来).....	214
4-11	地区別延患者数(入院).....	215

1. 病院概要

1-1 病院理念

1. 学是「仁」の精神で人々の生命を尊重する
2. 「不断前進」の理念で創造的な前進と改革を進める
3. 大学医学部附属病院として、診療・教育・研究の充実を図る

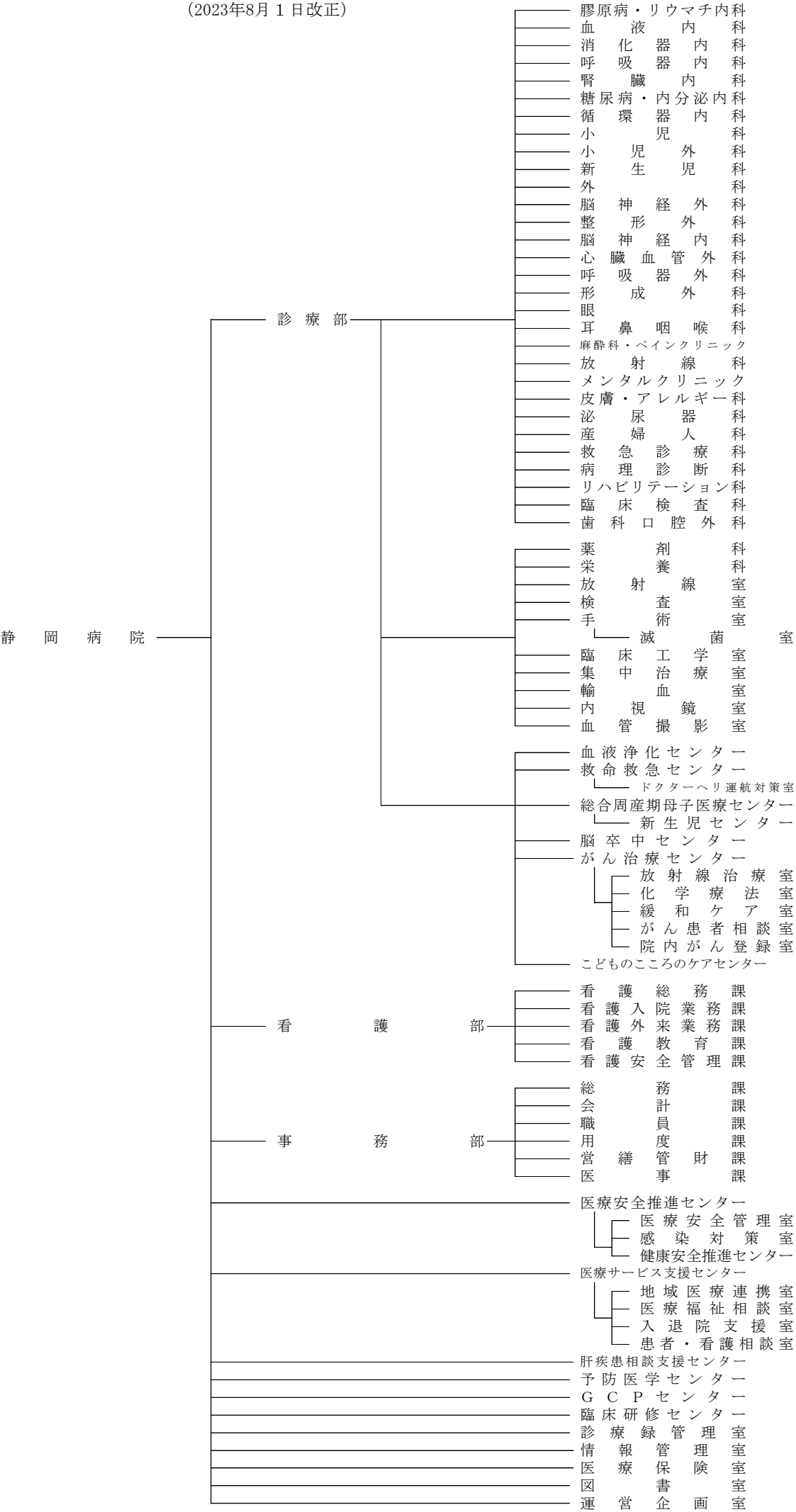
1-2 基本方針

1. 患者さん一人一人に、安全で根拠に基づく高い質の医療を提供します。
2. 患者さんに満足していただける、きめ細かい手作りの看護を行います。
3. 快適な療養生活ができる環境を提供します。
4. 救命救急医療や在宅医療など地域医療や連携に寄与します。
5. 災害時の拠点病院として地域医療に貢献します。
6. 医療安全対策、病病・病診連携に取り組みます。
7. 最新の医療情報の提供に努めます。

1-3 施設概要

名称	:	順天堂大学医学部附属静岡病院
所在地	:	〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡 1129
電話番号	:	055-948-3111(代表)
FAX	:	055-948-5088
敷地面積	:	28,805.62 平方メートル
病床数	:	633 床(稼働病床 633 床) ※2026 年 3 月 31 日現在

1-4 順天堂大学医学部附属静岡病院組織機構図
(2023年8月 1 日改正)



1-5 所属長一覧

令和8年3月31日現在

部 署	責 任 者	部 署	責 任 者
院長	佐 藤 浩 一	看護部長	堀 込 克 代
副院長	藤 田 和 彦	看護総務課	近 藤 利 津 枝
副院長	山 本 拓 史	看護入院業務課	宮 澤 初 美
院長補佐	岩 神 真 一 郎	看護外来業務課	堀 込 克 代
院長補佐	桐 野 衛 二	看護教育課	濱 口 真 知 子
診療部長	山 本 拓 史	看護安全管理課	荻 島 真 弓
膠原病・リウマチ内科	片 桐 彰	事務部長	小 野 隆 宏
血液内科	高 野 弥 奈	総務課	小 池 直 樹
消化器内科	玄 田 拓 哉	会計課	佐 藤 憲 一
呼吸器内科	岩 神 真 一 郎	職員課	小 野 隆 宏
腎臓内科	清 水 芳 男	用度課	尾 崎 治 之
糖尿病・内分泌内科	野 見 山 崇	営繕管財課	小 野 隆 宏
循環器内科	荻 田 学	医事課	萩 原 賛 泰
小児科	馬 場 洋 介	救命救急センター	大 森 一 彦
新生児科	佐 藤 洋 明	ドクターヘリ運航対策室	大 森 一 彦
小児外科	瀬 尾 尚 吾	新生児センター	大 川 夏 紀
外科	伊 藤 智 彰	総合周産期母子医療センター	田 中 利 隆
脳神経外科	山 本 拓 史	脳卒中センター	山 本 拓 史
整形外科	最 上 敦 彦	がん治療センター	田 中 顕 一 郎
脳神経内科	野 田 和 幸	放射線治療室	大 島 理 規
心臓血管外科	山 崎 学	化学療法室	高 野 弥 奈
呼吸器外科	市之川 英臣	緩和ケア室	三 澤 恭 平
形成外科	大 森 愛	がん患者相談室	金 田 容 秀
眼科	太 田 俊 彦	院内がん登録室	田 中 顕 一 郎
耳鼻咽喉科	楠 威 志	こどものこころのケアセンター	桐 野 衛 二
麻酔科・ペインクリニック	尾 前 毅	肝疾患相談支援センター	玄 田 拓 哉
放射線科	池 之 内 穰	予防医学センター	野 見 山 崇
メンタルクリニック	桐 野 衛 二	GCPセンター	玄 田 拓 哉
皮膚・アレルギー科	長谷川 敏男	臨床研修センター	中 尾 保 秋
泌尿器科	藤 田 和 彦	診療録管理室	大 林 治
産婦人科	田 中 利 隆	情報管理室	中 尾 保 秋
救急診療科	大 森 一 彦	医療安全推進センター	藤 田 和 彦
歯科口腔外科	井 染 洋	医療安全管理室	藤 田 和 彦
病理診断科	和 田 了	感染対策室	岩 神 真 一 郎
臨床検査科	田 内 一 民	健康安全推進センター	桐 野 衛 二
薬剤科	玄 田 拓 哉	医療サービス支援センター	清 水 芳 男
栄養科	野 見 山 崇	地域医療連携室	清 水 芳 男
放射線室	池 ノ 内 譲	医療福祉相談室	清 水 芳 男
検査室	和 田 了	入退院支援室	清 水 芳 男
手術室	尾 前 毅	患者・看護相談室	清 水 芳 男
滅菌室	尾 前 毅	医療保険室	山 本 拓 史
リハビリテーション科	田 沼 明	図書室	片 桐 彰
血液浄化センター	清 水 芳 男	運営企画室	小 野 隆 宏
臨床工学室	尾 前 毅		
集中治療室	山 崎 翔		
輸血室	岩 尾 憲 明		
内視鏡室	伊 藤 智 彰		
血管撮影室	荻 田 学		

1-6 医師名簿

□併任 令和8年3月31日現在

膠原病・リウマチ内科	延 島 優 香	古 城 智 也	上 田 恩 来	臨 床 研 修 医
片 桐 彰	小 児 科	田 村 憲 靖	米 川 耕 太 郎	阿 部 寛
西 岡 雄 仁	馬 場 洋 介	春 山 高 毅	放 射 線 科	阿 保 絢 子
白 柳 亮 輔	鳥 海 俊	三 浦 健 太 郎	池 之 内 穰	池 田 吏 玖
今 西 啓 太	土 屋 ひ か る	杉 本 悠 樹	大 島 理 規	小 野 祐 一 朗
小 代 啓 斗	稲 葉 真 理 子	富 永 拓 人	宇 田 川 剛 史	荻 部 彩 南
松 田 恵 理 香	宮 平 憲	リハビリテーション科	延 島 貴 道	荻 部 伶
血 液 内 科	河 西 紗 希	田 沼 明	谷 口 摩 也	韓 雪
高 野 弥 奈	濱 原 彩 加	口 大 林 治	メンタルクリニック	楠 本 優 作
小 池 道 明	蜂 須 康 亮	脳 神 経 内 科	桐 野 衛 二	國 吉 愛 佳
岩 尾 憲 明	新 生 児 科	野 田 和 幸	前 嶋 仁	熊 久 保 那 奈
三 澤 恭 平	佐 藤 洋 明	大 熊 泰 之	中 山 景 樹	小 林 快 哲
花 田 駿 志	大 池 川 夏 紀	松 島 隆 史	皮膚・アレルギー科	近 藤 藤
古 川 芳 樹	池 田 奈 帆	平 良 摩 紀 子	長 谷 川 敏 男	坂 田 啓 輔
消 化 器 内 科	石 上 順 平	代 田 健 祐	生 玉 梨 紗	辛 金 洋
玄 田 拓 哉	佐 藤 浩 達	井 関 賛 歩	加 藤 芙 未 地	鈴 木 大 輝
嶋 田 裕 慈	黄 奔 香	大 山 壮 白	田 代 将 弘	高 野 佑 千 裕
佐 藤 俊 輔	杉 山 茉莉 莉	白 井 心 歩	小 野 寺 瑠 美 子	陳 穎 妍
村 田 礼 人	中 村 果 秀	心 臓 血 管 外 科	川 端 脩 人	月 原 知 輝
佐 藤 祥 大	小 児 外 科	小 田 遼 馬	宇 根 ち さ と	角 田 陽
山 口 征 華	瀬 尾 尚 吾	大 山 徹 一 郎	二 宮 舞	栃 木 麗 亜
池 田 裕 至	中 島 秀 明	奥 龍 裕 太	原 田 成 宏	長 岡 貴 謙
北 祐 次	角 田 洋 介	塙 裕 敬	泌 尿 器 科	中 嶋 慎 太 郎
加 藤 蓉 子	外 科	呼 吸 器 外 科	藤 田 和 彦	中 島 瑞 貴
寺 井 雄 一 朗	伊 藤 智 彰	市 之 川 英 夫	清 水 史 孝	二 宮 遼 太 郎
呼 吸 器 内 科	佐 藤 浩 一	渡 邊 敬	中 島 晶 子	野 村 宜 史
岩 神 真 一 郎	田 中 顕 一 郎	谷 口 敬	永 島 優 生	早 川 清 子
三 森 友 靖	櫻 庭 駿 介	曾 和 嵩	廣 瀬 華 穂	山 田 春 花
岩 神 直 子	宮 下 真 美 子	形 成 外 科	境 拓 海	劉 晉 廷
三 浦 啓 太	上 田 脩 平	大 森 綾 香	新 田 温 生	渡 邊 里 空
巾 麻 奈 美	加 藤 永 記	荻 部 綾 太 郎	野 波 隆 寛	家 田 俊 介
黒 田 優 実	山 本 陸 吉	原 慎 太 郎	産 婦 人 科	岩 崎 彩 花
松 本 卓 也	仁 平 高 朔	田 村 崇 行	田 中 利 隆	梅 津 貴 弘
永 井 怜 太	遠 山 茉莉 莉	眼 科	金 田 容 秀	王 耀 理
腎 臓 内 科	花 川 翔 太	太 田 俊 彦	田 中 里 美	大 塚 祐 理 重
清 水 芳 男	石 塚 シュースタン正也	平 井 麻 紀	平 山 貴 士	大 橋 尚 斗
若 林 啓 一	尾 立 路 輝	小 森 翼	矢 田 昌 太 郎	岡 田 奈 津 美
廣 瀬 樹 村	山 倫 太 郎	市 川 浩 平	熊 谷 早 織	小 川 あ か 理
福 永 諒 秋	間 龍 之 介	菊 池 遥 太	筒 井 元 海	加 藤 有 希 乃
矢 田 昌 敬	石 岡 直 留	尾 原 祐 佳	田 嶋 俊 幸	上 保 リ エ
北 川 祐 己	新 原 美 樹	堤 和 美	塚 本 博 夏	熊 谷 悠 太
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	脳 神 経 外 科	南 瑠 念 春	矢 田 夏 海	倉 田 巧 美
野 見 山 崇	山 本 拓 史	呂 念 春	鶴 野 し ほ り	黒 川 泰 輔
岩 本 達 也	中 尾 保 秋	山 田 青 瑚	救 急 診 療 科	河 野 通 士
伊 藤 直 頭	藤 田 修 英	海 老 原 真 人	大 森 一 彦	近 藤 弘 猛
横 山 哲 郎	中 嶋 伸 太 郎	笠 原 知 隆	柳 川 洋 一	坂 本 絵 璃
根 上 拓 也	黒 田 清 隆	耳 鼻 咽 喉 科	長 澤 宏 樹	杉 山 一 輝
田 ケ 谷 海	山 高 元 暉	楠 威 志	大 坂 裕 通	鈴 木 芳 奈
篠 原 舞	大 野 響	本 間 博 友	加 藤 万 佐 史	高 木 聖 士
循 環 器 内 科	郡 司 隆 教	城 所 淑 信	三 浦 悠 介	高 瀬 陽 向
荻 田 学	上 部 一 樹	四 條 か お り	白 柳 由 実	田 中 大 暉
諏 訪 哲	牧 野 健 作	加 治 屋 駿 平	中 島 絵 理	唐 嘉 萱
塩 澤 知 之	渡 邊 碧 悠	服 部 宗 孝	田 中 規 子	常 見 耀 矢
和 田 英 樹	高 木 悠 輝	麻 酔 科 ・ ペ イン クリニック	前 川 ち ひ ろ	根 本 尚 宜
遠 藤 裕 久	整 形 外 科	尾 前 毅 都	病 理 診 断 科	野 田 葵 生
谷 津 翔 一 朗	最 上 敦 彦	洪 景 陽	和 田 了	野 中 も も こ
設 楽 準	大 林 治 男	長 谷 川 陽 子	臨 床 検 査 科	藤 田 幸 大
稲 葉 慎 太 郎	神 田 章 秀	櫻 庭 園 翔	田 内 一 民	船 尾 安 友 美
山 田 瑛 文	守 屋 秀 一	山 崎 村 萌	歯 科 口 腔 外 科	堀 井 秀 樹
朱 櫻 華 志	村 有 永	中 村 子 一	井 染 洋 史	宮 塚 悠 子
島 袋 あ ず さ	洪 谷 研 平	八 張 万 紅	中 村 瑛	八 木 淳 多
原 晴 彦	青 木 浩 杏	張 松 大 貴		渡 邊 真 央
安 島 鵬 飛	富 澤 澤	奈 松 大		

1-7 職員数

令和8年3月31日現在

職 種	正規職員		パート		小計	派遣・委託		小計	合計
	男	女	男	女		男	女		
看護師	135	666		4	805	0	0	0	805
助産師		40			40	0	0	0	40
准看護師		6			6	0	0	0	6
介護福祉士	6	14		1	21	0	0	0	21
助手	1	2		5	8	2	99	101	109
中材・減菌					0	6	33	39	39
事務員		1			1	0	23	23	24
小計	142	729	0	10	881	8	155	163	1,044
薬剤師	28	14		6	48	0	0	0	48
薬剤科事務員					0	0	13	13	13
診療放射線技師	32	8			40	0	0	0	40
放射線室助手					0	0	1	1	1
放射線室事務員					0	0	6	6	6
臨床検査技師	7	25	2	4	38	0	0	0	38
検査室看護師		3		7	10	0	0	0	10
検査室助手					0	0	2	2	2
検査室事務員					0	1	13	14	14
理学療法士	19	5			24	0	0	0	24
作業療法士	3	4			7	0	0	0	7
言語聴覚士	1	4			5	0	0	0	5
リハビリテーション科事務員					0	0	1	1	1
管理栄養士	2	5		1	8	0	0	0	8
栄養士	1	1		1	3	0	0	0	3
調理師	11	3	1		15	0	0	0	15
栄養科助手	1	2			3	15	55	70	73
栄養科事務員				1	1	0	0	0	1
視能訓練士	2	5			7	0	0	0	7
臨床工学技士	11	3		1	15	0	0	0	15
臨床心理士		3			3	0	0	0	3
メンタルクリニック助手				3	3	0	0	0	3
歯科衛生士		2			2	0	0	0	2
歯科技工士	1				1	0	0	0	1
小計	119	87	3	24	233	16	91	107	340
事務員	50	39		11	100	7	193	200	300
看護師				1	1	0	0	0	1
社会福祉士	4	5			9	0	0	0	9
保育士					0	1	14	15	15
技術・労務・警備・施設	1		1		2	80	43	123	125
助手					0	1	16	17	17
医局秘書				6	6	0	3	3	9
小計	55	44	1	18	118	89	269	358	476
医療安全管理者		2			2	0	0	0	2
感染管理者		2			2	0	0	0	2
健康安全推進センター		1			1	0	0	0	1
患者看護相談室 看護師・准看護師		3			3	0	0	0	3
入退院支援室 看護師・准看護師		7			7	0	0	0	7
がん治療センター 看護師・准看護師		10		2	12	0	0	0	12
小計	0	25	0	2	27	0	0	0	27
医 師	名誉教授				0	0	0	0	0
	特任教授	8			8	0	0	0	8
	教授	15	1		16	0	0	0	16
	先任准教授	1			1	0	0	0	1
	先任准教授(臨床)	6			6	0	0	0	6
	特任准教授	0			0	0	0	0	0
	准教授(大学院)	1			1	0	0	0	1
	准教授(講座)	6	2		8	0	0	0	8
	准教授(診療)	8	1		9	0	0	0	9
	准教授(実習)	2	1		3	0	0	0	3
	准教授(教育)	7	2		9	0	0	0	9
	特任講師		1		1	0	0	0	1
	講師	1			1	0	0	0	1
	助教	23	4		27	0	0	0	27
	助手	65	26		91	0	0	0	91
	専攻生	12	7		19	0	0	0	19
	大学院生	12	7		19	0	0	0	19
	シニアレジデント	0	1		1	0	0	0	1
	非常勤助手	1	2		3	0	0	0	3
	臨床研修医	37	25		62	0	0	0	62
小計	205	80	0	0	285	0	0	0	285
合計	521	965	4	54	1,544	113	515	628	2,172

1-8 各種委員会

令和7年4月1日時点

委員会名	委員長名	委員会名	委員長名
病院運営委員会	佐藤 浩一	運営協議会	佐藤 浩一
診療会議	山本 拓史	管理会議	小野 隆宏
医療安全・危機管理委員会	藤田 和彦	人権委員会	佐藤 浩一
感染対策委員会	岩神 真一郎	VRE 対策委員会	岩神 真一郎
災害対策委員会	柳川 洋一	救命救急センター運営会議	柳川 洋一
J スタット委員会	大坂 裕通	勤務環境改善委員会	山本 拓史
褥瘡対策委員会	荻部 綾香	がん治療センター運営委員会	田中 顕一郎
がん診療委員会	田中 顕一郎	看護師特定行為研修管理委員会	太田 俊彦
看護師特定行為業務管理委員会	大森 一彦	静岡病院安全衛生委員会	桐野 衛二
放射線安全委員会	大島 理規	放射線治療品質管理委員会	大島 理規
放射線被ばく安全委員会	杉山 宗広	臨床倫理委員会	玄田 拓哉
倫理審査委員会	玄田 拓哉	治験審査委員会	玄田 拓哉
図書管理委員会	片桐 彰	医療保険委員会	山本 拓史
施設基準委員会	山本 拓史	薬事委員会	荻田 学
資材委員会	諏訪 哲	機種選定委員会	佐藤 浩一
内視鏡運営委員会	伊藤 智彰	輸血療法委員会	岩尾 憲明
手術室運営委員会	尾前 毅	病棟利用・外来対策委員会	山本 拓史
臨床検査適正化委員会	岩尾 憲明	予防医学センター運営委員会	野見山 崇
クリニカルパス委員会	神田 章男	DPC コーディング委員会	山本 拓史
3AICU 運営委員会	山本 拓史	地域医療支援病院運営委員会	佐藤 浩一
広報委員会	最上 敦彦	脳死・臓器移植委員会	野田 和幸
虐待対策委員会	馬場 洋介	医療機器保守委員会	諏訪 哲
廃棄物管理委員会	岩尾 憲明	医療ガス安全管理委員会	八子 一
業務委託委員会	藤田 和彦	礼儀・接遇マナー向上委員会	山本 拓史
ご来院皆様の声検討委員会	清水 芳男	栄養管理委員会	野見山 崇

診療録管理委員会	大 林 治	透析機器安全管理委員会	清 水 芳 男
医療情報システム委員会	中 尾 保 秋	CPC・CRC・デスカンファレンス委員会	和 田 了
静岡病院専門研修医プログラム委員会	佐 藤 浩 一	静岡病院専門医・キャリア形成プログラム委員会	中 尾 保 秋
臨床研修センター会議	中 尾 保 秋	研修管理委員会	佐 藤 浩 一
BLS 研修委員会	神 田 章 男		

1-9 (1) 活動報告

年 月 日	会 議 ・ 行 事 実 施 事 項
7. 4. 1	新入職員オリエンテーション
16	看護師特定行為研修開講式
5.16	医療安全研修会
6. 3	春季健康診断（～13 日）
20	ドクターヘリ事後検証会
7.11	医療安全研修会
9. 3	静岡県東部ドクターヘリ運航調査委員会
16	抗菌薬研修会
30	ドクターヘリ事後検証会
10. 3	消防訓練
6	医療安全研修会
11. 5	東部保健所病院立入検査
12. 1	秋季健康診断（～5 日）
8	医療安全研修会
23	ドクターヘリ事後検証会
8. 1. 9	感染対策研修会
2.10	災害訓練
3. 2	がん治療研修会（e ラーニング）（～31 日）
19	看護師特定行為研修修了式
〃	臨床研修医修了証書授与式
3. 6	ドクターヘリ事後検証会
上記のほか毎月定例として開催される会議	
第 1 火曜日	薬事委員会、治験審査委員会、がん診療委員会
第 1 木曜日	管理会議
第 2 月曜日	資材委員会
第 2 火曜日	栄養管理委員会（奇数月及び 4 月）
第 2 水曜日	診療会議、医療情報システム委員会（奇数月）
第 3 月曜日	運営協議会
第 3 火曜日	業務委託委員会

第 3 水曜日	クリニカルパス委員会（奇数月及び 4 月）、救命救急センター運営会議（奇数月）
第 3 金曜日	感染対策委員会、医療安全危機管理委員会
第 4 水曜日	静岡病院安全衛生委員会
第 4 木曜日	褥瘡対策委員会、がん治療センター運営委員会（奇数月）
最終水曜日	施設基準委員会、医療保険委員会
毎月 1 回	病院運営委員会
隔月 1 回	輸血療法委員会、内視鏡運営委員会、災害対策委員会
3 ヶ月に 1 回	コーディング委員会、臨床研修センター会議、診療録管理委員会、放射線安全委員会、 広報委員会

1-9 (2) 講演会

年 月 日	講 座 名 ・ テ ー マ
7. 4. 1 ～30	第 17 回 ミニレクチャー動画 キズは洗った方が治る！『創傷衛生』を知っていますか？
6. 6	第 93 回 市民公開講座 呼吸器チームによる肺がんのお話し
7. 1 ～31	第 18 回 ミニレクチャー動画 その脂肪肝、大丈夫？
18	第 12 回 伊豆リハビリテーションセミナー 「がんと運動」
23	専門看護師ミニレクチャー：慢性疾患看護 分野 「痛みの軌跡から考える療養支援について」
8.18	認定看護師公開講座 2025：慢性心不全看護 分野 「これだけ知っていれば大丈夫！心不全の基本と患者教育」
27	専門看護師ミニレクチャー：がん看護 分野 「がん終末期患者の家族支援」
9. 3	第 94 回 市民公開講座 知っておきたい血液のお話し～免疫細胞が血液がんと戦う～免疫細胞療法について
22	認定看護師公開講座 2025：がん化学療法 分野 「わかりやすい化学療法の種類と副作用」
24	専門看護師ミニレクチャー：在宅看護 分野 「地域包括支援センターとの連携」
10.20	認定看護師公開講座 2025：集中ケア 分野 「痛みを制する者が回復を制す 術後疼痛管理の最前線」
22	専門看護師ミニレクチャー：家族支援 分野 「あいまいな喪失 別れのないさよなら と さよならのない別れ」
11.15	第 95 回 市民公開講座（外部開催） 地域の理解と協力で命を救うドクターヘリ
17	認定看護師公開講座 2025：がん放射線治療 分野 「放射線治療前後の看護で知っておきたい 10 のこと」
21	第 13 回 伊豆リハビリテーションセミナー 「半側空間無視のリハビリテーション治療」
26	専門看護師ミニレクチャー：感染症看護 分野 「災害時の感染対策～突然の非常事態に起こる感染リスクと対策～」
12.15	認定看護師公開講座 2025：救急看護 分野 「あなたの気づきが患者を守る 事例で学ぶ RRS 要請のタイミング」

年 月 日	講 座 名 ・ テ ー マ
12.24	専門看護師ミニレクチャー：がん看護 分野 「がんと栄養～最期の食事が食事であるために～」
8. 1.7 ～2.7	第 19 回 ミニレクチャー動画 知って安心！手術後の痛み、どう対応？
1.19	認定看護師公開講座 2025：感染管理 分野 「冬の感染症から身を守ろう」
1.28	専門看護師ミニレクチャー：急性・重症患者看護 分野 「人工呼吸器離脱に向けた考え方と看護師の関わり」
2.16	認定看護師公開講座 2025：緩和ケア 分野 「いまさら聞けない！がんの疼痛管理」
2.20	第 14 回 伊豆リハビリテーションセミナー 「当院における肩関節手術とリハビリテーション～ARCR・RSA～」
2.25	専門看護師ミニレクチャー：急性・重症患者看護分野 「プレホスピタル・ケアにおける看護師の役割と実績」
3. 1 ～31	第 20 回 ミニレクチャー動画 栄養科ってどんなところ？
3.25	専門看護師ミニレクチャー：小児看護 分野 「こどもの発達理論と関わり方」

1-10 社会貢献・地域交流活動

年 月 日	活 動 名
7. 4. 1	静岡県済生会看護専門学校 成人看護学「経過別看護」(講師派遣 4月から3月)
〃	伊豆の国市包括支援学習会 (スーパーバイザー派遣 2025年度)
〃	愛知医科大学大学院 (非常勤講師派遣 2025年度)
〃	静岡県看護協会 認定看護管理者教育運営委員会 (委員 2025年度)
10	ハローワーク出張就労相談会 (年12回開催 4/10、5/1、6/12、7/10、8/14、9/11、10/9、11/13、12/11、1/8、2/12、3/5)
25	東都大学沼津ヒューマンケア学部「回復期看護論」(ゲストスピーカー委嘱)
〃	病院見学会 静岡聖光学院
5. 7	東都大学沼津ヒューマンケア学部「救急看護」(ゲストスピーカー委嘱・5月7日、14日、21日)
17	神奈川工科大学健康医療科学部「卒業生ホームカミングディ」
23	病院見学会 伊豆の国市友好都市モンゴル国ウランバートル市
6. 6	ELNEC-JCC 開発研究会主催研修会 (講師依頼) (～8日)
14	静岡県消防協会 静岡県女性消防団員連絡協議会「災害時の感染対策」(講師派遣)
14	静岡心不全多職種ネットワーク S-HFnet の会 (講師派遣)
18	静岡県立看護専門学校魅力づくり検討会 (委員)
〃	無料個別就労相談会 (年5回開催 6/18、8/20、10/15、12/17、2/18)
21	こども医療体験会「コード・ブルーセミナー」
7. 5	第21回日本クリティカルケア看護学会 (学術集会実行委員派遣 ～6日)
7	静岡県看護職員認知症対応力向上研修 (講師派遣)
10	ここいきサポートネットワーク推進事業 (年2回開催 7/10 1/11)
12	第38回東海ストーリーナビリテーション (実行委員派遣)
30	静岡県看護協会主催「高校生1日ナース体験事業」(～31日)
8. 1	静岡県「こころざし育成セミナー」
2	病院見学会 保健看護学部オープンキャンパス(～3日)
18	静岡県看護協会「看護職こころざし育成セミナー」(講師派遣)
23	静岡県看護協会「災害看護地区研修」(講師派遣)
23	静岡県看護協会「重症心身障害児(者)対応看護従事者養成研修
25	高大連携病院見学会 静岡県立富士高等学校
27	高大連携病院見学会 静岡県立菰山高等学校
29	高大連携病院見学会 静岡県立沼津東高等学校
9.1	函南町子ども家庭支援運営協議会 (委員派遣 2025年度)

年 月 日	活 動 名
9. 7	静岡県看護協会「沼津市総合防災訓練」(講師派遣)
12	第 38 回東海ストーマリハビリテーション講習会 (委員派遣)
16	地域作り会議 (年 2 回開催 9/16、2/10)
24	株式会社メドレー「ジョブメドレーアカデミー」(講師派遣 ～25 日)
25	静岡県看護協会「看護の質向上促進研修」(講師派遣)
10. 4	コンバテックジャパン (株) オンラインセミナー (講師派遣)
5	静岡県看護協会三島市総合防災訓練 (講師派遣)
16	静岡県看護協会「災害看護一般研修Ⅱ」(講師派遣)
11.15	「メディメッセージ 2025」トークライブ (講師派遣 ～16 日)
〃	第 35 回フライトナース勉強会 (協力員・講師派遣)
19	職場体験 伊豆の国市立長岡中学校 (～20 日)
28	第 28 回日本救急医学会中部地方会学術集会 (シンポジスト派遣 ～29 日)
12.13	静岡県看護協会「高齢者権利擁護等推進事業「看護実務者研修」(講師派遣)
〃	静岡県委託事業「災害医療従事者研修」(講師派遣)
〃	日本 NP 学会中部地方会 (役員派遣)
〃	「大学レクチャー」県立韮山高等学校 (講師派遣)
16	御殿場市・小山市広域行政組合「多数傷病者事案対応訓練」
17	静岡県看護協会研修「療養生活を支え、看護をつなぐ退院支援」(講師派遣)
19	静岡県立田方農業高等学校「がん講座」(講師派遣)
20	皮膚・排泄ケア認定看護師 座談会 in 静岡 (講師派遣)
	オンデマンド ストーマケア症例動画集セミナー (講師派遣)
8.1.27	地域でつなぐ心不全ケア in 伊豆 (講師派遣)
2. 2	静岡県における、医療・看護提供体制の現状把握と課題に向けたヒアリング
21	日本大学三島高等学校「医療保健系進学講座」(講師派遣)
2.26	伊豆の国市立長岡中学校「職業講和」(講師派遣)
27	第 6 回日本フットケア・足病医学会年次学術集会 (役員)
3. 3	アムジェン (株) 主催講演会「看護師向けイムデトラのマネジメント方法」 (講師派遣 3 月 3 日、13 日)
〃	(株) 学研メディカルサポート「特定看護師の教育体制に関する意見交換会」
5	医療連携フォーラム
19	「メディカルフォーラム」県立富士高等学校 (講師派遣)

1-11 指定・認定・許可事項

指 定 事 項	指 定 年 月 日
救命救急センター	昭和 56 年 11 月 1 日
新生児センター	昭和 57 年 4 月 1 日
エイズ拠点病院	平成 8 年 5 月 20 日
災害拠点病院	平成 8 年 11 月 26 日
日本医療機能評価機構認定病院	平成 16 年 3 月 15 日（初回認定日）
静岡県東部ドクターヘリ基地病院	平成 16 年 3 月 17 日
臨床研修指定病院	平成 16 年 4 月 1 日
地域がん診療連携拠点病院	平成 19 年 1 月 31 日
総合周産期母子医療センター	平成 20 年 8 月 1 日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	平成 21 年 3 月 10 日
DPC 対象病院	平成 23 年 4 月 1 日
災害派遣医療チーム静岡 DMAT 指定病院	平成 24 年 3 月 1 日
指定小児慢性特定疾病医療機関	平成 27 年 1 月 1 日
難病法に係る難病指定医療機関	平成 27 年 1 月 1 日
静岡県アレルギー疾患医療拠点病院	平成 30 年 10 月 1 日
肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関	平成 30 年 12 月 1 日
地域医療支援病院	令和 2 年 1 月 7 日
特定行為研修指定研修機関	令和 2 年 2 月 26 日

診療科名	学会認定
呼吸器内科	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
消化器内科	日本消化器病学会認定施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
膠原病・リウマチ内科	日本リウマチ学会教育施設
血液内科	日本血液学会血液研修施設
腎臓内科	日本透析医学会教育関連施設
	日本腎臓学会研修施設
糖尿病・内分泌内科	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本内分泌学会認定教育施設
循環器内科	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
	日本循環器学会トランスサイレチン型心アミドースに対するビンダケル導入施設

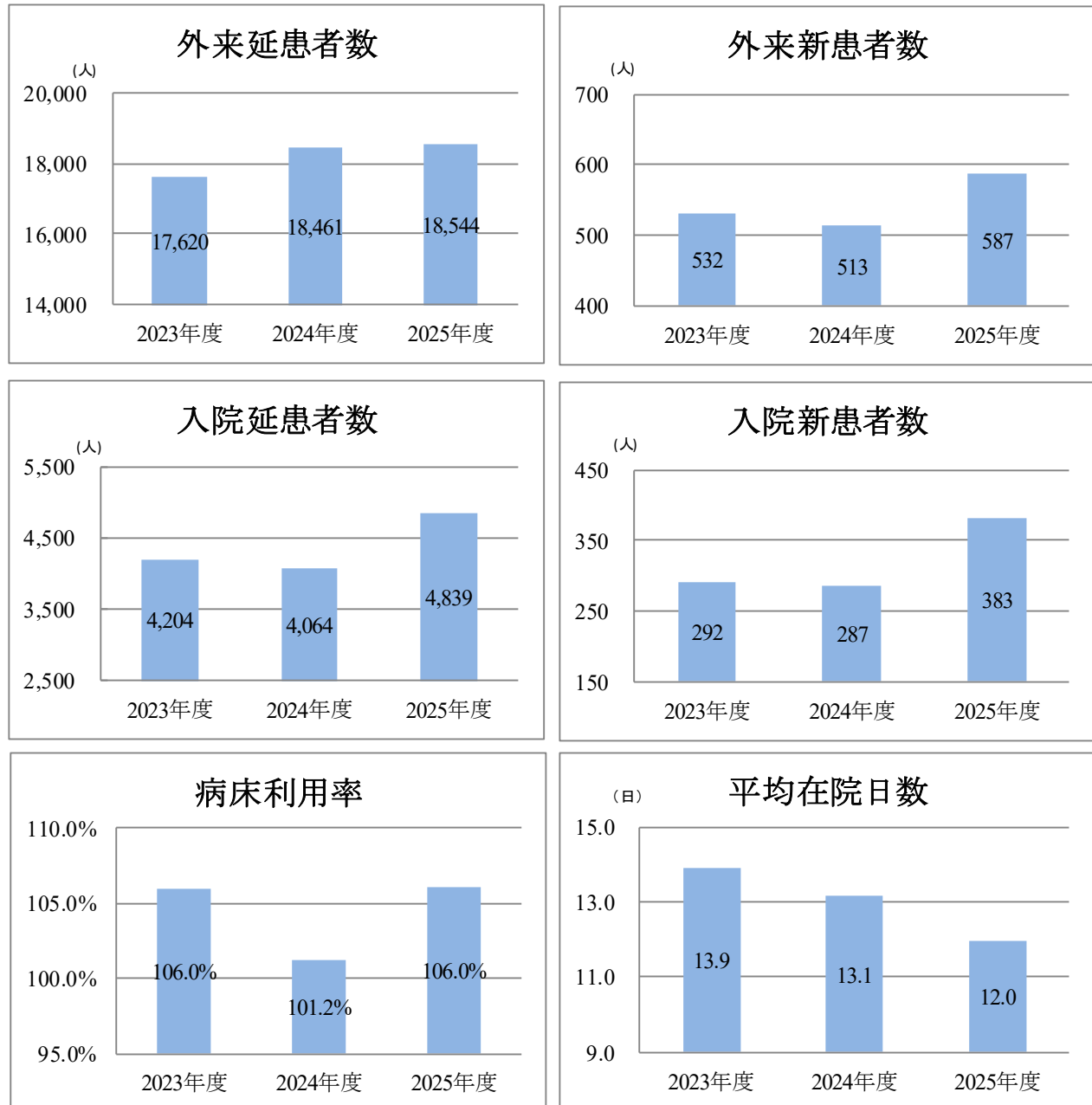
循環器内科	左心耳閉鎖システム実施施設
	心房中隔欠損症に対する経皮的心房中隔欠損閉鎖術実施施設
外科	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本胃癌学会認定施設 B
	日本食道学会全国登録認定施設
	日本外科学会外科専門医制度修練施設
	日本消化器外科学会専門医修練施設
	日本大腸肛門病学会関連施設
	日本乳癌学会関連施設
	日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
	日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
	日本専門医機構外科専門医研修プログラム認定
麻酔科・ペインクリニック	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
	日本専門医機構麻酔科専門研修プログラム認定
	日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
	日本ペインクリニック学会指定研修施設
脳神経外科	日本脳卒中学会研修教育施設
	日本脳神経外傷学会研修施設認定
	日本専門医機構脳神経外科専門医研修プログラム認定
	一般社団法人 National Clinical Database 施設会員
	日本脳卒中学会一次脳卒中センター
整形外科	日本整形外科学会専門医研修施設
	日本手外科学会研修施設
	日本専門医機構整形外科専門研修プログラム認定
	日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
心臓血管外科	関連 10 学会構成 ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設
	関連 10 学会構成 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部大動脈瘤ステントグラフト実施施設
	補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
	経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設
	ロボット心臓手術関連学会協議会ロボット心臓手術実施施設
	下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
	経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
新生児科	日本周産期・新生児医学会認定施設（新生児）基幹施設

小児科	日本小児科学会小児科専門医研修施設
	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
	日本角膜学会羊膜移植実施施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
脳神経内科	日本神経学会教育施設
	日本臨床神経生理学会認定施設
皮膚・アレルギー科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会専門医教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
	日本周産期・新生児医学会認定施設（母胎・胎児）基幹認定施設
	静岡県医師会母体保護法指定医師研修機関
	日本産科婦人科学会専門研修連携施設
	日本超音波医学会超音波専門医制度研修施設
	日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
	日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
	NIPT を実施する医療機関(機関施設)認証
メンタルクリニック	日本精神神経学会精神科専門医制度研修連携施設
	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
放射線科	日本医学放射線学会専門医総合修練機関
	日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
	日本 IVR 学会専門医修練施設
救急診療科	日本航空医療学会認定施設
	日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本外傷学会外傷専門医研修施設
病理診断科	日本病理学会研修認定施設
リハビリテーション科	日本リハビリテーション医学会研修施設
	日本リハビリテーション医学会研修プログラム認定
救命救急センター	日本集中治療医学会専門医研修施設
放射線室	日本救急撮影技師認定機構指定実地研修施設
栄養科	日本病態栄養学会栄養管理・NST 実地施設
	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設
薬剤科	日本病院薬剤師会プレアボイド報告施設
	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
臨床検査室	日本臨床衛生検査技師会品質保証施設
	日本臨床細胞学会施設認定
がん治療センター	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本緩和医療学会認定研修施設

2. 診療科報告

2-1 膠原病・リウマチ内科

診療実績



研究・教育活動

【学会発表（国内）】

1. 松田恵理香、東村奎、原真理子、加藤究太、津島浩、片桐彰、山路健、田村直人、乳房インプラントの除去により治療反応性が改善した抗 ARS 抗体症候群の 1 例, 第 69 回日本リウマチ学会学術集会, 福岡国際会議場, 2025 年 4 月 24 日
2. 津島浩, 主治医の burnout と SLE 患者の信頼の関連性: TRUMP2-SLE 研究, 第 69 回日本リウマ

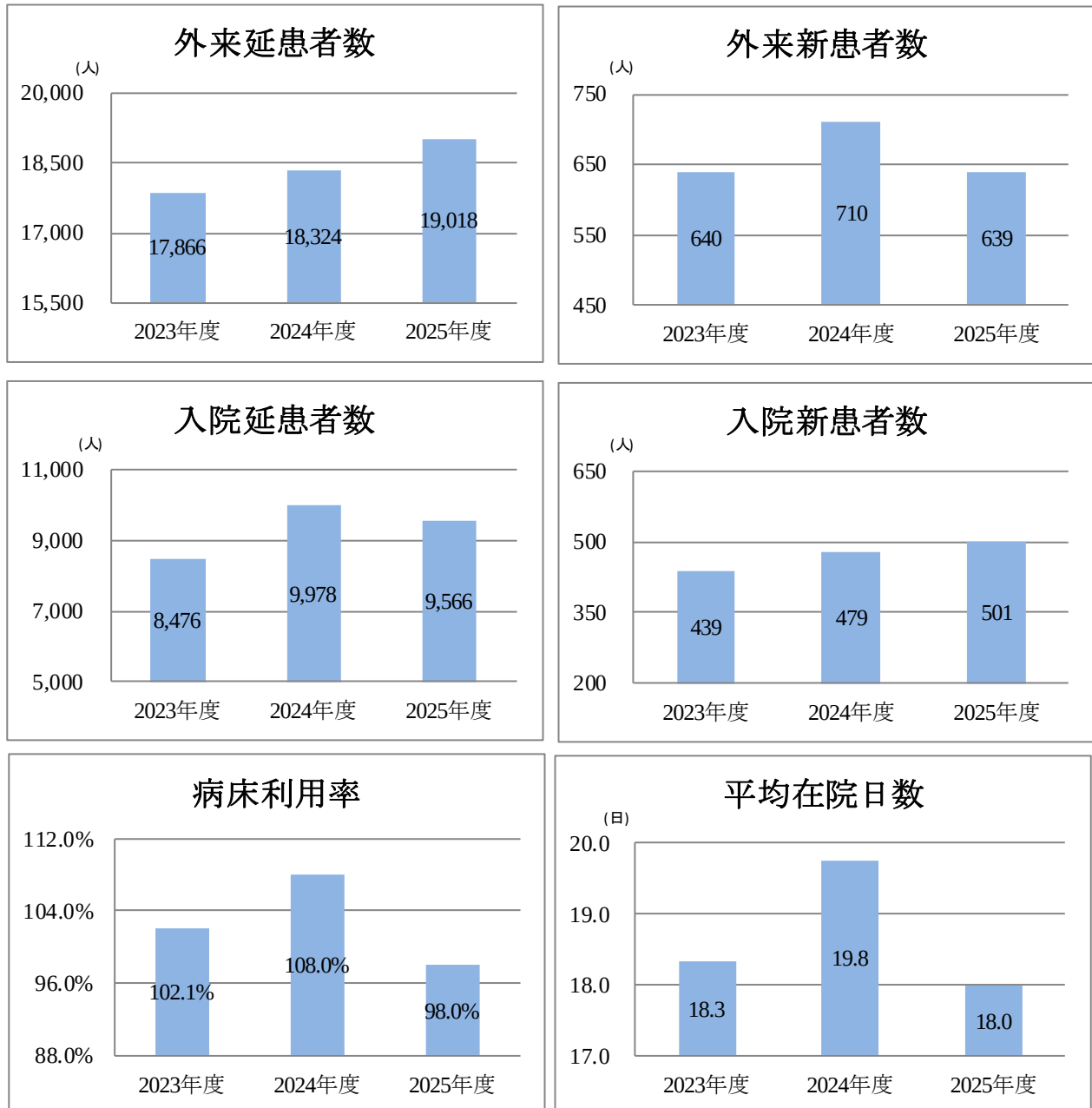
チ学会学術集会, 福岡国際会議場, 2025 年 4 月 25 日

【学会発表（国際）】

1. H.Tsushima, SGLT2 inhibitors do not increase the risk of urinary tract infections regardless of immunosuppressive therapy: an active comparator new user design using a real-world hospital-based database in Japan, EULAR 2025, Barcelona Spain, June 11th to 14th 2025

2-2 血液内科

診療実績



2025 年 症例件数

	総数	初発
白血病	50	25
悪性リンパ腫	120	63
骨髄異形成症候群（抗がん剤治療）	16	10
多発性骨髄腫	74	19
アミロイドーシス	10	3
再生不良性貧血		4
免疫性血小板減少症		24

研究・教育活動

【英文原著】

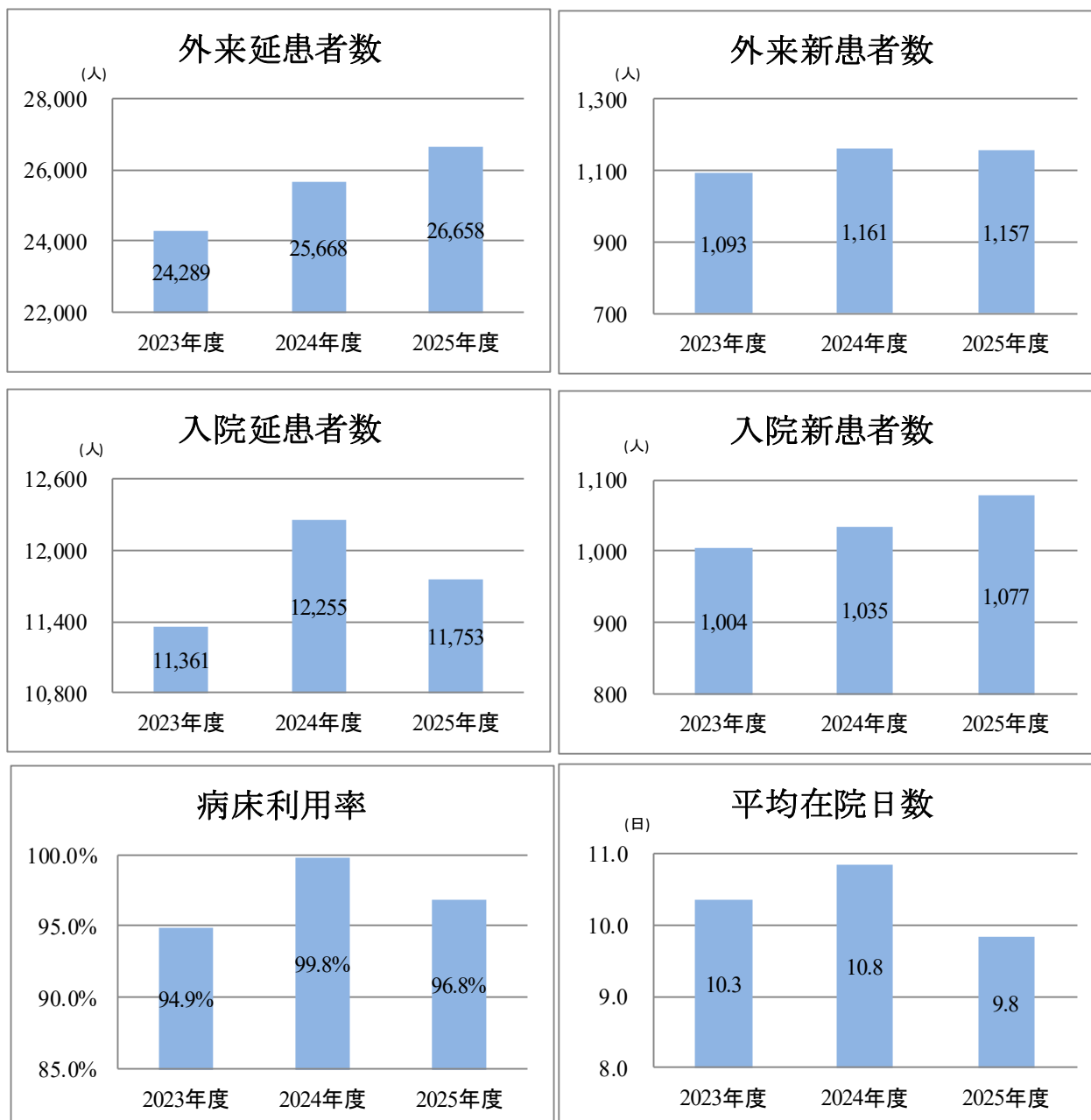
1. Erina Hosoya, Jun Ando, Shintaro Kinoshita, Yoshiki Furukawa, Yuko Toyoshima, Yoko Azusawa, Toru Mitsumori, Eriko Sato, Hina Takano, Yutaka Tsukune, Naoki Watanabe, Tomoiku Takaku, Hajime Yasuda, Yasuharu Hamano, Makoto Sasaki, Shuko Nojiri, Midori Ishii, Miki Ando“Eleven cases of laryngeal edema after tisagenlecleucel infusion: a 3-year single center retrospective study of CD19-directed chimeric antigen receptor T-cell therapy for relapsed and refractory B-cell lymphomas” *Haematologica*. 2025 Mar 1;110(3):777-783.

【学会発表および講演（国内）】

1. WM/LPL の治療中に発症した Bing-Neel 症候群の一例
第 14 回日本血液学会東海地方会
2025 年 5 月 11 日 静岡県静岡市
2. 著明な血球貪食症候群を契機に診断となった重症熱性血小板減少症候群の一例
日本内科学会第 256 回東海地方会
2025 年 6 月 8 日 三重県四日市市
3. 大型細胞 B 細胞リンパ腫に対する CD19 標的 CAR-T 療法 3 製剤の成績：単施設後方視的解析
浅妻和樹、石井翠、木下慎太郎、細谷英里奈、古川芳樹、三森徹、佐藤恵理子、高野弥奈、渡邊直紀、築根豊、安田肇、浜埜康晴、佐々木純、安藤純、安藤美樹
第 87 回 日本血液学会学術集会
2025 年 10 月 10 日神戸
4. CAR-T 療法後再発時に Bs Ab を投与した DLBCL 患者における CAR-T と neg-T 細胞の体内動態解析
築島健介、古川芳樹、木下慎太郎、石井翠、浅妻和樹、花田駿志、渡邊直紀、筒井深雪、築根豊、高野弥奈、浜埜康晴、安田肇、安藤純、安藤美樹
第 87 回 日本血液学会学術集会
2025 年 10 月 11 日神戸
5. 当院で診断した心アミロイドーシスを伴う AL アミロイドーシスの症例
山田晃平、丸尾粹貴、浅妻和樹、森洋輔、三澤恭平、岩尾憲明、小池道明、高野弥奈
第 87 回 日本血液学会学術集会
2025 年 10 月 12 日神戸
6. 高野弥奈、免疫性血小板減少性紫斑病の診断と治療の実際、静岡県病院薬剤師会東部支部例会、三島市、2025 年 2 月 27 日

2-3 消化器内科

診療実績



研究・教育活動

【英文原著】

1. Ikeda Y, et al. Serum pro-inflammatory cytokine interleukin-6 level is predictive of further decompensation and mortality in liver cirrhosis. *Hepatol Res.* 2025 May;55(5):696-706.
2. Sato S, et al. Fibrosis in Asymptomatic Steatotic Liver Disease With Normal Alanine Aminotransferase: Analysis of 2448 Health Check-Up Cohort by Ultrasound Attenuation

Imaging and Shear Wave Elastography. J Gastroenterol Hepatol. 2025 Dec;40(12):2987-2996.

3. Om R, et al. Clinical Evaluation of Initial Experiences With the Qualitative Dual Detection of Core Antigen and Antibodies Immunoassay for Hepatitis C Virus Screening Test. Hepatol Res. 2026 Jan;56(1):125-130.
4. Yamaguchi M, et al. Durable response to chemotherapy enabling conversion surgery in stage IVB gallbladder cancer: a case successfully treated with durvalumab combined with gemcitabine plus cisplatin. Clin J Gastroenterol. 2026 Feb;19(1):157-163.
5. Yagi R, et al. Association of Exercise Tolerance with Survival in Patients with Hepatocellular Carcinoma Receiving Locoregional Therapy. Prog Rehabil Med. 2026 Feb 18;11:20260008.
6. Kita Y, et al. Elevated Serum Interleukin 6 Is Associated With High Risk of First Non-bleeding Decompensation in Patients With Compensated Cirrhosis. In Vivo. 2026 Mar-Apr;40(2):1125-1136.
7. Nakayama N, et al. Nationwide survey of patients with acute liver failure and late-onset hepatic failure in Japan seen between 2016 and 2021. Hepatol Res. 2025 Jun;55(6):932-947.
8. Kakisaka K, et al. Liver Volumetry Enhances Prediction of Acute Pancreatitis in Acute Liver Failure: A Nationwide Registry Study. Hepatol Res. 2026 Feb;56(2):233-245.

【和文原著・総説】

1. 渡邊恭子, 他. 院内肝炎ウイルス検査陽性者の実態と肝炎医療コーディネーターを中心とした多職種院内連携による個別化受診勧奨の効果. 肝臓 66 巻 5 号 2025. Page181-187.
2. 佐藤 祥, 他. 混合性結合組織病に合併した特発性門脈圧亢進症により難治性シャント型肝性脳症を発症した一例. 肝臓 66 巻 5 号 2025. Page198-204.
3. 寺井雄一郎, 他. 血管塞栓術前後の内視鏡所見を確認し得た消化管動静脈奇形の 1 例. Gastroenterological Endoscopy 67 巻 8 号 2025. Page1355-1360.
4. 玄田拓哉. 【肝疾患治療の最新動向-新薬の情報とともに】肝移植 up to date. 臨床消化器内科 40 巻 12 号 2025. Page1479-1486.
5. 巖 理華, 他. 核酸アナログが処方されていたにもかかわらず早期に致死性 HBV 再活性化を来した B 型慢性肝炎非活動性キャリアの一例. 肝臓 66 巻 11 号 2025. Page501-503.
6. 村田礼人, 他. 孤発性胃静脈瘤合併胃癌に対してバルーン閉塞下逆行性静脈瘤塞栓術後に ESD を行った 1 例. Gastroenterological Endoscopy 67 巻 12 号 2025. Page2422-2427.
7. 玄田拓哉, 他. HBs 抗原糖鎖修飾異性体(HBsAgGi)測定系の開発とその臨床的意義. 肝胆膵 92 巻 3 号 2025. Page369-378.

【学会発表（国際）】

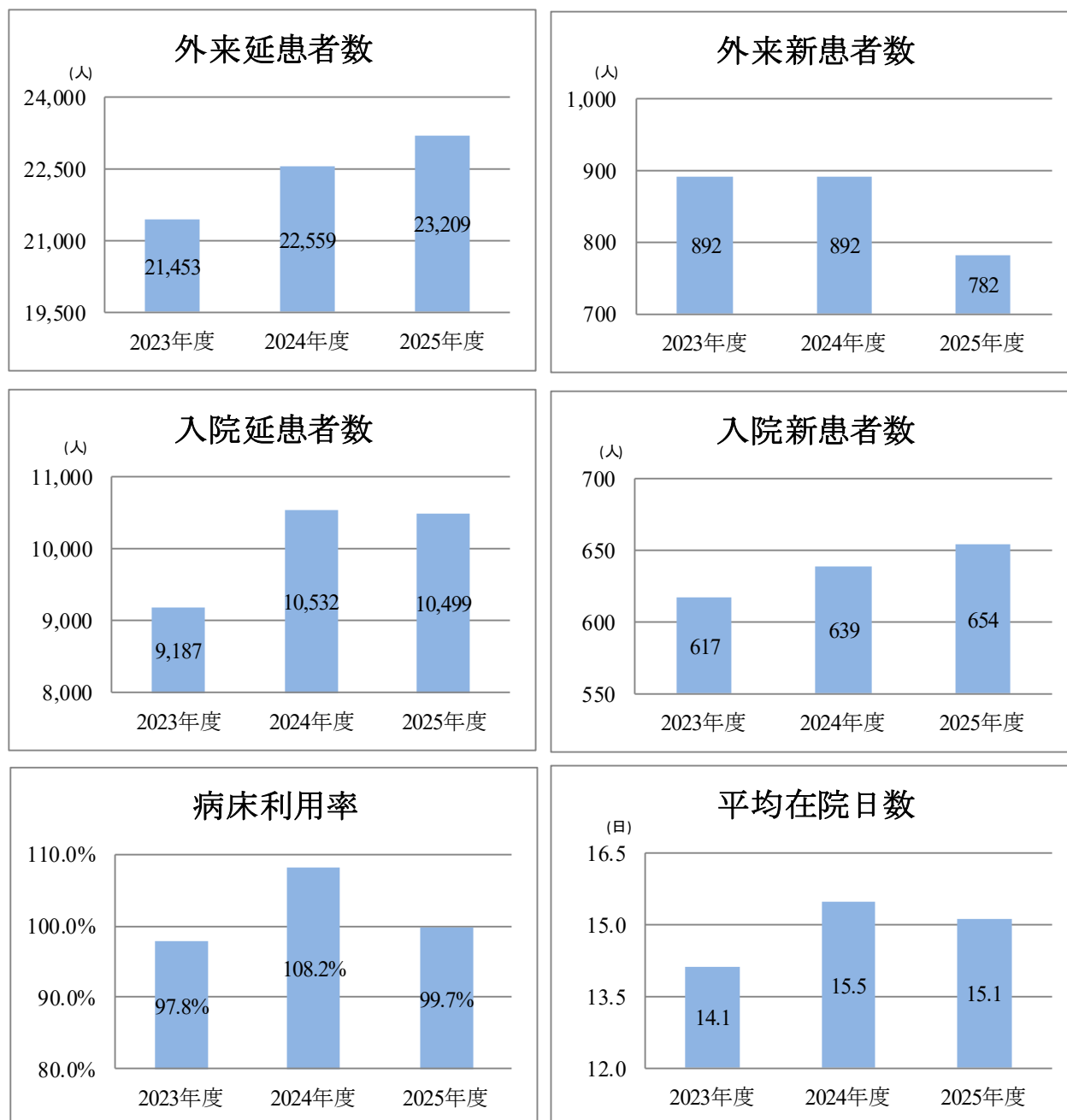
1. Shimada Y, et al. How the difference in gastric mucosal injury during DAPT and SAPT changes when using clopidogrel or prasugrel? UEGW 2025, Berlin, 7 Oct 2025.
2. Shimada Y, et al. From practice to perspective: A ten-year journey of Helicobacter pylori eradication in our department . The 19th IGICS, Kumamoto, 21 Feb 2026.
3. Sato S, et al. Two-step algorithm using FIB-4 followed by M2BPGi for high-risk SLD. EASL SLD Summit. Budapest Feb 2026.

【学会発表（国内）】

1. 嶋田 裕慈. 当科における *Helicobacter pylori* 一次除菌率、二次除菌率の年次推移. 第 31 回日本ヘリコバクター学会学術集会, 淡路島, 2025 年 7 月 11 日
2. 嶋田裕慈. プラスグレル内服症例において SAPT と DAPT の違いが胃粘膜傷害に与える影響. JDDW2025, 神戸, 2025 年 11 月 1 日
3. 佐藤俊輔. 根治的治療が不能な BCLC ステージ A の HCC に対する複合免疫療法の可能性. 第 31 回肝がん分子標的治療研究会, 岡山, 2025 年 1 月.
4. 佐藤俊輔. 健診事業での脂肪肝のスクリーニングにおける FIB-4 導入の限界と課題: 特定健診データの解析. 第 111 回日本消化器病学会総会, 東京, 2025 年 4 月.
5. 佐藤俊輔. エクルーシス試薬 HCV Duo を用いた HCV 感染早期拾い上げへの取り組み. 第 111 回日本消化器病学会総会, 東京, 2025 年 4 月.
6. 佐藤俊輔. iATT を用いた軽度脂肪肝の診断意義: 健診データ 1116 例 の解析. 第 98 回日本超音波医学会総会, 京都, 2025 年 5 月.
7. 佐藤俊輔. 内科的立場からみた肝細胞癌における移植適応拡大の意義. 第 61 回日本肝臓学会総会, 東京, 2025 年 6 月.
8. 佐藤俊輔. ハイリスク脂肪肝の拾い上げを目的にした健診領域への FIB-4 index 導入の課題. 第 61 回日本肝臓学会総会, 東京, 2025 年 6 月.
9. 佐藤俊輔. エクルーシス試薬 HCV Duo を用いた HCV 感染早期拾い上げへの取り組み. JDDW2025, 神戸, 2025 年 10 月 31 日.
10. 村田礼人. HBs 抗原陰性化に至った B 型慢性肝炎患者の特徴. 第 46 回日本肝臓学会西部会, 山口県下関市, 2025 年 12 月 5 日
11. 山口征大. PPI/P-CAB 関連胃症にみられる蜘蛛の巣様粘液所見と P-CAB 服用量に関する検討. 日本消化器内視鏡学会総会、札幌、2025.5.11
12. 山口征大. ゲムシタビン・シスプラチン・デュルバルマブ投与後にコンバージョン手術を施行した進行胆嚢癌の 1 例. 日本消化器病学会東海支部例会、名古屋、2025.6.14.
13. 山口征大. アテゾリズマブ+ベバシズマブによるダウンスレージング後に RFA で完全寛解を得た高齢肝細胞癌の 1 例. 日本消化器病学会東海支部例会、静岡、2025.11.29.
14. 永合浩己. 悪性腫瘍びまん性肝浸潤により肝不全をきたした 2 例. 第 51 回日本急性肝不全研究会紀尾井カンファレンス 2025.6.4.
15. 永合浩己. PPI/P-CAB 関連胃症でみられる内視鏡所見と酸分泌抑制薬の内服状況に関する検討. 日本消化器内視鏡学会総会、札幌、2025.5.11.

2-4 呼吸器内科

診療実績



研究・教育活動

【英文原著】

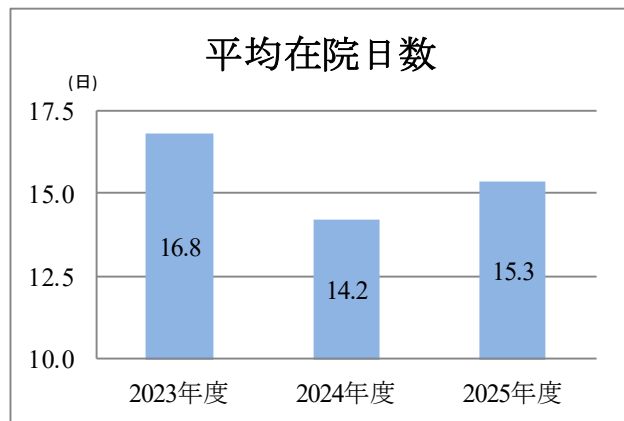
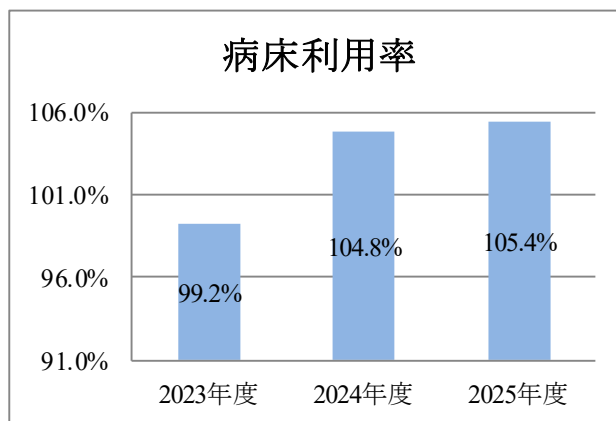
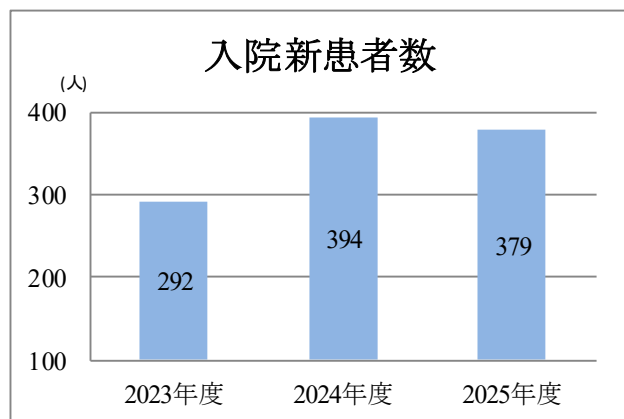
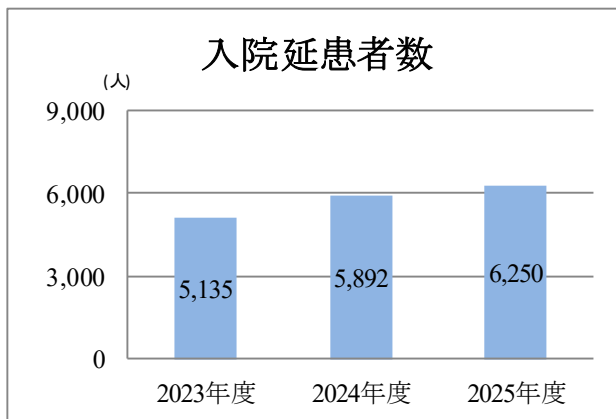
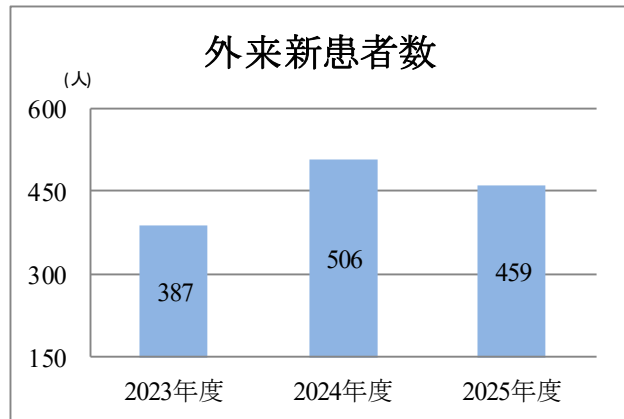
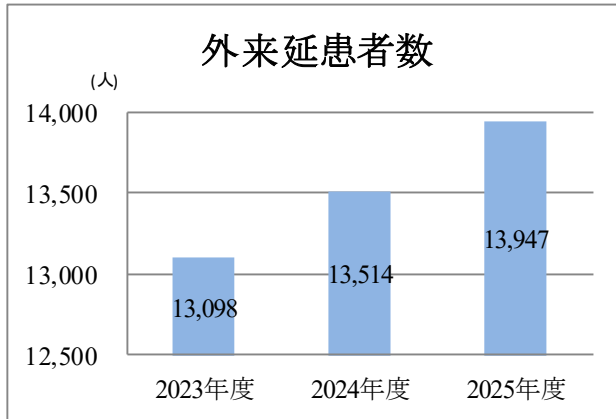
1. Watanabe R, Iwakami S, Haba M, Kuroda Y, Iwakami N, Fujikawa E, Takahashi K. Bilateral chylothorax after 13 tears of Dasatinib therapy in a patient with chronic myeloid leukaemia: A case report. *Respirol Case Rep.* 2026 Mar 6;14(3):e70529. doi: 10.1002/rcr2.70529. eCollection 2026 Mar.

【和文報告その他】

1. 渡邊里空、巾麻奈美、栗山充、反町峻、黒田優美、吉田隆司、岩神直子、岩神真一郎：ダサチニブによると考えられた乳び胸の一例．第 127 回日本呼吸器学会東海地方学会 2025 年 5 月 24 日
名古屋市中心企業振興会館（吹上ホール）
2. 松本卓也、巾麻奈美、永井怜太郎、栗山充、黒田優美、三浦啓太、三森友康、岩神直子、岩神真一郎：急性骨髄性白血病の化学療法中に *Stenotrophomonas maltophilia* 出血性肺炎を発症し生存した一例．第 128 回日本呼吸器学会東海地方学会 2025 年 11 月 16 日 浜松市浜北文化センター

2-5 腎臓内科

診療実績



研究・教育活動

【和文著書】

1. 清水 芳男. 急速進行性糸球体腎炎 (RPGN)・ANCA 関連血管炎 (AAV). エキスパートのための慢性腎臓病 (CKD) ハンドブック. 監修: 富野康日己. 編集: 浅沼克彦, 清水芳男, 鈴木 仁. 中外医学社. 2025: 107-130.
2. 清水 芳男. GFR: 測定方法, eGFR とゴールドスタンダード, 血清 Cr・Cys-C 測定の意義/使

い分け. エキスパートのための慢性腎臓病 (CKD) ハンドブック. 監修: 富野康日己. 編集: 浅沼克彦, 清水芳男, 鈴木仁. 中外医学社. 2025: 2025; 41-49.

【学会発表 (国際)】

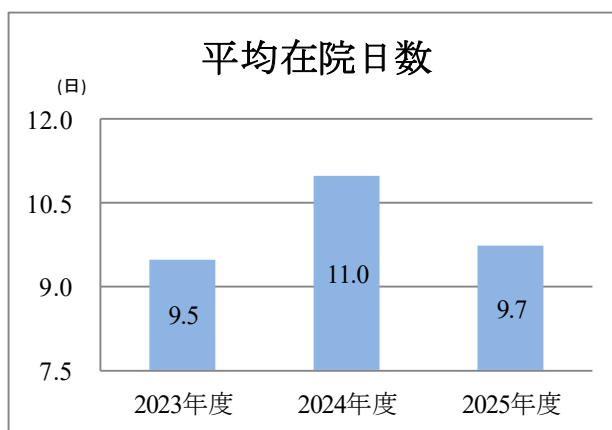
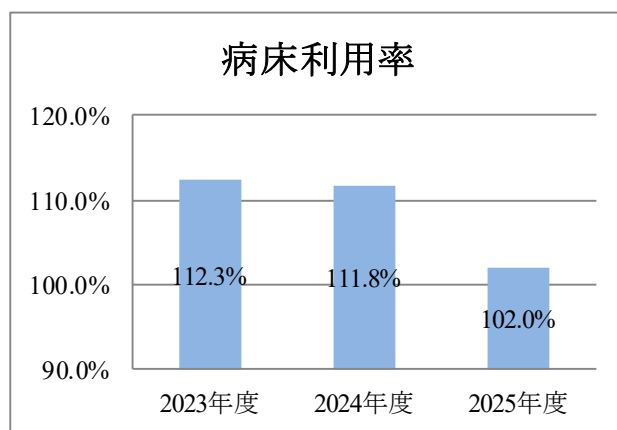
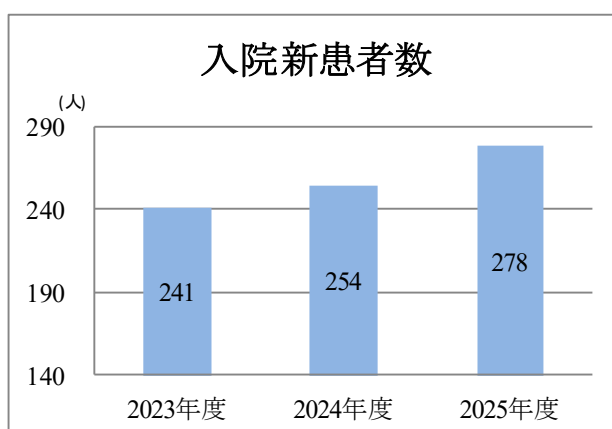
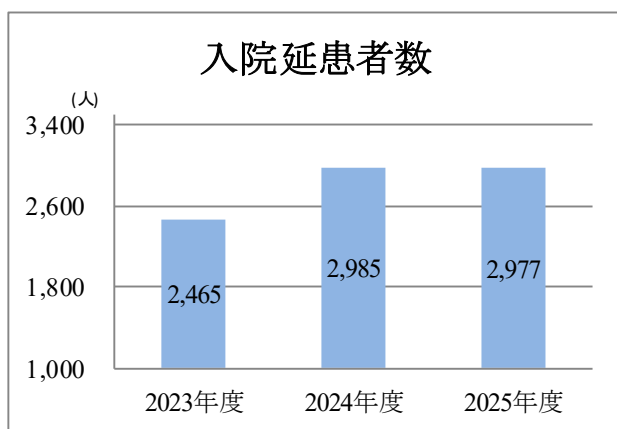
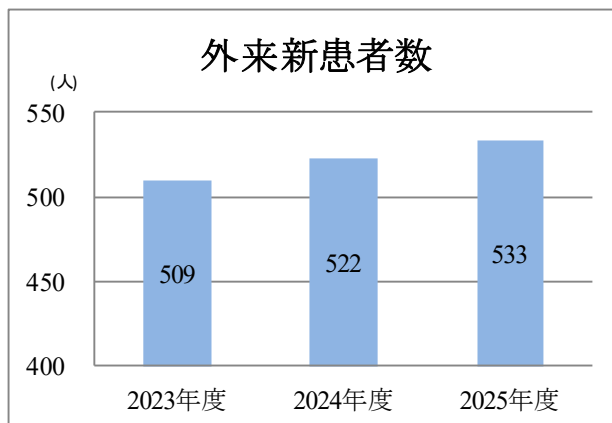
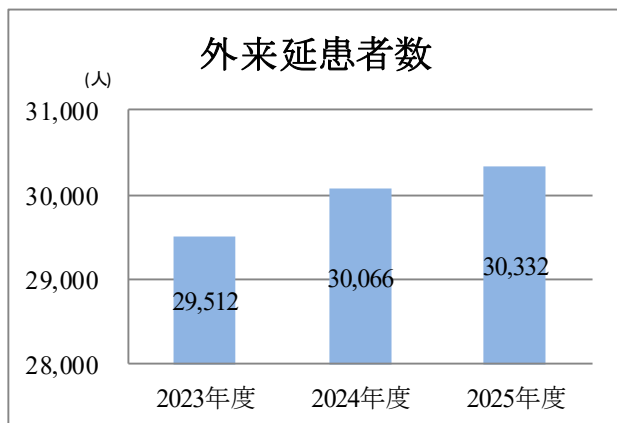
1. Shimizu Y, Toshida H, Wakabayashi K, Hirose T, Fukunaga R, Kitagawa Y, Yata M, Ohta T, Suzuki Y. Exploring the BNP-Itch Axis in Hemodialysis: A Retinal Window into Intracranial Pressure. World Cogress of Nephrology 2026. Mar 28-31, 2026, Yokohama.
2. Shimizu Y, Kurusu A, Takeda S, Iwaswa T, Motohashi S, Suzuki Y. Modeling Crescentic Glomerulonephritis in Mice via Bovine NC1 Domain of Type IV Collagen: A Low-Mortality Approach. World Cogress of Nephrology 2026. Mar 28-31, 2026, Yokohama.
3. Shimizu Y, Kurusu A, Takeda S, Iwaswa T, Motohashi S, Suzuki Y. Flavor-Driven Hydration: A Gentle Strategy for Maximizing Mouse Urine Yield. World Cogress of Nephrology 2026. Mar 28-31, 2026, Yokohama.
4. Yata M, Wakabayashi K, Fukunaga R, Kitagawa Y, Hirose T, Shimizu Y, Suzuki Y. Noma Beyond Borders: A Case Linking Periodontal Disease, Systemic Inflammation, and Dialysis Vulnerability. World Cogress of Nephrology 2026. Mar 28-31, 2026, Yokohama.

【学会発表 (国内)】

1. 庄司 有里、清水 芳男、秋元 麻衣、野村 理奈、矢ヶ崎 元洋、若林 啓一、鈴木 祐介. 抗 GBM 抗体陽性の顕微鏡的多発血管炎 (MPA) の経過中に胃十二指腸動脈瘤出血を合併した 1 例. 第 55 回日本腎臓学会東部学術集会. 2025 年 9 月 28 日. パシフィコ横浜
2. 池谷紗瑛, 野村理奈, 廣瀬樹, 若林啓一, 清水芳男. 半月体形成を認め亜急性に進行した IgG4 関連腎臓病の一例. 第 71 回静岡腎セミナー. 2025 年 9 月 6 日. グランドホテル浜松
3. 福永 諒, 北川 祐己, 矢田 昌敬, 廣瀬 樹, 若林 啓一, 清水 芳男. 両側肺門リンパ節腫脹と高カルシウム血症を呈し自然寛解後のサルコイドーシスの再燃が疑われた血液透析患者の 1 例. 第 67 回静岡県腎不全研究会. 2026 年 3 月 22 日. グランシップ
4. 矢田 昌敬, 福永 諒, 北川 祐己, 廣瀬 樹, 若林 啓一, 清水 芳男. 希少な免疫染色パターンを呈したアルポート症候群の診断例. 第 72 回静岡腎セミナー. 2026 年 2 月 7 日. グランシップ.

2-6 糖尿病・内分泌内科

診療実績



研究・教育活動

【英文著書】

1. Takeshita M, Matsumura T, Arimura A, Takahashi H, Muta Y, Kawade S, Yamagami D, Deguchi T, Kondo T, Yamanaka M, Nagai R, Kawanami D, Yanase T, Nomiyama T, Nishio Y, Araki E, Kubota N. Fingertip skin autofluorescence as a non-invasive marker for vascular complications in patients with type2 diabetes. J Diabetes Investig. 2025 Dec; 16(12):2201-2212.

【和文著書】

1. 野見山崇：GLP-1 受容体作動薬の血糖降下作用と臓器保護作用．日本臨床，2025，83 巻 増刊号 3，146-153
2. 野見山崇：2 型糖尿病．臨床雑誌内科，2025，135 巻 4 号，960-964
3. 野見山崇：Ⅱ 薬物療法のトラブル 13. 糖尿病患者トラブルシューティング A to Z，2025 年 4 月 6 日，株式会社文光堂，58-60
4. 野見山崇：Ⅱ 薬物療法のトラブル 15. 糖尿病患者トラブルシューティング A to Z，2025 年 4 月 6 日，株式会社文光堂，58-60
5. 野見山崇：GLP-1 受容体作動薬．糖尿病最新の治療 2025-2027，2025 年 4 月 15 日，株式会社南江堂，127-130
6. 野見山崇，柳瀬敏彦：ステロイド糖尿病の早期発見と治療について教えてください．レジデントノート，2025，27 巻 5 号，1082-1089
7. 野見山崇：がん患者さんへの GLP-1 受容体作動薬はどう使うべきか？ [周術期]．こういうときはこうする！腫瘍糖尿病学 Q & A がん患者さんの糖尿病診療マニュアル 第 2 版，2025 年 6 月 5 日，株式会社金芳堂，110-113
8. 野見山崇：がん患者さんへの GLP-1 受容体作動薬はどう使うべきか？ [化学療法時]．こういうときはこうする！腫瘍糖尿病学 Q & A がん患者さんの糖尿病診療マニュアル 第 2 版，2025 年 6 月 5 日，株式会社金芳堂，114-119

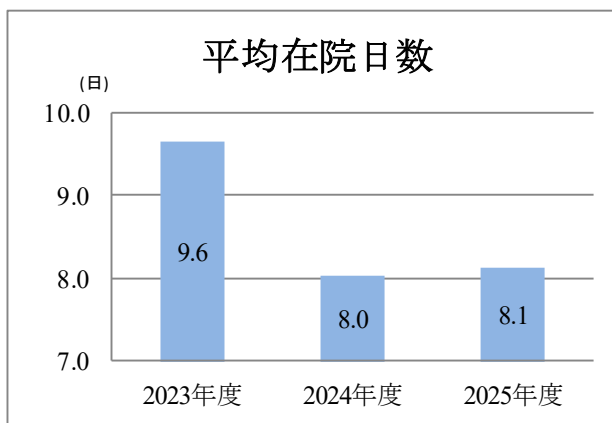
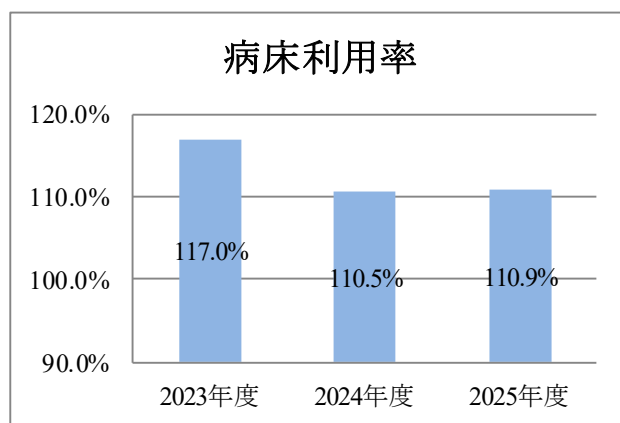
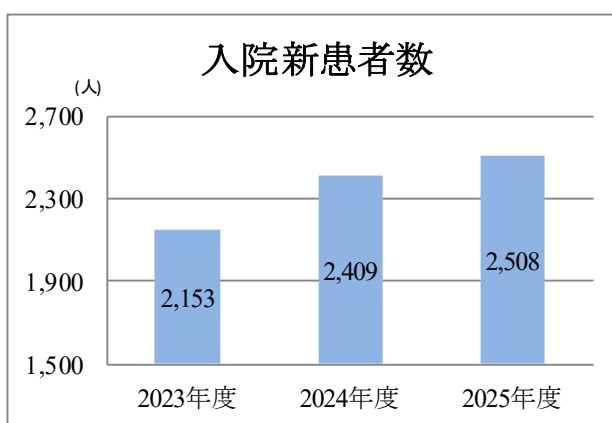
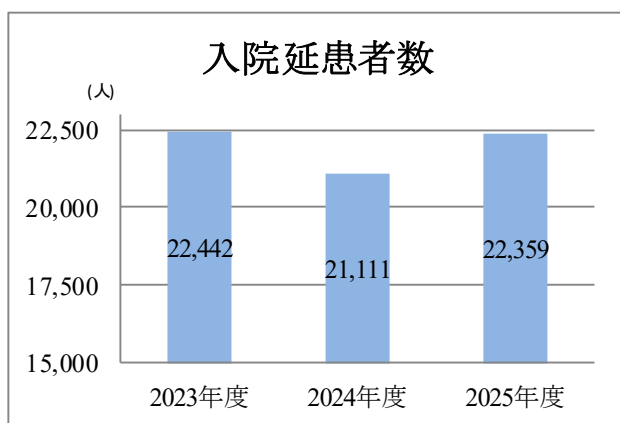
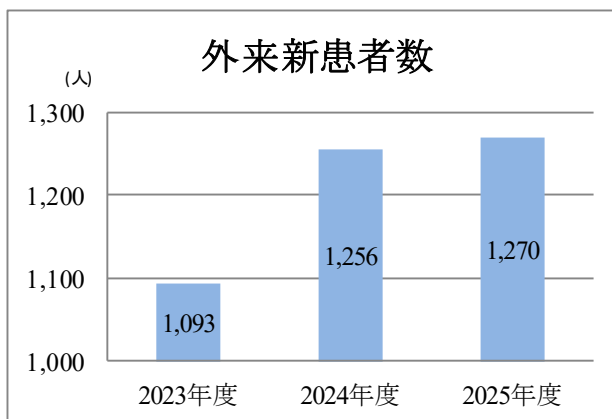
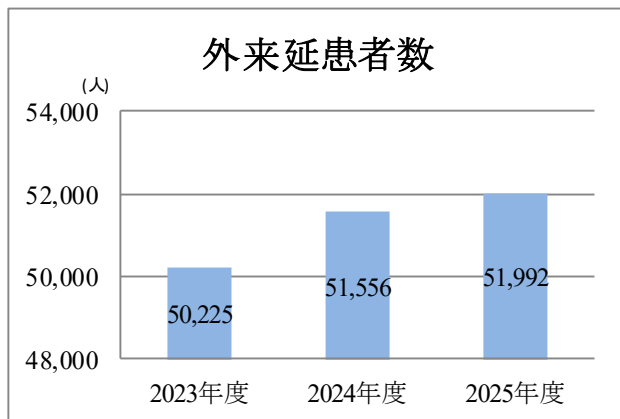
【学会発表（国内）】

1. 野見山崇：職種を超えて地域に根付いたチーム医療～静岡東部 LCDE の取り組み～．日本糖尿病学会第 59 回糖尿病学の進歩，沖縄（日本），2025/1/24，口演
2. 野見山崇：ダイアベティスと共に歩む人生を護る～JADEC ツールを活かしたアドボカシー活動～．日本糖尿病学会第 59 回糖尿病学の進歩，沖縄（日本），2025/1/25，口演
3. 岩澤卓弥、武田聡、來栖亜弓、岡本千香子、岩本達也、山崎望、野見山崇：ミトコンドリア機能改善薬イメグリミンの血管保護作用の検討．第 68 回日本糖尿病学会年次学術集会，岡山（日本），2025/5/30，口演
4. 岩本達也、山崎望、野尻宗子、綿田裕孝、野見山崇：GIP/GLP-1 受容体作動薬チルゼパチドの有効性と安全性の検証．第 68 回日本糖尿病学会年次学術集会，岡山（日本），2025/5/31，ポスター発表
5. 山崎望、麻生克己、早川美穂、古川祥子、佐藤まり重、佐藤淳子、野見山崇：糖尿病専門クリニックにおける 7 年間の 2 型糖尿病患者の膵癌発症の調査．第 68 回日本糖尿病学会年次学術集会，岡山（日本），2025/5/29，口演
6. 岩本達也、横山哲郎、小田原瑠璃、高橋淑子、森亮貴、藤川勝平、尾崎あずさ、門倉椋、関根直樹、山崎望、中本隆介、山内一郎、野見山崇：68Ga-DOTATOC PET/CT が有効であった異所性 ACTH 産生腫瘍の一例．第 98 回日本内分泌学会学術総会，千葉（日本），2025/6/5，口演
7. 藤川勝平、高橋淑子、森亮貴、岩本達也、山崎望、田中俊隆、野見山崇：産後の急激な低 Na 血症で Sheehan 症候群に伴う副腎不全と SIADH の鑑別に苦慮した一例．第 98 回日本内分泌学会学術総会，千葉（日本），2025/6/6，ポスター発表

8. 榎澤尚子、榎澤哲司、仲田幸代、綾部優子、野見山崇、池田富貴. GLP-1 受容体作動薬による消化管内視鏡検査に及ぼす影響. 第 99 回日本糖尿病学会中部地方会, 名古屋 (日本), 2025/9/6, 口演
9. 横山淑子、山崎望、横山哲郎、藤川勝平、森亮貴、尾崎あずさ、岩本達也、野見山崇: 高血糖に伴う不随意運動を契機に MRI 異常所見から診断に至った糖尿病性舞蹈病の一例. 第 99 回日本糖尿病学会中部地方会, 名古屋 (日本), 2025/9/7, 口演
10. 庄司有里、山崎望、横山哲郎、高橋淑子、藤川勝平、森亮貴、尾崎あずさ、岩本達也、野見山崇: 糖尿病性ケトアシドーシスで 2 度緊急透析を施行した一例. 第 99 回日本糖尿病学会中部地方会, 名古屋 (日本), 2025/9/7, 口演
11. 鈴木絢子、伊藤直顕、岩本達也、坂本怜、福元麻葉、横山哲郎、野見山崇: チルゼパチド投与後に正常血糖ケトアシドーシスを呈した 1 例. 第 99 回日本糖尿病学会中部地方会, 名古屋 (日本), 2025/9/6, 口演
12. 藤川勝平、横山哲郎、森亮貴、横山淑子、尾崎あずさ、岩本達也、山崎望、庄司有里、野見山崇: 複発的要因によりメトホルミン関連乳酸アシドーシスとなった一例. 第 99 回日本糖尿病学会中部地方会, 名古屋 (日本), 2025/9/6, 口演
13. 森亮貴、岩本達也、横山哲郎、高橋淑子、藤川勝平、山崎望、野見山崇: 糖尿病性ケトアシドーシスを契機に診断されたもやもや病合併多腺性自己免疫症候群の 1 例. 第 99 回日本糖尿病学会中部地方会, 名古屋 (日本), 2025/9/6, 口演, YIA 受賞
14. 福元麻葉、伊藤直顕、岩本達也、山崎望、綿田裕孝、野見山崇: SPISE 分類によるチルゼパチドの HbA1c への影響の検証: ESTATE study. 第 99 回日本糖尿病学会中部地方会, 名古屋 (日本), 2025/9/6, 口演, YIA 受賞
15. 坂本怜、伊藤直顕、横山哲郎、福元麻葉、岩本達也、野見山崇: 深頸部膿瘍により顕在化した緩徐進行 1 型糖尿病の一例. 第 99 回日本糖尿病学会中部地方会, 名古屋 (日本), 2025/9/6, 口演, YIA 受賞
16. 野見山崇: ミトコンドリア・ルネサンス～血糖降下と臓器保護のデュアリズム～. 第 99 回日本糖尿病学会中部地方会, 名古屋 (日本), 2025/9/6, 口演
17. 矢田昌敬、岩本達也、福元麻葉、坂本怜、伊藤直顕、野見山崇: 意識障害が先行し髄膜炎との鑑別を要した甲状腺クリーゼの一例. 第 25 回日本内分泌学会東海支部学術集会, 愛知 (日本), 2025/9/28, 口演
18. 横山哲郎、伊藤直顕、福元麻葉、坂本怜、岩本達也、野見山崇: バセドウ合併妊娠に対してヨウ化カリウム短期併用療法が有用であった一例. 第 25 回日本内分泌学会東海支部学術集会, 愛知 (日本), 2025/9/28, 口演
19. 福元麻葉、伊藤直顕、横山哲郎、坂本怜、岩本達也、山崎望、野見山崇: POCT 機による血中ケトン体迅速測定と糖尿病性ケトアシドーシスの関連性. 第 257 回日本内科学会東海地方会, 名古屋 (日本), 2025/10/5, 口演, YIA 受賞
20. 岩本達也、山崎望、伊藤直顕、野尻宗子、綿田裕孝、野見山崇: GIP/GLP-1 受容体作動薬チルゼパチドの有効性と安全性の検証 (ESTATE study). 第 40 回日本糖尿病合併症学会, 東京 (日本), 2025/11/14, 口演
21. 岩澤卓弥、武田聡、来栖亜弓、岡本千香子、岩本達也、山崎望、加藤和則、野見山崇: イメグリミンによるミトコンドリア非依存的な血管保護作用の検討. 第 40 回日本糖尿病合併症学会, 東京 (日本), 2025/11/14, 口演

2-7 循環器内科

診療実績



研究・教育活動

【英文原著】

1. Singh YS, Ogita M, Suwa S, Nishizaki Y, Yanagawa Y. Clinical impact of physician-staffed helicopter transport in patients with cardiogenic shock complicating acute coronary syndrome. Eur J Emerg Med 2025; 32:380-381.

2. Nishikura T, Yamamoto K, Wakabayashi K, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Nishikawa R, Kimura T, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Onishi Y, Hibi K, Kawai K, Murakami T, Takasaki A, Higashitani N, Nakano M, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 investigators. Effect of Proton Pump Inhibitors in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention with Aspirin-Free Strategy. *JACC Asia*. 2025: S2772-3747(25)00542-3. Online ahead of print.
3. Hirata S, Okumura Y, Nagashima K, Watanabe R, Yokoyama K, Matsumoto N, Kato T, Fukaya H, Hayashi H, Nakahara S, Shimizu W, Iwasaki YK, Fujimoto Y, Mukai Y, Ejima K, Otsuka T, Suzuki S, Murakami M, Kimura M, Harada M, Koyama J, Yamane T, Tokuda M, Takami M, Shoda M, Harada T, Nakajima I, Hiroshima K, Tanimoto K, Kumagai K, Okada A, Kobayashi H, Watari Y, Hatsuno M, Hayashi T, Tachibana E, Iso K, Sonoda K, Aizawa Y, Fukuoka R, Chikata A, Inoue M, Sakagami S, Minamiguchi H, Makino N, Ichikawa M, Haruta H, Hiro T, Okubo K, Arai M, Arima K, Kihara H, Miyanaga S, Fukuda Y, Oiwa K, Koyama Y, Kurihara T, Akabane M, Ishikawa N, Kusano K, Miyamoto K, Tabuchi H, Shiozawa T, Miyamoto K, Mase H, Murotani K. Catheter Ablation Outcomes and Life Expectancy in Very Elderly Atrial Fibrillation Patients: The REHEALTH AF Study. *JACC Clin Electrophysiol*. 2025 Nov 14: S2405-500X (25)00827-8. doi: 10.1016/j.jacep.2025.10.007.
4. Sugita-Yamaguchi Y, *Miyazaki T, Shimada K, Shimizu M, Ouchi S, Aikawa T, Shiozawa T, Takasu K, Hiki M, Takahashi S, Sumiyoshi K, Minamino T. Association between Low Omega-6 Polyunsaturated Fatty Acid Levels and the Development of Delirium in the Coronary Intensive Care Unit. *Nutrients*. 2025 Jun 11;17(12):1979.
5. Tamura T, Shiomi H, Morimoto T, Imada K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ehara N, Taniguchi R, Sakamoto J, Miyake M, Tamura T, Ogita M, Suwa S, Ando K, Ono K, Kimura T; CREDO-Kyoto AMI Registry Wave-2 Investigators. Prodromal symptoms and the care-seeking behavior in patients with acute ST-segment elevation myocardial infarction. *J Car diol* 2025 (online ahead of print).
6. Saotome M, Akita K, Kageyama S, Suzuki S, Ohno K, Kamakura M, Nawada R, Takanaka C, Wakabayashi Y, Kanda T, Tawarahara K, Muto M, Matsunaga M, Suwa S, Takeuchi Y, Sakamoto H, Saito H, Hayashi K, Wakahara N, Unno K, Ikoma T, Sato R, Iguchi K, Satoh T, Sano M, Sakamoto A, Suwa K, Naruse Y, Ohtani H, Maekawa Y; Searching for Atrial Fibrillation and Early Recruitment of Heart Failure in HCM (SAFER-HCM)Registry Investigators.
7. Associations between heart failure-related quality of life and clinical parameters in patients with hypertrophic cardiomyopathy: a cross-sectional analysis of data from a multicenter Japanese registry. *BMJ Open*. 2025;15: e101251.
8. Tanaka H, Yoshihara N, Akahori H, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Suwa S, Fujimoto K, Dai K, Morita T, Shimizu W, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M; J-MINUET investigators. Impact of Anemia on Cardiovascular Outcomes in Patients with Acute Myocardial Infarction. *Int Heart J*. 2025;66(5):736-743.

9. Nishikawa R, Shiomi H, Yamamoto K, Morimoto T, Miyazawa A, Ando K, Domei T, Naganuma T, Suwa S, Kadota K, Onishi Y, Ono K, Kishi K, Yoneda K, Okayama H, Matsuda K, Fujita T, Tatsushima S, Sakamoto H, Hamaguchi Y, Kurita T, Takasaki A, Nishino M, Okamoto N, Kirigaya H, Kawaguchi R, Kuribara J, Yamaguchi J, Arashi H, Hibi K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators. Optimal Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Left Main Coronary Artery Disease: The OPTIVUS-Complex PCI Study LMCA Cohort. *Am J Cardiol.* 2025; 259:202-211.
10. Moriya S, Iwata H*, Chikata Y, Funamizu T, Doi S, Koike T, Abe K, Matsuo R, Wada H, Naito R, Ogita M, Okai I, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Miyauchi K, Daida H, Minamino T. Prognostic impact of proteinuria in diabetic patients without chronic kidney disease undergoing percutaneous coronary intervention. *Cardiovasc Diabetol Endocrinol Rep* 2025; 11(1): 34
11. Saito Y*, Mori Y, Yamaji K, Kohsaka S, Wada H, Ishii H, Amano T, Kobayashi Y, Kozuma K; J-PCI Registry Investigators. Geographic variations and trends in percutaneous intervention for patients with and without acute myocardial infarction: A Japanese nationwide registry study. *PLoS One* 2025; 20(10): e0335426
12. Suzuki T, Mori Y, Spertus JA, Ikemura N, Mizuno A, Asano T, Kijima Y, Yoneoka D, Wada H, Yamaji K, Amano T, Kozuma K, Kohsaka S*. Left-Digit Bias in Serum Creatinine Levels and Contrast Administration: A Nationwide Cohort Study Using a Japanese Percutaneous Coronary Intervention Registry. *J Am Heart Assoc.* 2025; 14(14): e041252
13. Wada H*, Miyauchi K, Suwa S, Miyazaki S, Hayashi H, Nishizaki Y, Yanagisawa N, Yokoyama K, Murata N, Saito Y, Nagashima K, Matsumoto N, Okumura Y, Minamino T, Daida H. Major bleeding increases the risk of subsequent cardiovascular events in patients with atrial fibrillation: insights from the SAKURAAF registry and RAFFINE registry. *Heart Vessels* 2025; 40(2): 123-130
14. Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Kimura T, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Tamura T, Kawahatsu K, Hayashi F, Akao M, Serikawa T, Mori H, Kawamura T, Hagikura A, Shibata N, Ono K, Kimura T. Aspirin Versus Clopidogrel Beyond 1 Month After PCI in Patients With Oral Anticoagulation. *Circ Cardiovasc Interv.* 2025;18(11): e015495.
15. Singh YS, Matsue Y, Iso T, Fujimoto Y, Yanagisawa N, Shitara J, Suwa S, Miyakuni S, Mizukami A, Saito Y, Okumura Y, Takasu K, Tokano T, Hiki M, Isoda K, Miyazaki T, Miyauchi K, Minamino T. Daprodustat for patients with heart failure and renal anemia: A pilot multicenter, open-label, randomized controlled study. *J Cardiol.* 2025: S0914-5087(25)00241-2. Online ahead of print.
16. Tamura A, Shiomi H, Morimoto T, Imada K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ehara N, Taniguchi R, Sakamoto J, Miyake M, Tamura T, Ogita M, Suwa S, Ando K, Ono K, Kimura T; CREDO-Kyoto AMI Registry Wave-2 Investigators. Prodromal symptoms and the care-seeking behavior in patients with acute ST-segment elevation myocardial infarction. *J Cardiol.* 2025: S0914-5087(25)00236-9. Online ahead of print.

17. Singh YS, Ogita M, Suwa S, Nishizaki Y, Yanagawa Y. Clinical impact of physician-staffed helicopter transport in patients with cardiogenic shock complicating acute coronary syndrome. *Eur J Emerg Med.* 2025;32(5):380-381.
18. Matsukawa N, Yamamoto MH, Mizukami T, Kondo S, Kobayashi N, Takano M, Sugiyama T, Kakuta T, Wakabayashi K, Suwa S, Dohi T, Mori H, Kimura S, Mitomo S, Nakamura S, Higuma T, Yamaguchi J, Yonetsu T, Natsumeda M, Ikari Y, Yamashita J, Matsuyama T, Shinke T; TACTICS Investigators. Clinical Impact of Optical Coherence Tomography-Guided Primary Percutaneous Coronary Intervention in ST-Elevation Myocardial Infarction - A Sub study of the TACTICS Registry. *Circ J.* 2025. doi: 10.1253/circj.CJ-25-0154. Online ahead of print.
19. Sakai K, Mizukami T, Ohashi H, Bouisset F, Botti G, Kobayashi N, Takano M, Kondo S, Sugiyama T, Kakuta T, Wakabayashi K, Suwa S, Dohi T, Mori H, Kimura S, Mitomo S, Nakamura S, Higuma T, Yamaguchi J, Yonetsu T, Natsumeda M, Ikari Y, Yamashita J, Yamamoto MH, Wilgenhof A, Sonck J, Shinke T, Bouwman C, Aben JP, Collet C. Angiography-Based Blood Flow Quantification After Revascularization in Acute Coronary Syndromes. *J Am Heart Assoc.* 2025;14: e038770.
20. Hiki M, Kasai T, Sato A, Ishiwata S, Yatsu S, Shitara J, Matsumoto H, Shimizu M, Murata A, Kato T, Suda S, Iwata H, Daida H. Relationship Between Serum Levels of Pancreatic Exocrine Enzymes on Admission and Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. *J Clin Med.* 2025 Feb 24;14(5):1500.
21. Hiki M, Kasai T, Sato A, Ishiwata S, Yatsu S, Shitara J, Matsumoto H, Shimizu M, Murata A, Kato T, Suda S, Daida H. Serum Levels of Exocrine Pancreatic Enzymes in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. *Rev. Cardiovasc. Med.* 2025, 26(3), 28160
22. Akama Y, Matsue Y, Maeda D, Dotare T, Sunayama T, Iso T, Fujimoto Y, Nakade T, Yatsu S, Ishiwata S, Nakamura Y, Suda S, Kato T, Hiki M, Kasai T, Minamino T. Prognostic values of proteinuria in patients with acute heart failure. *J Cardiol.* 2025 Jan 28: S0914-5087(25)00010-3
23. Hiki M, Kasai T, Sato A, Ishiwata S, Yatsu S, Matsumoto H, Shitara J, Shimizu M, Murata A, Kato T, Suda S, Iwata H, Takagi A, Daida H. Effects of Worsening Renal Function and Changes in Blood Urea Nitrogen Level During Hospitalization on Clinical Outcome in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. *Biomedicines.* 2025 Apr 16;13(4):977. doi: 10.3390/biomedicines13040977. PMID: 40299659
24. Dotare T, Daichi M, Matsue Y, Fujimoto Y, Sunayama T, Iso T, Nakade T, Yatsu S, Ishiwata S, Nakamura Y, Akama Y, Suda S, Kato T, Hiki M, Kasai T, Minamino T. Estimated protein intake and prognosis in hospitalized heart failure: A focus on patients with and without chronic kidney disease. *Clin Nutr ESPEN.* 2025 Feb; 65:43-49
25. Yatsu S, Woo A, Horvath CM, Tobushi T, Logan AG, Floras JS, Tomlinson G, Bradley TD; ADVENT-HF Investigators. LV Structure and Function in HFrEF With and Without Peak-Flow-Triggered Adaptive Servo-Ventilation-Treated Sleep-Disordered Breathing. *JACC Heart Fail.* 2025 Apr 15: S2213-1779(25)00236-7. doi: 10.1016/j.jchf.2025.02.016. Online ahead of print. PMID: 40310326

26. Shiroshita N, Obata R, Kawana F, Kato M, Sato A, Ishiwata S, Yatsu S, Matsumoto H, Shitara J, Murata A, Shimizu M, Kato T, Suda S, Tomita Y, Hiki M, Naito R, Kasai T. Validation of Automated Respiratory Event Scoring in Type 3 Home Sleep Apnea Testing. *Nat Sci Sleep*. 2025 Jul 11; 17:1629-1637.
27. Matsumoto H, Kasai T*, Sato A, Shiroshita N, Ishiwata S, Yatsu S, Shitara J, Kato T, Suda S, Naito R, Hayashi H, Minamino T, Daida H. Prevalence of Sleep-Disordered Breathing and Cheyne-Stokes Respiration in Patients with Atrial Fibrillation. *Rev. Cardiovasc. Med*. 2025; 26(8): 46143
28. Yamamoto K, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Nishikawa R, Kimura T, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Yokomatsu T, Chinen T, Doijiri T, Kozuma K, Nishida Y, Yamaguchi K, Kitahara H, Ishino M, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 Investigators. An Aspirin-Free Strategy for Patients Undergoing Staged Percutaneous Coronary Intervention - A Subgroup Analysis of the STOPDAPT-3 Trial.*Circ Rep*. 2025; 7:451-462.
29. Obayashi Y, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Nishikawa R, Kimura T, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Tokuyama H, Sakamoto H, Fujita T, Nanasato M, Okayama H, Nishikura T, Kirigaya H, Nishida K, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 Investigators. Aspirin vs Clopidogrel 1 Month After Acute Coronary Syndrome with High-Bleeding Risk or ST-Segment Elevation. *JACC Cardiovasc Interv*. 2025; 18:2120-2135.
30. Wakabayashi K, Yonetsu T, Mizukami T, Yamamoto MH, Yasuhara S, Shishido K, Saito S, Kobayashi N, Takano M, Usui E, Kakuta T, Oishi Y, Kondo S, Nishikura T, Minami Y, Ako J, Okabe T, Naganuma T, Mitomo S, Nakamura S, Higuma T, Shite J, Kozuki A, Suwa S, Kume T, Uemura S, Naruse G, Okura H, Yamakami Y, Fujii H, Kimura S, Iwasaki M, Araki M, Sugiyama T, Nanasato M, Dohi T, Ashikaga T, Mori H, Sekimoto T, Sugizaki Y, Otake H, Shinke T; ATLAS-OCT Investigators. Feasibility of optical coherence tomography-guided primary percutaneous coronary intervention for STEMI: all-comer ATLAS-OCTtrial. *Cardiovasc Interv Ther*. 2025; 40:576-587.
31. Mori H, Yamamoto MH, Mizukami T, Kobayashi N, Wakabayashi K, Kondo S, Sekimoto T, Sambe T, Yasuhara S, Sugiyama T, Kakuta T, Mitomo S, Nakamura S, Takano M, Yonetsu T, Dohi T, Yamashita J, Yamaguchi J, Kimura S, Higuma T, Natsumeda M, Ikari Y, Suwa S, Suzuki H, Shinke T; TACTICS investigators. Significant Stenosis Without Thrombus: Is It the Third Most Common Morphology of Acute Coronary Syndrome? *CJC Open*. 2025; 7:641-648.
32. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Miyazawa A, Watanabe H, Natsuaki M, Watanabe H, Yamaji K, Ohya M, Nakamura S, Mitomo S, Suwa S, Domei T, Tatsushima S, Ono K, Sakamoto H, Shimamura K, Shigetoshi M, Taniguchi R, Nishimoto Y, Okayama H, Matsuda K, Yokomatsu T, Muto M, Kawaguchi R, Kishi K, Hadase M, Fujita T, Nishida Y, Nishino M, Otake H, Suematsu N, Ajimi T, Tanabe K, Abe M, Hibi K, Kadota K, Ando K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators*.Correction to: Target Lesion Revascularization After Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention. *Circ Cardiovasc Interv*.

2025;18: e000097.

33. Ishikawa T, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Yoshida R, Suzuki H, Nakazawa G, Kusuyama T, Morishima I, Hojo S, Tsutsumi J, Yamamoto H, Ueda H, Ono K, Kimura T. Aspirin-Free Strategy for PCI in Patients With High Bleeding Risk With or Without Acute Coronary Syndrome: A Subgroup Analysis From the STOPDAPT-3 Trial. *Circ Cardiovasc Interv*. 2025;18: e015197.
34. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Miyazawa A, Watanabe H, Nakamura S, Suwa S, Domei T, Ono K, Sakamoto H, Shigetoshi M, Taniguchi R, Okayama H, Yokomatsu T, Muto M, Kawaguchi R, Kishi K, Hadase M, Fujita T, Nishida Y, Nishino M, Otake H, Natsuaki M, Watanabe H, Suematsu N, Tanabe K, Abe M, Hibi K, Kadota K, Ando K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators. CORRIGENDUM: Dual Antiplatelet Therapy Duration After Multivessel Optimal Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J*. 2025; 89:740-750.
35. Yamamoto K, Shiomi H, Nishikawa R, Morimoto T, Miyazawa A, Naganuma T, Suwa S, Fujita T, Domei T, Tatsushima S, Takasaki A, Kikuchi A, Okamura A, Suematsu N, Isawa T, Honda S, Kawase Y, Kadota K, Ando K, Hibi K, Ono K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators. Optimal Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Multivessel Disease and Left Ventricular Dysfunction. *Circ Rep*. 2025 Mar 6; 7:275-284.
36. Gohbara M, Hibi K, Morimoto T, Kirigaya H, Yamamoto K, Ono K, Shiomi H, Ohya M, Yamaji K, Watanabe H, Amano T, Morino Y, Takagi K, Honye J, Matsuo H, Abe M, Kadota K, Ando K, Nakao K, Sonoda S, Suwa S, Kawai K, Kozuma K, Nakagawa Y, Ikari Y, Nanasato M, Hanaoka K, Tanabe K, Hata Y, Akasaka T, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI investigators. Complex PCI and 1-year outcomes in the OPTIVUS-complex PCI study multivessel cohort. *Cardiovasc Interv Ther*. 2025; 40:516-526.
37. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Watanabe H, Miyazawa A, Yamaji K, Ohya M, Nakamura S, Mitomo S, Suwa S, Domei T, Tatsushima S, Ono K, Sakamoto H, Shimamura K, Shigetoshi M, Taniguchi R, Nishimoto Y, Okayama H, Matsuda K, Nakatsuma K, Takayama Y, Kuribara J, Kirigaya H, Yoneda K, Imai Y, Kaneko U, Ueda H, Komiyama K, Okamoto N, Sasaki S, Tanabe K, Abe M, Hibi K, Kadota K, Ando K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators. CORRIGENDUM: Comparison of the OPTIVUS-Complex PCI Multivessel Cohort with the Historical CREDO-Kyoto Registry Cohort-3. *Circ J*. 2025; 89:519-534.
38. Ono M, Asano T, Noguchi M, Kogame N, Iijima R, Osakada K, Ando K, Ishihara T, Nishida K, Nanasato M, Tanabe K, Muramatsu T, Okamura A, Kinoshita Y, Hibi K, Suwa S, Kuriyama N, Okada K, Nakazawa G, Ashikaga T, Tadano Y, Shiomi H, Nakamura M, Miyazawa A, Miyata S, Uno K, Kadota K, Kozuma K; NATURE trial investigators. Cutting balloon versus standard balloon for lesion preparation of drug-coated balloon treatment in de-novo coronary artery lesions: Rationale and Design of the Randomized NATURE trial. *Cardiovasc Revasc Med*. 2025; S1553-8389(25)00102-2. Online ahead of print.

39. Kojima Y, Inoue K, Shiozaki M, Sasaki S, Lee CC, Chiang SJ, Suwa S, Minamino T. Accuracy of the 0/1-Hour Algorithm for Diagnosing Myocardial Infarction in Patients with Atrial Fibrillation. *Circ J*. 2025; 89:1106-1112.
40. Hanazawa K, Shiomi H, Morimoto T, Ando K, Furukawa Y, Tada T, Tazaki J, Kadota K, Tamura T, Sato Y, Matsuda M, Inoko M, Shirotani M, Onodera T, Shinoda E, Yamamoto T, Tamura T, Miki S, Aoyama T, Suwa S, Minatoya K, Soga Y, Koyama T, Komiya T, Ohno N, Ogawa T, Yamazaki F, Nishizawa J, Esaki J, Kanemitsu N, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort -2 and -3 Investigators. Suspected Fatal Arrhythmic Events in Japanese Patients With Coronary Artery Disease - From the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registries Cohorts-2 and -3. *Circ J*. 2025; 89:364-372.
41. Domei T, Yamamoto K, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Nishikawa R, Kimura T, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Tamura T, Kawahatsu K, Hayashi F, Abe M, Serikawa T, Mori H, Kawamura T, Hagikura A, Shibata N, Ono K, Kimura T. Aspirin vs. clopidogrel monotherapy beyond 1 month after complex percutaneous coronary intervention: a pre-specified subgroup analysis of the STOPDAPT-3 trial. *Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother*. 2025; 11:198-209.
42. Yamamoto K, Shiomi H, Nishikawa R, Morimoto T, Miyazawa A, Naganuma T, Suwa S, Fujita T, Domei T, Tatsushima S, Hamaguchi Y, Nishimoto Y, Matsuda K, Takayama Y, Kuribara J, Kirigaya H, Yoneda K, Shigetoshi M, Yokomatsu T, Kadota K, Ando K, Hibi K, Ono K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI investigators. Optimal Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Multivessel Disease and Chronic Kidney Disease. *Am J Cardiol*. 2025; 239:20-27.
43. Yamamoto K, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Ikari Y, Kurita T, Kaitani K, Sugimoto A, Ogata N, Ikuta A, Hashimoto K, Ishibashi Y, Masuda K, Miyabe T, Ono K, Kimura T. An aspirin-free strategy for percutaneous coronary intervention in patients with diabetes: a pre-specified subgroup analysis of the STOPDAPT-3 trial. *Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother*. 2025; 11:34-44.
44. Moriya S, Iwata H, Chikata Y, Funamizu T, Doi S, Koike T, Abe K, Matsuo R, Wada H, Naito R, Ogita M, Okai I, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Miyauchi K, Daida H, Minamino T. Prognostic impact of proteinuria in diabetic patients without chronic kidney disease undergoing percutaneous coronary intervention. *Cardiovasc Diabetol Endocrinol Rep* 2025; 11:34.

【学会発表（国際）】

1. Shintaro Inaba, Hideki Wada, Manabu Ogita, Akifumi Yamada, Takahiro Ohtsuka, Yuka Nobushima, Takuya Onozato, Tomohi Ajima, Keiki Abe, Shoichiro Yatsu, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Satoru Suwa, Tohru Minamino. Pre-myocardial infarction symptoms and short- and long-term cardiovascular mortality among acute myocardial infarction patients. ESC 2025, 31th August 2025, Madrid, Spain
2. Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Manabu Ogita, Satoru Suwa, Nobuaki Kobayashi, Masamichi Takano, Seita Kondo, Tomoyo Sugiyama, Tsunekazu Kakuta, Kohei Wakabayashi, Hiroyoshi

Mori, Shigeki Kimura, Satoru Mitomo, Sunao Nakamura, Takumi Higuma, Junichi Yamaguchi, Taishi Yonetsu, Makoto Natsumeda, Yuji Ikari, Jun Yamashita, Takuya Mizukami, Myong Hwa Yamamoto, Toshiro Shinke. Clinical outcomes and optical coherence tomography findings in myocardial infarction patients without standard modifiable risk factors: Insights from the TACTICS registry. ESC 2025, 30th August 2025, Madrid, Spain

3. Hideki Wada, Shintaro Inaba, Manabu Ogita, Akifumi Yamada, Takahiro Ohtsuka, Yuka Nobushima, Takuya Onozato, Tomohi Ajima, Keiki Abe, Shoichiro Yatsu, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Satoru Suwa, Tohru Minamino. Combined effect of lipoprotein(a) and C-reactive protein on future cardiovascular outcomes after acute myocardial infarction. ESC 2025, 29th August 2025, Madrid, Spain
4. Yuka Nobushima, Manabu Ogita, Hideki Wada, Shintaro Inaba, Akifumi Yamada, Takahiro Ohtsuka, Takuya Onozato, Tomohi Ajima, Keiki Abe, Shoichiro Yatsu, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Satoru Suwa, Tohru Minamino. The impact of off-hours presentation on outcome in patients with acute coronary syndrome complicated by cardiogenic shock. ESC 2025, 29th August 2025, Madrid, Spain
5. Yatsu S, Woo A, Horvath CM, Tobushi T, Logan AG, Floras JS, Bradley TD. Impact of sleep-disordered breathing and its treatment with adaptive-servo ventilation on left atrial structure and function in heart failure. American College of Cardiology 2025 Chicago, United States. March 29-31, 2025
6. Singh YS, Yatsu S, Matsue Y, Shitara J, Fujimoto Y, Nakamura Y, Nakade T, Dotare T, Inoue K, Isogai H, Kasai T, Ogita M, Suwa S, Minamino T. The impact of low blood pressure at discharge on long-term clinical outcome in patients with acute heart failure. European Society of Cardiology 2025, Madrid, Spain. August 29-September 1, 2025.

【学会発表（国内）】

1. 近藤哲、延島優香、和田英樹、今西雄貴、朱櫻華、山田瑛文、稲葉慎太郎、小野里匠也、安島鵬飛、谷津翔一郎、設樂準、遠藤裕久、塩澤知之、諏訪哲、荻田学 心不全を繰り返す 88 歳女性の LAD 高度石灰化病変に対し Rotablater、IVL カテーテルを用いて治療を行った一例 日本心血管インターベンション治療学会第 53 回東海北陸地方会 2025 年 10 月 18 日名古屋
2. 山田瑛文、遠藤裕久、大石敦美、延島優香、大山徹真、谷津翔一郎、和田英樹、諏訪哲、荻田学 Shaggy aorta の透析患者に 22FrDryseal と SAPIEN3 UR を用いて TF-TAVI を完遂した一例 日本心血管インターベンション治療学会第 53 回東海北陸地方会 2025 年 10 月 18 日名古屋
3. 和田英樹、荻田学、諏訪哲、南野徹 急性心筋梗塞二次予防におけるウェアラブルデバイスと遠隔医療の有用性の検討 第 73 回日本心臓病学会学術集会 2025 年 9 月 19 日 高知
4. 稲葉慎太郎、和田英樹、荻田学ら リポプロテイン(a)と CRP の組み合わせが心筋梗塞後の将来的な心血管イベントに有用である 第 33 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2025 年 7 月 19 日 大阪
5. 和田 英樹、土肥 智貴、荻田 学、諏訪 哲、小林 宜明、高野 雅充、近藤 誠太、杉山 知代、角田 恒和、若林 公平、森 敬善、木村 茂樹、三友 悟、中村 淳、樋熊 拓未、山口 淳一、米津 太志、棗田 誠、伊莉 裕二、山下 淳 Clinical outcomes and optical coherence tomography findings in

myocardial infarction patients without standard modifiable risk factors: the TACTICS registry.

第 33 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2025 年 7 月 17 日 大阪

6. 大塚 隆弘、和田 英樹、設樂 準、遠藤 裕久、荻田 学、諏訪 哲 腹痛と尿潜血を呈したナットクラッカー症候群亜型に対して血管内治療を行った一例 第 33 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2025 年 7 月 17 日 大阪
7. 山田 瑛文、和田 英樹、朱 櫻華、稲葉 慎太郎、小野 里匠也、延島 優香ら 肺炎球菌性髄膜炎に化膿性椎体炎・感染性心内膜炎を合併した Austrian 症候群の 1 例 第 165 回日本循環器学会東海地方会 2025 年 6 月 7 日 名古屋
8. Shintaro Inaba, Hideki Wada, Manabu Ogita, Yuka Nobushima, Takuya Onozato, Tomohi Ajima, Keiki Abe, Shoichiro Yatsu, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Satoru Suwa, Tohru Minamino. Pre-myocardial infarction symptoms and short- and long-term cardiovascular mortality among acute myocardial infarction patients. 第 89 回日本循環器学会学術集会 2025 年 3 月 30 日 横浜
9. Takuya Onozato, Hideki Wada, Manabu Ogita, Takahiro Ohtsuka, Shintaro Inaba, Yuka Nobushima, Tomohi Ajima, Keiki Abe, Shoichiro Yatsu, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Satoru Suwa, Tohru Minamino. Sudden cardiac death due to ventricular arrhythmia among left ventricular ejection fraction $\leq 35\%$ after acute myocardial infarction. 第 89 回日本循環器学会学術集会 2025 年 3 月 30 日 横浜
10. Hideki Wada, Katsumi Miyauchi, Satoru Suwa, Sakiko Miyazaki, Hidemori Hayashi, Yuji Nishizaki, Yasuo Okumura, Tohru Minamino, Hiroyuki Daida. Alcohol habit and clinical outcomes in patients with atrial fibrillation: Insights from the SAKURA and RAFFINE registry. 第 89 回日本循環器学会学術集会 2025 年 3 月 29 日 横浜
11. 中田 聖華、谷津 翔一朗、金子 智洋、鈴木 咲妃、勝又 俊郎、阿部 圭希、真優 スレーシュワル、設樂 準、遠藤 裕久、和田 英樹、荻田 学、梶本 完、諏訪 哲. TAVI 弁留置後に感染性心内膜炎となり弁置換術を行った透析患者の一例. 2025 年 4 月 18-20 日 日本心エコー図学会第 36 回学術集会
12. 延島 優香、谷津 翔一朗、今西 雄貴、朱 櫻華、山田 瑛文、稲葉 慎太郎、小野 里匠也、安島 鵬飛、設樂 準、遠藤 裕久、和田 英樹、塩澤 知之、諏訪 哲、荻田 学. 急性心不全を発症した高度肥満による重度睡眠時無呼吸症候群を合併する肥満低換気症候群の一例. 2025 年 6 月 28-29 日 第 49 回日本睡眠学会学術集会
13. Shiozawa T, Sekita G, Imanishi Y, Shu S, Onozato T, Takano S, Sasaki A, Ogita M, Minamino T. Early experience of AVEIR DR and the challenge for battery longevity: Optimizing AV Delay to Improve i2i Communication. 第 71 回日本不整脈心電学会学術大会. 2025/11/12-15 横浜.
14. 久保田 京子、塩澤 知之、関田 学、稲葉 英也、磯部 裕紀、設樂 美奈子、尾藤 史康、今西 雄貴、小野 里匠也、高野 信太郎、荻田 学、南野 徹. 副伝導路の同定に CARTO の CSI module が有用であった 1 例. 第 71 回日本不整脈心電学会学術大会. 2025/11/12-15 横浜.
15. Shu S, Shiozawa T, Imanishi Y, Onozato T, Takano S, Sekita G, Ogita M, Minamino T. Successful Retrieval and Reimplantation of AVEIR AR Leadless Pacemaker Following Catheter Malfunction in a 91-Year-Old Patient. 第 71 回日本不整脈心電学会学術大会. 2025/11/12-15 横浜.
16. 塩澤 知之、関田 学、原 晴彦、小野 里匠也、山田 瑛文、大塚 隆弘、稲葉 慎太郎、延島 優香、安島 鵬飛、阿部 圭希、谷津 翔一朗、設樂 準、遠藤 裕久、高野 信太郎、和田 英樹、諏訪 哲、荻田 学、南野 徹. Pulse

Select の有効通電を見極めるために Ensite の Interior Proximity Indicator を調整して焼灼を行う方法. カテーテルアブレーション関連大会 2025. 2025/05/29-05/31 那覇

17. 小野里匠也、塩澤知之、関田学、原晴彦、山田瑛文、大塚隆弘、稲葉慎太郎、延島優香、安島鵬飛、阿部圭希、谷津翔一郎、設楽準、遠藤裕久、高野信太郎、和田英樹、諏訪哲、荻田学、南野徹. Pulse Select よる心房細動アブレーションにおける心筋バイオマーカーの推移. カテーテルアブレーション関連大会 2025. 2025/05/29-05/31 那覇
18. 原晴彦、塩澤知之、関田学、小野里匠也、大塚隆弘、山田瑛文、稲葉慎太郎、延島優香、阿部圭希、安島鵬飛、谷津翔一郎、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、高野信太郎、小田切史徳、荻田学、戸叶隆司、諏訪哲、南野徹. 左房前壁領域への Pulse Select を用いた焼灼が有効であった心房頻拍の一例. カテーテルアブレーション関連大会 2025. 2025/05/29-05/31 那覇
19. 原晴彦、塩澤知之、大塚隆弘、稲葉慎太郎、小野里匠也、延島優香、阿部圭希、安島鵬飛、谷津翔一郎、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、高野信太郎、関田学、荻田学、諏訪哲、南野徹. 心室細動に対して S-ICD とリードレスペースメーカーの併用を要した心外膜単極誘導ペースメーカー植込み後の 1 例. 第 17 回植込みデバイス関連冬季大会 2025/2/21-2/22 福岡
20. 久保田京子、塩澤知之、渡邊大貴、稲葉英也、磯部裕紀、久保田真司、設楽美奈子、尾藤史康、小野里匠也、高野信太郎、関田学、荻田学、南野徹. AVEIR の刺激閾値上昇を許容できるテザー時の条件に関する検討. 第 17 回植込みデバイス関連冬季大会 2025/2/21-2/22 福岡
21. 塩澤知之、関田学、渡邊大貴、稲葉英也、磯部裕紀、久保田真司、久保田京子、尾藤史康、原晴彦、小野里匠也、高野信太郎、荻田学、南野徹. リードレスペースメーカー AVEIR 留置に適さない解剖学的特徴の検討～AVEIR の右室挿入に難渋し Micra を留置した 2 例の経験から～. 第 17 回植込みデバイス関連冬季大会 2025/2/21-2/22 福岡

【招待講演・学会講演】

1. 谷津翔一郎. 2025 年 3 月 28 日 第 28 回日本心不全学会. ホルター心電計の Up to date! 睡眠呼吸障害をスクリーニング. ホルター心電計で計測した CVHR (周期性心拍変動) で行う SAS スクリーニングから SAS 検査、CPAP 治療までの一連のパスにおける Tips

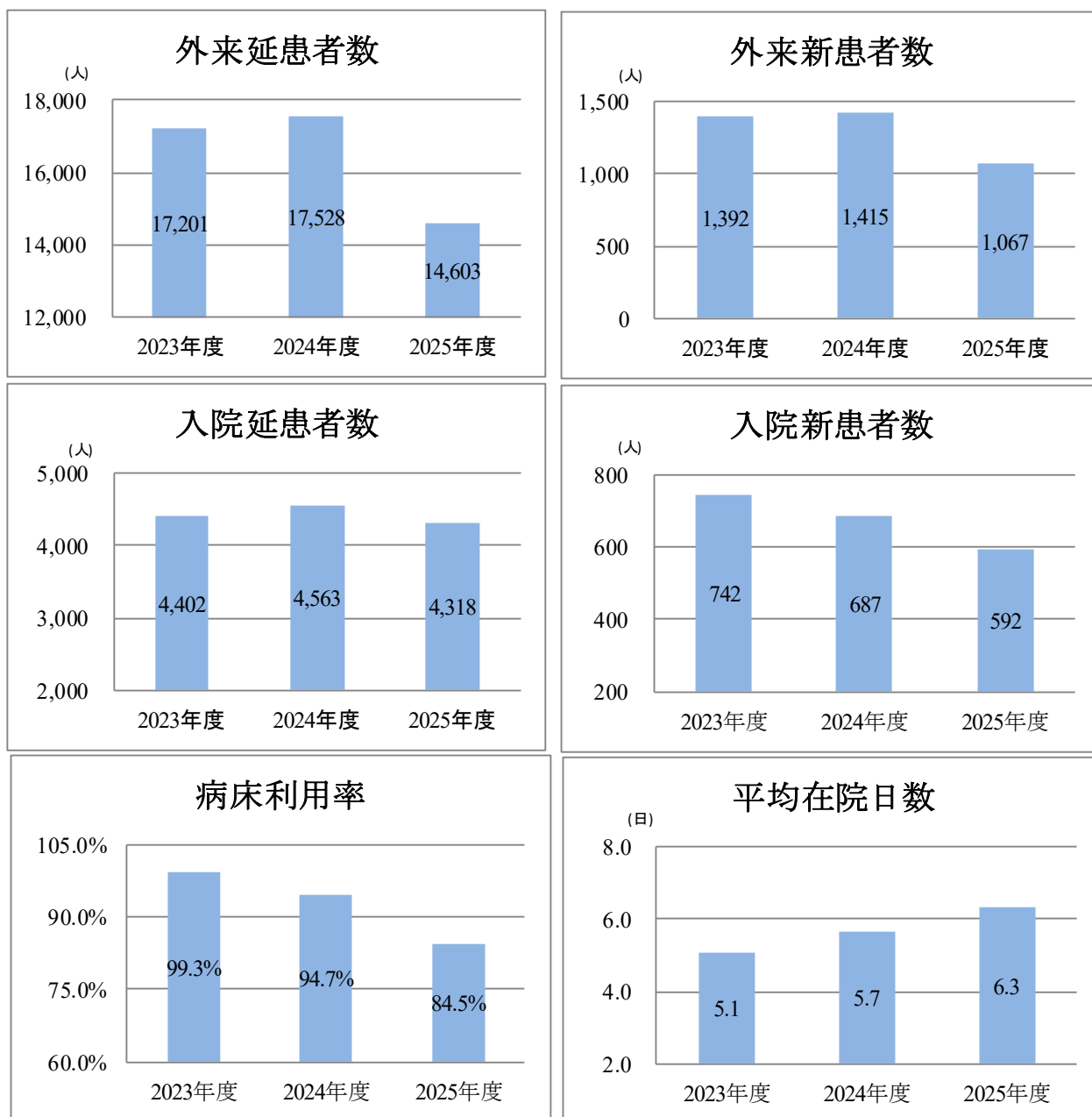
【研究費 (受託・共同研究)】

1. 公立大学法人 奈良県立医科大学 Registry of contemporary medical management of chronic heart failure with non-reduced ejection fraction in Japan 【The PARACLETE study】
2. エイツーヘルスケア(株) 慢性腎疾患・心不全患者における高カリウム血症の長期管理に対する疾患負担と治療の負担を評価するための前向きコホート研究 【HK registry main study】
3. 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたペマフィブラートの冠動脈プラークの退縮に及ぼす影響を検討する無作為化非盲検群間比較試験 【PEMA-CORE】
4. 一般財団法人 生産開発科学研究所 エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板療法を P2Y12 阻害薬単剤とすることの安全性を評価する研究 【STOPDAPT-3】
5. 学校法人東海大学 Single Catheter Primary PCI 法による ST 上昇型急性心筋梗塞に対する虚血時間短縮の研究 【SPEEDY PCI study】

6. 一般財団法人 生産開発科学研究所 うっ血性心不全（心性浮腫）患者における五苓散追加投与の浮腫に対する有効性を検証する研究【GOREISAN-HF Trial】
7. 一般財団法人 生産開発科学研究所 エベロリムス溶出性プラチナクロムステント留置後の抗血小板療法を P2Y12 阻害薬単剤とすることの安全性と有効性を評価する研究 [Prasugrel Monotherapy following Primary Percutaneous coronary intervention for ST-elevation Myocardial infarction (PREMIUM Trial)]
8. 佐賀大学医学部附属病院 2 型糖尿病を合併する慢性腎臓病におけるフィネレノンの血管スティフネスと心腎バイオマーカーに対する効果【FIVE-STAR】
9. 公立大学法人 奈良県立医科大学 Registry of contemporary medical management of chronic heart failure with non-reduced ejection fraction in Japan【The PARACLETE study】
10. シミックソリューションズ(株) CASTLE 試験の長期的な臨床結果を収集・評価するための観察研究
11. 昭和大学 臨床薬理研究所 光干渉断層撮影ガイド下での冠動脈インターベンションにより治療された ST 上昇型急性心筋梗塞の臨床転帰 ST-elevation Acute myocardial Infarction and Clinical Outcomes treated by Optical Coherence Tomography-guided percutaneous coronary intervention【ATLAS-OCT Study】
12. メディトリックス(株) ALLIANCE Registry【DCB Real World Registry】
13. BIOQUEST SOLUTIONS PTE LTD Prognostic impact of lesion-specific hemodynamic index and disease characteristics in patients with coronary artery disease assessed by fractional flow reserve【PRIME-FFR】
14. 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 高中性脂肪血症を合併した冠動脈疾患を対象としたペマフィブラートの冠動脈プラークの退縮に及ぼす影響を検討する無作為化非盲検群間比較試験【PEMA-CORE】
15. 学校法人東海大学 Single Catheter Primary PCI 法による ST 上昇型急性心筋梗塞に対する虚血時間短縮の研究【SPEEDY PCI study】
16. 一般財団法人 生産開発科学研究所 うっ血性心不全（心性浮腫）患者における五苓散追加
17. 投与の浮腫に対する有効性を検証する研究【GOREISAN-HF Trial】
18. 一般財団法人 生産開発科学研究所 エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板療法を P2Y12 阻害薬単剤とすることの安全性を評価する研究【STOPDAPT-3】
19. メディトリックス(株) カッティングバルーンと薬剤コーティングバルーンを用いたノンステント PCI に関する多施設前向き無作為化試験【NATURE】
20. 日本ベーリンガーインゲルハイム(株) ジャディアンス錠（慢性心不全患者を対象とした長期使用に関する調査）
21. アボットメディカルジャパン(同) アヴェイル LP 使用成績調査
22. バイエル薬品工業(株) ベリキューボ錠使用成績比較調査（心不全）
23. IQIVA サービスーズジャパン(同) 急性冠症候群（ACS）発症後の経口第 XIa 因子阻害剤投与による有効性・安全性を検証する為の第 3 相、プラセボ対象の二重盲検試験
24. ノボ ノルディスク ファーマ(株) ARTEMIS—急性心筋梗塞患者を対象とした、心血管アウトカムに対するプラセボと比較した ziltivekimab の効果

2-8 小児科

診療実績



研究・教育活動

【英文原著】

1. Hiraoka Y, Baba Y, Inaba M, Takaoka Y, Toriumi S, Inage E, Kudo T, Ohtsuka Y, Shoji H. Prolonged Multi-food Food Protein-Induced Enterocolitis Syndrome (FPIES) With Yolk Specificity and Reproducible Cytokine Responses During Serial Oral Food Challenges. Cureus, 2025;17(12):e100524.

【和文総説】

1. 鳥海俊, 稲毛英介. 遺伝性血管性浮腫の概説と最近の話題. アレルギーリウマチ性疾患, 2025;45(2):27-30.

【学会発表 (国内)】

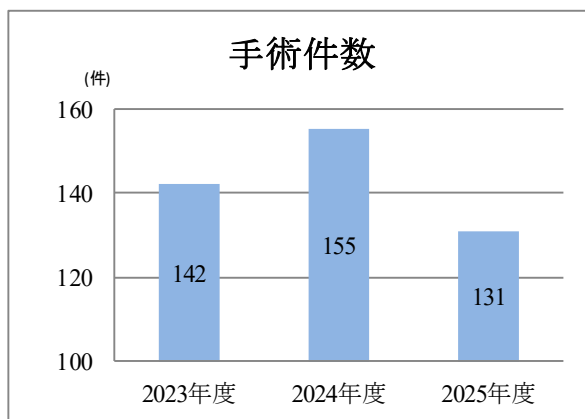
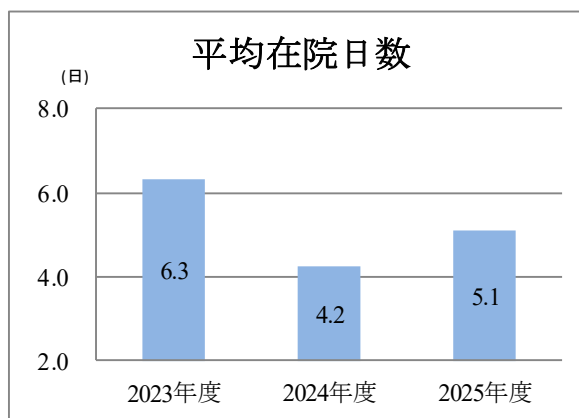
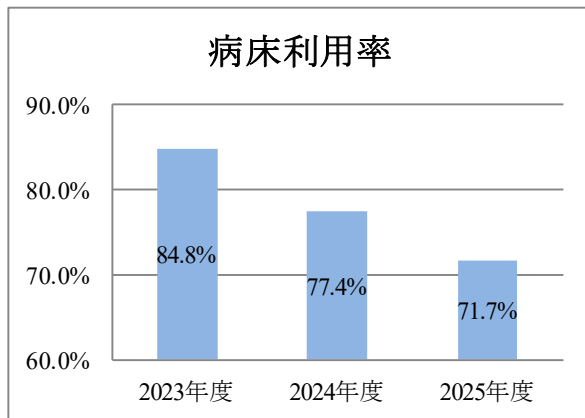
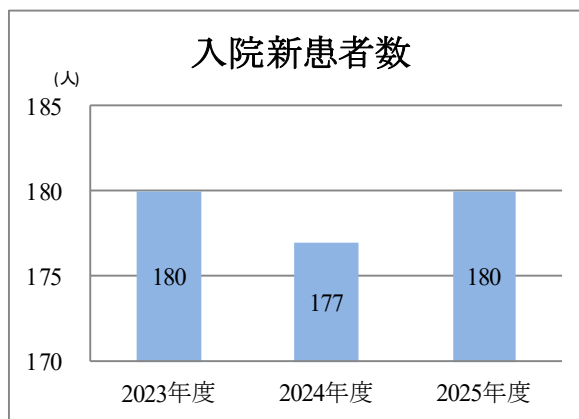
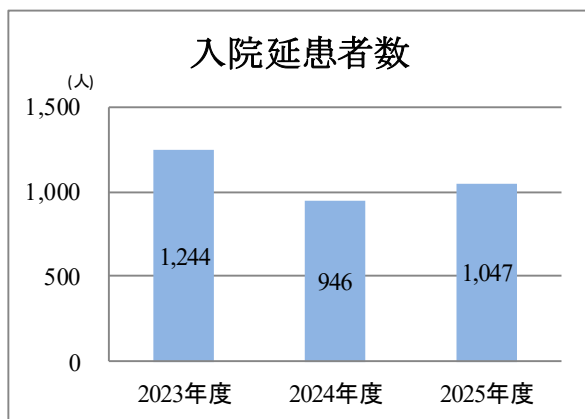
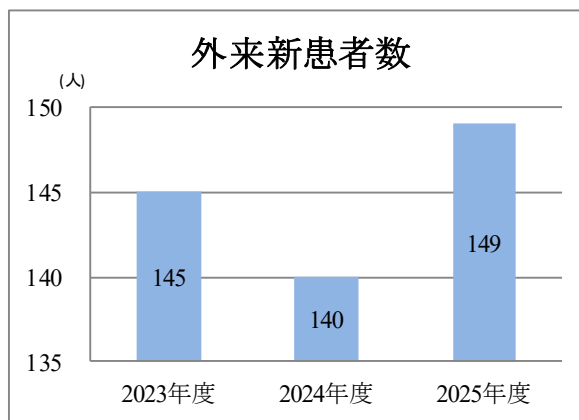
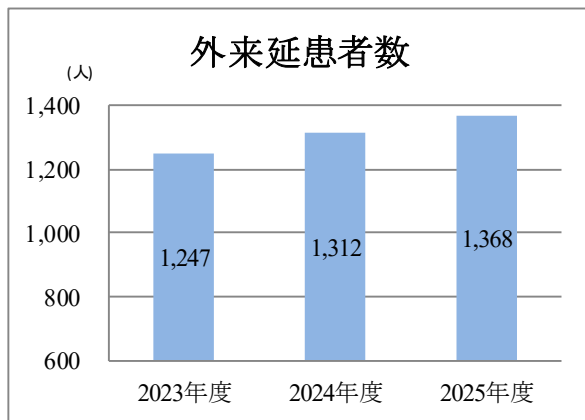
1. 稲葉真理子, 馬場洋介, 河西紗希, 濱原彩加, 蜂須康亮, 田中智秀, 鳥海俊, 宮平憲, 佐藤洋明. 小児アナフィラキシーに対するアドレナリン自己注射薬の処方と管理 ―県データと当院実態からの検討―. 第 161 回日本小児科学会静岡地方会, 静岡, 2025/11/30.
2. 田中寛顕, 遠山雄大, 河西紗希, 蜂須康亮, 田中智秀, 稲葉真理子, 中村果歩, 鳥海俊, 宮平憲, 馬場洋介, 東海林宏道. 再発を繰り返した小児 *Clostridioides difficile* 感染症に対し、バンコマイシンパルス療法が奏功した 1 例. 第 57 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 千葉, 2025/11/9.
3. 二宮遼太郎, 相原久人, 稲葉真理子, 田中寛顕, 平松直子, 富田紗也佳, 石上順平, 大石賢司, 馬場洋介, 中野哲志. 髄液細胞数増多をみとめなかった遅発型 B 群溶血性連鎖球菌性髄膜炎の 1 例. 第 128 回日本小児科学会学術集会, 名古屋, 2025/4/19.
4. 竹原英駿, 松田慎平, 蜂須康亮, 田中智秀, 杉山茉莉香, 中村果歩, 鳥海俊, 宮平憲, 飯村康司, 馬場洋介. Sturge-Weber 症候群 乳児例におけるてんかん発症前の進行性画像変化―外科的治療への示唆. 第 160 回日本小児科学会静岡地方会, 静岡, 2025/6/8.

【講演会】

1. 馬場洋介, 大塚宜一. 食物アレルギーの発症と乳児アトピー性皮膚炎の管理. 静岡アトピー研究会, 静岡, 2025/2/23.
2. 馬場洋介, 大塚宜一. アレルギー発症の免疫メカニズム: バリア障害から始まる自然免疫と獲得免疫のつながり. 第 49 回日本小児皮膚科学会, 栃木, 2025/7/20.
3. 馬場洋介. 乳児期のスキンケアとアトピー性皮膚炎の治療. 鳥居薬品全国ウェブセミナー 小児アトピー性皮膚炎診療のアップデート, オンライン, 2025/8/22.
4. 馬場洋介. バリア障害と小児におけるデルゴシチニブ外用薬の役割小児におけるデルゴシチニブ外用薬の役割. 子供のアレルギーを考える会 in shizuoka, 浜松, 2025/9/4.
5. 馬場洋介. 学校生活管理指導表の問題と課題: 気管支喘息の観点から. 東海アレルギー疾患診療支援連絡会, 三重, 2025/12/14.

2-9 小児外科

診療実績



研究・教育活動

【英文症例報告】

1	Nakajima H, Tsukui T, Koga H, Lane GJ, Yamataka A	Robot-Assisted Retroperitoneoscopic Traction-Aligned Suture Repair of Failed Laparoscopic Pyeloplasty for Ureteropelvic Junction Obstruction	Asian J Endosc Surg, 2025;18(1): e70002
---	---	--	---

【学会発表（国際）】

1	Yosuke Tsunoda, Masafumi Tanaka, Shunsuke Yamada, Junnya Ishii, Yusuke Shigeta Yuichiro Miyake, Shiho Yoshida, Rumi Arii, Soichi Shibuya, Go Miyano	Postoperative Bowel Obstruction Following Laparoscopic Percutaneous Extraperitoneal Closure: A Rare Complication that Requires Recognition	International Pediatric Endosurgery Group (IPEG) 2025, Fukuoka, May 29, 2025
---	---	--	--

【学会発表（国内）】

1	角田洋介、田中正史、石井惇也、吉田志帆、三宅優一郎、有井瑠美、澁谷聡一、山高篤之、宮野剛	LPEC 術後に腹腔内バンドによる絞扼性イレウスを発症した9歳男児の1例	第62回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2025年6月5日
2	角田 洋介、田中 正史、石井 惇也、重田 裕介、三宅 優一郎、吉田 志帆、澁谷 聡一、宮野 剛	腎回転異常を伴うS状癒合腎に合併した先天性水腎症に対する腎盂形成術	第62回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2025年6月7日
3	小笠原 有紀、角田 洋介、鈴木 奈都子、若山 嘉佑子	幼児臆内異物の1例	第59回日本小児外科学会 関東甲信越地方会, 鎌倉, 2025年8月30日
4	角田洋介、恵畑優、中島秀明、瀬尾尚吾	外傷性多発消化管穿孔の小児例	静岡県外科医会 第252回集談会, 静岡, 2025年9月14日
5	角田洋介、恵畑優、中島秀明、瀬尾尚吾	外傷性多発消化管穿孔の一例	第58回日本小児外科学会東海北陸地方会, 愛知, 2025年11月30日

2-10 外科

はじめに

順天堂大学医学部附属静岡病院外科
教授 伊藤智彰

令和7年は、教授・科長就任から2年目を迎え、医局員一同が新たな体制のもと、より充実した診療・教育・研究活動に取り組む一年となりました。

本年度の外科医局は計18名体制となり、そのうち乳腺外科3名のうち2名が専攻医、さらに5名の消化器外科専攻医を擁するなど、若手医師の活気に満ちた医局へと成長しております。働き方改革への対応や地域医療を取り巻く厳しい状況は続いておりますが、多くの若手医師の力と医局員全体の協力により、日々の診療に真摯に取り組むことができいております。

また、本院肝胆膵外科、上部消化管外科、下部消化管外科、乳腺外科の諸先生方をはじめ、多くの関連病院の先生方のご支援を賜り、高度医療から地域医療まで幅広い外科診療を維持・発展させることができました。特に肝胆膵領域診療の充実に加え、ロボット支援下胃癌手術や大腸癌手術も安定して施行できる体制が整ってきております。

さらに、当院は伊豆半島を含む静岡県東部地域の急性期医療を担う中核病院として、救急診療への対応も重要な役割となっております。消化器癌診療のみならず、ヘルニアや胆石症といった一般外科手術にも積極的に取り組み、地域の患者さんに必要とされる外科医療を幅広く提供できるよう努めております。

今後も関連病院との連携をさらに強化し、病病連携・病診連携の深化を図るとともに、若手外科医の育成と地域外科医療の発展に寄与できるよう、医局員一同努力を重ねてまいります。

本年も引き続き、皆様の変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

消化器外科

1. スタッフ紹介



伊藤智彰 教授



佐藤浩一 特任教授



櫛田知志 先任准教授

教授	伊藤 智彰	(順天堂大、平成 12 年卒)
特任教授	佐藤 浩一	(順天堂大、昭和 56 年卒)
先任准教授	櫛田 知志	(順天堂大、平成 7 年卒)
准教授	櫻庭 駿介	(順天堂大、平成 24 年卒)
助教	宮下真美子	(順天堂大、平成 25 年卒)
助手	上田 脩平	(順天堂大、平成 25 年卒)
	加藤 永記	(順天堂大、平成 26 年卒)
	山本 陸	(順天堂大、平成 26 年卒)
	仁平 高朔	(順天堂大、平成 30 年卒)
	秋間龍之介	(順天堂大、令和 2 年卒)
	花川 翔太	(順天堂大、令和 4 年卒)
	石岡 直留	(順天堂大、令和 4 年卒)
	石塚ジュスタン正也	(順天堂大、令和 5 年卒)
	村山倫太郎	(順天堂大、令和 5 年卒)
	尾立 路輝	(順天堂大、令和 5 年卒)

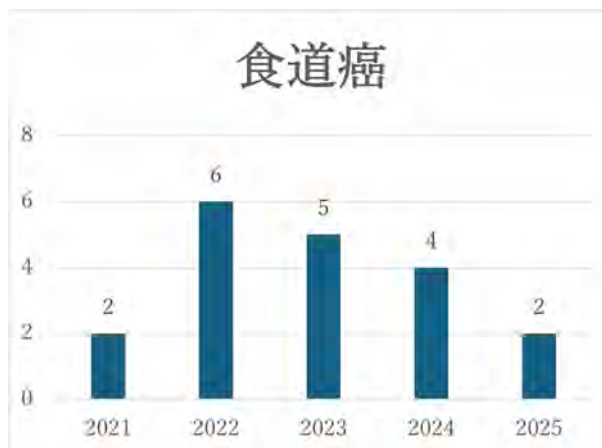
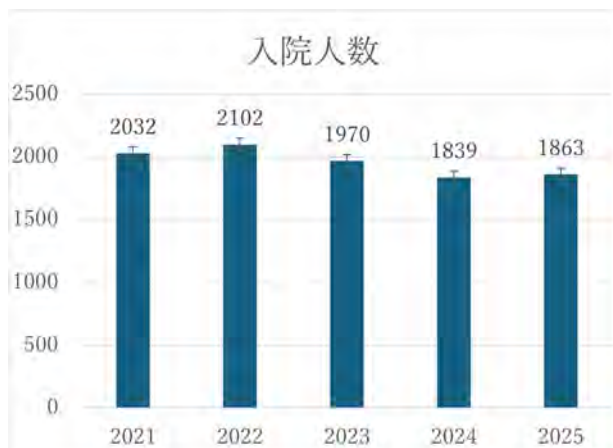
2. 臨床成績

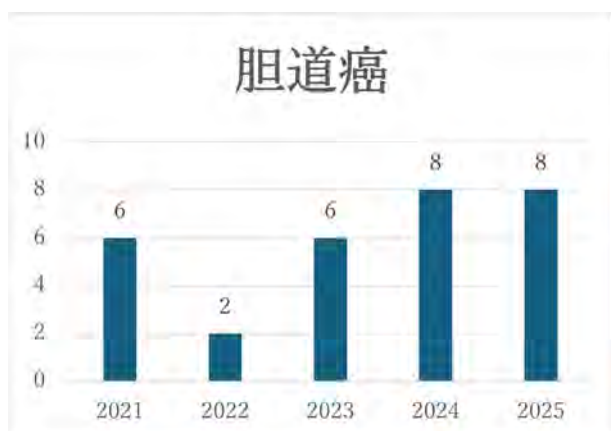
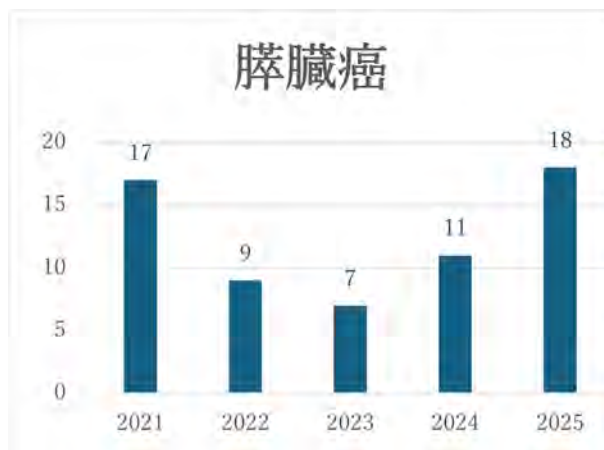
(1) 症例・手術件数

総手術数 754 例

食道癌	2 例（胸腔鏡 2 例）
胃癌	37 例（ロボット 11 例、腹腔鏡 16 例、開腹 10 例）
結腸癌	136 例（ロボット 8 例、腹腔鏡 62 例、開腹 66 例）
直腸癌	42 例（ロボット 27 例、腹腔鏡 3 例、開腹 12 例）
肝癌（転移性含む）	22 例（腹腔鏡 3 例、開腹 19 例）
膵癌	18 例（腹腔鏡 4 例、開腹 14 例）
胆道癌	8 例（腹腔鏡 2 例、開腹 6 例）
胆石症	93 例（腹腔鏡 80 例、開腹 13 例）
鼠径・大腿・閉鎖孔ヘルニア	72 例（腹腔鏡 24 例、鼠径法 48 例）
虫垂炎	42 例（腹腔鏡 41 例、開腹 1 例）

(2) グラフ





3. 研究業績

【英文原著】

1. Tomoaki Ito, Takumi Iwasawa, Shunsuke Sakuraba, and Kenichiro Tanaka : Plasma and Urine Circulating Tumor DNA Methylation Profiles for Non-Invasive Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Detection: Significant Findings in Plasma Only. Int. J. Mol. Sci. 2025, 26(11), 4972;
<https://doi.org/10.3390/ijms26114972>
2. Kenichiro Tanaka, Masami Arai, Shunsuke Sakuraba, Tomoyuki Kushida, Tomoaki Ito, Goro Kutomi: Surgical and radiation considerations in breast cancer with neurofibromatosis type 1: A case report and literature review Int.J.Surg.Case Rep. 2025;134:111698. doi:10.1016/j.ijscr.2025.111698
3. Takumu Yamada, Takumi Iwasawa, Ryoma Tsuchiya, Tomoaki Ito, Kazunori Kato: Ergothioneine Attenuates Oxaliplatin-Induced Peripheral Neuropathy Without Compromising Antitumor Efficacy. Int. J. Mol. Sci.2025, 26, 10263

4. Sakuraba Shunsuke, Nishiko M, Yamasaki S, et al. Comparison of Robot Assisted and laparoscopic Right Hemicolectomy for Right-sided Colon Cancer: A Report on the Short Term Perioperative Outcomes Using Propensity Score Matching. Asian J Endosc Surg. 2025 Jan-Dec;28(1):e70097.doi: 10.1111/ases.70097

【和文原著】

1. 小池周一、田中顕一郎、櫛田知志、伊藤智彰：炎症反応高値を契機に診断された G-CSF 生産胆嚢癌の 1 例、日臨外会誌 86 (6) . 799-804、2025
2. 小泉明博、花川翔太、村井勇太、仁平高朔、秋間龍之介、伊藤智彰：成人腸回転異常症に対し腹腔鏡下 Ladd 手術を施行した 1 例. 日鏡外会誌 30 : 349-355,2025
3. 草ヶ谷靖恵、安齊珠枝、伊藤智彰 内視鏡洗浄プロセスの評価と看護師の遵守状況に関する調査. 日本消化器内視鏡技師会会報 75:213-215 2025

【学会発表 (国内)】

1. 伊藤智彰：発表「当院での胃がん手術患者の術前低栄養と予後の解析-GLIM 基準を用いて-」第 40 回日本栄養治療学会学術集会、パシフィコ横浜,2,14,2025
2. 高山卓也 鈴木英子 間部幸 水口雅貴 風間耕介 伊藤智彰：発表「JSPEN 低栄養からみた管理栄養士の病棟配置の必要性ー透析患者の場合ー」第 40 回日本栄養治療学会, 学術集会、パシフィコ横浜,2,14,2025
3. 伊藤智彰：発表「CALLY index による胃癌手術の予後予測の有用性の検討」第 97 回日本胃癌学会,名古屋コンベンションホール, 3,13,2024
4. 宮下真美子：発表「膵非再建の膵頭十二指腸切除術の有用性と安全性の検討」第 84 回静岡県癌治療研究会 静岡 2025.3.15
5. 花川翔太：発表「脳幹脳炎に対して IVMP 後に腸管気腫症を発症し救命し得た一例」第 61 回日本腹部救急医学学会,3,20,2025
6. 櫻庭駿介：発表「閉鎖生左側大腸癌に対する大腸ステント留置後の手術成績と安全性の評価」第 125 回日本外科学会定期学術集会,4,10,2025
7. 草ヶ谷靖恵、安齊珠枝、伊藤智彰：発表「内視鏡洗浄プロセスの評価と看護師の遵守状況に関する調査」第 93 回日本消化器内視鏡技師学会,札幌コンベンションセンター,5,9,2025,
8. 村山倫太郎：発表「腹腔鏡下大腸癌手術後に 5mm ポートサイトヘルニア嵌頓を来した 1 例」第 26 回静岡内視鏡外科研究会,静岡グランシップ,6,7,2025
9. 星野剛史、木下史一、柳下昂太、山口香織、小林淳司、原田貴行、萩原雅人、菅尾高裕、伊藤智彰：「オピオイド鎮痛薬使用患者における外来診察の満足度調査～外来診察に対する薬剤師介入の検討～」第 18 回緩和医学薬学会年会, 幕張メッセ 6.21,2025
10. 伊藤智彰：発表「外科医に対する看護師特定行為による協力の有用性と課題」第 80 回日本消化器外科学会総会,神戸, 7.16,2025

11. 加藤永記：発表「保存的加療が奏功した門脈ガスを伴う気腫性胃炎 5 例の臨床的特徴に関する検討」第 80 回日本消化器外科学会総会,神戸 7.16,2025
12. 仁平高朔：発表「当院での幽門狭窄に対する治療検討（胃空腸バイパス手術、内視鏡ステント挿入術）」第 80 回日本消化器外科学会総会,神戸 7.17,2025
13. 尾立路輝：発表「頸部ドレナージ加療を行った胸部上部食道穿孔の一例」第 80 回日本消化器外科学会総会,神戸 7.17,2025
14. 岩澤卓弥、山内卓、伊藤智彰、加藤和則：発表：「Metabolites from Human Intestinal Bacteria as Adjuvants to improve Immune Checkpoint Therapy in Gastric Cancer」第 29 回日本がん免疫学会 2025.7.25 愛知
15. 仁平高朔：発表 TAPP ビデオカンファレンス, Web 発表 2025.7.25
16. 秋間龍之介：発表「胸腔鏡下にて食道憩室切除をおこなった一例」静岡県外科医会医会第 252 回集談会, プラザヴェルデ沼津,9,13,2025
17. 石塚ジュスタン正也：発表「術後早期に多発肺転移が疑われた膵頭部 IPMN の 1 例」,静岡県外科医会医会第 252 回集談会, プラザヴェルデ沼津,9,13,2025
18. 櫻庭駿介：発表「技術認定取得への挑戦—ロボット支援 S 状結腸切除の定型化—」第 80 回大腸肛門病学会, グランドニッコー東京, 11,14,2025
19. 山本陸：発表「他臓器合併切除を行った大腸癌の臨床病理学的検討」第 80 回大腸肛門病学会, グランドニッコー東京, 11,15,2025
20. 岩澤卓弥、山内卓、伊藤智彰、加藤和則 Intestinal bacterial metabolites enhance the efficacy of immune checkpoint inhibitor therapy for gastric cancer. 日本癌学会学術総会, 石川 9.27,2025
21. 小野祐一郎（研修医）：発表「S 状結腸間膜裂孔ヘルニアの 1 例」 第 87 回日本臨床外科学会 新宿,11.22,2025
22. 阿部寛（研修医）：発表「回腸子宮内膜症により腸重積を発症した 1 例」第 87 回日本臨床外科学会 新宿 11.22,2025
23. 櫻庭駿介：発表「ロボット支援手術での技術認定医取得の経験・腹腔鏡下手術での経験を踏まえて」第 38 回日本内視鏡外科学会総会, パシフィコ横浜, 12,11,2025
24. 石岡直留：発表「大腸癌術後の十二指腸水平脚狭窄による通過障害に対しステロイド療法が奏功した 1 例」 第 38 回日本内視鏡外科学会総会, パシフィコ横浜, 12,11,2025

【講演・座長】

1. 伊藤智彰：講演「当院における外科周術期管理」 第 232 回浜松外科医会 web 2025.1.21
2. 伊藤智彰：座長、慢性便秘症 WEB フォーラム、持田製薬株式会社, 1,22,2025
3. 上田脩平：講演「便秘異常症診断ガイドライン 2023 に基づく当院の慢性便秘症の治療について」慢性便秘症 WEB フォーラム、持田製薬株式会社, 1,22,2025
4. 伊藤智彰：講演「テルモ（株）web 社内講演会」テルモ株式会社,1,29,2025

5. 伊藤智彰：座長 食道がんオブジーボ WEB ライブセミナーin 静岡 みしまプラザホテル 2,25,2025
6. 伊藤智彰：講演 「順天堂での消化器外科医としての歩み」 高大連携 沼津東高校 2025.2.28
7. 伊藤智彰：閉会の辞 静岡県外科医会第 251 回集談会, アクトシティ浜松, 3,1,2025
8. 伊藤智彰：座長 第 84 回静岡県癌治療研究会 静岡 2025.3.15
9. 伊藤智彰：司会 第 125 回日本外科学会定期学術集会,4,10,2025
10. 宮下真美子：講演「肝・胆・膵外科治療について」, 田方医師会 2 階講堂,5,8,2025
11. 伊藤智彰：座長 オブジーボ胃癌ディスカッション WEB セミナー 小野薬品工業 ブリストル・マイアーズ スクイブ株式会社 三島 2025.6.5
12. 伊藤智彰：世話人会, 第 26 回静岡内視鏡外科研究会,静岡グランシップ,6,7,2025
13. 宮下真美子：座長,日本肝胆膵外科学会, 6,13,2025
14. 伊藤智彰：座長 Lilly CRC Interactive Conference , 三島書商工会議所 4 F,6,17,2025
15. 伊藤智彰：ディスカッサント 静岡 LG の会 静岡 2025.6.28
16. 伊藤智彰：座長 食道がんオブジーボ WEB ライブセミナーin 静岡, 小野薬品工業 三島営業所 6F,7,23,2025
17. 伊藤智彰：大会会長, 座長, 静岡県外科医会医会第 252 回集談会, プラサヴェルデ沼津,9,13,2025
18. 櫻庭駿介：討論者,静岡県外科医会医会第 252 回集談会, プラサヴェルデ沼津,9,13,2025
19. 伊藤智彰：座長, 静岡県外科栄養治療セミナー, 株式会社大塚製薬工場三島出張所,10,10,2025
20. 伊藤智彰：世話人, 「第 85 回静岡県癌治療研究会 世話人会」, 大鵬薬品工業株式会社,10,11,2025
21. 伊藤智彰：座長 「食道がんオブジーボ WEB ライブセミナーin 静岡, 小野薬品工業, 12,19,2025

【人事異動】

異動

藤崎 隆 助手

退職

小泉 明博 助手

乳腺外科

1. スタッフ紹介



田中 顕一郎 前任准教授

前任准教授	田中 顕一郎	(東京医科歯科大学、平成 6 年卒)
助手	遠山 栞莉	(順天堂大学、令和 4 年)
	河端 実	(順天堂大学、令和 5 年)
	新原 美樹	(順天堂大学、令和 5 年)

2. 臨床成績

(1) 症例・手術件数

総入院数	129 名
乳腺外科総手術数	96 件
※ 乳癌手術	86 件 (全摘手術 57 件・部分手術 27 件・腋窩郭清 2 件)
※ それ以外 (良性腫瘍等)	10 件

(2) グラフ



(過去 5 年間)

3. 研究業績

【英文原著】

1. Surgical and radiation considerations in breast cancer with neurofibromatosis type 1: A case report and literature review. Tanaka K, Arai M, Sakuraba S, Kushida T, Ito T, Kutomi G, Int. J. Surg. Case Rep. 134 (2025) 111698
<https://doi.org/10.1016/j.ijscr.2025.111698>

【学会発表（国内）】

1. 河端 実：発表「両葉状腫瘍術後経過中に発症した乳腺 Solitary fibrous tumor の1例」第33回日本乳癌学会総会,京王プラザホテル,7,11,2025
2. 河端 実：発表「自壊を伴う巨大良性乳腺腫瘍の1例」静岡県外科医会医会第252回集談会,プラザヴェルデ沼津,9,13,2025
3. 田中顕一郎：発表「BRCA 1/2 遺伝子変異陽性転移性乳癌に対するオラパリブ治療のリアルワールドデータ」第125回日本外科学会定期学術集会,仙台国際センター,4,10,2025
4. 田中顕一郎：発表「乳癌術後、在宅リハビリテーションの新たな試み」第33回日本乳癌学会総会,京王プラザホテル,7,11,2025
5. 田中顕一郎：発表「神経線維腫症 1 型 (NF1) を伴う乳がん症例:症例報告と文献レビュー」第87回日本臨床外科学会, 京王プラザホテル,11,21,2025
6. 遠山茉莉：発表「20cm を超える巨大葉状腫瘍が疑われた1例」第22回日本乳癌学会中部地方会,名古屋コンベンションホール,9,21,2025

【講演・座長】

1. 田中顕一郎：司会 静岡県東部エリア乳癌治療カンファレンス 2025,ファイザー株式会社, 富士山三島東急ホテル, 5,9,2025
2. 田中顕一郎：講演「薬剤性肺障害の画像診断：「エンハーツを中心に胸部単純写真から CT まで」Breast Cancer Academy1st, 第一三共株式会社, プラザヴェルデ沼津 407,8,22,2025
3. 田中顕一郎：座長 Study session to careers as Surgeons, zoom ウェビナー配信, 第一三共株式会社,11,14,2025

【人事異動】

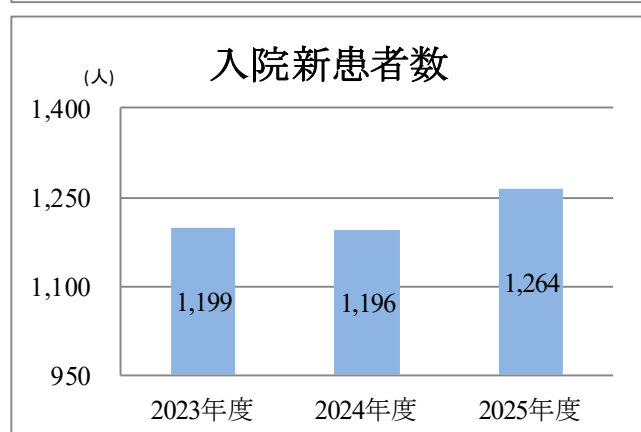
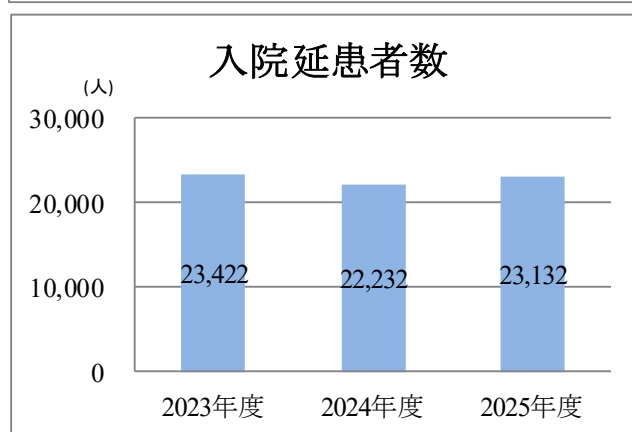
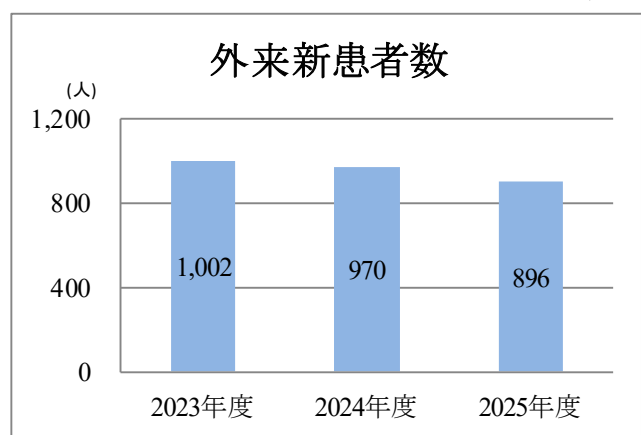
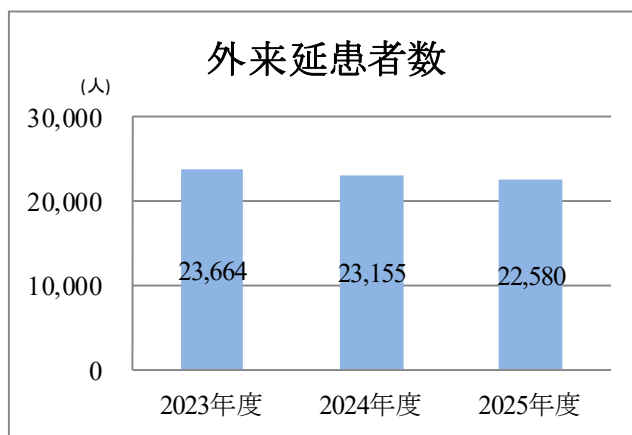
遠山 茉莉	助手	順天堂大学医学部附属順天堂医院
河端 実	助手	順天堂大学医学部附属順天堂病院
新原 美樹	助手	順天堂大学医学部附属練馬病院

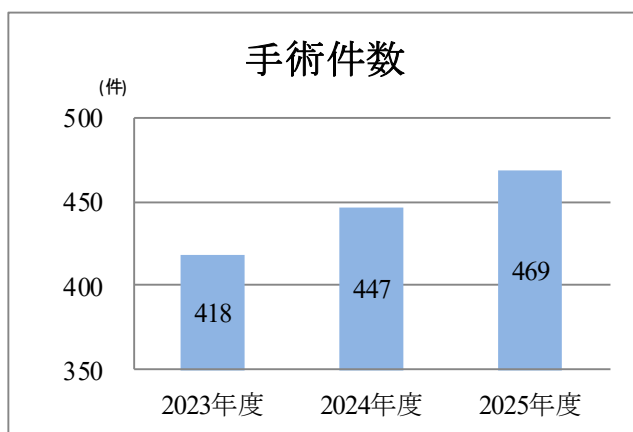
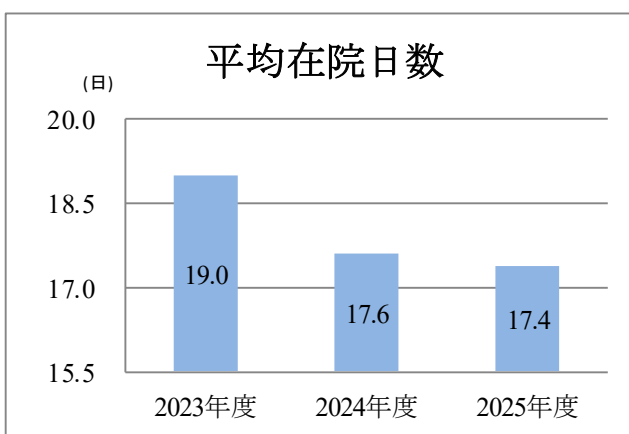
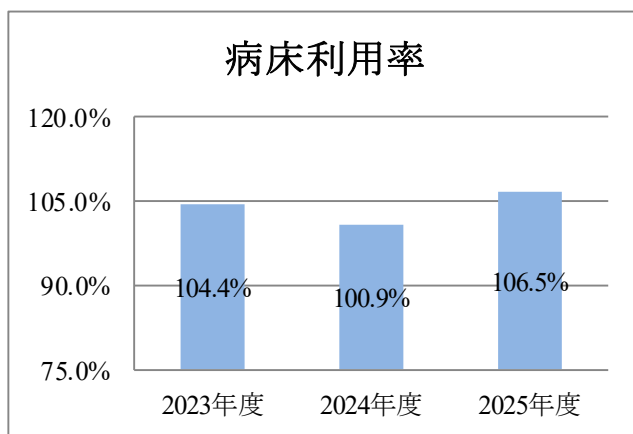
2-11 脳神経外科

診療実績

病床数	60 床
外来新患数	909 人
年間入院数	1,259 人
手術総数	698 件
腫瘍（脳、脊髄、眼窩）	55
動脈瘤（開頭術/血管内治療）	67
AVM	8
血行再建術（CEA/CAS/バイパス術）	41
外傷	159
感染症	3
脊髄・脊椎疾患	9
機能外科	8
血栓溶解/血栓回収術	102
緊急手術数	464（66.5%）
集光照射	24

（グラフ：年度（4月～翌3月）集計）





研究・教育活動

【英文原著】

1. Mori K, Numazawa S, Watanabe S, Nakao Y, Yamamoto T, Takeuchi S, Toyooka T, Wada K : Clipping of Unruptured Intracranial Aneurysm via Various Keyhole Mini-craniotomy Procedures: Substantial Curability and Psychological Comfort in 350 Cases over 20 Years. Neurol Med Chir(Tokyo), 65 : 590-598, 2025

【和文症例報告】

1. 赤崎安俊, 鬼木蘭丸, 中嶋伸太郎, 藤田修英, 足立知司, 春日千夏, 中尾保秋, 山本拓史: 対側味覚障害を呈した左視床出血の一例. 脳卒中, 47:184-188, 2025

【その他】

1. 山本拓史監修: 脳卒中急性期における栄養療法. 大塚製薬工場
2. 山本拓史: 医師の立場から. JSA News, 日本脳卒中協会 会報, 第 84 号 2-3, 2026
3. 山本拓史: 「もし家族が脳卒中になったら」～脳卒中治療の最前線～. 令和 7 年度 県民健康講演会 脳卒中から身を守る術, 静岡県, Nov. 2, 2025

【学会発表（国際）】

1. 牧野健作：Improvement of Severe Claw Toe Deformity Following Lumbar Spinal Canal Decompression:A Case Report. ASIA SPINE&NSC2025, Korea, Sep. 4-6, 2025
2. 藤田修英：Clinical diagnosis of primary diffuse leptomeningeal gliomatosis:two case reports and review of the literature. 2025 WFNOS and SNO Annual Meeting, Hawaii, Nov. 19-23, 2025
3. 中嶋伸太郎：Shintaro Nakajima, A case of Successful Two-Stage Treatment with Coil Embolization and Flow Diverter Stenting for a Ruptured Anterior Wall Aneurysm of the Internal Carotid Artery, EACoN in conjunction with KCNI 2025, Coex Magok, Seoul, Korea, Dec. 12, 2025

【学会発表（国内）】

1. 郡司隆教：Intraparenchymal Epidermoid Cyst の一例. 第 107 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会, 岐阜, Apl. 5, 2025
2. 郡司隆教：後頭蓋窩くも膜嚢胞に伴う先天性水頭症に対する内視鏡手術. 第 108 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会, 愛知, Sep. 20, 2025
3. 郡司隆教：Intraparenchymal Epidermoid Cyst の 1 例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 84 回学術総会, 神奈川, Oct. 29, 2025
4. 藤田修英：primary Diffuse Leptomeningeal Gliomatosis の診断と治療の実際. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 84 回学術総会, 神奈川, Oct. 31, 2025
5. 牧野健作：第 XIII 因子欠乏症により術後硬膜外血腫が複数回発生した一例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 84 回学術総会, 神奈川, Oct. 31, 2025
6. 上部一樹：V P シヤント術後にカテーテル迷入を繰り返した一乳児例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 84 回学術総会, 神奈川, Oct. 29, 2025
7. 大野 響：未熟児脳室内出血後髄膜炎に対して内視鏡手術を施行した一例. 第 32 回日本神経内視鏡学会, Nov. 13, 2025
8. 中嶋伸太郎：静脈性血管奇形に脳動静脈奇形を合併した 1 例, 第 41 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2025), 大阪国際会議場, Nov. 14, 2025
9. 牧野健作：後頸部刺創による椎骨動脈損傷に対し血管内治療で救命した 1 例. 第 49 回日本脳神経外傷学会, 愛知, Feb. 20, 2026
10. 牧野健作：刺創による椎骨動脈損傷に対し血管内治療で救命した 1 例. 第 31 回日本脳神経外科救急学会, 広島, Feb. 27, 2026
11. 黒田清隆：脳内出血で発症した卵巣顆粒膜細胞腫脳転移の一例. STROKE2026, 大阪, Mar 13, 2026
12. 山本拓史：脳出血に対する内視鏡下血腫除去術の現状と課題. STROKE2026, 大阪, Mar 14, 2026

【講演会】

1. 山本拓史：脳卒中の危険因子：昔も今も高血圧～静岡県の脳卒中の現状もふまえて～. STOP Stroke ～Shizuoka×Saitama～, 埼玉, Aug. 25, 2025
2. 山本拓史：脳卒中急性期の全身管理～栄養療法と Seizure マネージメント～. 脳卒中とてんかんショートセミナー, Web, Jan. 27, 2026
3. 中尾保秋：抗血栓療法を安全に行うために. 脳卒中連携 Web セミナー, Web, Feb. 10, 2026
4. 中嶋伸太郎：2025 年度における当院脳神経血管内治療. 脳卒中連携 Web セミナー, Web, Feb. 10,

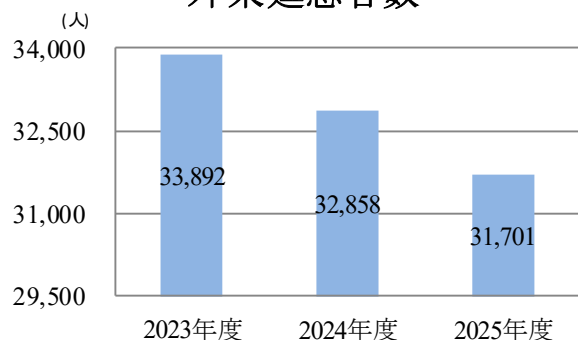
2026

5. 中嶋伸太郎：自施設における Pipeline Flex Shield 症例, Medtronic WEB Seminar 「This is RIST in CYUBU」,TKP ガーデンシティ Premium 名古屋ルーセントタワーI 会議室, Feb. 20, 2025
6. 中嶋伸太郎：自施設における ONYX 症例, Plug Challenge II in Shizuoka, 静岡市葵区御幸町 11-8 レイアップ御幸町ビル 6F6-B, Jun. 27, 2025
7. 中嶋伸太郎：未破裂中大脳動脈瘤に対して Y ステントテクニックを用いて瘤内コイル塞栓術を施行した 1 例, BASICS 中部, 名古屋フィールドサポートセンター, Sep. 5, 2025

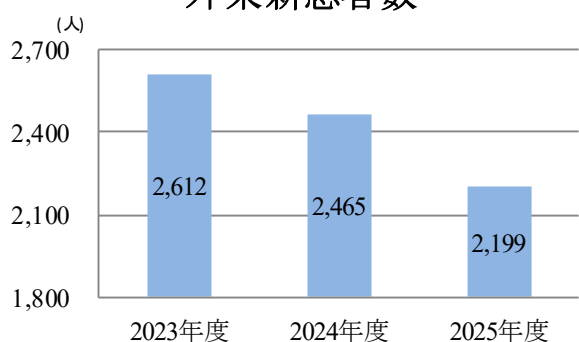
2-12 整形外科

診療実績

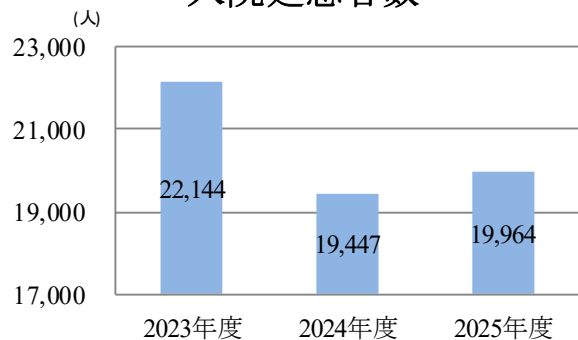
外来延患者数



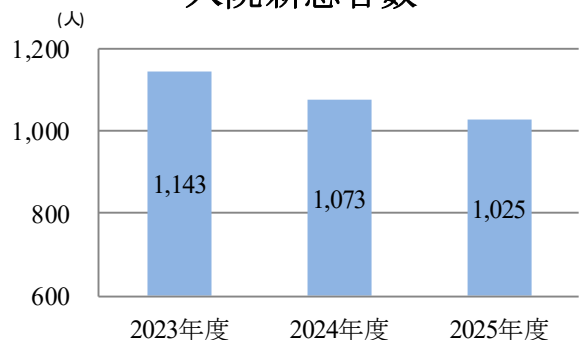
外来新患者数



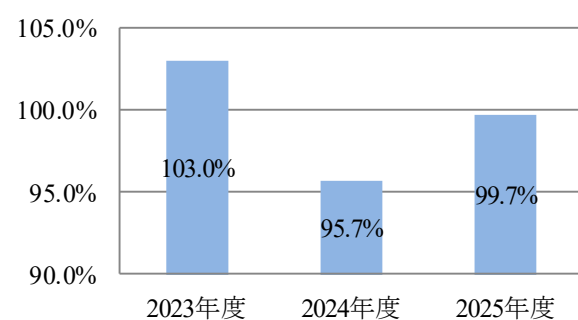
入院延患者数



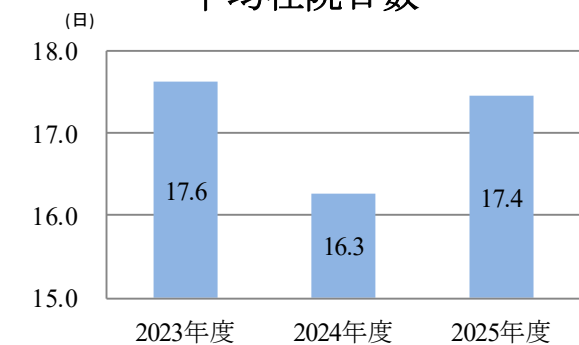
入院新患者数



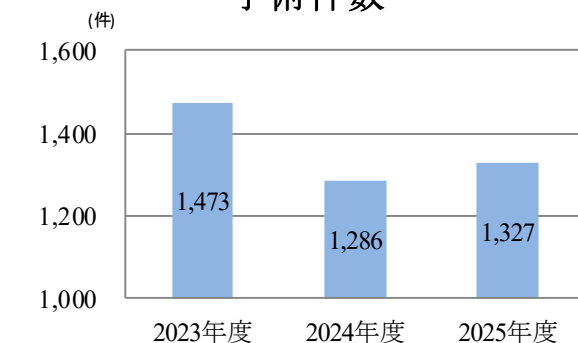
病床利用率



平均在院日数



手術件数



研究・教育活動

【和文原著】

1. 守屋秀一, 最上敦彦, 渋谷研太, 富澤杏奈, 糸魚川善昭, 烏口突起と上腕骨後捻角の形態は肩甲下筋腱断裂と関連があるか? 肩関節, 2025;49(1):89-92

【和文総説】

1. 布谷茉莉香, 最上敦彦, 分島智子, 【創外固定を上手に使いこなす】ヒンジ付き創外固定を使用した肘関節外傷治療(解説), 臨床整形外科, 2025;60(4):341-346

【和文著書】

1. 守屋秀一, 【肩甲骨骨折・肋骨骨折の手術"知"の継承とアップデート】肩甲骨関節窩前縁骨折(Ideberg Ia)に対する関節鏡視下および直視下骨片固定術の実際(解説), 整形外科 Surgical Technique, 2025;15(5):595-603
2. 守屋秀一, 15 転んでから肩をつき痛くて動かせない, 症状から一発診断! 上肢の専門医はこう見立てる, 総合医学社, 2025, 65-67
3. 守屋秀一, 16 上腕を強くぶつけて上腕中央が腫れて痛む, 症状から一発診断! 上肢の専門医はこう見立てる, 総合医学社, 2025, 68-70
4. 神田章男, 大腿骨近位部骨折のリハビリテーション診療, 第3章 特殊な大腿骨近位部骨折の手術とリハビリテーション治療, 合併症, インプラント周囲骨折の手術とリハビリテーション治療, 合併症, Clinical Rehabilitation(臨床リハ) 臨時増刊, 34, 7

【学会発表 (国内)】

1. 神田章男, 井上弘章, 最上敦彦, 大林治, 石島旨章, 応力遮蔽から検討した Curved Short Stem optimys のステム周囲骨折, 第55回日本人工関節学会, 名古屋, 2025年2月21-22日
2. 古城智也, 糸井陽, 石井悠也, 三浦健太郎, 大林治, 初療非骨傷性頸髄損傷と診断された Distractive Flexion Stage1(DFS1) 損傷の2例, 第51回静岡整形外科脊椎研究会, 静岡, 2025年3月22日
3. 井上弘章, 神田章男, 最上敦彦, 大林治, ペルテス様変形に関する人工関節全置換術の治療経験, 第206回静岡県整形外科医会集談会, 静岡, 2025年3月15日
4. 井上弘章, 神田章男, 治療に長期治療を要し、難渋した股関節脱臼骨折, 第20回お茶の水 HIPJOINT カンファレンス,, 東京, 2025年4月18日
5. 神田章男, 井上弘章, 最上敦彦, 大林治, 石島旨章, 仰臥位前方進入人工股関節全置換術において非吸収性人工靱帯による関節包靱帯縫合の jumping distance への効果, 第98回日本整形外科学会学術総会, 東京, 2025年5月22-25日
6. 守屋秀一, 渋谷研太, 最上敦彦, 大林治, 骨折 RSA における上方アプローチの小経験, 第51回日本整形外傷学会学術集会, 神奈川, 2025年6月27日
7. 分島智子, 大腿骨転子部骨折における不安定型の定義と評価, 第51回日本整形外傷学会, 横浜, 2025年6月28日

8. 布谷茉莉香,守屋秀一,最上敦彦, 非定型骨折術後テラパチト®使用歴のあるインプラント周囲骨折に対してロソバマ®使用で骨癒合を得た 1 例, 第 51 回日本整形外傷学会学術集会, 神奈川, 2025 年 6 月 28 日
9. 堀田理駆,分島智子,守屋秀一, 高エネルギー外傷による橈骨遠位端骨折に合併した同側肘関節脱臼ー 2 例報告ー, 第 51 回日本整形外傷学会学術集会, 神奈川, 2025 年 6 月 27 日
10. 青木浩平, 原章,希な舟状骨骨折転位形態をとった径舟状骨月状骨周囲脱臼骨折の 1 例, 第 51 回日本整形外傷学会学術集会, 神奈川, 2025 年 6 月 27 日
11. 三浦健太郎,分島智子, 神田章男,大林治,最上敦彦,大腿骨転子骨折に対する HnssonDC Nail による知郎経験, 第 51 回日本整形外傷学会学術集会, 神奈川, 2025 年 6 月 27 日
12. 春山高毅, 神田章男, 大林治, 最上敦彦, 井上弘章, カーブドショートステム Optimys を用いた大腿骨内反骨切り術後人工股関節全置換術, 第 207 回静岡県整形外医会集談会, 静岡, 2025 年 7 月 19 日
13. 高庭透, 最上敦彦,高度膝関節開放性脱臼骨折に対しダメージコントロールサージェリーを施行した 1 例, Total Care Seminar of Trauma, WEB, 2025 年 8 月 22 日
14. 石井悠也, Verse Fenestrated Screw アライメントガイドを用いた不安定性型腰仙椎骨折の整復及び 4 本ロッド固定の 1 例, 第 32 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会, 愛知, 2025 年 9 月 20 日
15. 古城智也, 胸椎乾癬性脊椎炎による神経症状に対し、後方固定術が奏功した 1 例, 第 32 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会, 愛知, 2025 年 9 月 20 日
16. 東浦佑哉, 糸井陽, 志村有永, 古城智也, 田村憲靖, 最上敦彦, 非定型 Hangman 骨折に対する C1-C3 後方固定術およびロッドリダクションテクニックを用いた整復固定の 1 例, 第 52 回静岡脊椎脊髄病研究会, 静岡, 2025 年 9 月 27 日
17. 東浦佑哉, 糸井陽, 志村有永, 古城智也, 田村憲靖, 最上敦彦, 非定型 Hangman 骨折に対する C1-C3 後方固定術およびロッドリダクションテクニックを用いた整復固定の 1 例, 第 52 回静岡脊椎脊髄病研究会, 静岡, 2025 年 9 月 27 日
18. 守屋秀一, 富澤杏奈, 渋谷研太, 最上敦彦, 日本人の肩に ARROW はささるか?, 第 52 回日本肩関節学術集会, 福岡, 2025 年 10 月 8 日
19. 渋谷研太, 富澤杏奈, 守屋秀一, 最上敦彦, 大林治, 肩甲下筋断裂の重症度と上腕骨後捻角および鳥口突起形態との関連, 第 52 回日本肩関節学術集会, 福岡, 2025 年 10 月 8 日
20. 神田章男,井上弘章,大林治,最上敦彦,石島旨章,Curved short stem optimys に生じたステム周囲骨折の検討と対策, 第 52 回日本股関節学会学術集会, 山口, 2025 年 10 月 24 日
21. 志村有永,野尻英俊,奥田貴俊,高野弘充,玉川翔太,寺本樹里,石橋仁志,菅原佑太,中井一輝,石島旨章 EOSimaging とアクリル板を用いた特殊撮影で側弯症患者における ThumbOssification Index(TOCD)の信頼性を向上させる, Spine Week Japan2025, 千葉, 2025 年 10 月 30 日
22. 志村有永,野尻英俊,森平泰,高田知史,山田勝崇,内野洋介,友利正樹,村上悠介,片柳順也,明田浩司,永井琢也,中村英一郎,大谷和之,二階琢哉,石島旨章,種市洋 Lenke type1 患者では胸椎後弯の獲得により術後肩バランス不良のリスクが減少する～内側と外側肩バランスでの検討～, Spine Week Japan2025, 千葉, 2025 年 10 月 30 日
23. 石井悠也, 古城智也,糸井陽,“硬膜内”セメント漏出をきたした Cement-augmented Pedicle Screw Fixation:A Case Report, Spine Week Japan2025, 千葉, 2025 年 10 月 31 日

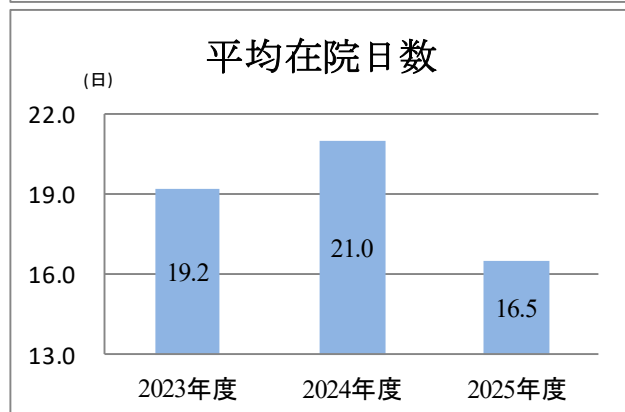
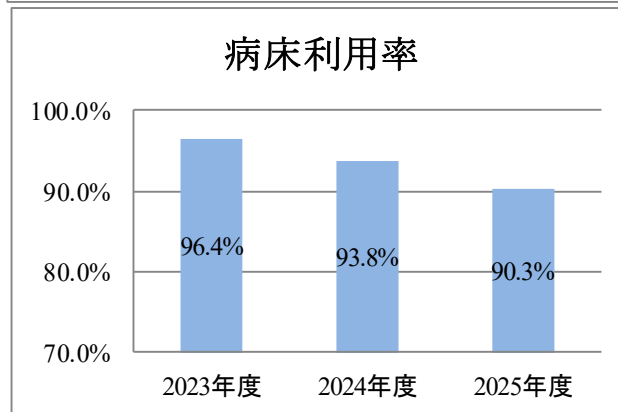
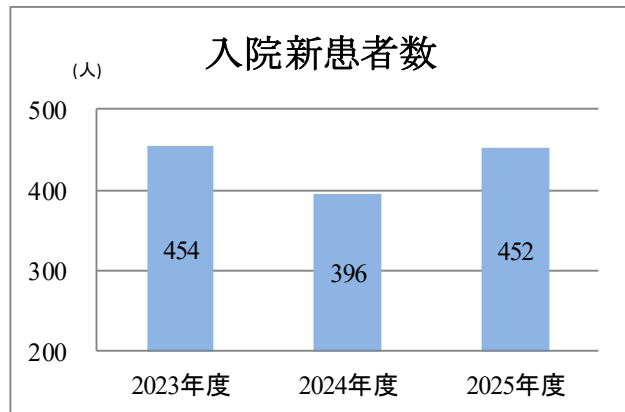
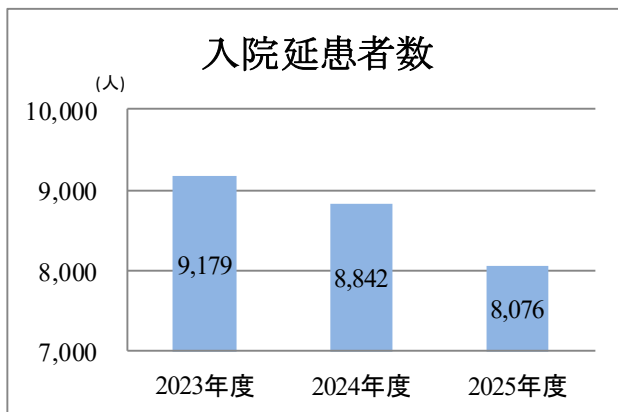
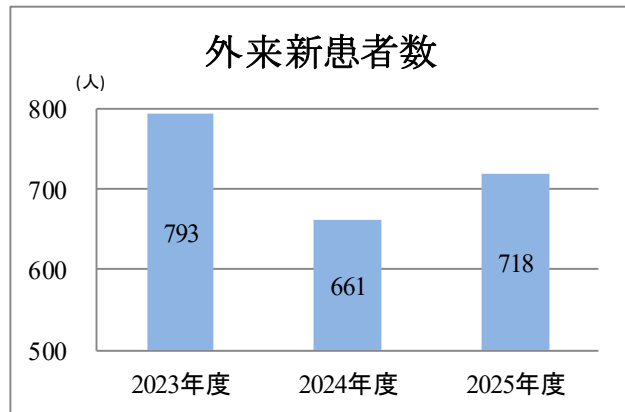
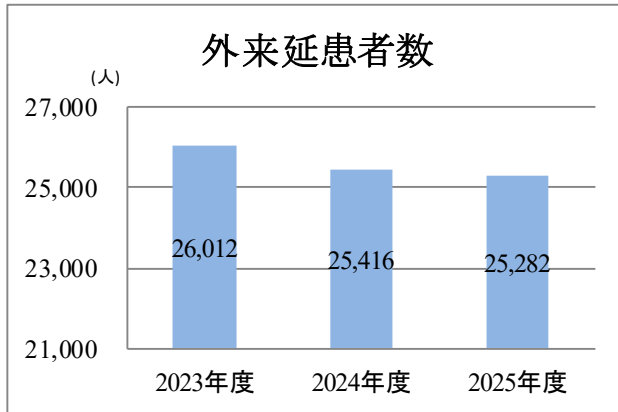
24. 小野瀬喜道, 分島智子, 佐藤健太郎, 仁木凜太郎, 原口直樹. 足関節果部骨折の治療戦略 ～後果骨折をどう攻略するか～, 第 50 回日本足の外科学会, 軽井沢, 2025 年 11 月 13 日

【特別講演・招待講演】

1. 最上敦彦, 髓内釘を駆使した四肢関節近傍骨折に対する挑戦的治療～一時的創外固定を含めて～, 第 38 回日本四肢再建・創外固定学術集会, 静岡, 2025 年 2 月 7 日-8 日
2. 糸井陽, 頸椎椎弓形成片開き用プレートのピットフォールー安全な使用の為にー, 第 1 回椎弓形成を語る会, 東京, 2025 年 3 月 8 日
3. 糸井陽, Educational Value of the Exoscope in Posterior Cervical Fixation, The 7th ISMISS combined with The 17th MISS Summit Forum, 愛知, 2025 年 3 月 14 日-15 日
4. 最上敦彦, 「Terrible triad injury(TTI)に対する治療～今どこまでわかってきたか～」, 第 37 回日本肘関節学会学術集会, 岡山, 2025 年 3 月 14 日-15 日
5. 糸井陽, 地方都市におけるがん専門病院と脊椎外科医の連携, 第 98 回日本整形外科学会学術総会, 東京, 2025 年 5 月 22 日-25 日
6. 最上敦彦, 髓内釘を用いた大腿骨近位部骨折治療～至適選択.知的戦略～, Orthopwdic Surgery Expert Seminar, WEB, 2025 年 6 月 11 日
7. 最上敦彦, 第 9 回裏磐梯外傷イリザロフ法セミナー, 福島, 2025 年 7 月 25 日-27 日
8. 分島智子, NPWT. J-SWAT プレゼンツ 重度四肢外傷 基礎セミナー第 3 回, Web, 2025 年 9 月 7 日
9. 神田章男, 「関節内骨折」 膝関節 内固定(大腿骨顆部), JOTA 日本整形外傷学会 第 15 回アドバンスコース研修会, 神戸, 2025 年 9 月 14 日
10. 神田章男, 長期安定性を目指した人工股関節全置換術～骨粗鬆症・stress shielding の観点から～, 三島市薬剤師会学術講演会, 静岡, 2025 年 9 月 24 日
11. 守屋秀一, 最初の骨折が次の骨折を防ぐ鍵になる 薬剤師が担う骨粗鬆症ケアの役割, 三島市薬剤師会学術講演会, 静岡, 2025 年 9 月 24 日
12. 分島智子, いつか誰かの'前例'に一外傷整形を歩む女性たち, 第 2 回三公立大学合同整形外傷シンポジウム, 名古屋, 2025 年 09 月 27 日
13. 糸井陽, その神経因性疼痛は圧迫骨折? メタ? その鑑別と地域連携, 富士市医師会学術講演会, 静岡, 2025 年 10 月 3 日
14. 糸井陽, 地方都市における転移性脊椎腫瘍に対する地域連携の実態と課題, spine Week Japan2025, 千葉, 2025 年 10 月 30 日-11 月 1 日
15. 神田章男, 労働災害における人工股関節全置換術～機能的改善・良好な長期成績を求めて～, 災害医学講習会, 三島, 2025 年 10 月 30 日
16. 最上敦彦, 恥骨結合離開を伴う完全不安定型骨盤輪骨折に対する"SIRF(Sacro-Ikiac Rod Fixation)" ～後ろから? 前から?, 第 19 回四国外傷治療研究会, 香川, 2025 年 11 月 29 日
17. 守屋秀一, RSA オンラインセミナー, WEB, 2025 年 12 月 10 日
18. 分島智子, - 転子部骨折整復のリアル-基本手技×院内ツールで挑む“髓内落ち”回避, Zimmer Biomet Trauma Trochanteric femoral Nail Follow-up Seminar, 北谷, 2025 年 12 月 20 日

2-13 脳神経内科

診療実績



【はじめに】

2025年度の静岡病院脳神経内科では、医局員の先生方共々、忙しい日々を送ってまいりましたが、大きな問題もなく順調な運営に協力して頂き感謝申し上げます。

当科は引き続き、静岡県東部地区の数少ない神経内科専門の診療科の使命を全うすべく、以下の点に注意し診療活動を行っております。外来診療では、初診や紹介患者は来院してから待ち時間を最小限にするよう、可及的速やかな初期対応を継続しております。外来患者数も徐々に増加傾向であります。入院患者の診療でも医師同士の連携を密に行い、私も1日1回は必ず病棟を自分で回診するなどのサポートを継続し、医療安全の面でも最善を尽くして参ります。

研究面では、恵まれた環境を生かして20年の間1度も欠かさず地方会発表を継続し、発表例を含め、臨床上意義のある症例は論文として発表して参りました。少しずつ論文文化を継続しております。

初期研修医の教育も重要です。静岡病院は1ヶ月ずつのローテーションなので、まず神経学のエッセンシャルを吸収していただければと思います。1年目に脳内をローテーションして興味を持ち、2年目にも選択してくれる研修医も出てきて、大変ありがたいことであると感じます。2025年は、静岡病院への学生さん(M4からM5)のローテーションが定期的に行われました。各自教育をしっかりと行い、静岡病院の初期研修医を増やし、さらには神経学教室への入局者増加に貢献したいと考えております。

当科の人事ですが、代田 健祐、井関 賛 医師が中核として、診療及び教育にリーダーシップを発揮してくれています。代田医師は、病棟医長として静岡病院の各科と緊密に連携しリーダーシップを発揮しております。井関医師は、医局の中心として診療のみならずローテーションの医師、研修医の指導を熱心に行っております。当科の筋電図の件数を減らすことなく継続しております。これまでの歴代教授・医局長・教室の諸先生のご理解に感謝するとともに、今後とも一層のご指導・ご支援を賜ればありがたく存じます。

【スタッフ (R7年6月現在)】

野田和幸(教授)、大熊泰之(特任教授)、松島隆史(医局長・准教授)、平良摩紀子(准教授)、代田健祐(病棟医長・助教)、井関 賛(助手)、ローテーションで、卒後3-5年目の各先生が3ヶ月ごとに2-3名ずつ勤務し、病棟・救急外来等で活躍してくれました。

【診療データ】

外来患者数ですが、月平均90人台を堅持しており、微増傾向です。

例年通り沼津、三島、伊豆半島全域をはじめ、熱海、湯河原、御殿場、裾野、富士、富士宮などから通院しておられます。静岡市、東京都、山梨県からもパーキンソン病や運動障害の患者さんが通院さ

れました。富士市の池辺クリニック、静岡市の城西クリニック、富士宮市の東静岡神経センター、三島市の森本神経内科クリニックといった、当科出身の諸先生方からも随時ご紹介頂き、大変光栄に思います。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

病棟は 4B 病棟で眼科と脳神経内科の 2 科体制であります。看護師さんらスタッフも眼科は動ける患者さんが多いものの入退院が激しく、脳神経内科は介護度が高く大変だと思いますが、慣れてきたようです。入院患者の総数は 500 人（兼科含む）で昨年と横ばいでした。パーキンソン病の入院患者が最も多く、次いで脳梗塞の患者でした。その次が ALS、痙攣などの順となっております。その他、ほぼ神経学のすべての領域の症例を診療しております。特に自己免疫性脳炎の頻度も多いことが特徴の一つであり、良好な治療成績をあげており、英文症例報告として準備しております。平均在院日数は、ほぼ年間を通じて 20 日以内達成を継続できており、MSW や退院支援ナースの働きには常に感謝しています。

病病連携，病診連携の重要性も常に認識しています。また長岡リハビリテーション病院 松崎研一郎院長はじめスタッフの皆様には、患者さんだけでなく教室員が毎度お世話になっております。さらに日頃からお世話になっている病院・医院の先生方や施設の方々にも心から御礼申し上げます。

【研究】

（１）パーキンソン病等 Movement disorders の病態および治療に関する研究：

大熊は関東パーキンソン病勉強会の主要メンバーとして、数々の共同研究に参加してきました。パーキンソン病の姿勢異常の研究では自治医大ステーションクリニック藤本先生が論文投稿目前まで来ています。また新しい共同研究として、東京女子医大飯嶋先生を中心に嗅覚障害とレム睡眠行動異常(RBD)を中心に調べており、昨年症例登録が終了しました。解析結果が楽しみです。

重度嗅覚障害をとともなうパーキンソン病患者において、ドネペジルが認知症発症を予防できるかどうかを前向きに調べる DASH-PD 試験も無事終了しました（厚生労働科学研究費補助金[現 AMED 臨床研究・治験推進研究事業]；平成 24 年～28 年度[分担研究者]）。イベント発生率が少ない関係で 1 年間延長になりましたが、当院では全国で 4 番目に多い 12 例をエントリーしてフォローしています（大熊、野田）。さらにドネペジルの歩行に対する効果を客観的にみるために、患者さんの携帯歩行計記録を行っています（大熊）。

大熊はオランダの Prof. Bas Bloem と共同で、日内変動とすくみ足を有するパーキンソン病における転倒の前方視的調査を行いました。また携帯歩行計を用いてパーキンソン病や関連疾患の歩行解析を行っています。パーキンソン病患者さんの家庭での転倒とすくみ足を客観的に評価する試みを継続しています。

野田は不随意運動を呈する例をこれまでに多数英文で症例報告しました。今後も診療と並行して、症例報告を継続しようと考えております。

さらに、徳島大学主導での高用量 E0302 の筋萎縮性側索硬化症に対する第Ⅲ相試験-医師主導治験-

に参加し、症例を登録いたしました。引き続き、アンケート調査への協力も参加する予定です。静岡東部地域での遠隔診療を行います。

パーキンソン病非運動症状についての臨床研究も開始し、順調に症例が増加しております。

（２）脳血管障害に関する研究：

脳血管障害グループの先生からの依頼で、心房細動の実態把握と予後調査のための患者登録研究(RAFFINE)に参画し、17例登録を行い無事終了となりました。

脳血管障害については、英文症例報告を準備中です。

（３）神経免疫学的研究：

多発性硬化症に対して使用できるようになった種々の Disease modifying therapy(DMT)を試みて症例を蓄積しています。

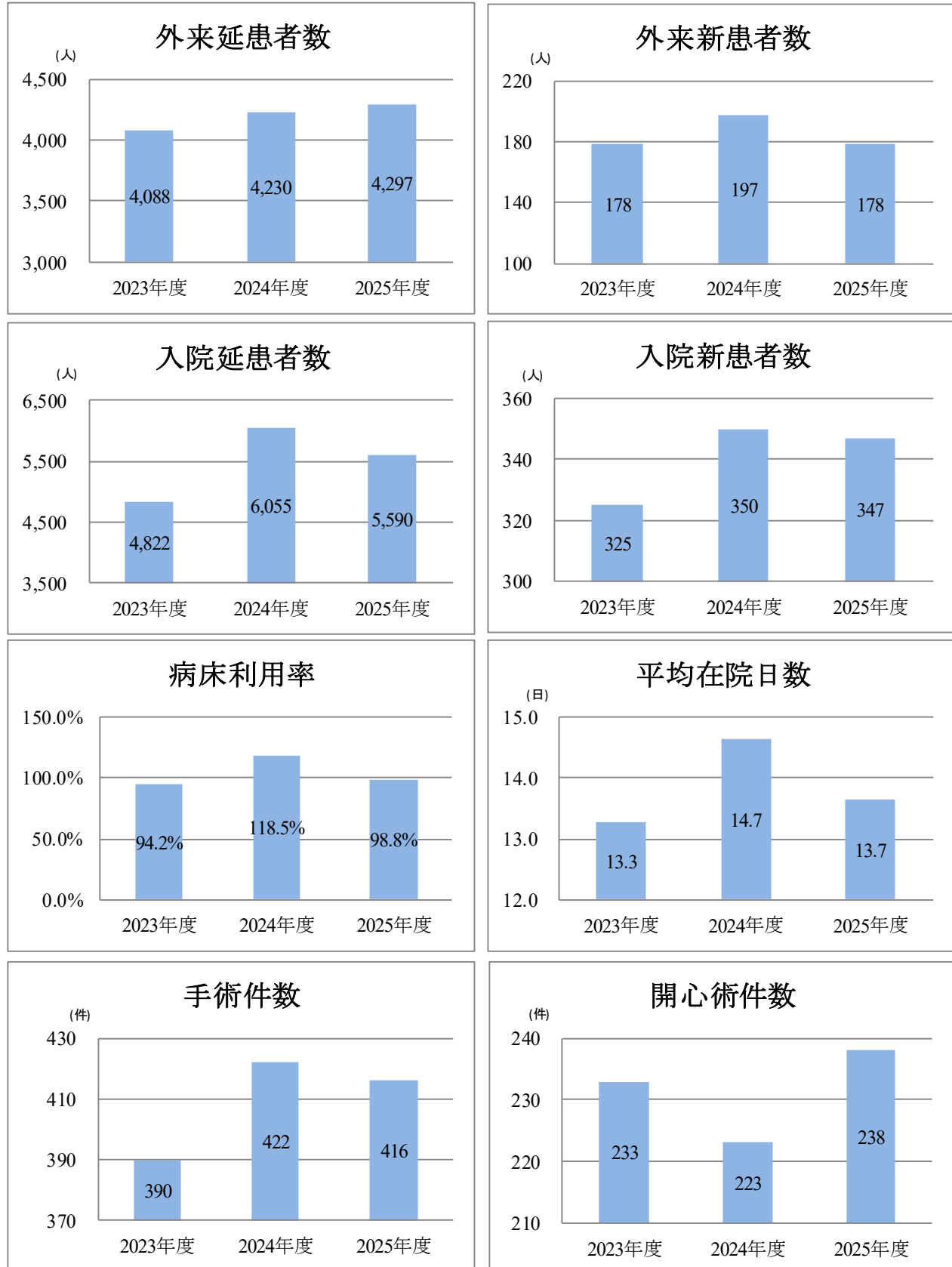
【研究業績・活動等】

日本神経学会関東地方会へ年４回欠かさず報告しております。専攻医が筆頭著者になり、国際誌に報告する予定です。

1. 霜田晴雅、椎名健太、代田健祐、松島隆史、三矢幸一、藤田修英、山本拓史、野田和幸.
長大な脊髄病変を呈し診断に難渋した diffuse midline glioma,H3 K27-altered の 21 歳女性例
第 253 回日本神経学会関東・甲信越地方会 6 月 7 日 2025 年
2. 霜田晴雅、竹村夏美、井関 賛、代田健祐、松島隆史、平良摩紀子、椎名健太、野田和幸.
痙攣、辺縁系脳炎を呈し、6 か月後の免疫療法が奏功した抗 GABAB 受容体抗体陽性脳炎の 47 歳女性例. 第 254 回日本神経学会関東・甲信越地方会 9 月 6 日 2025 年
3. 荒若直人、井関 賛、代田健祐、松島隆史、平良摩紀子、大熊泰之、野田和幸.
広範な脊髄病変を有し、診断に難渋した primary leptomenigeal gliomatosis の 66 歳男性例.
第 255 回日本神経学会関東・甲信越地方会 12 月 6 日 2025 年
4. 荒若直人、青島健斗、井関 賛、代田健祐、松島隆史、平良摩紀子、大熊泰之、野田和幸
急速に対麻痺、呼吸不全に進行した自己免疫性 glial fibrillary acidic protein アストロサイトパチー
の 49 歳男性例
第 256 回日本神経内科学会関東・甲信越地方会 3 月 7 日 2026 年

2-14 心臓血管外科

診療実績



診療活動

順天堂大学医学部附属静岡病院心臓血管外科は現在 5 人のスタッフで診療を行っております。診療圏は伊豆半島を含む静岡県東部地域であります。心臓血管外科診療を行う施設は多くありません。一方で地域の高齢化は進んでおり、循環器治療が必要な患者様が多くいらっしゃいます。さらに首都圏と比較しても高齢者、全身疾患や併存症を有する患者様の割合が多いことも特徴です。このようなリスクの高い患者様に対しても大学附属病院の利点である他診療科および多職種との強力な連携のもとで診療を行っております。循環器内科との合同カンファレンス、麻酔科・手術室・集中治療室・臨床工学室との多職種カンファレンスを毎週開催しております。

2025 年度の 1 年間で心臓胸部大血管手術 238 例（TAVI および TEER を含む）、腹部大動脈瘤やその他の手術を含めて計 416 例の手術を実施しました。

診療成績については、手術症例数は飛躍的に増加している一方で、平均在院日数は以前と比較して短縮しており、先進的医療の成果と同時に診療成績の向上を示しております。

次年度目標

高齢化に伴い著しく増加している心臓大血管疾患に対する低侵襲治療に力を入れております。

重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation）循環器内科とともにハートチームとして行っております。ハートチームとしては現在 3 名の TAVI 指導医、2 名の TAVI 実施医がおり従来の外科的大動脈弁置換術が困難である高齢者や frail 症例、また透析症例に対して、質の高い治療を行っております。

僧帽弁疾患や大動脈弁疾患に対しては小切開や内視鏡で行う低侵襲心臓手術（MICS ; Minimally Invasive Cardiac Surgery）を積極的行っております。この手術は 3-6cm の小さな皮膚切開から行う弁膜症手術であり順天堂グループの優れた成績を維持しながら低侵襲化に取り組むことに特に力を入れております。さらに 2024 年にはロボット支援下心臓手術を開始いたしました。

低侵襲治療分野においては大動脈瘤に対する開胸手術のみならず血管内治療も症例数が増加しその治療成績も向上しております。大動脈瘤に対するステントグラフトは耐術能に悖る患者様や frail 症例に対して行われる血管内治療ではありますが、従来の開胸手術とともにその成績は良好です。

近年、冠動脈インターベンションの適応拡大に伴い減少している冠動脈バイパス術（CABG）ではありますが、当科の心拍動下に血行再建を行うオフポンプ治療と長期予後を見据えたグラフト選択による CABG は術後の回復も早く、患者様やご紹介いただいた先生方に高い評価を頂いております。そのために遠方からの患者様も多くお越しになり、症例数は増加しております。

その他、地域の特性から大動脈解離、大動脈瘤などの急性大動脈症候群に対する緊急手術も数多く手掛けておりその成績も良好です。大動脈疾患に対しては、従来の開胸手術、ステントグラフト治療あるいは両方の治療を組み合わせることで、救命率の向上だけでなく遠隔期予後の改善も目標として治療を行っており、我々の取組みとその成果を学会に報告しております。

2026 年度も引き続き、臨床面では手術成績の向上により重点を置くこと、TAVI やロボット心臓手術などの先進的な医療を提供できる県東部地域の基幹病院としての地位を確固たるものとする 것을目標といたします。また学術活動もさらに活性化し、静岡病院から世界に向けた研究成果を発信できるよう尽力して参ります。

診療・研究・教育の 3 分野で、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構における基幹施設にふさわし

い活動を年間通じて継続してまいりますので、みなさま方からのご指導・ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

研究・教育活動

【英文原著】

1. Nakamura H, Kajimoto K, Yamamoto T, Oda R, Kinoshita T, Amano A, Tabata M. Short-term and Long-term Outcomes of Combined Surgical Aortic Valve Replacement and Coronary Artery Bypass, Juntendo Med J. 2025 Jun 20;71(4):266-271. doi: 10.14789/ejmg.JMJ25-0010-OA. eCollection 2025. PMID: 40969817
2. Ono S, Kajimoto K, Yamamoto T, Oda R, Kinoshita T, Amano A, Tabata M. Short- and Long-term Prognostic Impacts of Diabetes Mellitus in Patients Undergoing Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting with Skeletonized Internal Thoracic Artery Graft . Juntendo Med J. 2025 Aug 30;71(5):327-334. doi: 10.14789/ejmg.JMJ25-0013-OA. eCollection 2025. PMID: 41255584

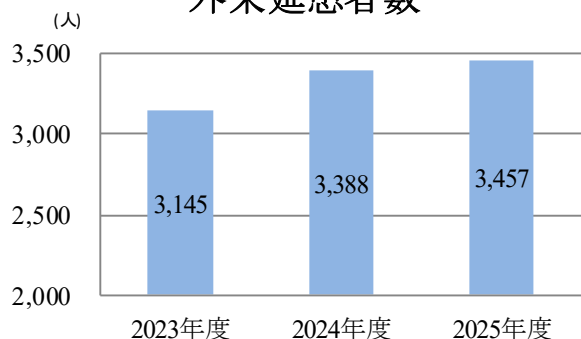
【学会発表および講演（国内）】

1. 山崎 学 : Outcomes of acute type A aortic dissection in octogenarians: Tokyo Acute Aortic Super-network Registry. 第 3 回 European Journal of Cardio-Thoracic Surgery Aortic forum. 6 月 18 日
2. 山崎 学 : Outcomes of acute type A aortic dissection in Tokyo: Tokyo Acute Aortic Super-Network Registry. 第 78 回 日本胸部外科学会総会 10 月 23 日
3. 大山 徹真 : Bio-Bentall 術後の感染性心内膜炎に対して Perceval を用いて redo AVR を行った 1 例. 第 49 回静岡県心臓血管外科手術手技ビデオカンファレンス. 4 月 13 日
4. 大山 徹真 : 右側大動脈弓に Kommerell 憩室瘤を合併した 1 デブランチ TEVAR の 1 例. 第 31 回日本血管内治療学会学術総会. 6 月 13 日

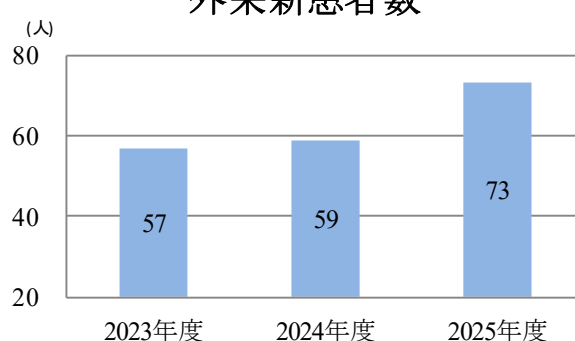
2-15 呼吸器外科

診療実績

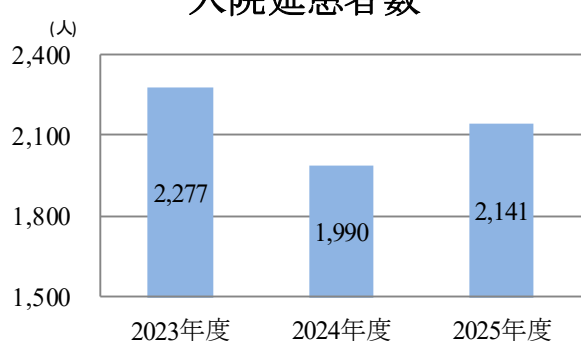
外来延患者数



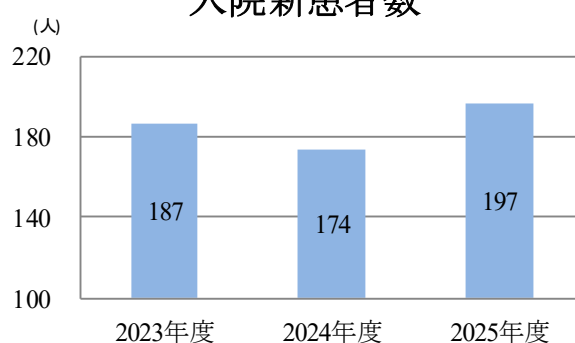
外来新患者数



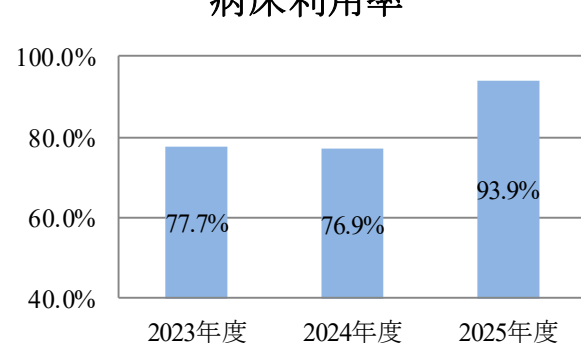
入院延患者数



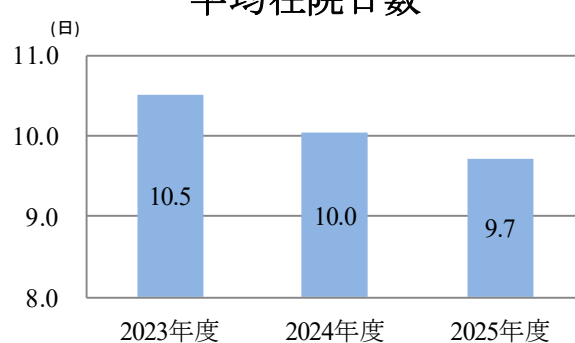
入院新患者数



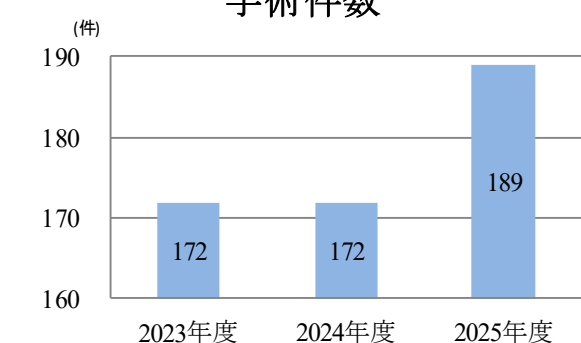
病床利用率



平均在院日数



手術件数



【英文原著】

1. Hideomi Ichinokawa, Kazuya Takamochi, Yukio Watanabe, Mariko Fukui, Aritoshi Hattori, Takeshi Matsunaga, Kenji Suzuki. Tolerability of Surgery by Patients With Third Primary Lung Cancer After Second Primary Lung Cancer Surgery. *Thoracic Cancer*. 2025;16(22): e70187. doi: 10.1111/1759-7714.70187.
2. Yukio Watanabe, Kazuya Takamochi, Takuo Hayashi, Aritoshi Hattori, Mariko Fukui, Takeshi Matsunaga, Hisashi Tomita, Kenji Suzuki. No Survival Benefit of Primary Tumor Resection for Non-small Cell Lung Cancer Patients with Unexpectedly Detected Pleural Disseminated Nodules in the Era of Targeted Therapy. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, 2025;73(2):102-109.
3. Yukio Watanabe, Aritoshi Hattori, Mariko Fukui, Takeshi Matsunaga, Kazuya Takamochi, Kenji Suzuki. Proposal for novel definition of radiologically less invasive clinical stage IA solid predominant lung adenocarcinoma using the maximum standardized uptake value. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, 2025;73(8):622-628.
4. Yukio Watanabe, Aritoshi Hattori, Mariko Fukui, Takeshi Matsunaga, Kazuya Takamochi, Kenji Suzuki. Effect of ground-glass opacity component on the recurrence of pathological stage IB non-small cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutation. *Surgery Today*, 2025;55(8):1107-1115.
5. Yukio Watanabe, Aritoshi Hattori, Mariko Fukui, Takeshi Matsunaga, Kazuya Takamochi, Kenji Suzuki. Clinical significance of 4L lymphadenectomy in solid dominant clinical stage I non-small cell lung cancer in the left upper lobe. *Jpn J Clin Oncol*, 2025;55(6):636-642.

【英文症例報告】

1. Hideomi Ichinokawa, Takashi Sowa, Takashi Yaguchi, Hiroaki Oizumi, Kazuya Takamochi, Kenji Suzuki. Six radical surgeries for metachronous multiple primary lung cancer: A case report. *Int J Surg Case Rep*. 2025; 127: 110860.

【学会発表（国際）】

1. Pneumonectomy is feasible after definitive chemoradiotherapy with immune-checkpoint inhibitor for non-small cell lung cancer. Yukio Watanabe, Aritoshi Hattori, Mariko Fukui, Takeshi Matsunaga, Kazuya Takamochi, Kenji Suzuki. The 61st STS Annual Meeting; Los Angeles, CA, USA, 24-26 Jan, 2025.
2. Clinical significance of upfront surgery for clinical N1 stage II non-small cell lung cancer. Yukio Watanabe, Shinsuke Uchida, Aritoshi Hattori, Mariko Fukui, Takeshi Matsunaga, Kazuya Takamochi, Kenji Suzuki. The 33rd European Conference on General Thoracic Surgery of the European Society of Thoracic Surgeons; Budapest, Hungary, May 25-27, 2025.

【学会発表（国内）】

1. 異時性多発原発性肺癌に対して根治手術は何回出来るのか？ 市之川英臣、曾和嵩、谷口敬 令和 7 年静岡呼吸器外科冬季例会、浜松、2025 年 3 月 8 日
2. 全面癒着症例に対するロボット支援下肺切除の工夫及び手術成績 渡邊敬夫、内田真介、服部有俊、福井麻里子、松永健志、高持一矢、鈴木健司 第 42 回日本呼吸器外科学会、東京、5 月 15-16 日、2025
3. 低侵襲手術により増加した 2 回目の肺癌手術後の症例は、3 回目の原発性肺癌の手術に対して耐え得るか？ 市之川英臣、高持一矢、曾和嵩、谷口敬、福井麻里子、服部有俊、松永健志、鈴木健司 第 42 回日本呼吸器外科学会総会、東京、2025 年 5 月 16 日
4. 外傷性血胸に対する初回治療後の追加治療のリスク因子 曾和 嵩、谷口 敬、渡邊 敬夫、市之川英臣 静岡呼吸器外科医会令和 7 年度夏期例会、静岡、2025 年 7 月 5 日
5. 異時多発原発性肺癌に対する複数回手術例の検討-2 回目の肺癌手術後の症例は、3 回目の手術に対して耐え得るか？ 市之川英臣 第 12 回プログレスミーティング静岡災害医学研究センター研究報告会、静岡、2025 年 7 月 25 日
6. 術前化学免疫療法後に遅発性薬剤性 ILD を来した原発性肺癌の 1 例 曾和 嵩、谷口 敬、渡邊 敬夫、市之川 英臣 静岡県外科医会 第 252 回集談会、静岡、2025 年 09 月 13 日
7. S6 区域を含むロボット支援下肺区域切除における底区動脈クランプの有用性 渡邊敬夫、内田真介、市之川英臣、服部有俊、福井麻里子、松永健志、高持一矢、鈴木健司 第 78 回日本胸部外科学会、大阪、10 月 23-25 日、2025
8. cN1 を伴う臨床病期 I I 期非小細胞肺癌に対する upfront surgery の意義 渡邊敬夫、内田真介、服部有俊、福井麻里子、松永健志、高持一矢、鈴木健司 第 66 回日本肺癌学会学術集会、東京、11 月 6-8 日
9. 異時性多発原発性肺癌に対して 6 回根治手術を行った 1 例 市之川英臣、曾和嵩、谷口敬、渡邊敬夫、高持一矢、鈴木健司 第 66 回日本肺癌学会学術集会、東京、2025 年 11 月 06 日

【広報（その他）】

1. 肺がんに対するロボット支援下手術-1mm の手術 市之川英臣 順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座、静岡、2025 年 6 月 6 日

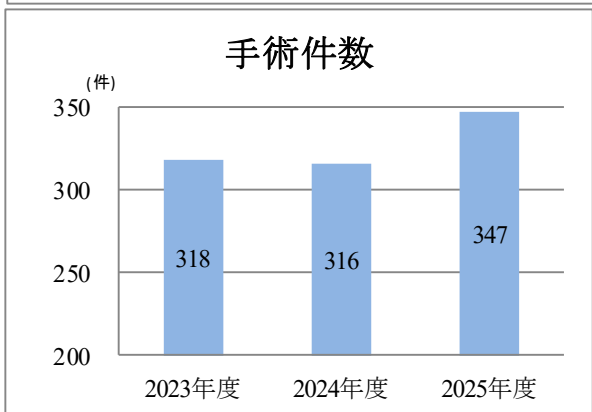
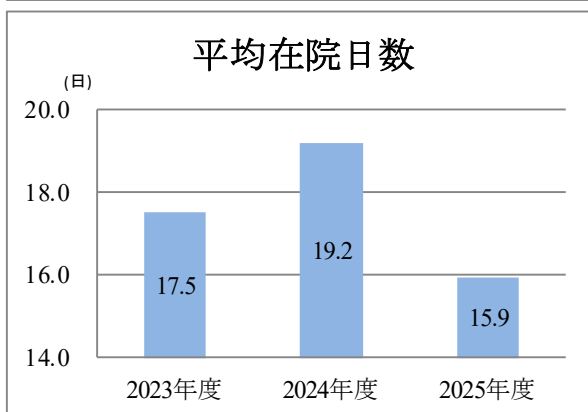
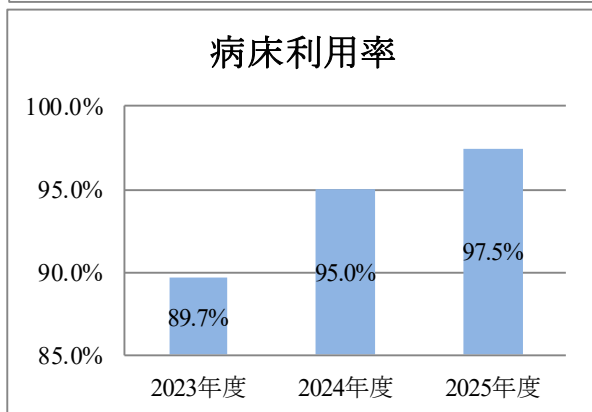
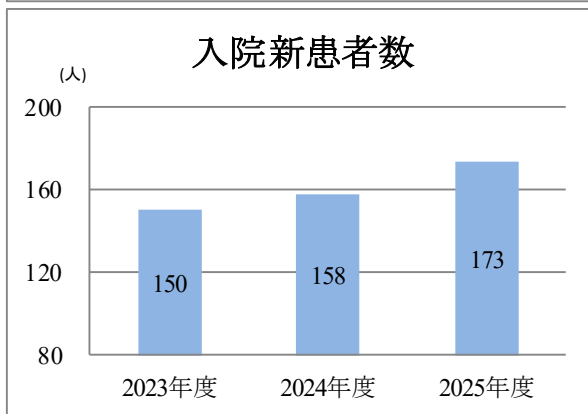
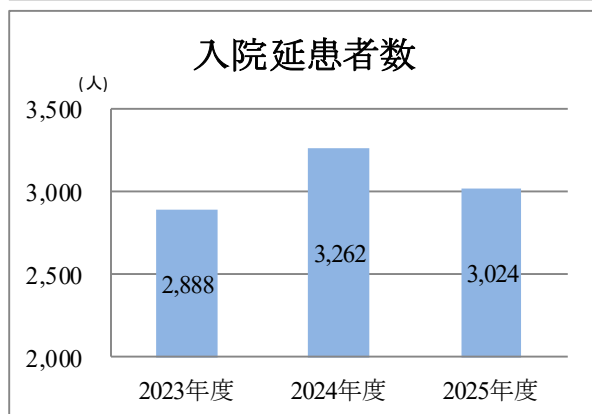
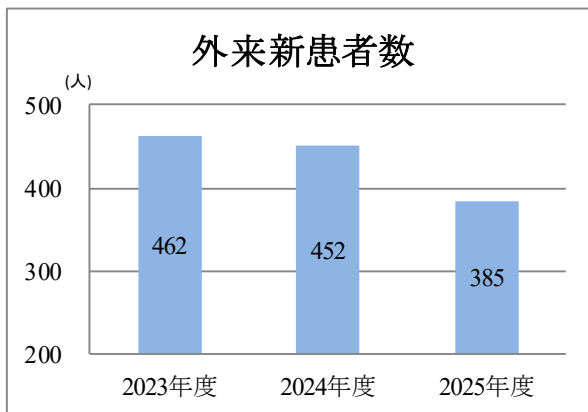
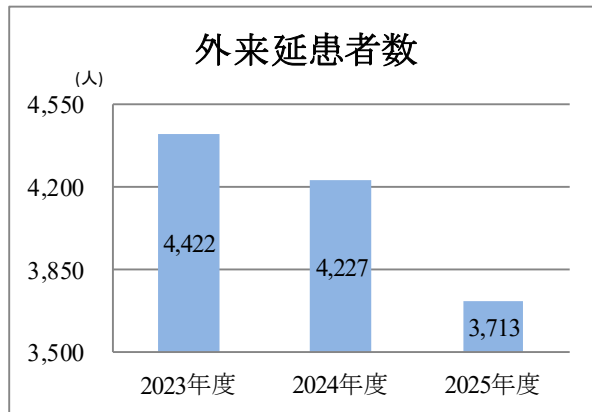
【人事異動】

2025 年 4 月 渡邊敬夫

順天堂（本郷）呼吸器外科学講座から順天堂（静岡）呼吸器外科学講座

2-16 形成外科

診療実績



研究・教育活動

【和文原著】

1. 大森愛、野尻岳、東名怜、久次米一輝、田村崇行、佐野和史
当科における真皮脂肪弁による褥瘡治療の実際
日形会誌 45:157-165,2025

【和文総説】

1. 諏訪健志、藤井美樹、田中里佳、水野博司
Epifix®を使用した静脈うっ滞性潰瘍 9 例の検討
日本創傷学会誌「創傷」16(3):88-91,2025

【和文論文（症例報告、proceeding その他）】

1. 田村崇行、大谷真佑奈、大森愛、東名怜、野尻岳、佐野和史
深下腹壁動脈穿通枝（DIEP）を含む局所皮弁を用いた小腸皮膚瘻再建の 1 例
日形会誌 45:354-361,2025

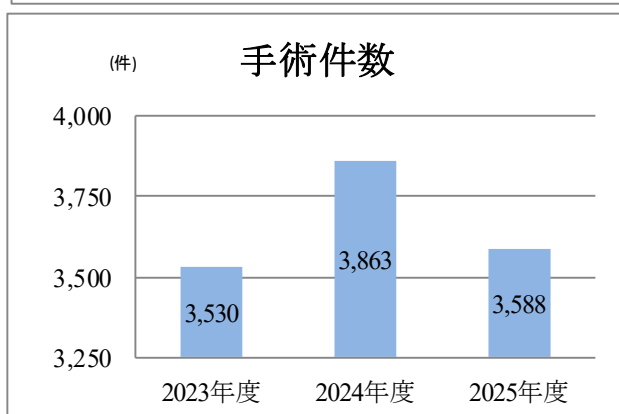
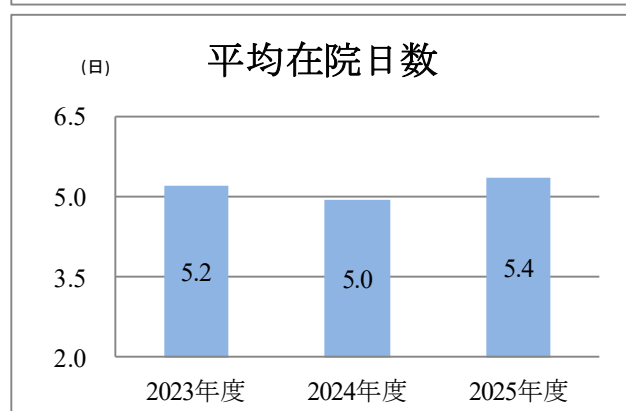
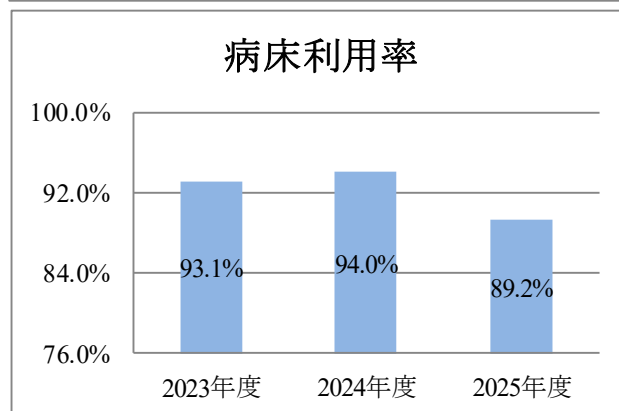
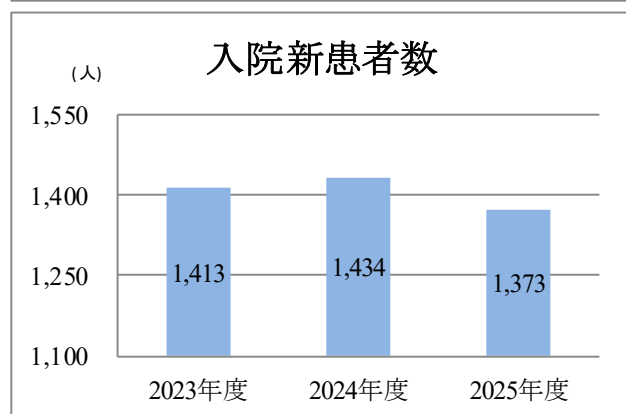
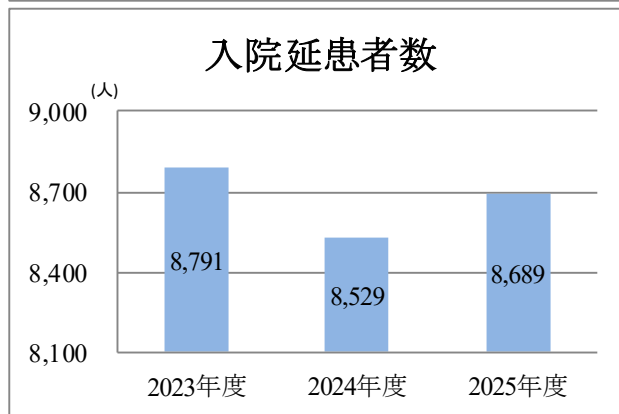
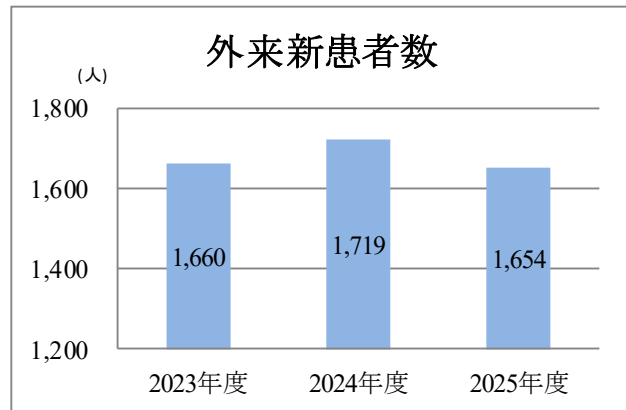
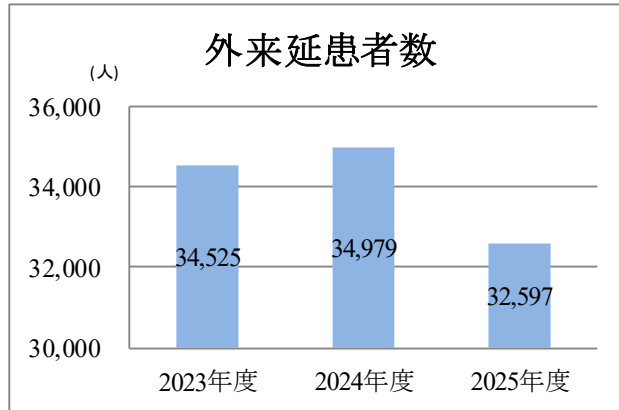
【学会発表（国内）】

・シンポジウム

1. 諏訪健志
Epifix®を使用した静脈うっ滞性潰瘍 9 例の検討
第 17 回 日本創傷外科学会総会・学術集会（2025 年東京）

2-17 眼科

診療実績



研究・教育活動

【英文原著】

1. Asaki Hirai, Yota Kikuchi, Yuki Ohara, Toshihiko Ohta, Shintaro Nakao : Macular Morphological changes in Familial Exudative Vitreoretinopathy with Macular Traction on OCT. Case Rep Ophthalmol. 2025 Mar 3;16(1):239-245
2. Ken Nagino, PhD, Takenori Inomata, MD, PhD, MBA Jaemyoung Sung, MD, Toshihiko Ohta, MD, PhD, Akie Midorikawa-Inomata, RN, MPH, PhD, Gaku Ishida, MD , Keiji Inagaki, MD, PhD, Atsuko Eguchi, PhD , Masahiro Yamaguchi, MD, PhD Satoru Nakatani, MD, PhD, Kenta Fujio, MD, PhD, Hiroyuki Kobayashi, MD, PhD Shintaro Nakao, MD, PhD: Postoperative complications of intrascleral intraocular lens fixation: A systematic review and meta-analysis. Survey of Ophthalmology. 2025 May-Jun;70(3):489-498.

【和文総説】

1. 菊池 遙太, 太田 俊彦:手術手技のコツ 小光学部径眼内レンズを用いた強膜内固定術. 眼科手術, 2025, 38(3); 438-441
2. 太田俊彦:【スペシャリスト直伝!眼内レンズ強膜内固定術】(2章)合併症フリーを目指した強膜内固定術. 眼科グラフィック, 2025, 14(5); 516-525
3. 市川 浩平:【スペシャリスト直伝!眼内レンズ強膜内固定術】(4章)強膜内固定術の合併症と対処法, 眼科グラフィック, 2025, 14(5) ; 537-545
4. 松澤 亜紀子, 土至田 宏. コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く 医療用コンタクトレンズ. あたらしい眼, 2025, 42: 79-80
5. 松澤 亜紀子, 土至田 宏. コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く 医療用コンタクトレンズ(2). あたらしい眼科, 2025, 42: 221-222
6. 松澤 亜紀子, 土至田 宏. コンタクトレンズセミナー 英国コンタクトレンズ協会のエビデンスに基づくレポートを紐解く 医療用コンタクトレンズ(3). あたらしい眼科, 2025, 42: 341-342
7. 土至田 宏. コンタクトレンズ用語集 第 49 回 コンタクトレンズ. 日本コンタクトレンズ学会誌, 2025, 67: 30

【和文症例報告】

1. 小森 翼, 土至田 宏, 太田 俊彦: 3 回の表層角膜移植を要したモーレン潰瘍の 1 例, 日本眼科手術学会学術総会抄録集 48 回; O-010, 2025.01
2. 杉田 丈夫, 土至田 宏, 太田 俊彦, 小野 純治: Vivinex Impress と TECNIS Eyhance の臨床成績比, 日本眼科手術学会学術総会抄録集 48 回; O-051, 2025.01.
3. 廣澤 邦彦, 岩崎 有真, 市川 浩平, 土至田 宏, 太田 俊彦: コーヌス内ピットにより網膜分離症を発症したと考えられた強度近視眼に対し ILM 翻転術を施行した 1 例, 眼科臨床紀要, 18 (4) ;271, 2025.04
4. 尾原 祐樹, 菊池 遙太, 平井 麻紀, 太田 俊彦; 抗 VEGF 療法を施行した未熟児網膜症の治療成績, 眼科臨床紀要, 18(4) ; 270, 2025.04.
5. 廣澤 邦彦, 平野 隆雄, 稲垣 圭司, 猪俣 武範, 佐藤 淳子, 村田 敏規, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: 糖尿病眼手帳の現状とデジタルアプリケーション化についてのアンケート調査, 眼科臨床紀要, 18 (8) :528, 2025.08.
6. 渡部 史郎, 土至田 宏, 菊池 遙太, 小森 翼, 太田 俊彦: ブリモニジン酒石酸塩点眼剤使用中に角膜混濁を生じた 1 例, 眼科臨床紀要, 18(8): 527, 2025.08.
7. 小野 純治, 土至田 宏, 太田 俊彦, 当院におけるヴィヴィネックス インプレス®とテクニス アイハンス®の術後成績比較 -第 2 報 -, 第 84 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡, 2025.01.18
8. 廣澤 邦彦, 平野 隆雄, 稲垣 圭司, 猪俣 武範, 佐藤 淳子, 村田 敏規, 太田 俊彦, 中尾新

太郎, 糖尿病眼手帳の現状とデジタルアプリケーション化についてのアンケート調査, 第 84 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡, 2025.01.18

9. 小森 翼: 治療に難渋したプリザーフロの 1 例, 第 26 回 JON 研究会, 東京, 2025.07.05
10. 小野 純治, 太田 俊彦, 土至田 宏, 当院におけるレンティス フォート®, ヴィヴィネックス インプレス®, テクニス アイハンス®の術後成績比較, 第 85 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡, 2025.08.23
11. 菊池 遥太, 平井 麻紀, 太田 俊彦: 片眼に脈絡膜新生血管を合併した Vogt-小柳-原田病の 1 例, 第 85 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡, 2025.08.23
12. 呂 念春, 小森 翼, 朝岡 聖子, 太田 俊彦: 正常眼圧緑内障の経過中に急激な視力低下と視野狭窄を生じた IgG4 関連視神経症の 1 例, 第 85 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡, 2025.08.23
13. 南 瑠美, 尾原 祐樹, 平井 麻紀, 笠原 知人, 菊池 遥太, 市川 浩平, 太田 俊彦: 網膜中心動脈閉塞症及び前部虚血性視神経症で脈絡膜の循環不全を認めた一例, 令和 7 年静岡県東部眼科医会放談会, 静岡, 2025.09.25

【学会発表 (国際)】

1. Asaki Hirai: A case of globe rupture associated with external forces greater than 40,000 N, The 4th FujiRetina Conference, Tokyo, 2025.03.28(Case Conference)
2. Kohei Ichikawa: A case of endophthalmitis caused by injury from a tree branch, The 4th FujiRetina Conference, Tokyo, 2025.03.28(Case Conference)
3. Yuki Ohara : Optos Fluorescein Angiography in Diagnosing Recurrent Retinopathy of Prematurity: Two Case Reports, The 4th FujiRetina Conference, Tokyo, 2025.03.28(Case Conference)
4. Wakako Tsutsumi: Inverted ILM Flap Technique for Retinoschisis with Conus Pit in a Highly Myopic Eye (A Case Report) , The 4th FujiRetina Conference, Tokyo, 2025.03.28 (Poster Session)
5. Nianchun Lue: Characteristics and risk factors of the patients with pollen-food allergy syndrome in individuals with hay fever: A digital cross-sectional cohort study using AllerSearch, The 2025 ARVO Annual Meeting, Salt Lake City, 2025.05.08

【学会発表 (国内)】

1. 小森 翼, 土至田 宏, 太田 俊彦: 3 回の表層角膜移植を要したモーレン潰瘍の 1 例, 第 48 回日本眼科手術学会学術総会, 横浜, 2025.01.31 (一般講演)
2. 杉田 丈夫, 土至田 宏, 太田 俊彦: Vivinex ImpressTM と TECNIS EyhanceTM の臨床成績比, 第 48 回日本眼科手術学会学術総会, 横浜, 2025.02.01 (一般講演)
3. 平井 麻紀, 市川 浩平, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: Vitreomacular interface disorder を認める増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術成績, 第 31 回日本糖尿病眼学会総会, 沖縄, 2025.1.25 (学術展示)
4. 菊池 遥太, 市川 浩平, 土至田 宏, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: 眼内レンズ強膜内固定術の眼内レンズ偏心・傾斜予防に関する検討, 第 40 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2025.06.20 (一般講演)
5. 廣澤 邦彦: 角膜・ぶどう膜の理解と最新技術を用いた診療の展望, 第 40 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2025.06.21 (視能訓練士／ナースングプログラム)
6. 堤 和歌子, 土至田 宏, 太田 俊彦, 小野 純治: 当院における Vivinex ImpressTM と TECNIS EyhanceTM の術後成績比較, 第 40 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2025.06.20 (一般講演)
7. 堤 和佳子, 菊池 遥太, 市川 浩平, 土至田 宏, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: AN6K を用いた強膜内レンズ強膜内固定術の術後成績第 40 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2025.06.21 (一般講演)
8. 平井 麻紀, 市川 浩平, 尾原 祐樹, 菊池 遥太, 堤 和佳子, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: 慢性糸球

体腎炎を認めた 13 歳の両黄斑円孔手術症例, 第 79 回日本臨床眼科学会, 大阪, 2025.10.06 (学術展示)

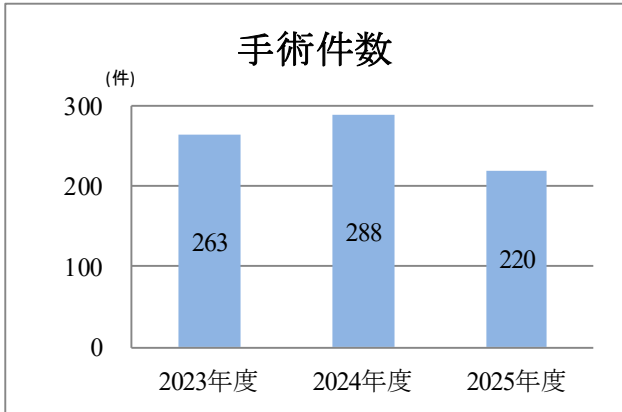
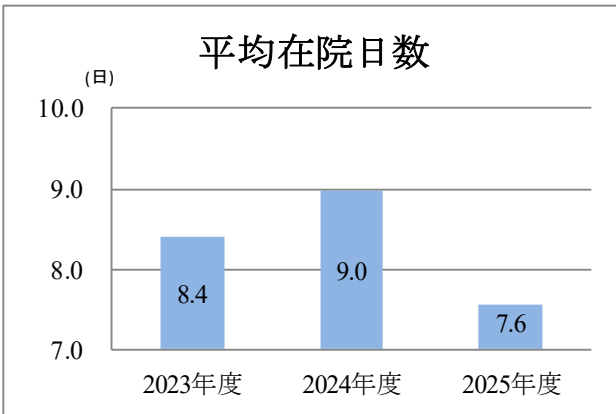
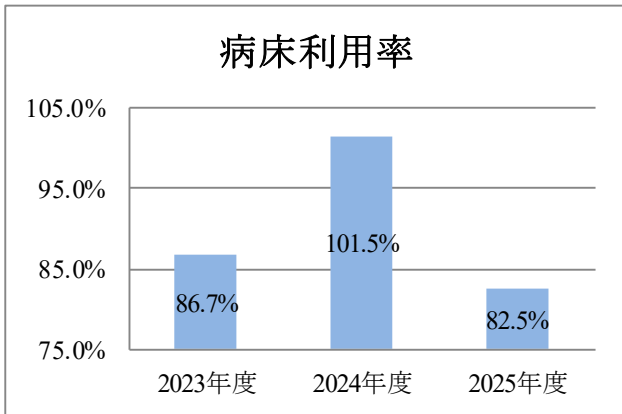
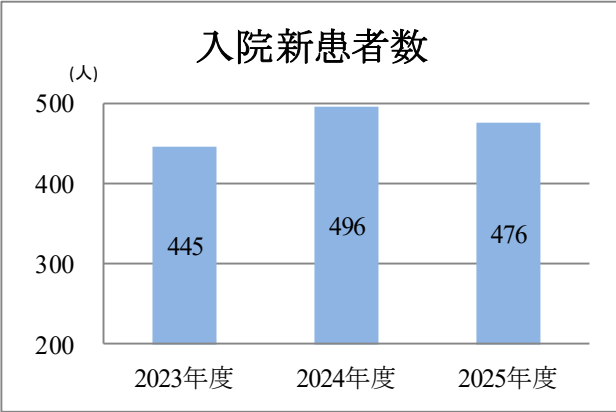
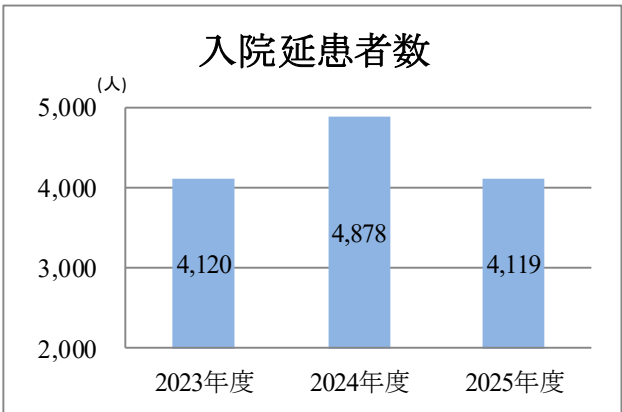
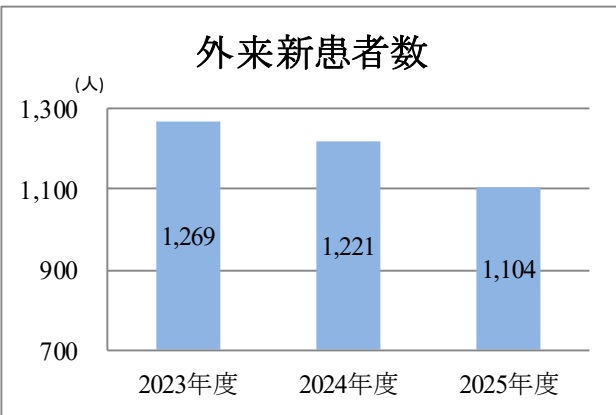
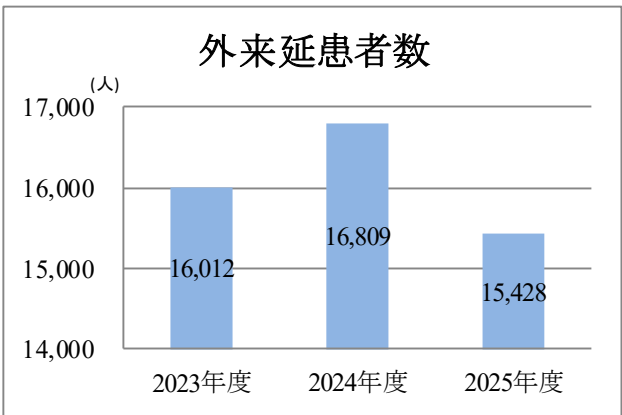
9. 小森 翼, 小森 翼, 朝岡 聖子, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: 正常眼圧緑内障の経過中に急激な視力低下と視野狭窄を生じた IgG4 関連視神経症の 1 例, 第 79 回日本臨床眼科学会, 大阪, 2025.10.06 (学術展示)
10. 尾原 祐樹, 平井 麻紀, 笠原 知人, 菊池 遥太, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: 網膜中心動脈閉塞症及び前部虚血性視神経症で脈絡膜の循環不全を認めた一例, 第 79 回日本臨床眼科学会, 大阪, 2025.10.09 (学術展示)
11. 中村 果歩, 大田 夏紀, 杉山 茉莉香, 池田 奈帆, 尾原 祐樹, 平井 麻紀, 佐藤 洋明, 東海林 宏道: 早産児未熟網膜症に対する抗 VEGF 療法の単会予後についての検討～ラニビズマブとアフリベルセプトの比較, 第 69 回日本新生児成育医学会・学術総会, 横浜, 2025.11.14 (一般演題)

【特別講演・招待講演】

1. 太田 俊彦: L ポケット切開を用いた PMMA IOL の摘出, 第 40 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2025.06.20 (シンポジウム)
2. 市川 浩平: P-fixation technique aiming complicationfree intrascleral IOL fixation, 第 40 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2025.06.21 (会長企画・International Video Symposium) .
3. 市川 浩平: 強膜内固定術の基本手技と合併症, 第 40 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2025.06.20 (教育セミナー)
4. 堤 和歌子: Vivinex Impress の有用性, 第 40 回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2025.06.21 (ランチョンセミナー・／HOYA株)
5. Kohei Ichikawa: Management of Posterior Capsule Rupture, KSCRS2025, SEOUL DRAGON CITY, Seoul, 2025.07.12, Symposium.
6. 太田 俊彦: Zinn 小帯脆弱例のマネージメント, 第 25 回教育フォーラム, 福岡, 2025.09.13
7. Kohei Ichikawa: Flanged IOL fixation using P-fixation technique, 第 64 回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2025.12.06 (シンポジウム)
8. 市川 浩平: 白熱! 硝子体倶楽部 ～Round 9～, 第 64 回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2025.12.05 (ランチョンセミナー／日本アルコン株)
9. 太田 俊彦: 強膜内固定術 A to Z, 第 79 回日本臨床眼科学会, 京都, 2025.10.11 (インストラクションコース、演者)
10. 太田 俊彦: 前眼部術者のための破囊処理, 第 79 回日本臨床眼科学会, 京都, 2025.10.11 (インストラクションコース、演者)

2-18 耳鼻咽喉科

診療実績



研究・教育活動

【英文原著・総説】

1. Kusunoki T, Wada R. Primary nasal neuroendocrine carcinoma in an older adult
BMJ Case Rep 2025;18:e260917. doi:10.1136/bcr-2024-260917.
2. Nakayama T, Hara S, Kusunoki T, Takata Y, Honma H, Anzai T, Kidokoro Y, Yoshikawa A, Matsumoto F. Efficacy and Prognostic factors of combined hyperbaric oxygen, steroid, and prostaglandin E1 therapy for idiopathic sudden sensorineural hearing Loss J. Otorhinolaryngol. Hear. Balance Med. 2025;6(2); 25 <https://doi.org/10.3390/ohbm6020025>
3. Nakagawa H, Imai R, Gestewitz M, Praetorius M, Tsukamoto M, Albrecht T, Kusunoki T, Ikeda K, Sertel S. Association of the rs17822931 (538G > A, G180R) in the ABCC11 gene with risk of middle ear cholesteatoma in older adults: a hospital-based case-control study at Heidelberg University Hospital, Germany. Eur Arch Otorhinolaryngol. 2026;283(4):2237-2242. doi: 10.1007/s00405-025-09933-5. Epub 2026 Jan 6.

【和文原著・総説】

1. 楠 威志：災害時医療機関機能停止時における、気道系疾患に対する「自宅でできる腹式呼吸を重点に置いた音声訓練法」の有用性. 令和5年度静岡災害医学研究センター紀要 19-20 ; 2025

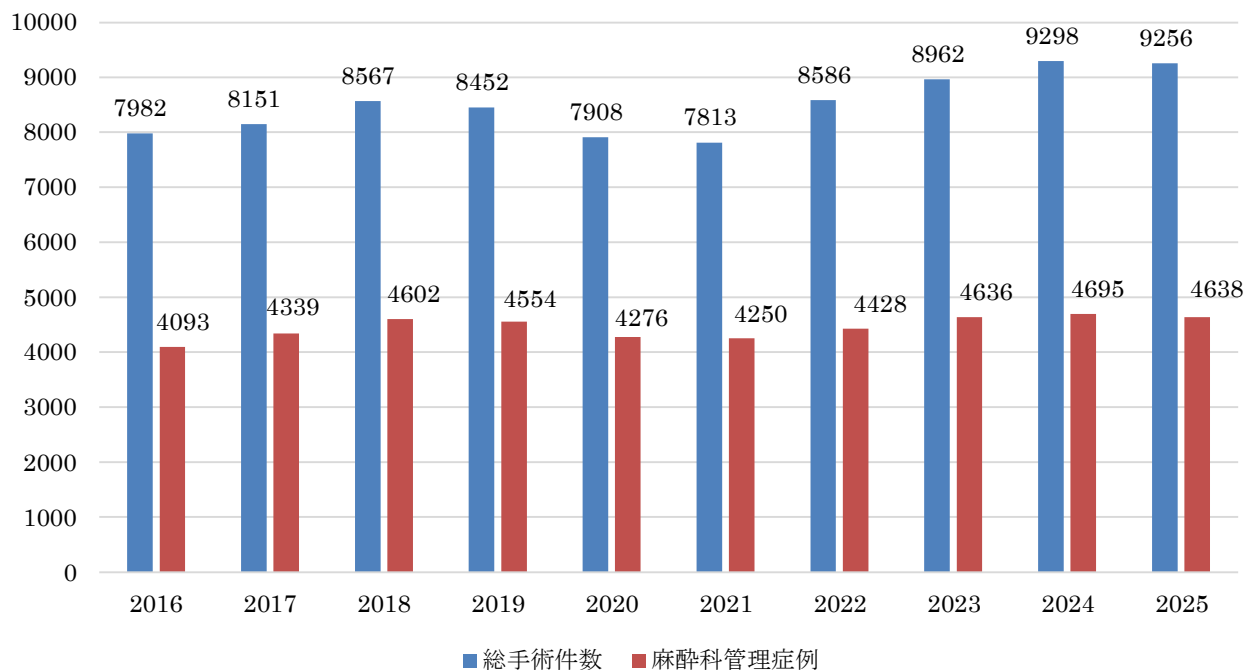
【科研費】

1. 研究代表者：楠 威志 耳垢決定遺伝子 ABCC11 多型が外耳道微生物叢に及ぼす影響と中耳真珠腫発症リスク 研究期間（年度）2024～2026 （継続） 基盤研究 C

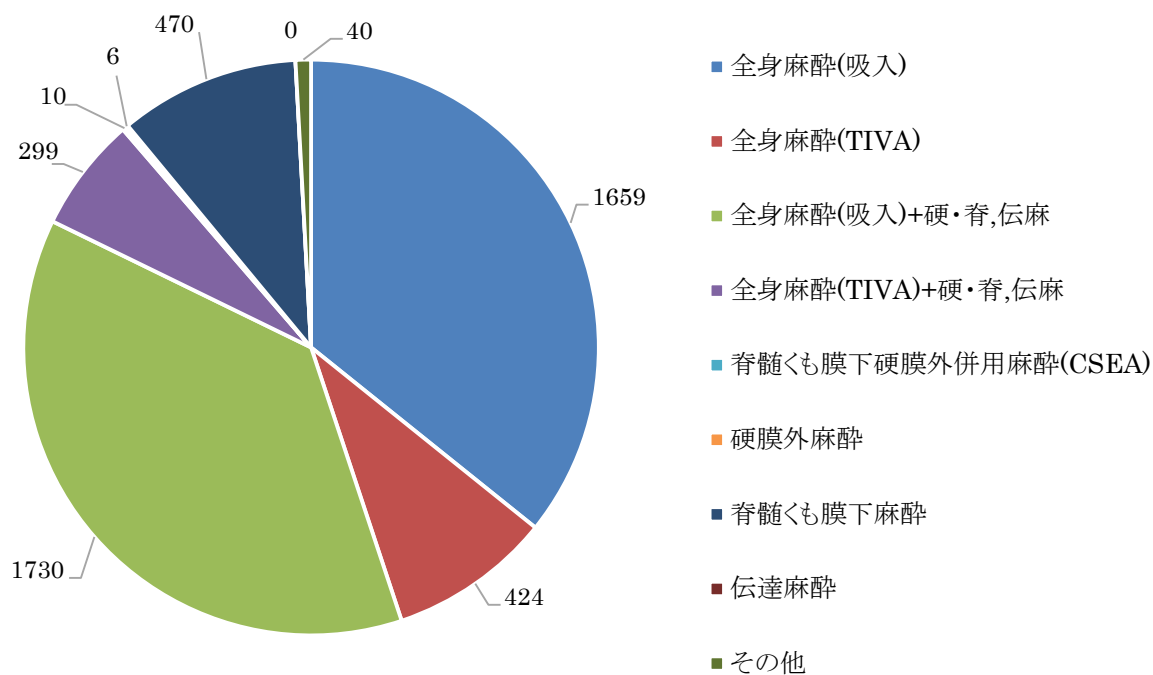
2-19 麻酔科・ペインクリニック

診療実績

総手術件数と麻酔科管理症例の推移



2025年麻酔法別手術件数(麻酔科管理症例)



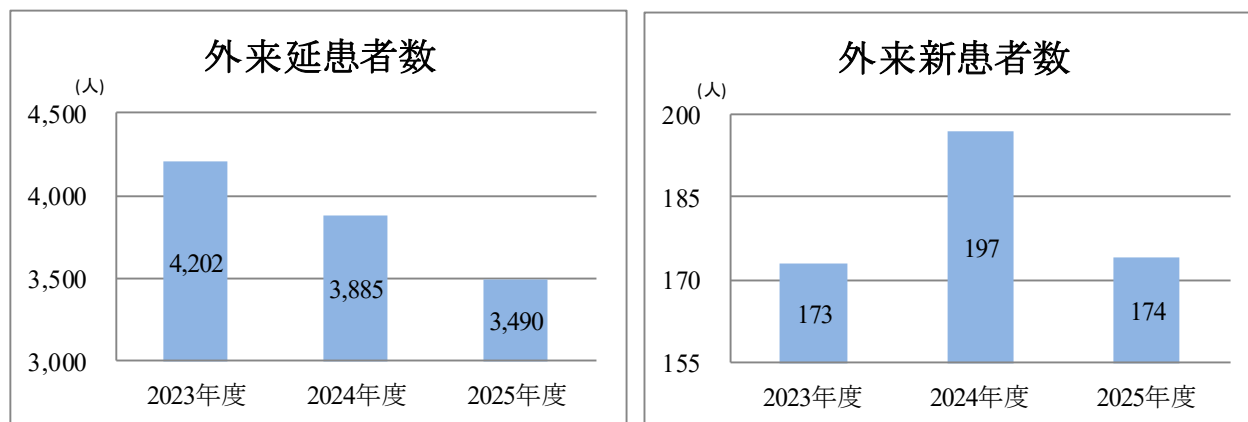
研究・教育活動

【学会発表（国内）】

1. 尾前毅 周術期合併症 1（一般演題 座長）
日本麻酔科学会 東海・北陸支部 23 回学術集会，三重県，2025 年 9 月 13 日
2. 岩松大貴，八子一，山崎翔，櫻庭園子，洪景都，尾前毅
声門上器具抜去時にスガマテクスによるアナフィラキシーショックが疑われた一例
日本麻酔科学会 東海・北陸支部第 23 回学術集会，三重県，2025 年 9 月 13 日
3. 尾前毅 血液凝固 5（ヘパリン）コメンテーター
日本心臓血管麻酔学会第 30 回学術大会，横浜市，2025 年 9 月 21 日
4. 上田恩来，室谷修平，山崎翔，尾前毅
重症大動脈弁狭窄症患者の大腿骨骨折術を脊椎くも膜下麻酔で管理した 1 症例
日本心臓血管麻酔学会第 30 回学術大会，横浜市，2025 年 9 月 19 日

2-20 放射線科

診療実績



研究・教育活動

【臨床研究課題】

1. 順天堂大学における Real World Data 活用促進を目的とした、Feasibility 検証用の集計データ供覧の枠組み構築と基盤となるデータウェアハウス整備：後ろ向き非介入研究（研究課題番号：E21-0182、研究実施期間 2021 年 11 月 26 日～2025 年 10 月 31 日、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会）
2. 日本インターベンショナルラジオロジー学会における症例登録データベース事業(H17-0115 継続)（研究課題番号: E24-0124 研究実施期間 2024 年 07 月 18 日～西暦 2033 年 07 月 31 日、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会）
3. 乳癌部分切除術後超短期全乳房照射の短期有害事象に関する検討：前向き非介入研究（研究課題番号：E24-0121、研究実施期間 2024 年 6 月 11 日～2026 年 12 月 31 日、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会）
4. 順天堂大学医学部附属静岡病院における CT・MRI 検査ログを用いた読影状況および情報伝達プロセスの構造解析：後方視的観察研究: E25-0226、研究実施期間 2025 年 8 月 28 日～2026 年 3 月 31 日、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会）
5. 広い普及を目指した子宮頸がん組織内照射練習用ファントムの開発と応用(科学研究費助成事業若手研究 課題番号：25K19179 2025～2027 年度)

【英文原著】

1. Miyawaki T, Kenmotsu H, Ko R, Oshima M, Shukuya T, Shikama N, Takahashi K. Current Status of Multimodal Therapy for Oligometastatic Disease, Induced Oligometastatic Disease, and Oligo-Progressive Disease in EGFR-Mutated Non-Small-Cell Lung Cancer. Cancers (Basel). 2025 Jun 30;17(13):2202. doi: 10.3390/cancers17132202. PMID: 40647500; PMCID: PMC12249137.

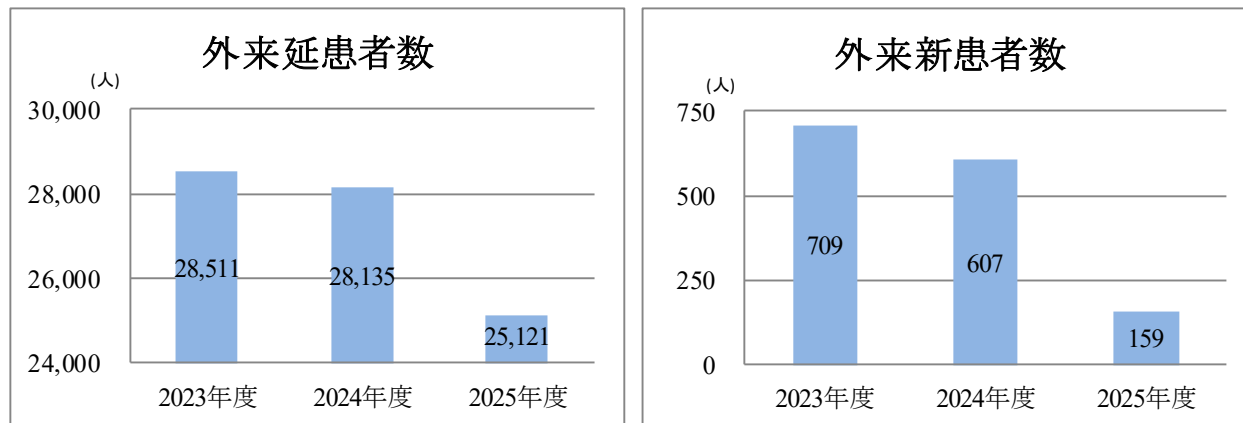
2. Ono N, Omiya M, Sugiyama M, Oshima M. Evaluation of electron Monte Carlo algorithm accuracy for dose calculations in extended source-to-surface distances electron beam therapy. *J Appl Clin Med Phys*. 2025 Sep;26(9):e70237. doi: 10.1002/acm2.70237. PMID: 40883099; PMCID: PMC12396922.
3. Kosugi Y, Murakami N, Karino T, Muramoto Y, Kawamoto T, Oshima M, Okonogi N, Saito AI, Takatsu J, Inoue T, Iijima K, Hashizume A, Tomita S, Kato M, Ujihira T, Makino S, Hirayama T, Fujino K, Terao Y, Shikama N. Local control of locally advanced uterine sarcoma achieved by cervical brachytherapy with gel spacer following cyclic hypofractionated radiation therapy (QUAD shot) in a patient who refused surgery. *BJR Case Rep*. 2025 Dec 5;12(1):uaaf061. doi: 10.1093/bjrcr/uaaf061. PMID: 41556059; PMCID: PMC12812167.
4. Akashi T, Kumamaru KK, Wada A, Hashimoto M, Hirata K, Hayakawa Y, Sano K, Kamagata K, Hagiwara A, Ikenouchi Y, Aoki S. Japan-Medical Image Database (J-MID): Medical Big Data Supporting Data Science. *Juntendo Med J*. 2025 Jun 4;71(3):166-172. doi: 10.14789/ejmm.JMJ25-0004-P. PMID: 40666496; PMCID: PMC12257222.

【学会発表および講演（国内）】

1. 加藤 奏 高橋正洋 萩原 慧 小竹晃生 田中利隆 杉山宗弘：妊娠中に偶発的に発見された無症候性遊走脾の1例 日本医学放射線学会第179回中部地方会 2025年7月5-6日 岐阜
2. 萩原慧、藤榮博史、樋口嶺央、延島貴道、加藤仁美、桑鶴良平：A case of long-term shrinkage of a renal angiomyolipoma with TSC after multiple embolizations 第54回日本IVR学会総会 2025年5月30日 東京
3. 萩原慧、高橋正洋、加藤奏、小竹晃生、吉田隆司、杉山宗弘：小細胞肺癌による喀血に対し気管支動脈塞栓を施行し次治療へ移行し得た一例 第24回静岡IVR懇話会 2025年6月21日 静岡
4. 萩原慧、高橋正洋、加藤奏、小竹晃生、吉田隆司、杉山宗弘：小細胞肺癌による喀血に対し気管支動脈塞栓を施行し次治療へ移行し得た一例 第76回中部IVR研究会 2025年7月5日 岐阜
5. 萩原慧、高橋正洋、加藤奏、小竹晃生、杉山宗弘：救急放射線レポートの実質的 Turnaround Time 短縮に関する検討 -読影完了から開封までの時間を含めた42ヶ月データ解析- 第35回救急放射線研究会 2025年10月18日 名古屋
6. 小杉 康夫, 村上 直也, 村本 耀一, 小此木範之, 川本 晃史, 大島 理規, 飯島康太郎, 高津 淳：早期喉頭癌に対する頸動脈線量低減 IMRT の有効性評価 日本放射線腫瘍学会第38回学術集会 2025年11月27日-29日 横浜
7. 延島 貴道, 杉山 宗弘, 大山 徹真, 大石 淳実, 奥 龍一郎, 塙 裕太, 山崎 学:高度真腔狭窄を伴う孤立性上腸間膜動脈解離に対しステント留置を行った一例 第77回中部IVR研究会 2026年2月14日 愛知

2-21 メンタルクリニック

診療実績



研究・教育活動

患者数は県内トップクラスの外来患者数を維持しています。新患者数でも県内1を維持しています。病棟からのコンサルテーション数も多く、せん妄や抑うつなどを身体科と連携して治療しています。自殺企図患者などを救急科による身体的治療と並行して、必要に応じて地域の精神科病院に転院させるネットワークも構築されています。他院で受け入れ困難な精神疾患患者の身体疾患も、各科と連携して受け入れています。

児童思春期の患者も引き続き多数来院しており、2022年4月より「こどものこころのケアセンター」を開設し、従来行っていた遊戯療法・ペアレントトレーニング・学習障害支援プログラムなどの治療プログラムに加えて、デイケア・ソーシャルスキルトレーニング・ストレスマネジメント・親のための心理教室・コーディネーショントレーニングを用いた運動教室・個別の心理面接・保護者や教育関係者への心理支援などのプログラムを開設し、利用者が増えています。ホームページやパンフレットなどの広報活動により、教育・行政機関からの問い合わせが連日あります。児童に限らず、近年は非薬物療法のニーズが高いことに応え、ペアレントトレーニング・ソーシャルスキルトレーニング・認知行動療法・遊戯療法などの非薬物療法を充実させてきました。成人の発達障害患者も増加傾向にあり、成人のソーシャルスキルトレーニングはメンバーも増えています。

研究では、桐野は functional MRI と脳波の同時測定による functional connectivity の研究を継続しています。児童思春期のメンタルヘルスなどのテーマで講演依頼も多く、地域医療に貢献しています。

【和文総説】

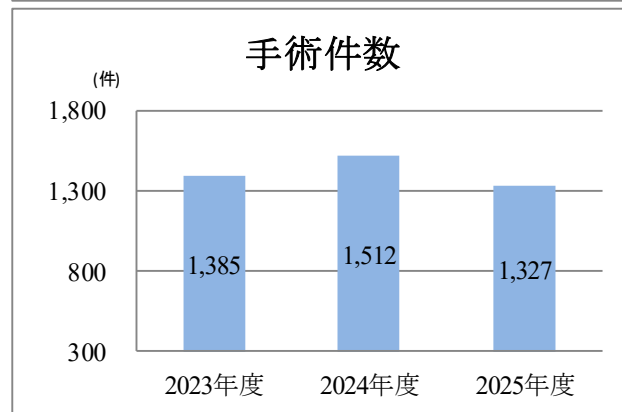
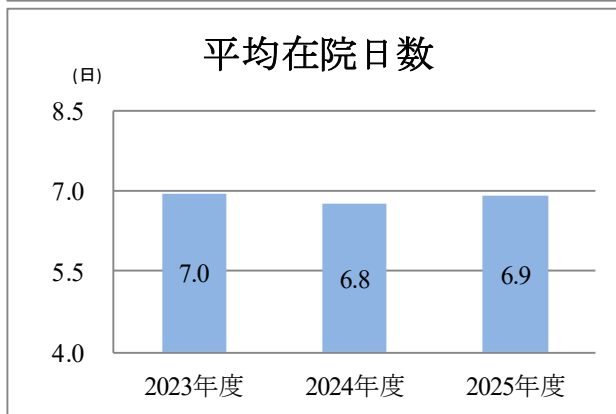
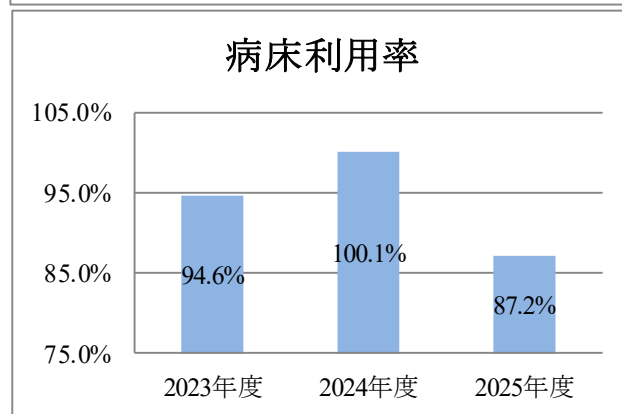
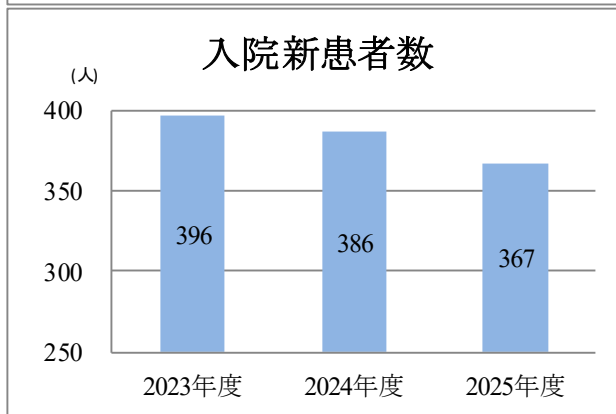
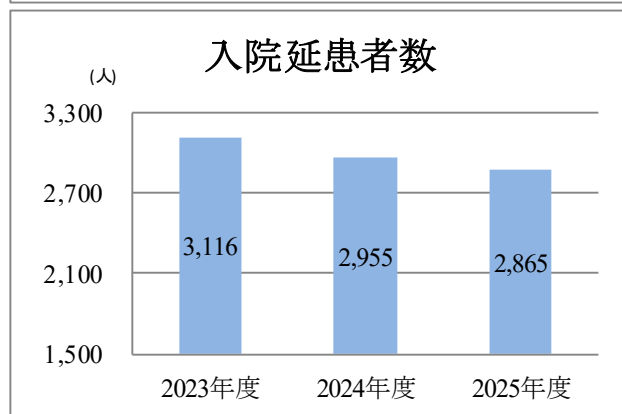
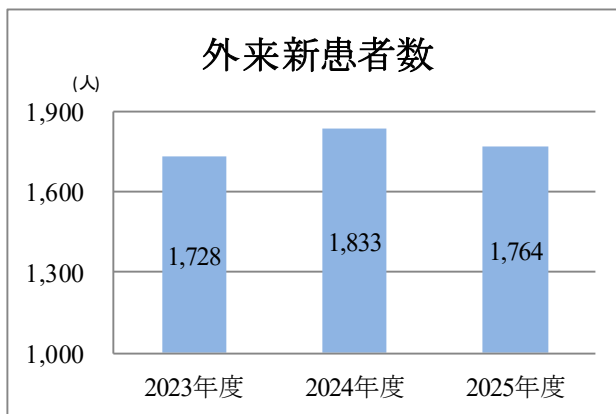
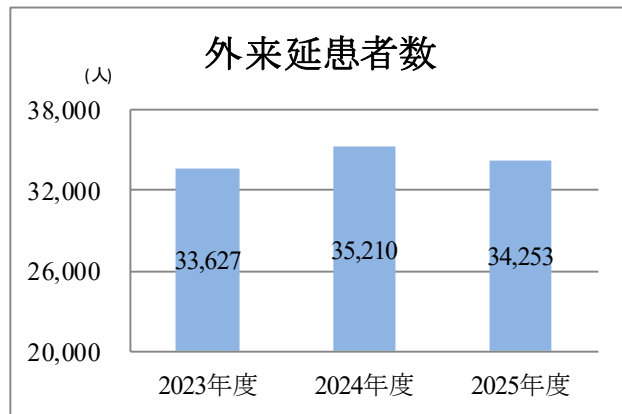
1. 桐野衛二：こどものこころのケアセンターを設立して（診療つれづれ）. JOHNS 41 (11) 1514-1516, 2025

【主な競争的資金の獲得状況】

1. 令和 6-令和 10 年度 基盤研究(C) (研究代表者 桐野衛二) 課題番号 fMRI fMRI 脳波 拡散 MRI 同時計測による自閉症スペクトラム障害の年齢継時的検討 Simultaneous fMRI-EEG-DTI Longitudinal Recording of Functional Connectivity in Patients with Autism Spectrum Disorder. ¥3,500,000
2. 令和 2 年度-令和 8 年度 基盤研究(C) (研究代表者 臼井千恵__分担研究者 桐野衛二 他) モバイルヘルスとマルチオミクスの統合解析による痛覚変調性疼痛の個別化医療開発研究
3. 令和 3 年度-令和 8 年度 基盤研究(C) (研究代表者 臼井千恵__分担研究者 桐野衛二 他) 携帯アプリを用いた慢性疼痛増悪因子の解明及び予防的デジタルメディスン開発の研究
4. 令和 6-令和 10 年度 基盤研究(C) (研究代表者 川田 裕次郎 分担研究者 桐野衛二 他) fMRI と脳波の同時計測技術を用いたアスリートの「ハイパフォーマンスブレイン」の解明
5. 令和 6-令和 10 年度 基盤研究(C) (研究代表者 須藤路子 分担研究者 桐野衛二 他) 早期英語教育の効果的指導法開発—母語獲得と社会認知・運動能力の発達の観点から—

2-22 皮膚・アレルギー科

診療実績



研究・教育活動

【英文原著】

1. Wada A, Matsuda A, Hasegawa T: Protein tyrosine phosphatase receptor type J is highly expressed in adipose tissue of patients with Madelung disease. *J Dermatol Sci* 53:160-162, 2026
2. Sakurai J, Hasegawa T, Wada A, Ikeda S: Mechanical stretching increases prostaglandin E2 and affects transforming growth factor- β 1 levels in keratinocytes. *Open Dermatol J* 19:e1874372245448, 2025

【和文原著】

1. 村松海人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 皮内テストにより診断に至った自己免疫性プロゲステロン皮膚炎の1例. *皮膚科の臨床* 67(9):1133-1135, 2025
2. 遠藤翼, 生玉梨紗, 長谷川敏男: ミント摂取後の口唇浮腫から診断に至った NSAIDs 不耐症の一例. *皮膚科の臨床* 67(11):1380-1382, 2025
3. 宗田昂己, 生玉梨紗, 土橋人土, 長谷川敏男. 亀頭部に限局した皮疹より診断に至った HLA-B27 陽性乾癬性関節炎の1例. *皮膚科の臨床* 67(11):1419-1422, 2025

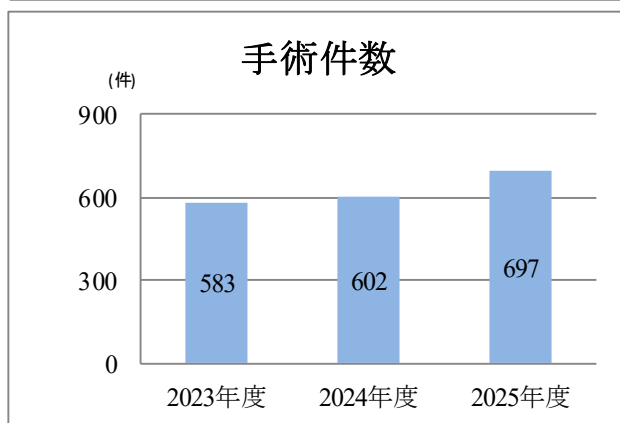
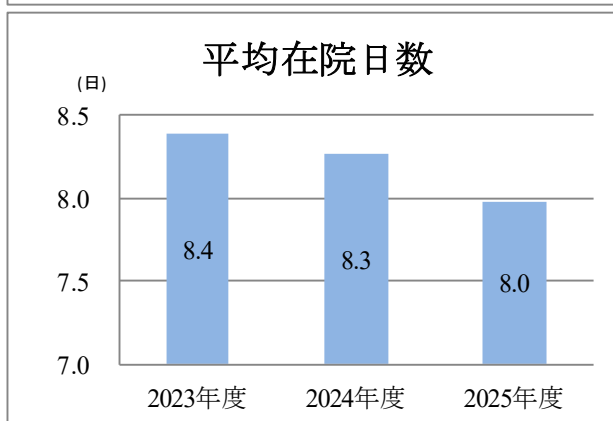
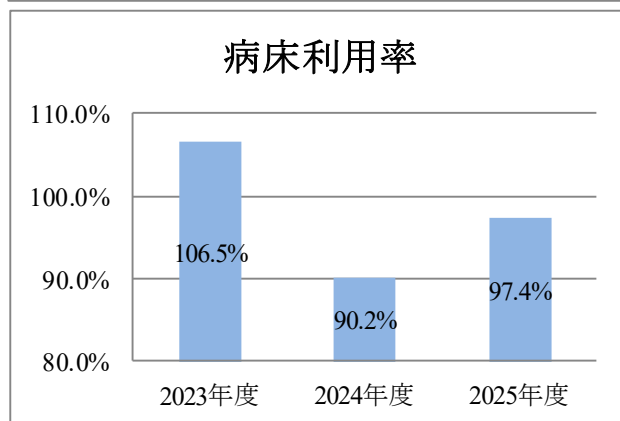
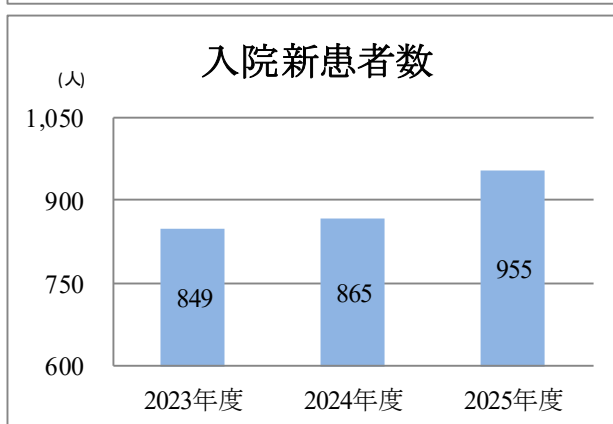
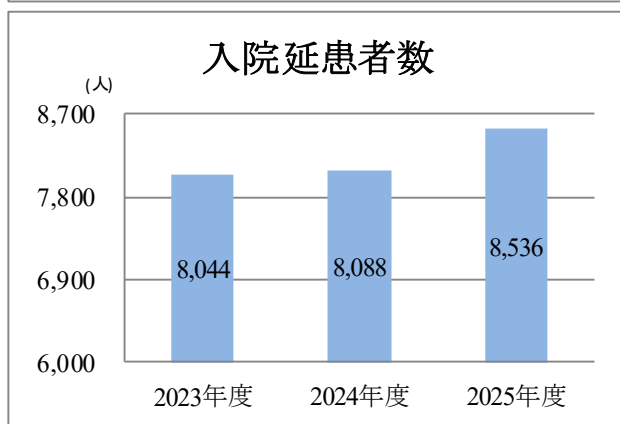
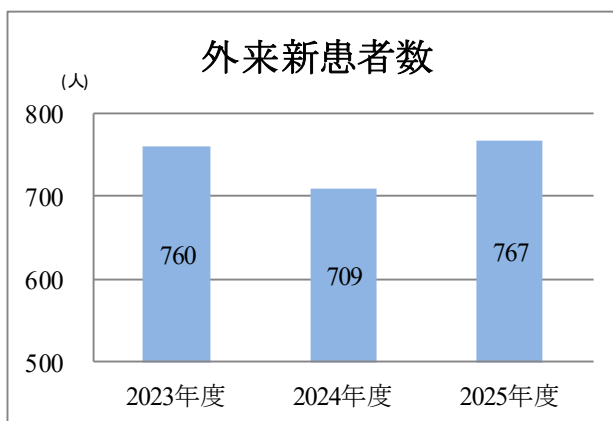
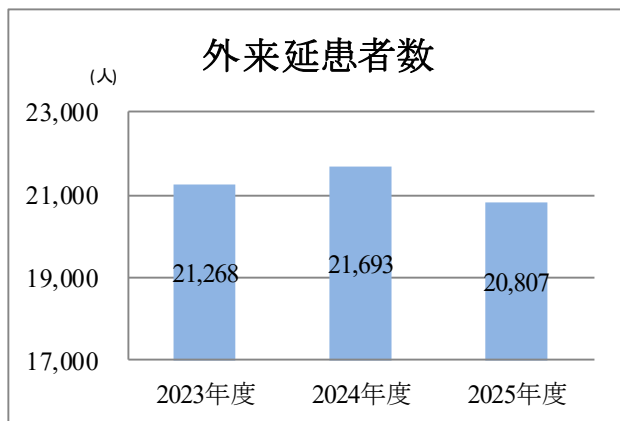
【学会発表（国内）】

1. 宇根ちさと, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 麦芽アレルギーの1例. 第124回日本皮膚科学会総会, 2025/5/30, 横浜
2. 太田有美, 生玉梨紗, 長谷川敏男. Rothmund-Thomson 症候群の1例. 第124回日本皮膚科学会総会, 2025/5/30, 横浜
3. 高宮悠子, 安澤数史, 清水晶, 宗田昂己, 長谷川敏男. 難治性ウイルス性疣贅における HPV タイプの検討. 第124回日本皮膚科学会総会, 2025/5/30, 横浜
4. 原田成宏, 松田晃徳, 土橋人土, 新井正美, 江口英孝. 右胸背部に出現した Mosaic Localized Neurofibromatosis type 1 の1例. 第124回日本皮膚科学会総会, 2025/5/30, 横浜
5. 渡辺安莉, 松田晃徳, 藤下沙紀, 原田成宏, 永野有香子, 土橋人土, 金子高英, 渡邊玲. 当院における皮膚上皮系悪性腫瘍に対してニボルマブを投与した4症例の使用経験. 第124回日本皮膚科学会総会, 2025/5/30, 横浜
6. 太田有美, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 上腕に生じた成人リンパ管腫の1例. 第142回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025/6/14, 静岡
7. 川端脩人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 片側性複発性帯状疱疹の1例. 第89回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 2025/9/27, 秋田
8. 大下将弘, 生玉梨紗, 長谷川敏男. ステロイドパルス療法が奏功した小児特発性後天性全身性無汗症の1例. 第143回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025/10/4, web
9. 二宮舞, 生玉梨紗, 長谷川敏男. DPP-4 阻害薬内服中に生じた結節性類天疱瘡の1例. 第143回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025/10/4, web
10. 小野寺瑠美子, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 小児発症の皮膚筋炎に合併した多発皮膚石灰沈着症に対して炭酸ガスレーザー治療が有効であった1例. 第143回日本皮膚科学会静岡地方会, 2025/10/4, web

11. 宇根ちさと, 生玉梨紗, 長谷川敏男. クリオグロブリン血症の1例. 第77回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 2025/10/19, 岡山
12. 川端脩人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. Dipeptidyl peptidase-4 阻害薬内服中に発症した粘膜類天疱瘡の1例. 第76回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2025/10/25, 京都
13. Hosoi M, Hasegawa T, Wada A, Ikeda S, Watanabe R. Fibroblast culture supernatant transdifferentiates adipose-derived mesenchymal stromal cells into keratinocyte-like cells. The 50th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 2025/12/5, Kofu
14. 加藤芙未, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 水疱性エリテマトーデスの1例. 第144回日本皮膚科学会静岡地方会, 2026/2/28, web
15. 宇根ちさと, 生玉梨紗, 長谷川敏男. ホスラブコナゾールを用いて治療した T. rubrum によるケルスス禿瘡の1例. 第144回日本皮膚科学会静岡地方会, 2026/2/28, web
16. 田代大地, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 断端神経腫の1例. 第144回日本皮膚科学会静岡地方会, 2026/2/28, web

2-23 泌尿器科

診療実績



診療活動

入院患者数は大幅に増加し、特に緊急処置を要する重症例が多く他院から紹介された。膿腎症に対する尿管ステント留置術の症例数は国内でも有数である。

前立腺全摘術にロボット支援手術を導入して7年が経過し、手術時間は大幅に短縮された。さらに、フードテクニックを導入したことで、術後尿禁制率が著明に向上した。

ロボット支援下膀胱全摘術では、回腸導管造設に加え、体腔内新膀胱造設術を開始した。本術式は「順天堂式」として論文報告を行っており、球形に近い新膀胱形成による良好な蓄尿機能と排尿効率を特徴としている。術後合併症も少なく、早期退院が可能であった。

腎細胞癌に対する腎摘除術、上部尿路癌に対する腎尿管全摘術においても、ロボット支援下手術を積極的に導入し、多数の症例を経験した。特に腎尿管全摘術では体位変換が不要となり、手術時間の大幅な短縮につながった。

腎盂尿管移行部狭窄症に対しては、ロボット支援下腎盂形成術を開始した。いずれの症例も大きな合併症なく、良好な経過を得ている。

3D 腹腔鏡システム導入から4年が経過し、副腎腫瘍、腎細胞癌、腎盂尿管癌に対する腹腔鏡下手術を行っている。3D 腹腔鏡は良好な視野を提供し、安全性の向上と合併症の低減に寄与している。現在は3名の腹腔鏡技術認定医のもとで手術を行っている。

下大静脈に進展する腎細胞癌に対しては開腹による根治的腎摘除術を施行している。一方、4 cm 以下の小径腎癌に対しては、ロボット支援下腎部分切除術を積極的に行い、良好な治療成績を得ている。

転移性腎癌および尿路上皮癌に対しては、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬による薬物療法を積極的に実施している。

前立腺肥大症に対しては、HoLEP、水蒸気治療、尿道吊り上げ術、TURis-P など複数の術式に対応しており、患者ごとの病態に応じた最適な治療を選択している。

経尿道的尿管結石破碎術では、細径尿管鏡とホルミウムヤグレーザーを用いて結石破碎を行っている。硬性尿管鏡に加えて軟性尿管鏡も併用することで、腎結石を含めた幅広い症例に対応している。これにより、手術時間の短縮と碎石率の向上が得られている。また、破碎した結石は可能な限り回収し、体外へ摘出している。

大きな腎結石に対しては経皮的腎碎石術を施行している。尿管にオクルージョンカテーテルを留置することで、碎石効率の向上を図っている。

診療実績

【腹腔鏡・ロボット手術】

腹腔鏡下副腎摘除術	5 例
腹腔鏡下腎摘除術	5 例
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	8 例
ロボット支援下腎部分切除術	9 例
ロボット支援下腎摘除術	3 例
ロボット支援下腎尿管全摘術	4 例
ロボット支援下腎盂形成術	2 例
ロボット支援下膀胱全摘除術（回腸導管、もしくは新膀胱造設）	5 例
ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘徐	58 例

【開腹手術】

根治的腎摘除術	4 例
腎部分切除術	0 例
腎尿管全摘除術	0 例
膀胱全摘除術	1 例
膀胱腫瘍根治術	1 例
前立腺全摘除術	0 例
高位精巣摘除	7 例
陰嚢水腫根治術	5 例
精液瘤根治術	2 例

【内視鏡手術】

TUR-BT	127 例
TUR-P	3 例
HoLEP	16 例
前立腺水蒸気治療	11 例
前立腺吊り上げ術	14 例
TUL	109 例
PNL	2 例
ESWL	11 例
腎嚢・尿管ステント留置	多数

次年度目標

- ロボット手術件数を増加させる。
- ロボット支援下仙骨腫固定術を開始する。
- PNL 手術を増加させる。
- ECIRS を開始する。
- 腹腔鏡手術およびロボット手術の認定医、プロクターを増やす。

研究・教育活動

【医学部 M4 授業】

藤田和彦 尿路感染症、泌尿器救急、外傷
清水史孝 泌尿器科腫瘍の疫学、副腎腫瘍

【保健看護学部 授業】

清水史孝 ロボット手術の世界
中島晶子 泌尿器総論
中島晶子 泌尿器非腫瘍性疾患
中島晶子 泌尿器腫瘍性疾患

2025 年度 業績

【英文原著】

1. Nagaya N, Hokota K, Hirose K, Yanai J, Morino J, Nagashima Y, Nakajima A, Fujita K, Horie S. Multidisciplinary therapy targeting histological heterogeneity in prostate cancer with bone marrow carcinomatosis: A case report. Urol Case Rep. 2025 Oct 11;63:103245. doi: 10.1016/j.eucr.2025.103245. eCollection 2025 Nov.
2. Isobe H, Shimizu F, Ieda T, and Horie S. Comparison of BCG Tokyo172 Strain Induction Therapy Between Low Dose and Standard Dose for Non-Muscle Invasive Bladder Cancer: Intravesical Instillation of BCG Tokyo172 Strain. Biomedicines 2025, 13, 174
3. Kitamura K, Miyoshi Y, Ieda T, China T, Shimizu F, Horie S, Muto S. Impact of the Enhanced Recovery After Surgery Protocol on the Perioperative Outcomes of Robot-Assisted Radical Cystectomy. J Clin Med. 2025 Apr 29;14(9):3082. doi: 10.3390/jcm14093082.
4. Shimizu F, Muto S, Kitamura K, Kimura T, China T, Horie S. Totally intracorporeal ileal neobladder following robot-assisted radical cystectomy in male patients using the Juntendo technique: Initial experience. Investig Clin Urol.2025 Jul;66(4):320-328.
5. Jin Y, Ide H, Nagata M, Kobayashi T, Lu J, Ikehata Y, Shimizu F, Lu Y, Horie S. Pre-treatment monocytic myeloid-derived suppressor cells as predictive biomarkers for immune checkpoint inhibitor response in clear cell renal cell carcinoma. Front Immunol. 2025 Aug 21;16:1641383. doi: 10.3389/fimmu.2025.1641383. eCollection 2025.PMID: 40918141
6. Kitamura H, Kobayashi T, Shimizu F, et al. JAVEMACS: a real-world study of avelumab maintenance therapy for advanced urothelial carcinoma in Japan. ESMO Real World Data and Digital Oncology. 2025 Vol. 10. DOI: 10.1016/j.esmorw.2025.100646
7. Ikeda M, K. Fujimoto K, Shimizu F, et al. A Multicenter Retrospective Study of Avelumab First-Line Maintenance and Subsequent Therapies for Locally Advanced and Metastatic Urothelial Carcinoma: Subgroup Analysis of First-Line Dose-Dense Methotrexate, Vinblastine, Doxorubicin, and Cisplatin, and Gemcitabine Plus Cisplatin in the Japan AVELumab MAintenance and Continuous Treatment Study (JAVEMACS). Current Oncology. 2025 Vol. 32 Issue 11 DOI: 10.3390/curroncol32110618

【和文著書】

1. 清水 史孝, 堀江 重郎: 膀胱がん. 先進医療 NAVIGATOR 日本と海外のがん治療. 日本医学出版 2025; 85-89

【学会発表（国際）】

1. Totally Intracorporeal Ileal Neobladder Following Robot-assisted Radical Cystectomy for Male Patients via the Juntendo Technique: Initial experience
Fumitaka Shimizu, Satoru Muto, Kosuke Kitamura, Tomoki Kimura, Toshiyuki China, Shigeo Horie. 22nd Meeting of the EAU Robotic Urology Section 10th September 2025. London
2. JAVEMACS chart review study of avelumab maintenance therapy for advanced urothelial carcinoma (aUC) in Japan: subgroup analyses based on histological subtype. H.Kitamura, T Kobayashi, S.Shirotake, M.Ikeda, K. Yonemori, N. Kawamura, A. Fujihara, F.Shimizu, T.Nakagawa, K. Murakami, K. Nishihara, N. Masumori, K. Fujita, H. Miyake, T.Negishi, M.Kobayashi, R.Taoka, M.Shono, G.Kimura, E. Kikuchi; ESMO-Asia. 6th December 2025, Singapore
3. Real-world effectiveness and treatment patterns in patients with locally advanced/metastatic urothelial carcinoma receiving avelumab first-line maintenance in Japan: results from the JAVEMACS chart review study. H.Kitamura, T.Kobayashi, G.Kimura, M Ikeda, K.Yonemori, N.Kawamura, A.Fujihara, T.Abe, F.Shimizu, K.Fujimoto, T.Nakagawa, S.Hatakeyama, K.Murakami, K.Nishihara, D.Ikarashi, N.Masumori, A.Kambe, M.Shono, S.Shirotake, E.Kikuchi. ASCO Genitourinary Cancers Symposium. 14th February 2025, San Francisco

【学会発表（国内）】

1. Treatment chart of emphysematous pyelonephritis from the experience of 30 cases
Kazuhiko Fujita, Akiko Nakajima, Naoya Nagaya, Yuki Nagashima, Junki Morino, Junro Yanai, Shigeo Horie 第 112 回日本泌尿器科学会総会 2025.4. 17. 福岡
2. 膀胱 Inflammatory myofibroblastic tumor に対し膀胱部分切除術及び尿管膀胱吻合術を施行した 1 例
廣瀬 華穂, 境 拓海, 新田 温生, 野波 隆寛, 永島 優生, 中島 晶子, 清水 史孝, 藤田 和彦, 堀江 重郎 第 90 回日本泌尿器科学会東部総会 2025.10.24 前橋
3. レンバチニブ + ペンブロリズマブで治療した腎細胞癌、脾臓転移の 2 例
藤田 和彦、長屋 直哉、成田周一郎、森野 純貴、永島 優生、廣瀬 華穂、中島 晶子、清水 史孝、堀江 重郎 第 90 回日本泌尿器科学会東部総会 2025.10.25 前橋
4. 当院における腎血管筋脂肪腫に対する経動脈的塞栓術の治療成績と予後に関する検討
廣瀬華穂, 境拓海, 新田温生, 野波隆寛, 永島優生, 中島晶子, 清水史孝, 藤田和彦, 堀江 重郎 第 75 回日本泌尿器科学会中部総会 2025.11.8 神戸
5. 当院で経験した気腫性膀胱炎 18 例の検討
藤田 和彦、境拓海、新田温生、野波隆寛、廣瀬 華穂、永島優生、中島晶子、長屋直哉、清水史孝、堀江 重郎 第 75 回日本泌尿器科学会中部総会 2025.11.8 神戸
6. 腎盂原発の内分泌細胞癌の一例
中島 晶子, 境 拓海, 新田 温生, 廣瀬 華穂, 野波 隆寛, 永島 優生, 清水 史孝, 藤田 和彦, 堀江 重郎 第 77 回西日本泌尿器科学会総会 2025.11.14 高知
7. 金属リングによる陰茎絞扼症発症した 3 症例
野波 隆寛, 境 拓海, 新田 温生, 廣瀬 華穂, 永島 優生, 中島 晶子, 清水 史孝, 藤田 和彦 第 77 回西日本泌尿器科学会総会 2025.11.15 高知

8. 根治切除不能な尿路上皮癌におけるアベルマブ維持療法の多施設共同研究(JAVEMACS)

小林 恭, 北村 寛, 木村 剛, 池田 勝臣, 米盛 勲, 川村 憲彦, 藤原 敦子, 安部 崇重, 清水 史孝, 藤本 清秀, 中川 徹, 畠山 真吾, 村上 薫, 西原 聖顕, 五十嵐 大樹, 舩森 直哉, 神戸 杏, 荘野 道宏, 城武 卓, 菊地 栄次 第 63 回日本癌治療学会総会 2025.10 横浜

9. 男性更年期症状を有するロボット支援前立腺全摘術後尿失禁患者に対するテストステロン補充は骨盤底筋体積と尿失禁量を改善する

田中 康就, 清水 史孝, 小林 拓郎, アブドラザクアブラティ, ミリアムディアバングアヤ, 知名 俊幸, 井手 久満, 田村 好史, 堀江 重郎 第 25 回日本抗加齢医学会総会 2025.6.14 大阪

10. 順天堂式ロボット支援下完全体腔内新膀胱造設術：球形の新膀胱構築を目指して

清水史孝, 武藤智, 北村香介, 木村僚喜, 知名俊幸, 藤田和彦, 堀江重郎

第 39 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 2025.10.30 東京

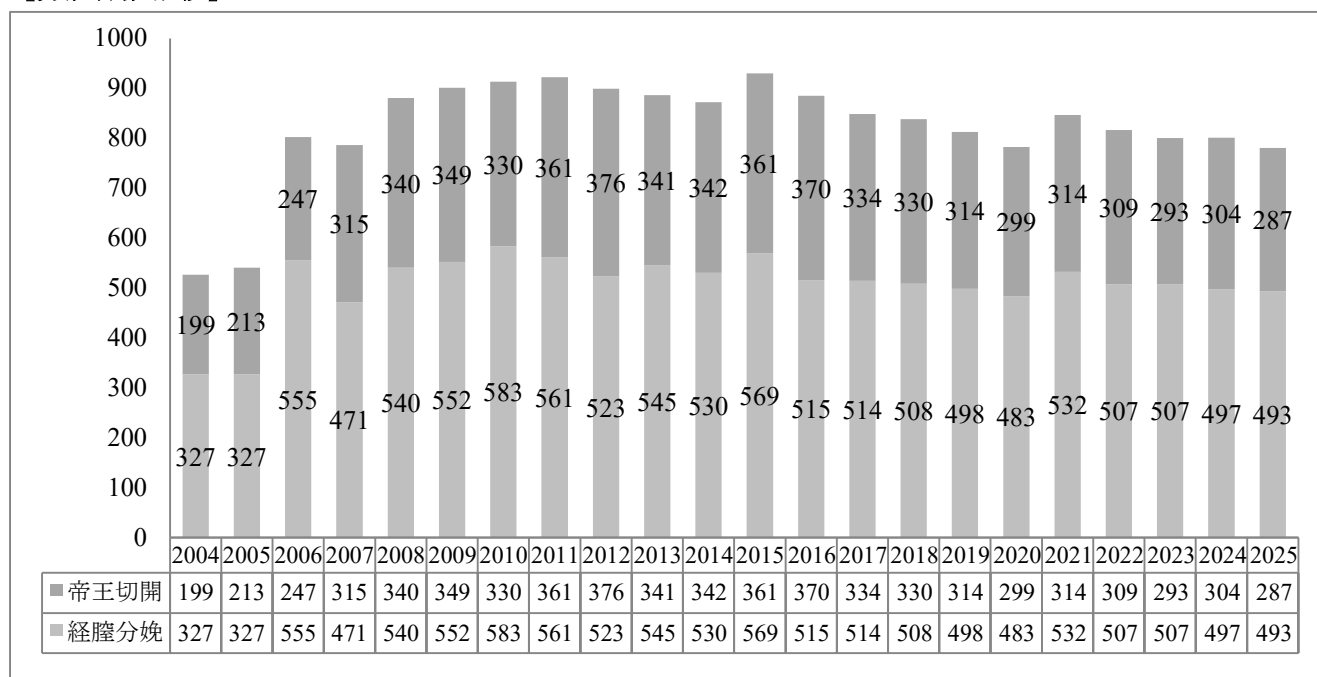
2-24 産婦人科・総合周産期母子医療センター

診療実績

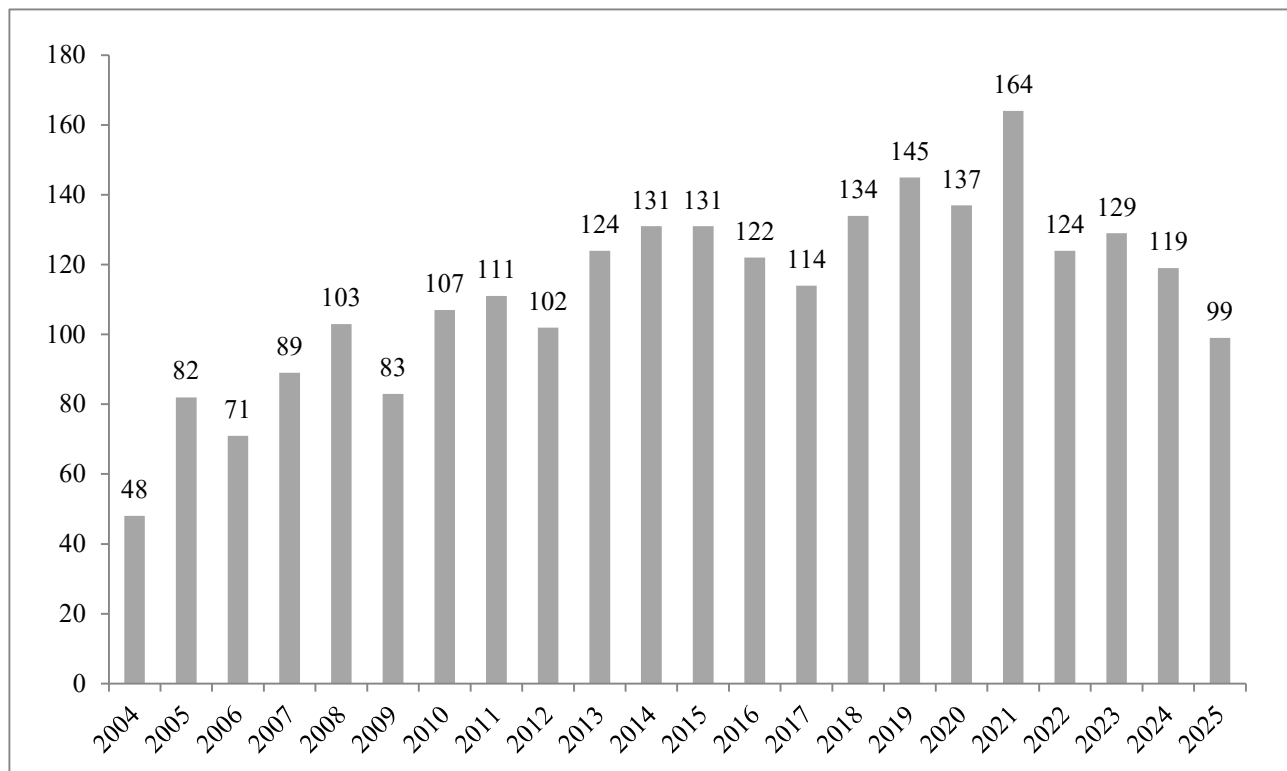
【手術件数】

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
腹腔鏡 ＋ ロボット手術	卵巣	59	65	83	79	80	90	100	79	96	121	115
	子宮	1	0	1	1	0	0	0	0	9	20	35
	異所性妊娠	12	21	15	26	11	16	16	24	20	30	20
	その他	1	0	0	0	2	3	0	0	1	2	2
開腹手術	帝王切開術	361	370	334	330	314	299	314	309	293	304	292
	良性	199	309	341	265	229	172	141	198	177	152	154
	悪性	88	78	72	70	68	72	73	63	62	63	81
悪性手術内訳	子宮頸癌	20	15	5	12	6	7	11	18	10	14	11
	子宮体癌	39	36	39	32	29	26	27	19	27	30	29
	卵巣癌	20	25	23	25	28	37	29	23	17	16	36
	その他	9	2	5	1	5	2	6	3	8	3	5
腔式手術	円錐切除	16	36	34	30	30	24	41	37	31	32	39
	頸管縫縮術	13	14	16	21	8	3	14	13	14	6	11
	子宮脱根治術	5	13	9	9	6	7	9	13	12	11	13
	膣閉鎖術	14	24	10	9	4	1	5	3	6	2	1
	その他	9	8	13	8	9	13	20	9	9	11	6
合計		859	937	928	848	753	695	733	748	730	752	777

【分娩件数推移】



【母体搬送数推移】



研究・教育活動

【英文原著】

1. Asako Kumagai, Yusen Sugimura, Satomi Tanaka, Shotaro Yata, Hiroshi Kaneda, Toshitaka Tanaka, Three cases of pregnancies complicated with myotonic dystrophy type 1, J Obstet Gynaecol Res. 2025 Aug; 51(8): e70053.

【和文著書】

1. 【産婦人科医療の偏在化にどう立ち向かうか？-持続可能な医療体制を目指して】地域の現状 地方の分娩患者受け入れ施設としての対策 静岡県東部地域の現状から考える
田中利隆
産婦人科の実際, 2026.01; 75: 37-41

【学会発表（国内）】

1. 子宮筋腫・子宮内膜症に対しレルゴリクス、ジエノゲスト使用症例の臨床的検討
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
柳原康穂
第3回 Shizuoka gynecological research conference for pharmacotherapy and surgical treatment, 静岡, 2025.4.12
2. リトドリン塩酸塩投与母体から出生した仔マウスの喘息発症リスク
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中里美, 田中利隆
第77回日本産科婦人科学会学術講演会, 岡山, 2025.5.24
3. 当院で手術を行った卵巣妊娠 14 例の検討（卵管妊娠 155 例との比較）

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田嶋俊彬, 田中利隆, 佐々木徹, 岩井志満, 切替麻以子, 大塚早織, 杉村有泉, 塚本博幸, 平沼賢悟, 田中里美, 矢田昌太郎, 金田容秀

第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2024.4.19~4.21

4. 当院で過去 5 年間に経験した肩甲難産 23 例の検討

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

塚本博幸, 田中里美, 切替麻以子, 中西愛澄香, 大塚早織, 田嶋俊彬, 柳原康穂, 平沼健悟, 矢田昌太郎, 金田容秀, 田中利隆

令和 7 年度静岡産婦人科学会春季学術集会, 静岡, 2024.4.29

5. 当院における若年女性の妊娠に関する後方視的検討

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

佐々木徹, 矢田昌太郎, 加藤夏海, 筒井元海, 熊谷早織, 田嶋俊彬, 塚本博幸, 平山貴士, 田中里美, 金田容秀, 田中利隆

第 149 回関東連合産科婦人科学会 学術集会, 東京, 2025.6.14

6. 当院における妊娠 34 週未満に出生した胎児発育不全の検討

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中里美, 佐々木徹, 切替麻以子, 中西愛澄香, 大塚早織, 田嶋俊彬, 塚本博幸, 柳原康穂, 平沼賢悟, 矢田昌太郎, 金田容秀, 田中利隆.

第 61 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 大阪, 2025.7.13

7. 高齢・低 BMI 患者の腹腔鏡下手術において急速進行性に皮下気腫を引き起こした 1 例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中利隆, 柳原康穂, 加藤夏海, 熊谷早織, 佐々木徹, 筒井元海, 中西愛澄香, 田嶋俊彬, 塚本博幸, 矢田昌太郎, 田中里美, 金田容秀

第 65 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 鹿児島, 2025.9.19

8. 切迫早産に対する母体管理の変遷と現在の治療戦略

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中利隆

第 55 回静岡県東部周産期研究会, 静岡, 2025.9.25

9. 「お母さん」と呼ばれたくない妊婦さん; 私たちに何ができるか?

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

筒井元海, 平山貴士, 加藤夏海, 熊谷早織, 佐々木徹, 田嶋俊彬, 塚本博幸, 矢田昌太郎, 田中里美, 金田容秀, 田中利隆

第 51 回静岡県周産期新生児研究会, 静岡, 2025.9.27

10. 妊娠高血圧腎症における胎児発育不全の有無による母児予後の比較検討

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

中西愛澄香, 田中利隆, 加藤夏海, 熊谷早織, 筒井元海, 佐々木徹, 田嶋俊彬, 塚本博幸, 平山貴士, 田中里美, 矢田昌太郎, 金田容秀

第 45 回妊娠高血圧学会学術集会, 東京, 2025.10.19

11. 大動脈バルーン閉塞 (IABO) 後・血管攣縮により下肢動脈血栓を生じた前置癒着胎盤の 1 例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

加藤夏海, 田中里美, 熊谷早織, 佐々木徹, 筒井元海, 田嶋俊彬, 塚本博幸, 矢田昌太郎, 平山貴士,
金田容秀, 田中利隆

令和 7 年度静岡産婦人科学会秋季学術集会, 浜松, 2025.11.30

12. 周産期における母体の栄養管理 -貧血とビタミン D を中心に-

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中里美

第 56 回東部周産期研究会, 静岡, 2025.2.26

13. 胎児超音波検査における Elongated Duodenum 所見が Windsock 型十二指腸狭窄症を示唆した一例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中里美, 矢田夏海, 熊谷早織, 筒井元海, 田嶋俊彬, 塚本博幸, 鶴野しほり, 平山貴士,

矢田昌太郎, 金田容秀, 田中利隆

第 5 回日本産婦人科超音波学会学術集会, 東京, 2026.3.15

【講演会】

1. 子宮体癌薬物治療の 1st line 治療を患者さんの視点から再考する～リンパ浮腫にまつわる update を添えて～

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

平山貴士

MSD 主催ウェビナー, 2025.10.28

2. CART の新たな取り組み

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

平山貴士

旭化成メディカル主催ウェビナー, 2025.11.28

3. いのちを考える時間 ～ことばの力～

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

平山貴士

静岡県学校保健委員会, 稲取中学校, 2025.12.16

4. 切迫早産に対する母体管理の変遷と現在の治療戦略

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中利隆

第 16 回羽衣セミナー, 静岡, 2026.2.11

5. 子宮筋腫治療のいま -薬物療法を中心に-

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中利隆

三島市薬剤師会学術講演会, 三島, 2026.2.18

6. 『静岡県の遺伝医療の現状と課題への取り組み』

先進的専門医療が直面する医療偏在化への課題

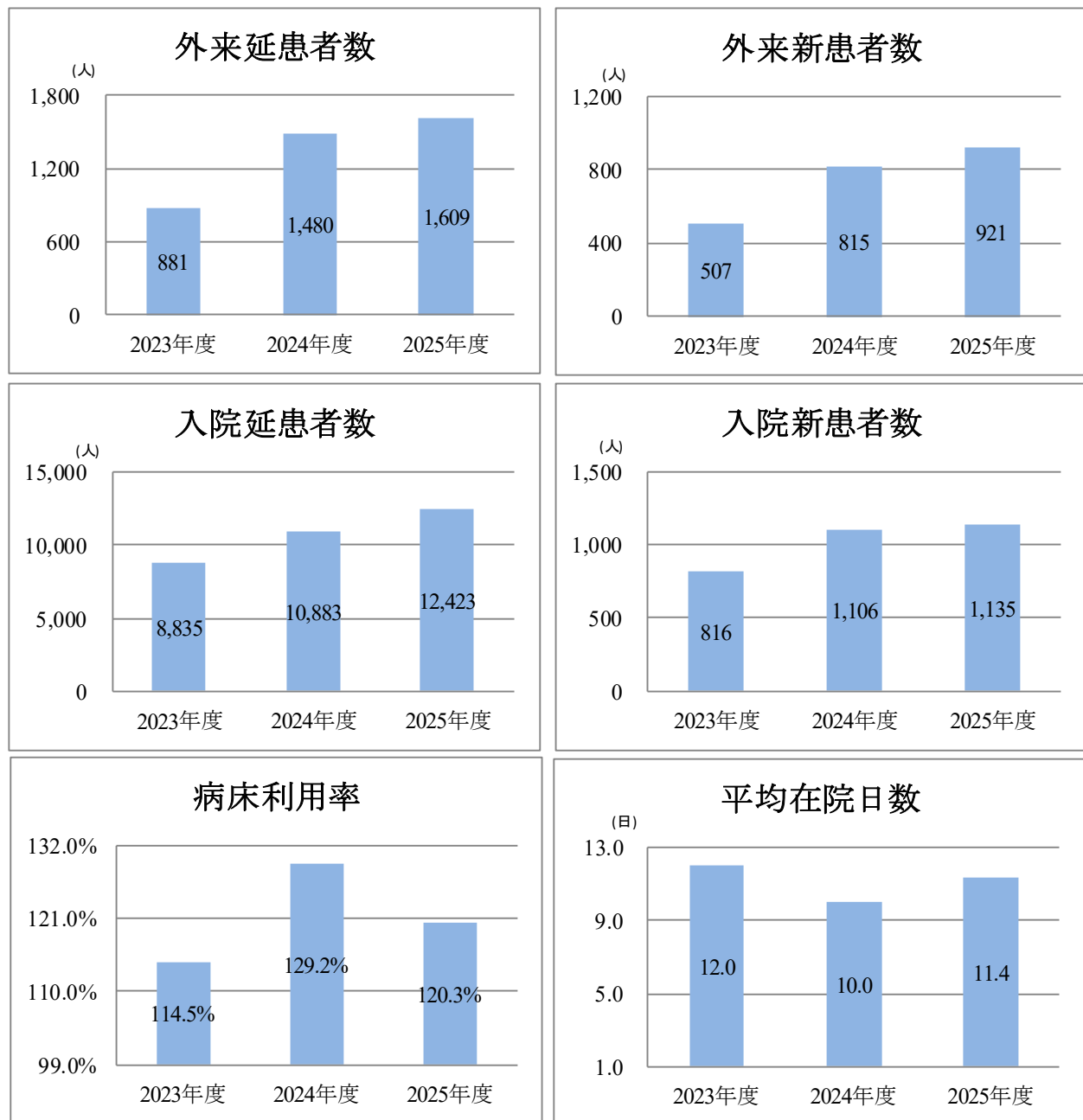
順天堂大学医学部附属静岡病院

田中利隆

シンポジウム「遺伝医療の新たな連携システム構築」, 静岡, 2025.2.20

2-25 救急診療科

診療実績



【英文原著】

1. Yanagawa Y, Nagasawa H, Maekawa C, Tanaka N, Hamada M, Ota S, Ohsaka H, Omori K. Outcomes of Patients with Aortic Diseases Treated by Antiemetic Drug, Who Were Transported by a Physician-staffed Helicopter in Japan. *J Emerg Trauma Shock*. 2025 Oct-Dec;18(4):151-154.
2. Mishima S, Shimizu K, Igai H, Okada I, Takiguchi T, Aoki M, Yanagawa Y, Saito D, Suzuki K, Okada M, Chida M, Yoshino I. Prognostic Impact of Cardiovascular Injuries for Patients with Respiratory Isolated Chest Trauma. *Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg*. 2025 Nov 6;40(11):ivaf266.
3. Mashiko K, Okada K, Hara Y, Takayama H, Nakagawa Y, Kobayashi M, Tsuchiya A, Hayakawa T, Noda T, Ito K, Endo H, Suda T, Yanagawa Y, Kato S, Yamamori Y, Kanemaru K, Yonemori T, Yokobori S. Effects of a Physician-Staffed Helicopter Emergency Medical Service on Cerebral Infarction Outcomes: A Registry-Based Observational Study. *J Nippon Med Sch*. 2025;92(5):391-398.
4. Yanagawa Y, Nagasawa H, Maekawa C, Tanaka N, Ota S, Ohsaka H, Omori K. Outcomes of patients with unstable circulation transported by a physician-staffed helicopter using the keyword method in Japan. *J Rural Med*. 2025 Oct;20(4):276-281.
5. Igai H, Shimizu K, Mishima S, Okada I, Takiguchi T, Aoki M, Yanagawa Y, Saito D, Suzuki K, Okada M, Chida M, Yoshino I. Trends in isolated chest trauma in Japan: a 15-year analysis using the Japan Trauma Data Bank. *J Thorac Dis*. 2025 Aug 31;17(8):5734-5743.
6. Singh YS, Ogita M, Suwa S, Nishizaki Y, Yanagawa Y. Clinical impact of physician-staffed helicopter transport in patients with cardiogenic shock complicating acute coronary syndrome. *Eur J Emerg Med*. 2025 Oct 1;32(5):380-381.
7. Yanagawa Y, Maekawa C, Tanaka N, Suda N, Hirooka Y, Kawai K, Hamada M, Taniguchi H. Clinical Outcomes of Patients Experiencing Seizures Treated With Antiemetic Drugs During Transport by Physician-Staffed Helicopters in Japan. *Air Med J*. 2025 Sep-Oct;44(5):390-393.
8. Yanagawa Y, Tanaka N, Maekawa C, Nagatake Y, Tashiro A, Kato M, Tokutsu R, Ota S, Ohsaka H, Nagasawa H, Omori K. Analysis of Disease-Specific Outcomes According to Time of Doctor Helicopter Dispatch Request. *Air Med J*. 2025 Sep-Oct;44(5):354-359.
9. Yanagawa Y, Taniguchi H, Maekawa C, Tanaka N, Kawai K, Hamada M, Ota S, Nagasawa H. Analysis of Cases of Mild Head Trauma Resulting in Fatal Outcome from the Doctor Helicopter Registry Data. *J Emerg Trauma Shock*. 2025 Apr-Jun;18(2):53-55.
10. Tamura T, Narumiya H, Homma K, Sano M, Suzuki M, Iizuka R, Narimiya H, Tsuruta R, Kaneda K, Fujita M, Sasaki J, Akasaka O, Sawai K, Nozaki M, Imai H, Ishikura K, Ikejiri K, Kakihana Y, Niiyama S, Futatsuki T, Honda M, Ikeda Y, Oka H, Yoshihara H, Onishi H, Yamashita S, Shimizu K, Sakurai T, Yamada S, Fukami H, Shime N, Suzuki K, Kuroda Y, Kawakita K, Kimura A, Uemura T, Takuma K, Kanao K, Yanagawa Y, Takeuchi I; Efficacy of Inhaled Hydrogen on Neurologic Outcome Following Brain Ischemia During PostCardiac Arrest

- Care (HYBRID II) Study Group. The authors reply. *Crit Care Med.* 2025 Jul 1;53(7):e1516-e1517.
11. Endo A, Yamakawa K, Tagami T, Umemura Y, Wada T, Yamamoto R, Nagasawa H, Takayama W, Yagi M, Takahashi K, Kojima M, Narita C, Kazuma S, Takahashi J, Shiraishi A, Todani M, Nakane M, Nagata T, Tanaka S, Yokokawa Y, Takahashi K, Ishikita H, Hisamune R, Sasaki J, Muramatsu KI, Sonobe H, Minami K, Hoshi H, Otomo Y; OPTPRESS trial investigators. Efficacy of targeting high mean arterial pressure for older patients with septic shock (OPTPRESS): a multicentre, pragmatic, open-label, randomised controlled trial. *Intensive Care Med.* 2025 May;51(5):883-892.
 12. Yanagawa Y, Maekawa C, Tanaka N, Suda N, Kawai K, Hamada M, Ota S. Clinical significance of C-reactive protein in patients with severe fever with thrombocytopenia syndrome. *J Rural Med.* 2025 Apr;20(2):66-70.
 13. Ota S, Nagasawa H, Taniguchi H, Sakai T, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Impact of heart rate on the outcome of hypothermic patients. *J Rural Med.* 2025 Apr;20(2):88-91.
 14. Taniguchi H, Nagasawa H, Yanagawa Y. Patients With Suffocation Treated by a Physician-Staffed Helicopter in Japan From 2015 to 2020. *Air Med J.* 2025 Mar-Apr;44(2):125.
 15. Maekawa C, Nagasawa H, Tanaka N, Kawai K, Hamada M, Ota S, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Patients With Anaphylaxis Transported by a Physician-Staffed Helicopter Using the Keyword Method. *Air Med J.* 2025 Jan-Feb;44(1):70-72.
 16. Yanagawa Y, Maekawa C, Tanaka N, Kawai K, Hamada M, Ota S, Ohsaka H, Nagasawa H, Omori K. Association Between Medical Interventions by Doctor Helicopters and Outcomes in Inflammatory Diseases Using a Doctor Helicopter Registry. *Air Med J.* 2025 Jan-Feb;44(1):56-59.
 17. Tamura T, Narumiya H, Homma K, Sano M, Suzuki M, Iizuka R, Tsuruta R, Kaneda K, Fujita M, Sasaki J, Akasaka O, Sawai K, Nozaki M, Imai H, Ishikura K, Ikejiri K, Kakihana Y, Niiyama S, Futatsuki T, Honda M, Ikeda Y, Oka H, Yoshihara H, Onishi H, Yamashita S, Shimizu K, Sakurai T, Yamada S, Fukami H, Shime N, Suzuki K, Kuroda Y, Kawakita K, Kimura A, Uemura T, Takuma K, Kanao K, Yanagawa Y, Takeuchi I; Efficacy of Inhaled Hydrogen on Neurologic Outcome Following Brain Ischemia During Post-Cardiac Arrest Care (HYBRID) II Study Group. The authors reply. *Crit Care Med.* 2025 Jan 1;53(1):e229-e230.
 18. Tamura T, Narumiya H, Homma K, Suzuki M, Iizuka R, Tsuruta R, Kaneda K, Fujita M, Sasaki J, Akasaka O, Sawai K, Nozaki M, Imai H, Ishikura K, Ikejiri K, Kakihana Y, Niiyama S, Futatsuki T, Honda M, Ikeda Y, Oka H, Yoshihara H, Onishi H, Yamashita S, Shimizu K, Sakurai T, Yamada S, Fukami H, Shime N, Suzuki K, Kuroda Y, Kawakita K, Kimura A, Uemura T, Takuma K, Kanao K, Yanagawa Y, Takeuchi I; Efficacy of Inhaled Hydrogen on Neurologic Outcome Following Brain Ischemia During PostCardiac Arrest Care (HYBRID) II Study Group. The authors reply. *Crit Care Med.* 2025 Jan 1;53(1):e221-e222.
 19. Sakai T, Yanagawa Y, Ito H. The Importance of Source Control in the Treatment of Infections in Elderly Patients Aged 80 and Above. *JEM Reports* 2025;4(1):100151.

20. Omori K, Takahashi J, Watanabe N, Iwasaki H, Mineyama S, Sakata K, Yamada K, Ichikawa S, Takamatsu M, Ogino R, Hayakawa T. Effectiveness of a new basic course incorporating medical trainer simulator for HEMS education in Japan: a pre-post intervention study. *BMC Med Educ.* 2025;25(1):477.
21. Omori K. Helicopter emergency medical services in Japan: past, present, and future perspectives. *J Acute Med.* 2025;15(2):66-69.
22. Omori K, Vulliamy P, Aylwin C, Nagasawa H, Kan S, Takahashi J, Yamada N, Davenport R. Comparative analysis of emergency medical systems in the UK and Japan: recommendations for Japan based on on-site observations in the UK. *Int J Emerg Med.* 2025 Aug 20;18:155.
23. Yumoto T, Obara T, Hongo T, Iida A, Tsukahara K, Katsura M, Kondo Y, Yasuda H, Kushimoto S, Yorifuji T, Naito H, Nakao A; SHIPPs Study Group: Omori K, et al. Age-specific assessment of initial hemoglobin levels and shock index for predicting life-saving interventions in pediatric blunt liver and spleen injuries. *Sci Rep.* 2025;15(1):8502
24. Shime N, Nakada TA, Yatabe T, Yamakawa K, Aoki Y, Inoue S, Iba T, Ogura H, Kawai Y, Kawaguchi A, Kawasaki T, Kondo Y, Sakuraya M, Taito S, Doi K, Hashimoto H, Hara Y, Fukuda T, Matsushima A, Egi M, Kushimoto S, Oami T, Kikutani K, Kotani Y, Aikawa G, Aoki M, Akatsuka M, Asai H, Abe T, Amemiya Y, Ishizawa R, Ishihara T, Ishimaru T, Itosu Y, Inoue H, Imahase H, Imura H, Iwasaki N, Ushio N, Uchida M, Uchi M, Umegaki T, Umemura Y, Endo A, Oi M, Ouchi A, Osawa I, Oshima Y, Ota K, Ohno T, Okada Y, Okano H, Ogawa Y, Kashiura M, Kasugai D, Kano KI, Kamidani R, Kawauchi A, Kawakami S, Kawakami D, Kawamura Y, Kandori K, Kishihara Y, Kimura S, Kubo K, Kuribara T, Koami H, Koba S, Sato T, Sato R, Sawada Y, Shida H, Shimada T, Shimizu M, Shimizu K, Shiraishi T, Shinkai T, Tampo A, Sugiura G, Sugimoto K, Sugimoto H, Suhara T, Sekino M, Sonota K, Taito M, Takahashi N, Takeshita J, Takeda C, Tatsuno J, Tanaka A, Tani M, Tanikawa A, Chen H, Tsuchida T, Tsutsumi Y, Tsunemitsu T, Deguchi R, Tetsuhara K, Terayama T, Togami Y, Totoki T, Tomoda Y, Nakao S, Nagasawa H, Nakatani Y, Nakanishi N, Nishioka N, Nishikimi M, Noguchi S, Nonami S, Nomura O, Hashimoto K, Hatakeyama J, Hamai Y, Hikone M, Hisamune R, Hirose T, Fuke R, Fujii R, Fujie N, Fujinaga J, Fujinami Y, Fujiwara S, Funakoshi H, Homma K, Makino Y, Matsuura H, Matsuoka A, Matsuoka T, Matsumura Y, Mizuno A, Miyamoto S, Miyoshi Y, Murata S, Murata T, Yakushiji H, Yasuo S, Yamada K, Yamada H, Yamamoto R, Yamamoto R, Yumoto T, Yoshida Y, Yoshihiro S, Yoshimura S, Yoshimura J, Yonekura H, Wakabayashi Y, Wada T, Watanabe S, Ijiri A, Ugata K, Uda S, Onodera R, Takahashi M, Nakajima S, Honda J, Matsumoto T. The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2024. *Acute Med Surg.* 2025 Feb 24;12(1):e70037. doi: 10.1002/ams2.70037.
25. Shime N, Nakada TA, Yatabe T, Yamakawa K, Aoki Y, Inoue S, Iba T, Ogura H, Kawai Y, Kawaguchi A, Kawasaki T, Kondo Y, Sakuraya M, Taito S, Doi K, Hashimoto H, Hara Y, Fukuda T, Matsushima A, Egi M, Kushimoto S, Oami T, Kikutani K, Kotani Y, Aikawa G, Aoki M, Akatsuka M, Asai H, Abe T, Amemiya Y, Ishizawa R, Ishihara T, Ishimaru T, Itosu Y, Inoue H, Imahase H, Imura H, Iwasaki N, Ushio N, Uchida M, Uchi M, Umegaki T, Umemura Y, Endo A, Oi M, Ouchi A, Osawa I, Oshima Y, Ota K, Ohno T, Okada Y, Okano H, Ogawa Y, Kashiura M,

Kasugai D, Kano KI, Kamidani R, Kawauchi A, Kawakami S, Kawakami D, Kawamura Y, Kandori K, Kishihara Y, Kimura S, Kubo K, Kuribara T, Koami H, Koba S, Sato T, Sato R, Sawada Y, Shida H, Shimada T, Shimizu M, Shimizu K, Shiraishi T, Shinkai T, Tampo A, Sugiura G, Sugimoto K, Sugimoto H, Suhara T, Sekino M, Sonota K, Taito M, Takahashi N, Takeshita J, Takeda C, Tatsuno J, Tanaka A, Tani M, Tanikawa A, Chen H, Tsuchida T, Tsutsumi Y, Tsunemitsu T, Deguchi R, Tetsuhara K, Terayama T, Togami Y, Totoki T, Tomoda Y, Nakao S, Nagasawa H, Nakatani Y, Nakanishi N, Nishioka N, Nishikimi M, Noguchi S, Nonami S, Nomura O, Hashimoto K, Hatakeyama J, Hamai Y, Hikone M, Hisamune R, Hirose T, Fuke R, Fujii R, Fujie N, Fujinaga J, Fujinami Y, Fujiwara S, Funakoshi H, Homma K, Makino Y, Matsuura H, Matsuoka A, Matsuoka T, Matsumura Y, Mizuno A, Miyamoto S, Miyoshi Y, Murata S, Murata T, Yakushiji H, Yasuo S, Yamada K, Yamada H, Yamamoto R, Yamamoto R, Yumoto T, Yoshida Y, Yoshihiro S, Yoshimura S, Yoshimura J, Yonekura H, Wakabayashi Y, Wada T, Watanabe S, Ijiri A, Ugata K, Uda S, Onodera R, Takahashi M, Nakajima S, Honda J, Matsumoto T. The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2024. *J Intensive Care*. 2025 Mar 14;13(1):15. doi: 10.1186/s40560-025-00776-0.

【和文原著】

1. 大森一彦 外傷性 DIC の最新知見 病態,診断,治療戦略. 救急・集中治療. 総合医学社 2025; 37(3): 472-478.

【学会発表 (国際)】

1. Yanagawa Y, Maekawa C, Tanaka N, Suda N, Kawai K, Hamada M, Nagasawa H, Ohsaka H, Omori K. Clinical significance of CRP in patients with severe fever with thrombocytopenia syndrome. XIIIth Mediterranean Emergency Medicine Congress 2025 Congress. August 14th - 17th, 2025. Semmelweis University Hungary.
2. Hirooka Y, Yanagawa Y, Maekawa C, Nagasawa H, Tanaka N, Suda N, Kawai K, Hamada M, Ota S, Taniguchi H, Omori K, Ohsaka H, Ogita M, Suwa S. Outcomes of patients with acute coronary syndrome treated by antiemetic drug. XIIIth Mediterranean Emergency Medicine Congress 2025 Congress. August 14th - 17th, 2025. Semmelweis University Hungary.
3. Tokutsu R, Nagasawa H, Tanaka N, Maekawa C, Kato M, Ota S, Osaka H, Omori K, Onitsuka M, Kiyozumi T, Yanagawa Y. The usefulness of early CT imaging and blood analysis in cases of cardiopulmonary arrest during diving. European Emergency Medicine Congress 2025 Vienna, Austria 27 Sept -1 Oct.

【学会発表 (国内)】

1. 柳川洋一、田中規子、前川ちひろ、夏目晃輔、廣岡志紀、須田夏実子、濱田通果、河合健司、谷口裕亮、太田宗一郎、長澤宏樹、大坂裕通、大森一彦 ドクターヘリで中毒患者を搬送するか？第 38 回日本中毒学会東日本地方会 学術集会 伊豆長岡総合会館 2025 年 2 月 15 日
2. 大坂裕通、前川ちひろ、田中規子、夏目晃輔、廣岡 志紀、須田夏美子、濱田通果、河合健司、太田宗一郎、谷口裕亮、長澤宏樹、境達郎、大森一彦、柳川 洋一 救急隊が選定した急性薬物中毒患者

が重症外傷だったらどうなるか 第 38 回日本中毒学会東日本地方会 学術集会 伊豆長岡総合会館 2025 年 2 月 15 日

3. 河合健司、前川ちひろ、田中規子、廣岡志紀、濱田通果、太田宗一郎、谷口裕亮、長澤宏樹、境達郎、大坂裕通、大森一彦、柳川洋一、岩澤卓弥 パラコート中毒に対して試薬を購入し確定診断した一例 第 38 回日本中毒学会東日本地方会 学術集会 伊豆長岡総合会館 2025 年 2 月 15 日
4. 柳川洋一 脳神経外科救急と高気圧酸素治療 静岡県東部での減圧症への取り組み ドクターヘリ搬送を中心に 第 30 回日本脳神経外科救急学会 お茶の水ソラシティカンファレンスセンター 2025 年 2 月 6-7 日 *Neurosurgical Emergency* 2025;29(3): 239.
5. 田中規子、長澤宏樹、前川ちひろ、須田夏実子、河合健司、濱田通果、太田宗一郎、大坂裕通、大森一彦、柳川洋一 日本航空医療学会ドクターヘリ全国症例登録システムを用いた脳卒中症例に対する制吐剤使用の影響 第 30 回日本脳神経外科救急学会 お茶の水ソラシティカンファレンスセンター 2025 年 2 月 6-7 日 *Neurosurgical Emergency* 2025;29(3):245
6. 柳川洋一、前川ちひろ、田中規子、濱田通果、河合健司、太田宗一郎、谷口裕亮、長澤宏樹、大坂裕通、大森一彦 ドクターヘリレジストリーを用いた炎症性疾患に対するドクターヘリによる医療介入と転帰との関連. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会. 福岡国際会議場 2025 年 3 月 14-16 日. *日本集中治療医学会雑誌* 2025;32:S528.
7. 沢彩南、長澤宏樹、大坂裕通、大森一彦、柳川洋一. 2024 年に経験した SFTS(重症熱性血小板減少症候群)の 3 例. 第 28 回日本臨床救急医学会総会 パシフィコ横浜 2025 年 6 月 19-21 日 *日本臨床救急医学会雑誌* 2025;28(2):328.
8. 柳川洋一、田代朱香、田中規子、長竹芳紘、加藤万佐史、大坂裕通、得津礼記、太田宗一郎、長澤宏樹、大森一彦 血圧低値症例に対するドクターヘリによる早期病院前診療効果の検討 第 39 回日本 Shock 学会学術集会 グランドヒル市ヶ谷 2025 年 5 月 23-24 日 *日本 Shock 学会雑誌* 2025;39(1):71.
9. 長竹芳紘、柳川洋一、田中規子、前川ちひろ、田代朱香、加藤万佐史、得津礼記、太田宗一郎、大坂裕通、長澤宏樹、大森一彦、中村俊介、中森知毅 交通事故に対するドクターヘリ出動要請時期(救急隊患者接触前後)による転帰調査 第 61 回日本交通科学学会 横浜労災看護専門学校 2025 年 6 月 14-15 日 *日本交通科学学会誌* 2025;25:57.
10. 柳川洋一、長澤宏樹、前川ちひろ、田中規子、須田夏実子、河合健司、濱田通果、太田宗一郎、大坂裕通、大森一彦 ドクターヘリによる頭部外傷に対する病院前での薬剤投与と介入結果の分析 第 39 回日本外傷学会 有明セントラルタワーホール&カンファレンス 2025 年 5 月 15-16 日 *日本外傷学会雑誌* 2025;39(2):248.
11. 前川ちひろ、長澤宏樹、田中規子、須田夏実子、濱田通果、河合健司、太田宗一郎、境達郎、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一 REBOA 使用後に頭蓋内出血の増悪を認めた重症多発外傷の一例. 第 39 回日本外傷学会 有明セントラルタワーホール&カンファレンス 2025 年 5 月 15-16 日 *日本外傷学会雑誌* 2025;39(2):214.
12. 長澤宏樹、前川ちひろ、大森一彦、柳川洋一 輸血を要する外傷患者へのカルバゾクロムスルホン酸とトラネキサム酸の併用投与 第 39 回日本外傷学会 有明セントラルタワーホール&カンファレンス 2025 年 5 月 15-16 日 *日本外傷学会雑誌* 2025;39(2):212.
13. 柳川洋一、田中 規子、前川 ちひろ、長竹 芳紘、田代 朱香、加藤 万佐史、得津 礼記、太田 宗一郎、大坂 裕通、長澤 宏樹、大森 一彦. ドクターヘリ要請時期による疾患群別転帰の分析. 第 53 回

日本救急医学会総会、大阪国際会議場、2025年10月28日-30日、

14. 河合健司、今泉里佳子、古川大起、小野陸央、金岡祐樹、菅原悠斗、清水瑠奈、野村智久、杉田学、柳川洋一、大森一彦 アナフィラキシー診療におけるガイドライン制定前後の比較 ― アドレナリン投与と二相性反応に着目して ― 第53回日本救急医学会総会 大阪国際会議場 2025年10月28日-30日、
15. 寺川理乃、岡本健、森川美樹、柳川洋一、大森一彦、大坂裕通、長澤宏樹 静岡県で経験した重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の一例 第53回日本救急医学会総会 大阪国際会議場 2025年10月28日-30日
16. 大坂裕通、田中規子、前川ちひろ、長竹芳紘、田代朱香、加藤万佐史、得津礼記、濱田通果、太田宗一郎、長澤宏樹、大森一彦、柳川洋一 順天堂大学医学部附属静岡病院に来院したドクターヘリを利用した転院搬送の推移 第53回日本救急医学会総会 大阪国際会議場 2025年10月28日-30日
17. 田中規子、長竹芳紘、田代朱香、加藤万佐史、得津礼記、太田宗一郎、長澤宏樹、大森一彦、大坂裕通、柳川洋一 硫化水素中毒に対し高気圧酸素療法とステロイド投与を施行した一例 第53回日本救急医学会総会 大阪国際会議場 2025年10月28日-30日
18. 谷口裕亮、大森一彦、長澤宏樹、大坂裕通、柳川洋一 日本の病院前気管挿管の標準化に向けた実態調査：デルファイ法第1ラウンドの結果分析 第53回日本救急医学会総会 大阪国際会議場 2025年10月28日-30日
19. 大森一彦、長澤宏樹、前川ちひろ、田中規子、濱田通果、河合健司、太田宗一郎、大坂裕通、柳川洋一 SNSを活用した病院前救急診療への理解促進― 当院ドクターヘリのInstagram運用経験から ― 第53回日本救急医学会総会 大阪国際会議場 2025年10月28日-30日
20. 柳川洋一 共通のビジョンへ 航空医療の新時代、第32回日本航空医療学会総会 沼津プラサヴェルデ 2025年11月14-15日
21. 真優スレーシュワル、荻田学、諏訪哲、稲葉慎太郎、延島優香、小野里匠也、安島鵬飛、阿部圭希、谷津翔一朗、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、西崎祐史、宮内克己、大坂裕通、南野徹、長澤宏樹、大森一彦、柳川洋一、代田浩之 心原性ショックを合併した急性冠症候群患者におけるドクターヘリ搬送の臨床的意義 第32回日本航空医療学会総会 沼津プラサヴェルデ 2025年11月14-15日
22. 櫻井絢矢、吉田匡克、柳川洋一 気道異物の一例 第28回日本救急医学会中部地方会学術集会 金沢市文化ホール 2025年11月28-29日
23. 岡田奈津美、得津礼記、田中規子、前川ちひろ、加藤万佐史、太田宗一郎、大坂裕通、長澤宏樹、大森一彦、柳川洋一 ダニ媒介感染症:重症熱性血小板減少症候群と日本猩紅熱 第28回日本救急医学会中部地方会学術集会 金沢市文化ホール 2025年11月28-29日
24. 大塚祐理重、田中規子、前川ちひろ、得津礼記、加藤万佐史、長竹芳紘、田代朱香、濱田通果、太田宗一郎、大坂裕通、長澤宏樹、大森一彦、柳川洋一 タケノコ掘りで受傷した例 第28回日本救急医学会中部地方会学術集会 金沢市文化ホール 2025年11月28-29日
25. 大森一彦 パネルディスカッション フライトドクター教育体系の標準化-実践的な育成プログラムの構築- フライトドクター教育「共通基盤」構築に向けた挑戦 各施設の独自性を活かした標準化への道筋 第32回日本航空医療学会総会 2025年11月14-15日
26. 大森一彦 ランチョンセミナー 世界のHEMSを体験して見えた日本の可能性 HICASアプリが描く情報共有の未来 第32回日本航空医療学会総会 2025年11月14-15日

27. 土屋貴裕、江川幸樹、野崎智朗、大森一彦 ドクターヘリと救命救急センターの連携による多数傷病者対応の有効性 第 32 回日本航空医療学会総会 2025 年 11 月 14-15 日
28. 森川肇、大森一彦 運航会社と基地病院との合同緊急対処訓練について 第 32 回日本航空医療学会総会 2025 年 11 月 14-15 日
29. 高橋治郎、大森一彦、渡邊紀子、山田健太郎、岩崎弘子、峯山幸子、高松学文、北村伸哉、荻野隆光、早川達也 ドクターヘリ研修委員会の取り組み 非常時対応の導入. 第 32 回日本航空医療学会総会 2025 年 11 月 14-15 日
30. 石田桃子、長澤宏樹、田上佑一、濱田通果、大森一彦 ドクターヘリの社会的認知向上に向けた効果的な啓発活動-全国の取り組みと今後の課題- 地域とつながる航空医療 SNS と地域連携による啓発活動の実際 第 32 回日本航空医療学会総会 2025 年 11 月 14-15 日
31. 早川達也、大森一彦 フライトドクター教育体系の標準化-実践的な育成プログラムの構築- 日本航空医療学会の取り組みとしてのドクターヘリ講習会 第 32 回日本航空医療学会総会 2025 年 11 月 14-15 日
32. 土谷飛鳥、麻生将太郎、大邊寛幸、大森一彦、川井廉之、柴橋慶多、中島幹男 ドクターヘリ要請基準の標準化-より効果的な運用を目指して- 要請方法の違い(覚知要請 vs.現着後要請)による距離と時間・生存の交互作用分析 第 32 回日本航空医療学会総会 2025 年 11 月 14-15 日
33. 大坂裕通 竹内郁人 前川ちひろ 田中規子 長澤宏樹 大森一彦 柳川洋一 令和 6 年能登半島地震における順天堂大学医学部附属静岡病院の DMAT 活動報告 日本災害医学会 名古屋市国際展示場 (ポートメッセなごや) 2025 年 3 月 6 日
34. 長澤宏樹、前川ちひろ、太田宗一郎、大森一彦、杉山宗弘、柳川洋一 「途絶と虚血」 血管造影検査をすべきだった脾動脈損傷の一例 第 54 回日本 IVR 学会総会・学術集会 虎ノ門ヒルズフォーラム 2025 年 5 月 29 日

【特別講演・招待講演】

1. 大森一彦 大量出血 救急医療における大量出血診療の変遷と展望 第 73 回日本輸血細胞治療学会総会 札幌 2025 年 5 月 30 日
2. 大森一彦 ドクターヘリと地域の連携による救急医療最前線 静岡県歯科医師会がん医科歯科連携研修会 静岡県歯科医師会館 2025 年 2 月 9 日
3. 大森一彦 日本におけるドクターヘリ夜間運航の可能性と展望 HEM-Net 国際講演会 東京 2025 年 11 月 17 日
4. 大森一彦 外傷性 DIC を知ろう 日本血液製剤機構勉強会 静岡 2025 年 2 月 19 日
5. 大森一彦 ドクターヘリと地域の連携による救急医療最前線 熱海救急の日 熱海 2025 年 8 月 31 日
6. 大森一彦 地域の理解と協力で命を救うドクターヘリ 順天堂大学医学部附属静岡病院第 95 回市民公開講座 沼津 2025 年 11 月 15 日

2-26 病理診断科

診療実績

2025 年度

(2025 年 4 月～2026 年 3 月)

組 織 診 断 : 8108 例

細 胞 診 断 : 7906 例

病理解剖断 : 6 例

研究・教育活動

【英文原著】

1. Kusunoki T, Wada R : Emergency surgery for a giant laryngeal granuloma that caused dyspnoea. *BMJ Case Rep* 9;17(1):e258227. , 2024.
2. Kidokoro Y, Kusunoki, T, Matsumoto T, Kidokoro Y, Wada R, Matsumoto F : A case report of superficial solitary fibrous tumor in the right parotidomasseteric region. *Ear, Nose & Throat Journal*, 1-4, 2024
3. Kusunoki T, Wada R : Case with translating to multiple myeloma at 8 years after radiation therapy for extramedullary plasmacytoma of the larynx. *BMJ Case Rep*, 2024.
4. Kusunoki T, Wada R : Preoperative bilateral recurrent laryngeal nerve palsy in Graves' disease *BMJ Case Rep* 2024;17:e262363.
5. Kusunoki T, Wada R : Primary nasal neuroendocrine carcinoma in an adult. *BMJ Case Rep*, 2024.
6. Tanaka S, Orita H, Kataoka T, Miyazaki M, Saeki H, Wada R, Brock MV, Fukunaga T, Amano T, Shiroishi T : Gasdermin D represses inflammation-induced colon cancer development by regulating apoptosis. *Carcinogenesis*, 24;44(4):341-349, 2023.
7. Oda R, Kajimoto K, Oishi A, Hata H, Kamikawa Y, Matsui Y, Fujita W, Nakamura Y, Singh YS, Shitara J, Takano S, Wada H, Shiozawa T, Ogita M, Wada R, Suwa S : A Case of Floating Aortic Arch Thrombosis in a Patient without Thrombophilia. *Ann Vasc Dis*, 25;16(3) : 219-222, 2023.
8. Ohsaka H, Muramatsu KI, Ota S, Nagasawa H, Wada R, Yanagawa Y. Fatal Cardiac Tamponade Due to a Pericardial Inflammatory Myofibroblastic Tumor. *Intern Med*. Oct 1;61(19):2891-2894, 2022.
9. Kusunoki T, Wada R : Case of anterior glottic web with bilateral vocal cord cancers *BMJ Case Rep* 2022;15

10. Ohsaka H, Muramatsu KI, Ota S, Nagasawa H, Wada R, Yanagawa Y.
Fatal Cardiac Tamponade Due to a Pericardial Inflammatory
Myofibroblastic Tumor. Intern Med. 2022 Oct 1;61(19):2891-2894.
11. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yoshikawa A, Tanaka K, Kubo S, Wada R, Ikeda K :
A Case of Nasopharyngeal Tuberculosis with Cervical Lymph Node Tuberculosis Suspected
of Cervical Malignant Disease at the First Examination. Clin Pract. 2021 : 21.
12. Ogawa T, Ogaki K, Daida K, Nishimaki T, Ando M, Kawajiri S, Wada R, Noda K,
Hattori N, Okuma Y : Progressive encephalomyelitis with rigidity and myoclonus
and myasthenia gravis comorbid status with thymoma.
Movement Disorders Clinical Practice, 2021.
13. Kusunoki, T, Homma H, Kidokoro Y, Yoshikawa A, Tanaka K, Kubo S, Wada R :
Mediastinum Lymph Node Metastasis with Superior Vena Cava Syndrome.
Journal of Clinical Case Studies (Open Access). 6, 2021.
14. Kusunoki T, Wada R : Thyroid Follicular Adenoma with Tracheal Stenosis.
J Clin Case Stu 6(4), 2021.
15. Shimizu Y, Wakabayashi K, Iwasaki H, Kishida C, Seki S, Okuma T, Iwakami N,
Iwasawa T, Maekawa H, Tomino Y, Wada R, Suzuki Y : Immunotactoid Glomerulopathy
with Nontuberculous Mycobacterial Infection: A Novel Association.
Case Rep Nephrol Dial 11:136–46, 2021.

【英文総説】

1. Wada R : Histogenesis of colorectal carcinoma considering from clinicopathological examinations
for colorectal adenoma with Paneth cell. Juntendo Medical Journal. 2021

【和文総説】

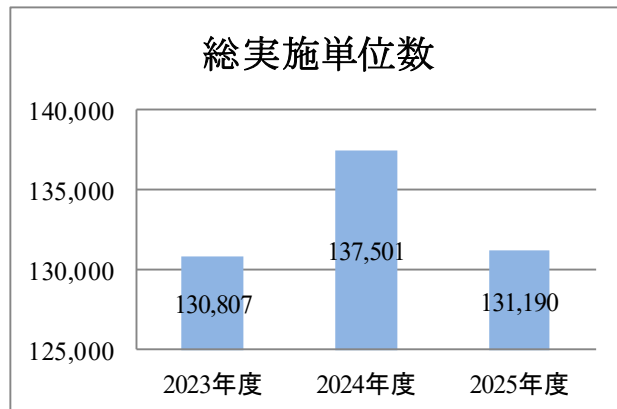
1. 八尾隆史、和田 了、岡野 莊 : 内視鏡的粘膜切除が確定診断に有用な消化管疾患の病理学的特徴.
消化器内科 3:57-63, 2021

【和文著書】

1. 和田 了 : 転移性腫瘍. 腫瘍病理鑑別アトラス, 大腸癌第 2 版. 文光堂, 東京, p204-207, 2021

2-27 リハビリテーション科

業務実績



研究・教育活動

【英文原著】

1. Yagi R, Sato S, Azuma N, Kawahara K, Watanabe D, Kobayashi A, Furuya Y, Takayama R, Takayama T, Kita Y, Ikeda Y, Sato S, Murata A, Shimada Y, Tanuma A, Genda T : Association of exercise Tolerance with Survival in Patients with Hepatocellular Carcinoma Receiving Locoregional Therapy. Progress in Rehabilitation Medicine 11; 2026.
2. Tani M, Yamaguchi T, Honaga K, Takahashi Y, Kono H, Murakami Y, Isayama R, Haruyama K, Fujino Y, Matsuda T, Fukunaga I, Hori M, Tanuma A, Wada F, Hatori K, Fujiwara T. Electromyography (EMG)-triggered transcutaneous spinal cord and hip stimulation for gait rehabilitation in persons with chronic stroke: a randomized, controlled trial. J Neuroeng Rehabil 22(1): 154, 2025.
3. Ase H, Miura K, Yoshida T, Kitahara E, Takagi T, Honaga K, Tanuma A, Tani M, Murakami Y, Ishikawa A, Isayama R, Fujiwara T: Clinical determinants of functional independence at discharge in patients with spinal cord dysfunction due to metastatic spinal tumors. Arch Rehabil Res Clin Transl 8(1): 100549, 2025.
4. Hijikata N, Konishi N, Tatematsu N, Nishiyama N, Kojima K, Ito D, Sakai Y, Kouda K, Tanuma A, Takakura Y, Inoue J, Kobayashi T, Sakurai T, Sugimori N, Abe K, Kurihara M, Tsuji T. Implementation strategies for cancer rehabilitation in clinical practice: a Delphi study. Jpn J Clin Oncol hyag085, 2026.

【和文総説】

1. 越智英輔, 福島卓矢, 田沼明: がん患者に対する運動負荷を考える. MEDICAL REHABILITATION 322 : 71-77, 2026.

【和文著書】

1. 海東健太：ケーススタディ 急性期病院. 牧野日和, 夏目長門 (編)：言語聴覚士が行う口腔ケア-食べる・話す・生きるを支えるために-, pp139-142, 新興医学出版社, 2025.
2. 小林敦郎, 渡邊大輔：知識・技術・学習力が身につく 3 ステップで学ぶ理学療法スタートブック. P67-72, 108-117, 158-162, 株式会社ヒューマン・プレス, 2025
3. 小林敦郎, 渡邊大輔：理学療法士のための認定スクールトレーナーテキスト. P139-143, 161-170, 南江堂, 2025
4. 田沼明 (編)：周術期のがん患者へのリハビリテーション診療. MEDICAL REHABILITATION 322, 2026.

【学会発表 (国内)】

1. 松永晃奈：誤嚥性肺炎患者に対し段階的な動作練習により ADL 改善が得られた一症例-歯磨き動作に着目して-,第 38 回静岡県作業療学会,静岡,2025/6/14-15
2. 多島佑樹：適切な呼吸・動作指導を行うことで HFNC はより効果を発揮する-ポータブルトイレへの移乗動作獲得につながった症例経験より-,第 28 回静岡県理学療法学術大会,静岡,2025/6/22
3. 永田梨乃：しゃがみ込み動作獲得に向けエコーを使用した腹圧練習を行った人工股関節全置換術の一例,第 28 回静岡県理学療法学術大会,静岡,2025/6/22
4. 馬淵美佑：体幹低緊張を呈した脳卒中者に対し呼吸を併用した体幹機能へのアプローチによりバランス改善を認めた一症例,第 28 回静岡県理学療法学術大会,静岡,2025/6/22
5. 栗原昇汰：フレイル・サルコペニアを併存した感染性心内膜炎・僧帽弁逆流症患者に対する理学療法経験～スロートレーニングが身体機能改善に繋がった一症例～,第 28 回静岡県理学療法学術大会,静岡,2025/6/22
6. 海東健太, 田沼明：気管カニューレが嚥下時の舌骨・喉頭移動距離に与える影響-超音波断層撮影法による検討-. 第 31 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 神奈川, 2025/9/19-20
7. 小池教文：変形性股関節症患者の腰椎可動性と姿勢制御機能の関係性について. 第 41 回東海北陸理学療法学術大会, 福井, 2025/10/25-26
8. 内田桃花：COPD 急性増悪患者に対するエルゴメータ実施姿勢の検討～端座位と上肢支持を伴う体幹前傾位の比較～. 第 41 回東海北陸理学療法学術大会, 福井, 2025/10/25-26
9. 河原一剛：インクルーシブ自転車イベントを活用した地域連携の実践報告 第 12 回日本地域理学療学会学術集会 北海道 2025/10/11-12
10. 海東健太：舌圧等尺性バイオフィードバック訓練が奏功した重症筋無力症の 3 例-日差変動を考慮した負荷量調整法の試み-. 第 39 回日本口腔リハビリテーション学会学術大会, 東京, 2025/11/8-9.
11. 八木陸人：肝線維化の進展度が肝細胞癌患者の運動耐容能に及ぼす影響. 第 11 回日本糖尿病理学療学会学術大会, 千葉, 2025/12/20-21
12. 三木優果里：薬剤性パーキンソニズムが疑われた嚥下障害の 1 症例-先行期障害を考慮した介入の重要性-. 2025 年度静岡県言語聴覚士会全体研修会, Zoom, 2026/2/1
13. 海東健太, 田沼明：頸椎前方固定術後に生じる椎体前方軟部組織 (PVST) の腫脹と食形態・嚥下機能に関する後方視的調査. 第 49 回日本嚥下医学会学術講演会, 佐賀, 2026/2/12-13

【講演】

1. 田沼明：がんリハビリテーションと栄養. 第 41 回日本栄養治療学会学術集会, 横浜, 2026/2/13-14.
2. 田沼明：がんリハビリテーションと栄養管理. 第 14 回日本がんリハビリテーション学会学術集会, 高崎, 2026/2/28-3/1.
3. 田沼明：リンパ浮腫と運動機能・生活機能障害. 第 9 回日本リンパ浮腫学会総会, 福岡, 2026/3/28-29.

2-28 臨床検査科

業務実績

1. 2025 年度 外部精度管理参加結果
 - ① 59 回日本医師会精度管理調査での点数 98.1 点 (628/640) : C, D 項目なし
 - ② 42 回静岡県医師会精度管理調査 : 99.0 点 (101/102) : 微生物検査同定～是正報告済
 - ③ 61 回日臨技精度管理調査 : 99.2 点 (250/252) : 尿クレアチニン高値～是正報告済
2. 検査技師を対象に勉強会「知得会」を開催 (第 105～114 回)
3. 検査結果の見方、考え方 : 検査の説明パンフレットを見直し
4. 結果報告時間の短縮について改善調査

研究・教育活動

【報告・発表】

1. 第 42 回 静岡県臨床検査精度管理調査報告書、2025.10
2. 日本総合健診医学会第 53 年次 2025 年度 臨床検査精度管理報告書、2026.3
3. ガイドラインに準拠した健診結果の読み方と対応ー尿検査ー : 健診・人間ドックハンドブック (改訂 8 版) 216-230、2025

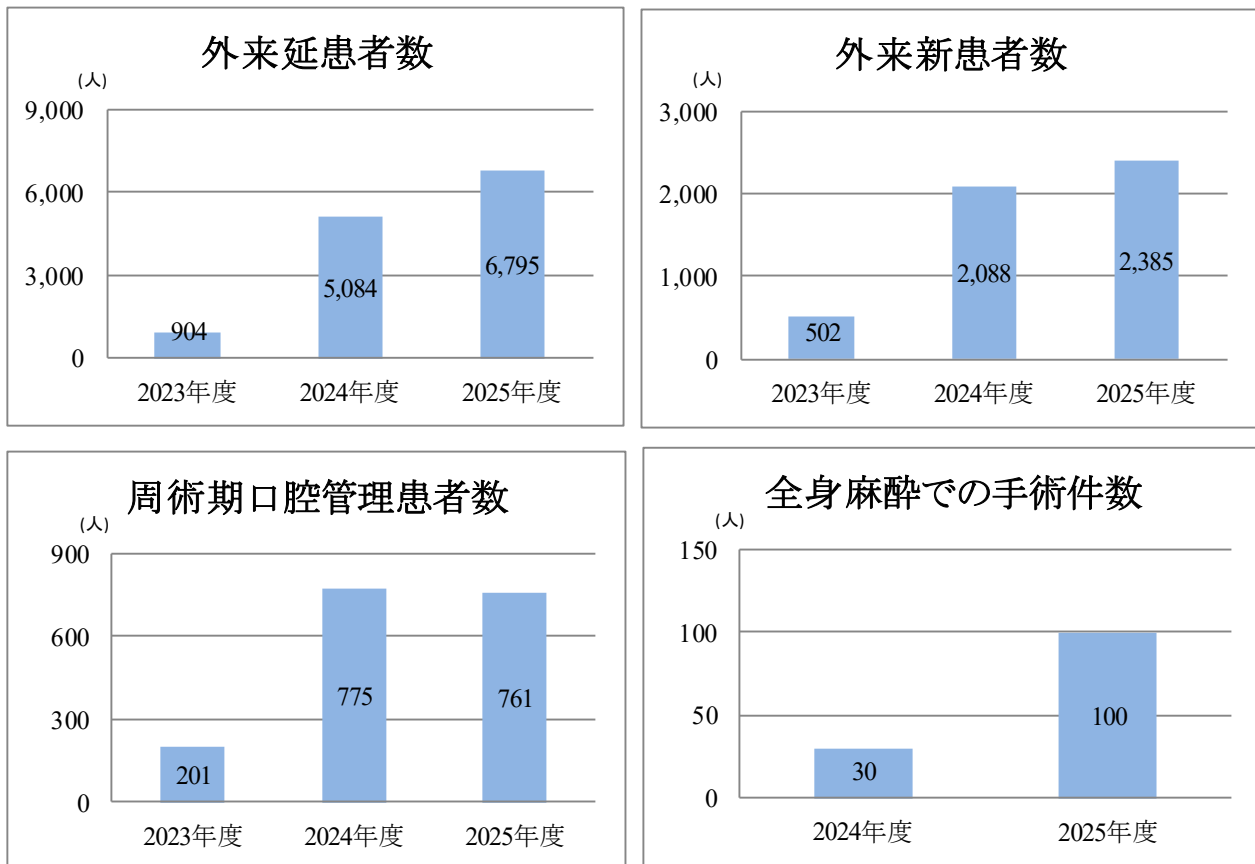
(特任教授 田内一民)

2-29 歯科口腔外科

当科は2023年9月に開設され、2024年4月より歯科医師2人体制で診療に従事しています。局所麻酔の日帰り手術はもちろん、入院・全身麻酔での手術も行っていますが、顎関節症や睡眠時無呼吸症候群のマウスピース作製も歯科技工士が常勤のため作製可能です。

今後は歯科衛生士とも協力しながら、周術期口腔管理の患者だけでなく当院の糖尿病・内分泌内科の糖尿病患者の口腔内管理に参画し、地域の歯科医院と密に連携していくつもりです。

診療実績



※全身麻酔での手術件数は2024年8月以降のデータに基づき作成

2025年度

- 抜歯患者件数：1365人
- その他の日帰り手術件数：308人

研究・教育活動

【論文】

1. Takegoshi R, Yanagisawa K, Takeshita Y, Honda K, Tanaka S, Isome H, Ueda Y, Nagahori K, Kiyoshima D, Jin ZW, Okazaki T, Yamamoto M, Terayama H, Suyama K, Hayashi S. Rare combined variations of the axillary artery: superficial ulnar artery and circumflex humeral arteries. *Anat Sci Int*. 2025.
2. Ueda Y, Okazaki T, Isome H, Patel A, Ichimasa T, Asaumi R, Kawai T, Suyama K, Shogo H. Development and validation of a deep learning model for the automated detection of vertebral artery calcification on non-contrast head-and-neck computed tomography. *medRxiv* 2026.03.15.26348421.

【学会発表（国内）】

1. 井染 洋、中村瑛史、井染亜由美、朝山雄之、玉川崇皓、米野貴彦、岩重洋介、松野智宜. 濃化異骨症患者に生じた多発性の顎骨骨髓炎の1例. 第50回日本口腔外科学会・中部支部学術集会 2025年6月7日 名古屋コンベンションホール（名古屋）
2. 井染 洋、中村瑛史、井染亜由美、山本昌代、朝山雄之、玉川崇皓、八十島恵美、上田容子、松野智宜. 当科開設後1年7か月における薬剤関連顎骨壊死の臨床的検討. 三学会合同学術大会 2025年10月18-19日 日本歯科大学生命歯学部九段ホール（東京）

【講演会】

1. 井染 洋 田方歯科医師会 「田方歯科医師会と共に発展していく順天堂」 2025.10.7
2. 井染 洋 静岡県日本歯科大学校友会新年講演会 「順天堂静岡病院が歯科口腔外科を始めました」 2026.1.24

【教育活動】

1. 学校法人鈴木学園 歯科衛生学科 学生実習

3. 部門報告

3-1 薬剤科

業務実績

薬剤師：42名（正規職員：37名、パート：5名）うちGCPセンター（調剤業務兼務）に3名、薬剤管理指導業務担当13名、手術室業務1名、注射薬払い出しおよび無菌製剤業務1名、外来および入院調剤業務21名、外来・入院化学療法3名、医薬品情報室1名にて業務をおこなっている。（2025年3月31日現在）

業務内容

- | | |
|------------|--|
| ① 調剤 | 外来・入院調剤 |
| ② 製剤 | 約束処方・院内特殊製剤 |
| ③ 注射薬の取り揃え | 入院一般注射薬・化学療法用注射薬（外来・入院とも） |
| ④ 注射薬の無菌製剤 | 中心静脈栄養 |
| ⑤ 薬品管理 | 薬品発注・在庫管理・麻薬管理・使用期限チェック |
| ⑥ 医薬品情報提供 | 院内医薬品集(昨年度より電子化)の発行・新規採用薬中止薬の案内・副作用情報等の収集・提供 |
| ⑦ 薬剤管理指導業務 | 診療科ごとに薬剤師を担当させている
ブレイクアウト報告 |
| ⑧ 手術室業務 | 麻酔薬の準備・使用後の確認など麻酔科医業務支援および麻薬管理 |
| ⑨ 化学療法 | 化学療法（外来・入院とも）外来患者指導 |
| ⑩ その他 | 学会発表など |

1. 調剤業務

処方内容については、調剤監査システムにて相互作用、重複投与等のチェックを行った後処方せんを発行し調剤を実施している。外来および退院処方については「薬剤情報提供書（あなたのおくすり）」を添付して患者への医薬品情報提供を実施している。合わせて、お薬手帳用薬剤一覧も毎回発行・配布している。外来処方せんは院内にて調剤を行い、院外処方せんについては希望者のみとしている。2021年度から調剤室内のレイアウトと調剤方法を変更した結果、調剤時間短縮が図られた。

● 2025年度調剤業務（処方せん枚数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月
外来	27,662	26,858	26,430	28,230	26,481	27,029	28,249	25,179	27,572	26,406	24,962	27,745
入院	17,730	17,485	17,608	18,055	16,540	16,383	17,404	15,263	17,330	16,114	14,864	16,168
合計	45,392	44,343	44,038	46,285	43,021	43,412	45,653	40,442	44,902	42,520	39,826	43,913
院外	1,258	1,200	1,166	1,289	1,156	1,208	1,278	1,174	1,263	1,222	1,154	1,305

2. 製剤

院内製剤は点眼薬、点鼻薬、点耳薬、軟膏、処置薬などを調製しており、無菌的な操作の必要なものはクリーンベンチ内で調製している。

3. 注射薬の取り揃え

入院一般注射薬：前日までにオーダーされている注射薬を個人別にセットし、専用カートにて各病棟に払い出す。金曜日は土曜日・日曜日分を、土曜日は月曜日分のセットをしている。

●2025 年度注射薬処方箋枚数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2026 年 1 月	2 月	3 月
外来	3436	3228	3213	3480	3388	3142	3659	3237	3504	3600	3270	3307
入院	20245	19715	19924	20633	19806	17897	19838	21215	22510	21626	18812	20568

4. 注射薬の無菌製剤

中心静脈栄養(IVH)：当日 13:00 まで（土曜及び休日は 8:00）にオーダーされたものを、クリーンベンチ内で調製し病棟に払い出している。

●2025 年度無菌製剤件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2026 年 1 月	2 月	3 月
IVH	26	14	74	33	51	14	30	60	54	22	39	46

5. 薬品管理

採用薬は 2025 年 3 月 31 日時点で内服薬：1299 品目・注射薬：585 品目、合計 1884 品目である。

6. 医薬品情報提供業務

医薬品の安全かつ、適正使用のための情報収集および情報提供を実施。

院内医薬品集(電子版)の作成（毎月更新）・新規採用薬、採用中止薬、包装・剤形変更の情報は薬剤科からのお知らせにて、必要に応じて院内配布（電子版あり）。

7. 薬剤管理指導業務

内科、外科、脳外科、産婦人科、眼科、耳鼻科、整形外科、泌尿器科、神経内科、呼吸器外科、形成外科、皮膚科及び救急診療科に、科ごとに配置している。持参薬の報告、服薬指導、薬歴から相互作用、併用禁忌などの薬学的管理を行っている。2027 年度からの病棟薬剤業務実施加算算定に向けて準備を進める。

医療安全対策のひとつとしてプレアボイド報告（薬学的ケアの実施によって、副作用・相互作用・治療効果不十分などを回避あるいは軽減した事例の報告）を行っており 2025 年度は 1253 件の報告を行った。

●2025 年度薬剤管理指導算定件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2026 年 1 月	2 月	3 月
算定件数	1290	1325	1364	1440	1356	1331	1413	1245	1204	1373	1395	1456

8. 手術室業務

麻酔科外勤医師が術中に使用する薬剤（麻薬、鎮静薬、筋弛緩薬、昇圧剤等）の準備・調製、また整形外科の股関節人工関節置換術で使用するカクテル注射の調製等を行っている。

麻薬担当者と共同で手術室の麻薬、毒薬・向精神薬の管理を行っている。

9. 化学療法

前日準備：前日までにオーダーされている化学療法の注射薬を個別セットする。また、化学療法担当者を含む 2 名以上でオーダーされている内容の投与量、治療スケジュール等の必要事項を鑑査する。

当日：化学療法の実施指示に伴い、がん治療センター調製室の安全キャビネット内にて 2 名以上で混注業務・鑑査を行い各関連部署へ払出す。

●2025 年度調製件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2026 年 1 月	2 月	3 月
外来 化学療法	652	622	647	766	729	753	830	707	703	706	667	776
入院 化学療法	257	309	271	229	260	265	265	192	240	237	257	252

●2025 年度外来患者指導

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2026 年 1 月	2 月	3 月
がん患者 指導管理料ハ	6	5	3	2	4	3	3	0	1	2	2	0
がん体制 充実加算	-	-	1	5	7	16	18	7	17	15	10	11

10. その他

【英文原著】

1. Takuya Uematsu, Yusuke Hirabuki, Shuko Nojiri, Yuji Nishizaki

Osteoporosis and risk of aortic stenosis in Japanese elderly: A population-based nested case-control study

Journal of Cardiology, 2025 Jul 3:S0914-5087(25)00172-8. doi: 10.1016/j.jjcc.2025.06.019.

2. Takuya Uematsu, Shuko Nojiri, Wataru Urasaki, Yuji Nishizaki

Investigation of risk factors for osteoporosis with a focus on hypertension and estimation of the causal effect of hypertension on osteoporosis using causal forest

Hypertension research, 2025 Oct 2;48(12):3067–3079. doi: 10.1038/s41440-025-02372-z.

3. Takuya Uematsu, Shuko Nojiri, Masashi Nagao, Muneaki Ishijima, Yuji Nishizaki

Comprehensive analysis of risk factors for Coronavirus disease 2019 infection and post-infection sequelae based on real-world data from a health insurance database in Japan

International Journal of Infectious Diseases, 2026 Jan 19:108405. doi: 10.1016/j.ijid.2026.108405.

4. Takuya Uematsu, Shuko Nojiri, Yuji Nishizaki

Response to Comment on "Investigation of risk factors for osteoporosis with a focus on hypertension and estimation of the causal effect of hypertension on osteoporosis using causal forest" Hypertension research, 2026 Feb 18; 2026 Feb 18. doi: 10.1038/s41440-026-02565-0.

【和文原著】

1. 芹澤健一, 杉本智恵子, 植松卓也, 水口雅貴, 垣沼智之, 菅尾高裕

注射薬配合変化回避システムの構築とその有用性の検討

日本病院薬剤師会雑誌 61(3): 223-231 2025

2. 中島隆良, 垣沼智之, 杉本智恵子, 桶田雄介, 水口雅貴, 植松卓也

重症熱性血小板減少症候群に対するファビピラビル投与を行った 3 症例

日本病院薬剤師会雑誌 62(1): 41-47 2026

【和文著書】

1. 天海 琢磨

骨粗鬆症の治療には、どのような薬が用いられるの？

Expert NURSE 2026 Vol.42 No.2 20-25

2. 植松 卓也

IRB 委員・事務局のための実務ハンドブック 2006 (治験編)

【学会発表 (ポスター発表)】

1. 南雲 昭人

高用量メトトレキサートの排泄遅延にエロビキシバットが関与した可能性がある 1 例

第 14 回 日本臨床腫瘍薬学会 学術大会

2. 柳下昂太

オピオイド使用患者が薬剤師に求める介入内容の調査

第 18 回 日本緩和医療薬学会年会

3. 星野 剛史

オピオイド鎮痛薬使用患者における外来診察の満足度調査～外来診察に対する薬剤師介入の検討～

第 18 回 日本緩和医療薬学会年会

4. 植松 卓也

Real-world Data に基づく de novo 肝炎のリスクファクター解析－Matched Case-Control Study－
第 35 回 医療薬学会

5. 芹澤 健一

数理最適化による自動勤務表作成システムの構築と勤務負担の平等性改善に関する検討
第 35 回 医療薬学会

6. 中島 隆良

抗菌薬投与と VRE 再陽性化の関連性について
第 35 回 医療薬学会

7. 堀井 一輝

高齢者のポリファーマシーに対する、抗コリン薬リスクスケールを用いたせん妄リスクの評価
第 35 回 医療薬学会

【学会発表（口頭発表）】

1. 垣沼 智之

当院で経験した重症熱性血小板減少症候群の 4 症例について
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2025

2. 芹澤 健一

数理最適化を用いた自動勤務表作成システムの開発と運用評価
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2025

3. 植松 卓也

当院における期限切れ医薬品の現状と廃棄ロス削減への取り組み
第 36 回 静岡県病院薬剤師会学術大会

4. 沖田 英慎

教育体制の充実化を目的としたスプレッドシートの導入
第 36 回 静岡県病院薬剤師会学術大会

5. 土門 早紀

SNS 戦略チーム発足と薬剤師採用につなげる Instagram 運用の課題
第 36 回 静岡県病院薬剤師会学術大会

6. 芹澤 健一

数理最適化による病院薬剤師勤務表自動作成システムの構築と有用性の検討
数理最適化による病院薬剤師勤務表自動作成システムの構築と有用性の検討
第 36 回 静岡県病院薬剤師会学術大会

【受賞】

1. 土門 早紀

SNS 戦略チーム発足と薬剤師採用につなげる Instagram 運用の課題
第 36 回 静岡県病院薬剤師会学術大会 最優秀演題賞

2026 年度の目標

1. 研究活動の充実と臨床スキル（薬学的管理）の向上
 - 6 病院横断型の研究チームを推進
 - 人事交流の促進とキャリアパスの構築
 - 学位取得に向けた取り組みの強化
2. 改正薬剤師法に準拠した医薬品の適正使用および医療安全への継続的貢献
3. 業務の効率化および安全性向上のためのロボット化・AI の導入（継続）
 - ロボピックや医薬品情報提供業務支援ソフトの導入検討開始
 - 調剤支援システムおよび薬剤管理指導業務支援システムの更新
4. 薬学部実習生の受け入れおよび病床増床に向けた体制づくり
 - 学生実習の継続的受け入れ
 - 実務と教育を兼務できる教員の育成
 - 医師のタスクシフトの推進
5. 薬剤師の増員と臨床業務の充実
 - 薬剤師数の拡充を図り、病棟薬剤業務の強化および病棟薬剤業務実施加算の取得体制の整備
 - チーム医療への積極的な貢献

3-2 栄養科

業務実績

(1) 栄養管理業務

- ① 医師の指示のもとに、外来患者および入院患者への栄養食事指導を実施した。

糖尿病の教育入院(2週間)が毎週定期的であり、入院中には患者に寄り添った栄養食事指導を行い、退院後も定期的にフォローアップを行った。糖尿病療養指導士の習得は3名である。

栄養指導実施件数は2023年度 4,204件、2024年度 4,259件、2025年度 4,725件であった。

早期栄養介入管理加算算定件数は2023年度 462件、2024年度 598件、2025年度 338件であった。

- ② 栄養サポートチーム (NST) を中心に患者の栄養状態改善を図る為、毎週木曜日にNST回診を実施した。管理栄養士が活動をまとめる中で NST リンクナースに指導を行い、低栄養患者に対してNST 介入できるよう見直しを行った。NST 専任要件を満たす医師2名、NST専門療法士習得者は、管理栄養士3名、看護師4名、薬剤師3名となり、それぞれの立場から専門性を発揮し連携を深めた。

- ③ 摂食嚥下支援チーム活動として、摂食嚥下機能回復体制加算取得に向けて取り組んでいる。

(2) 給食管理業務

- ① 適時適温給食の実施、安心して安全な食事の提供を行なった。

- ② 医師の指示に従い、また患者の状態に寄り添った個々人の対応を行なった。

- ③ 年4回の嗜好調査により患者の希望を捉え、献立作成に生かした。

- ④ 選択メニューを実施し、患者満足度向上に努めた。

①給食実施状況 (単位:食)

区分	食種名	食数
一般食	常食	197,567
	授乳食	8,382
	お祝い膳	770
	学童食	1,869
	小児食	3,406
	離乳食	641
	軟食	65,375
	流動食	5,152
	小計	283,162
特別食	エネルギー塩分食	81,297
	糖質調整食	38,642
	蛋白コントロール食	29,049
	胃腸病食	22,231
	脂質制限食	7,394
	低残渣食	3,549
	無菌食	119
	注腸食	16
	濃厚流動食	34,361
	ミルク	27,756
	小計	244,414
患者合計		527,576
職員合計		140,809
付添い合計		2,069
おやつ合計		3,389
5回食合計		740

③NST介入延べ人数(各科別)

診療科	延べ人数
膠原病・リウマチ内科	35
消化器内科	3
呼吸器内科	60
血液内科	6
腎臓内科	33
糖尿病・内分泌内科	6
外科	191
脳神経外科	50
循環器内科	78
心臓血管外科	74
呼吸器外科	6
脳神経内科	27
整形外科	18
形成外科	34
救急診療科	81
小児科	8
小児外科	1
眼科	2
耳鼻咽喉科	12
産婦人科	28
皮膚・アレルギー科	4
泌尿器科	61
合計	818

②栄養食事指導実施状況 (単位:件)

区分	指導名	入院	外来	合計
個人指導	糖尿病食	491	1022	1513
	腎臓病食	163	152	315
	減塩食	1105	125	1230
	肝臓病食	41	27	68
	胃腸病食	291	17	308
	肥満食	13	248	261
	脂質異常食	43	51	94
	痛風食	0	0	0
	貧血食	0	3	3
	高血圧食	3	0	3
	その他	583	200	783
	小計	2733	1845	4578
集団指導	指導名	回数	人数	
	糖尿病教室	21	62	
	心臓病教室	26	85	

3-3 放射線室

放射線室は、診療放射線技師 45 名(男性 33 名, 女性 12 名), 事務員 4 名にて構成されている。診療放射線技師の勤務シフトは、早出 5 名, 遅出 5 名, 準夜 2 名, 深夜 2 名, 更に ON CALL 1 名で行い, 24 時間, 業務が滞らないよう努めている。

【業務実績】

機器構成 : 2026 年度

機器名	台数
一般撮影装置	6
移動型 X 線装置	6
骨密度測定器	1
乳房撮影装置	1
X 線 TV 装置	3
血管撮影装置 (Hybrid 含)	4
CT 装置	4
MRI 装置	4
ガンマカメラ (SPECT)	1
P E T - C T	1
放射線治療装置 (リニアック)	1
放射線治療計画用 C T 装置	1
口腔撮影装置	1

業務実績 (検査数)

年度	2024	2025
一般撮影	82,960	83,403
ポータブル	30,838	29,190
骨密度検査	1,994	2,041
マンモグラフィ	1,392	1,309
X 線 TV	2,746	2,959
血管撮影	2,545	2,779
CT 検査	47,955	46,735
MRI 検査	16,442	16,242
RI 検査	881	1,025
PET-CT	884	953
放射線治療	5,328	5,070
口腔撮影	1,912	2,225
合計	195,877	193,931

前年度と比較し、総件数で約 99%の業務量であった。12 部門の内、7 部門において検査数が増加した。

【教育活動】

(診療放射線技師を目指す学生への取り組み)

順天堂大学保健医療学部診療放射線学科の実習病院として、学生を受け入れている。

(救急撮影認定技師育成への取り組み)

救急撮影認定技師機構の研修施設として、実習生を受け入れている。

【資格取得実績】

医学物理士	1 名
第一種放射線取扱主任者	9 名
日本血管撮影 IVR 専門診療放射線技師	7 名
磁気共鳴専門技術者	3 名

放射線治療専門放射線技師	1 名
放射線治療品質管理師	1 名
救急撮影認定技師	5 名
マンモグラフィー技術認定資格者	6 名
X 線 CT 専門技師	1 名
X 線 CT 認定技師	6 名
第一種作業環境測定士	2 名
臨床実習指導者	12 名
放射線機器管理士	6 名
放射線管理士	10 名
災害支援認定診療放射線技師	2 名
医療画像情報精度管理士	4 名
画像等手術支援認定放射線技師	3 名
修士課程 修了者	2 名
博士課程 修了者	1 名

【発表・講演実績（2025.4～2026.3）】

タイトル	学会名	場所	発表年月日	発表者・共同演者
当院における MRI 安全管理についての取り組み	第 29 回静岡県放射線技師学術大会	掛川グランドホテル	2025/5/25	関口僚祐, 清水匡大
悪性神経膠腫に対する 18F-フルシクロビン PET の有用性の報告	第 93 回静岡県核医学談話会	静岡市立静岡病院	2025/6/14	坂元慎介
順天堂大学医学部附属静岡病院の足関節撮影法	第 3 回静岡整形撮影ミーティング	クリエート浜松	2025/8/30	杉山巧也
当院での腰椎・腰髄の撮像について	第 24 回 MAGNETOM 研究会	静岡市立静岡病院	2025/9/6	松田洸太
エチケット・マナー、医療コミュニケーション講座	静岡県放射線技師会	静岡県放射線技師会事務局	2025/9/7	七尾光広
悪性神経膠腫に対する 18F-フルシクロビン PET の有用性の報告	第 41 回日本診療放射線技師学術大会	福井駅前 AOSSA	2025/9/13	坂元慎介

3DT1-TFE 法による石 灰化描出能の検討	第 41 回日本診 療放射線技師学 術大会	福井駅前 AOSSA	2025/9/13	山本洋花,山崎敬 之,大宮真,平入哲 也
SSFP の基礎	第 21 回静岡県 MRI 技術研究 会	静岡パルシェ 7 F 会議室	2025/9/20	沼端健人
悪性神経腫に対するア キュミン PET について	第 2 回 胃がん 検診エックス線 撮影従事者講習 会・放射線セミ ナー	プラザヴェル デ	2026/1/24	坂元慎介
当院における腰椎撮影の 実際と工夫	第 4 回 静岡整 形撮影ミーティ ング	順天堂大学 保 健看護学部 三 島キャンパス	2026/2/28	廣内 駿

【論文】

タイトル	学会	院内共著
Evaluation of electron Monte Carlo algorithm accuracy for dose calculations in extended source-to-surface distances electron beam therapy	J Appl Clin Med Phys. 2025	Naohito Ono、Makoto Omiya、 Manami Sugiyama、Masaki Oshima

【院外活動】

- ・静岡県放射線技師会 副会長
- ・静岡 CT 研究会 代表世話人
- ・静岡県核医学談話会 世話人
- ・静岡 IVR 懇話会 世話人
- ・日本放射線技師会 倫理委員会 委員
- ・Medical Imaging conferemce in Shizuoka 世話人
- ・救急画像のトレセン 世話人
- ・静岡整形撮影ミーティング 代表世話人
- ・静岡 MRI 技術研究会 役員
- ・静岡 MRI 研究会 役員
- ・富士山 QQ 災害撮影研究会 世話人

3-4 検査室

業務実績

【2025 年度 検査件数】

	検体検査数	病理検査数	生理検査数	採血件数	委託検査数	総検査数
4 月	447,257	1,284	4,883	10,912	15,790	480,126
5 月	434,822	1,286	4,927	10,633	14,798	466,466
6 月	448,493	1,435	5,241	10,763	18,754	484,686
7 月	464,876	1,452	5,543	11,450	15,880	499,201
8 月	434,542	1,258	4,981	10,449	15,157	466,387
9 月	527,444	1,373	5,148	11,063	15,339	560,367
10 月	455,802	1,530	5,461	11,430	16,266	490,489
11 月	418,278	1,250	4,657	10,184	14,262	448,631
12 月	456,217	1,317	5,018	11,497	15,796	489,845
1 月	450,466	1,330	4,961	10,345	14,286	481,388
2 月	401,636	1,116	4,691	9,890	13,488	430,821
3 月	447,643	1,387	5,410	11,283	14,765	480,488
計	5,387,476	16,018	60,921	129,899	184,581	5,778,895
平均	448,956	1,335	5,077	10,825	15,382	481,575

【検体検査数の内訳】

	生化学	血清	一般	輸血検査 血液型	血液 凝固	細菌 遺伝子	計
4 月	316,167	44,108	16,048	4,550	59,279	7,105	447,257
5 月	307,222	42,633	15,826	4,195	57,746	7,200	434,822
6 月	306,807	43,031	15,597	4,430	71,504	7,124	448,493
7 月	327,617	45,755	17,330	4,527	61,915	7,732	464,876
8 月	305,832	42,195	16,168	4,264	58,571	7,512	434,542
9 月	374,257	51,946	18,837	4,702	70,695	7,007	527,444
10 月	322,515	44,607	16,578	4,176	60,667	7,259	455,802
11 月	296,771	41,139	14,939	4,234	55,345	5,850	418,278
12 月	322,190	44,122	16,078	4,718	60,767	8,342	456,217
1 月	317,129	44,373	16,916	4,800	59,448	7,800	450,466
2 月	282,424	39,245	15,790	4,169	53,018	6,990	401,636
3 月	318,285	43,247	16,152	4,424	58,044	7,491	447,643
計	3,797,216	526,401	196,259	53,189	726,999	87,412	5,387,476
平均	316,435	43,867	16,355	4,432	60,583	7,284	448,956

【研究活動】

1. 順天堂 6 病院技師長会、各分科会において業務の標準化、情報共有を行う
2. 毎月 1 回の検査室内勉強会（知得会）を開催し、若手技師のプレゼンテーションの場とする
3. 日本臨床検査技師会や各種専門学会の学会・研修会に参加し知識向上を図る

【資格取得状況 2026 年 5 月現在】

細胞検査士（JSCC）	6 名
細胞検査士（IAC）	5 名
認定医療技術部門管理資格	1 名
認定臨床化学免疫化学精度保証管理検査技師	1 名
認定輸血検査技師	1 名
認定血液検査技師	2 名
認定病理検査技師	1 名
認定一般検査技師	1 名
認定心電検査技師	1 名
認定心電図専門士	2 名
認定超音波検査士（循環器領域）	3 名
認定超音波検査士（体表臓器領域）	1 名
認定 POC コーディネーター	1 名
POCT 測定認定士	1 名
遺伝子分析科学認定士（初級）	4 名
緊急検査士	16 名
二級臨床検査士 免疫血清学	4 名
二級臨床検査士 血液学	6 名
二級臨床検査士 病理学	5 名
二級臨床検査士 循環生理学	3 名
二級臨床検査士 微生物学	3 名
心電図検定	1 級 5 名 2 級 5 名
静岡県肝炎医療コーディネーター	5 名
医療安全管理者	2 名
毒物劇物取扱者	1 名
有機溶剤作業主任者	3 名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	2 名
健康食品管理士	2 名
医用質量分析測定士	3 名
臨床検査技師臨地実習指導者	1 名
厚生労働大臣指定タスクシフト講習会終了	27 名（対象者 29 名）

3-5 手術室

業務実績

1. 手術件数の推移

2025 年の年間手術件数 9275 件、定時外も含む稼働率は、68.9%であった。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2023 年	760	695	789	720	778	705	756	747	758	755	755	800	9018
2024 年	773	746	756	805	778	737	839	776	801	775	758	786	9330
2025 年	802	750	750	844	796	727	769	756	780	817	709	775	9275

2. 手術室の有効利用

手術のインターバルは 30 分であった。2025 年 12 月よりアウトソーシング枠の運用が開始となり、更なる手術件数の増加が期待される。

3. 手術室看護師の業務効率化

2025 年 12 月よりアウトソーシング枠手術が開始となり、今後も定期手術の増加が見込まれる。衛生材料や器材類の統一化、既製品での運用に変更したことにより、業務の短縮、人員の確保、在庫管理がスムーズかつ簡素化ができ、効率的に業務が行えている。今後も、業務効率化のために業務の評価・修正や手術キットの見直しを適宜行っていく。また、定期的に手術室マニュアルの見直し、修正を継続する。

4. 手術室看護師の知識と技術向上

手術室では、術前・術後訪問を予定全身麻酔手術患者に全件実施している。緊急手術時も患者の状況に合わせて訪問を行っている。術前訪問で得られた情報をもとに手術室環境の整備、周手術期の看護に活用している。また、術後訪問を実施することにより看護の振り返りを行い、手術看護の質向上を目指している。術前外来で早期介入を行うことにより、患者自身が手術に向けて心身の準備ができ、行動変容に繋がるよう教育的な関わりを行っている。これらを継続し、周術期の安全と術後早期回復に向けて、より安全に安心な手術を受けてもらえる体制作りをしていく。また、サインイン・タイムアウト実施率 100%継続し、安全の確保に努める。術中麻酔管理の特定看護師が 3 名在籍している。手術室看護の専門性を高めるとともに医師のタスクシェア・シフトに貢献していく。

5. コスト削減の推進

各診療科、用度課と連携をとり、手術室内の診療材料、衛生材料などの在庫の見直しを行った。また、必要最低限の衛生材料の展開を行い、コスト削減を実施した。継続的に衛生材料と診療材料の見直しを実施していくほか、各科で共通して使用できる診療材料を検討し、在庫の削減と期限切れ材料の減少を目指す。

3-6 血液浄化センター

業務内容

血液浄化センターは、病床数 12 床であり、透析専門医師 2 名・常勤医師 3 名・看護師 13 名・臨床工学技士 14 名、看護助手 1 名により運営された。移動困難な重症例は病室へ出張し、血液浄化療法を施行した。合併症の加療のため入院した維持透析患者の血液透析の管理を行い、他科からの依頼による単純血漿交換・二重濾過血漿分離交換・エンドトキシン吸着・血液吸着・顆粒球吸着などの血液浄化療法および腹水の濃縮還元療法を行った。近年、外科領域・神経内科・膠原病内科などにおけるエンドトキシン吸着・二重濾過膜血漿交換・血液吸着などの件数が増加し、血液浄化療法の適応が拡大している。また、悪性腫瘍の治療中に発症する急性腎障害や末期腎不全へなど **Onconeurology** 分野の業務が増加している。近年、血液透析導入患者の年齢が高くなるに従い、透析を安定して行えるようになって、退院後の通院透析が困難な患者さんが増えており、リハビリテーション目的の転院が増加している。また、バスキュラーアクセスのトラブルが頻発しており、対応困難症例が増加している。外来通院患者が死亡ないし移植により血液透析を離脱したため、新規患者の受け入れを病院ホームページで周知し、行っている。

診療実績

	HD	ECUM	PMX	PE	DFPP	血漿 吸着	血液 吸着	CHDF	CART	合計
R2 年度	5,451	145	126	39	43	64	109	909	71	6,957
R3 年度	5,930	44	57	12	38	46	78	876	122	7,203
R4 年度	6,422	59	48	25	89	12	98	927	55	7,735
R5 年度	6316	83	51	37	112	4	82	733	71	7,489
R6 年度	5791	161	27	83	92	30	76	824	71	7,155
R7 年度	6072	212	31	117	20	5	14	761	94	7326

研究業績

【学会発表（国際）】

1. Shimizu Y, Toshida H, Wakabayashi K, Hirose T, Fukunaga R, Kitagawa Y, Yata M, Ohta T, Suzuki Y. Exploring the BNP-Itch Axis in Hemodialysis: A Retinal Window into Intracranial Pressure. World Congress of Nephrology 2026. Mar 28-31, 2026, Yokohama.
2. Shimizu Y, Kurusu A, Takeda S, Iwasawa T, Motohashi S, Suzuki Y. Modeling Crescentic Glomerulonephritis in Mice via Bovine NC1 Domain of Type IV Collagen: A Low-Mortality Approach. World Congress of Nephrology 2026. Mar 28-31, 2026, Yokohama.

3. Shimizu Y, Kurusu A, Takeda S, Iwasawa T, Motohashi S, Suzuki Y. Flavor-Driven Hydration: A Gentle Strategy for Maximizing Mouse Urine Yield. World Congress of Nephrology 2026. Mar 28-31, 2026, Yokohama.
4. Yata M, Wakabayashi K, Fukunaga R, Kitagawa Y, Hirose T, Shimizu Y, Suzuki Y. Noma Beyond Borders: A Case Linking Periodontal Disease, Systemic Inflammation, and Dialysis Vulnerability. World Congress of Nephrology 2026. Mar 28-31, 2026, Yokohama.

【学会発表（国内）】

1. 庄司 有里、清水 芳男、秋元 麻衣、野村 理奈、矢ヶ崎 元洋、若林 啓一、鈴木 祐介. 抗 GBM 抗体陽性の顕微鏡的多発血管炎（MPA）の経過中に胃十二指腸動脈瘤出血を合併した 1 例. 第 55 回日本腎臓学会東部学術集会. 2025 年 9 月 28 日. パシフィコ横浜
2. 池谷紗瑛, 野村理奈, 廣瀬樹, 若林啓一, 清水芳男. 半月体形成を認め亜急性に進行した IgG4 関連腎臓病の一例. 第 71 回静岡腎セミナー. 2025 年 9 月 6 日. グランドホテル浜松
3. 福永 諒, 北川 祐己, 矢田 昌敬, 廣瀬 樹, 若林 啓一, 清水 芳男. 両側肺門リンパ節腫脹と高カルシウム血症を呈し自然寛解後のサルコイドーシスの再燃が疑われた血液透析患者の 1 例。第 67 回静岡県腎不全研究会. 2026 年 3 月 22 日. グランシップ
4. 矢田 昌敬, 福永 諒, 北川 祐己, 廣瀬 樹, 若林 啓一, 清水 芳男. 希少な免疫染色パターンを呈したアルポート症候群の診断例. 第 72 回静岡腎セミナー. 2026 年 2 月 7 日. グランシップ.

【和文著書】

1. 清水 芳男. 急速進行性糸球体腎炎（RPGN）・ANCA 関連血管炎（AAV）. エキスパートのための慢性腎臓病（CKD）ハンドブック. 監修：富野康日己. 編集：浅沼克彦, 清水芳男, 鈴木 仁. 中外医学社. 2025 : 107-130.
2. 清水 芳男. GFR：測定方法, eGFR とゴールドスタンダード, 血清 Cr・Cys-C 測定の意義/使い分け. エキスパートのための慢性腎臓病（CKD）ハンドブック. 監修：富野康日己. 編集：浅沼克彦, 清水芳男, 鈴木 仁. 中外医学社. 2025 : 2025; 41-49.

3-7 臨床工学室

業務実績

人工心肺装置操作業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	12	10	10	9	11	9	9	9	9	9	9	12	118

血液浄化業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
HD	515	441	508	566	504	505	497	462	520	561	453	540	6072
ECUM	12	9	6	10	13	15	26	21	36	16	11	37	212
PMX	0	0	2	9	2	0	3	10	5	0	0	0	31
PE	3	25	10	14	14	2	2	6	10	21	10	0	117
DFPP	0	2	1	9	0	4	0	0	2	0	2	0	20
PA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
HA	0	0	2	5	0	5	0	0	0	0	2	0	14
CHDF	42	64	54	90	83	36	58	82	86	50	54	62	761
CART	5	4	8	7	4	4	5	4	12	13	13	15	94
PBSCT	1	0	2	1	1	3	3	0	0	2	2	1	16
合計	578	545	593	711	621	574	594	585	671	663	547	660	7342

高気圧酸素療法業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	7	22	21	34	41	17	17	9	11	17	12	18	226

心臓カテーテル室業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CAG	15	14	16	17	19	11	19	21	9	14	20	21	196
PCI	58	47	41	57	47	35	55	51	56	46	48	38	579
PPI	3	9	8	5	6	8	6	6	5	7	12	15	90
右心カテ	11	3	9	6	11	12	9	9	5	6	10	9	100
左心カテ	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
両心カテ	2	1	0	5	0	2	5	5	5	4	2	2	33
圧測定	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	1	1	6
EPS	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1	6
Abration	19	17	21	27	19	25	24	27	20	25	28	27	279
IVUS	51	48	36	49	40	35	52	42	57	49	50	45	554
FFR	9	13	13	14	12	7	11	13	4	11	12	12	131
OCT	11	7	11	13	12	6	9	9	6	5	6	7	102

Rota		4	1	3	5	2	0	3	4	4	0	5	1	32
CROSSER		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
IABP		3	6	2	4	11	3	6	5	11	2	4	7	64
ELCA		2	4	3	7	7	2	3	4	5	3	6	2	48
Pacemaker	植え込み	4	6	8	6	4	1	3	1	2	3	3	5	46
	交換	4	0	2	2	3	4	3	6	1	3	2	4	34
	リードレス	8	8	11	6	4	4	11	10	7	5	9	5	88
ICD	植え込み	0	0	1	2	0	0	1	0	1	1	2	2	10
	交換	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
CRT	植え込み	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
	交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
SICD	植え込み	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	4
	交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ILR		0	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	2	7
V-A ECMO		2	1	1	2	2	1	3	2	5	0	1	5	25
V-V ECMO		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Impella		1	0	1	1	2	1	2	2	0	1	0	4	15

手術室業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
圧ライン作成		13	10	13	11	13	9	9	9	8	9	9	12	125
術中 CS		42	29	34	32	29	24	28	24	18	24	17	24	325
術後 CS		4	6	5	7	9	7	4	4	4	4	4	5	63
神経 モニタリング	Tc-MEP	19	29	19	24	14	14	17	17	12	21	21	16	223
	SEP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ABR	0	2	2	1	0	1	0	1	0	2	0	1	10
	AMR	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
	VEP	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
外視鏡		8	6	4	3	3	1	1	2	0	4	1	5	38
マイクロ ナビゲーション		7	11	10	23	12	12	15	18	12	17	13	12	162
Da-Vinch		17	14	15	16	18	21	20	14	20	25	20	21	221
TAVI		4	8	8	5	7	9	5	3	3	5	7	4	68
Impella		0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
IABP		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
ECMO		0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	6
MitraClip		3	1	1	0	0	1	3	2	0	1	0	0	12
IVUS		2	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	7
内視鏡		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
D-MEP		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

3-8 輸血室

業務実績（2025 年度）

年間輸血検査件

・血液型検査（ABO、Rh）	14,657 件
・不規則抗体検査	12,755 件
・交差適合試験	10200 件
・クリオプレシピテート調製	344 件
・新生児用輸血小分け調製	28 件
・緊急 O 型赤血球輸血対応	91 件

年間輸血使用量

赤血球製剤 14,784 単位、自己血 421 単位、新鮮凍結血漿 4,722 単位、
 血小板製剤 19,920 単位（洗浄血小板製剤 1190 単位 HLA 血小板製剤 70 単位
 洗浄 HLA 血小板製剤 60 単位 を含む）、クリオプレシピテート 970 単位

診療科別輸血使用量

	赤血球製剤	自己血	新鮮凍結血漿	血小板製剤	クリオプレシピテート
血液内科	4,092	0	478	14,710	0
心臓血管外科	1,710	1	1,262	1,690	320
循環器科	1,390	0	332	330	24
外科	1,310	0	280	270	0
救急診療科	1,515	0	938	860	308
整形外科	364	378	6	10	0
消化器内科	1,072	0	120	150	4
産婦人科	716	42	198	150	12
脳神経外科	598	0	168	330	20
泌尿器科	484	0	2	450	0
腎臓内科	386	0	246	80	0
呼吸器外科	94	0	44	50	0
呼吸器内科	190	0	4	290	0
新生児科	87	0	42	40	4
形成外科	96	0	0	0	0
麻酔科	346	0	248	240	278
膠原病内科	120	0	300	130	0
皮膚科	24	0	0	10	0
耳鼻咽喉科	42	0	0	0	0

小児科	24	0	36	80	0
糖尿病・内分泌内科	78	0	10	50	0
脳神経内科	46	0	8	0	0
眼科	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0
メンタルクリニック	0	0	0	0	0
計	14,784	421	4,722	19,920	970

廃棄（有効期限切れ、払い出し後の未使用・温度管理不備）

赤血球製剤 12 単位（廃棄率 0.081%）
 新鮮凍結血漿 16 単位（廃棄率 0.33%）
 血小板製剤 30 単位（廃棄率 0.015 %）

3-9(1) 看護部

I. 年間目標

- 1) 患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を提供
- 2) 専門職としての責任の遂行と人材育成
- 3) 切れ目のない医療・看護の実現と地域への貢献
- 4) 健全な病院運営への参画と診療報酬改定への対応
- 5) 心身ともに健やかで安全な職場環境の構築
- 6) 災害に強い組織体制の構築

II. 目標に対する改善計画

看護部 QI 計画に準じる。

III. 教育・研修計画

看護部各課の委員会活動、看護教育課の計画に準じる。

IV. 業務内容（主なもの）

1. 日常業務

- 1) 職員一人ひとりが、目標達成のための活動が出来るように環境を調整する。
- 2) 職員一人ひとりの能力特性の開発を行い、教育に関する調整を行う。
- 3) 患者の治療・看護がスムーズに実施できるように環境を調整する。
- 4) 患者の快適な環境を提供でき、施設・設備・備品を整える。 7) 患者及び職員の安全に関する事項。
- 5) チーム医療推進のため他部門と連携する。 8) 院内・部内の会議に関する事項。
- 6) 各課からの報告事項に関する指導・監督。 9) 6 病院看護部及び看護学部との教育体制の推進、FD の推進。

2. 月間・年間業務

- 1) 日常業務・月間業務計画に基づき実施
- 2) 年間目標・計画作成と評価（SWOT 分析より業務課題を整理、部署目標作成。戦略達成の評価とアクション）次年度計画立案

3. その他

- 1) 順天堂 6 病院看護責任者会（年 7 回）、及び師長・主任研修会（年 1 回開催）
- 2) 東部看護管理者会、研修会（年 3 回）
- 3) 県看護管理者会（年 2 回）
- 4) ここいきサポートネットワーク会議（地域包括ケア推進事業）（年 2 回）

V. 学会・研修会など（外部）

- 1) 順天堂保健看護学部、「看護管理」科目担当（100 分 3 回）4 月
- 2) 順天堂保健看護学部、「看護管理」科目担当（100 分 2 回）10 月
- 3) 関連看護系学会参加

	業 務 内 容	業務改善計画・教育計画
2025 年 4 月	年度目標計画開始、看護職員新採用オリエンテーション 看護管理会議開催、教授会、6 病院責任者会 部内・拡大会議	各委員会の開催、昇格師長・主任オリエン テーション、中間管理者研修計画発表、看 護師特定行為研修開講
5 月	休日体制の運営、看護管理会議開催、部内・拡大会議、 6 病院責任者会、教授会	看護師特定行為研修の進捗確認 保健看護学部実習開始
6 月	新入職員正規採用の勤務評価、看護管理会議・主任会の開 催、部内・拡大会議、師長面接（入院・外来業務課）、 教授会、職員実態調査、師長・主任面接	順天堂大学看護部門内部監査の準備 中間管理研修開講
7 月	就職説明会、採用試験、保健看護学部オープンキャンパス 支援（施設見学）看護管理会議開催、部内会議、 6 病院責任者会、教授会	内部監査、看護体制：ペア制の進捗確認
8 月	就職説明会、採用試験、職員実態調査、保健看護学部オー プンキャンパス支援（施設見学）	夏季休暇
9 月	就職説明会、採用試験、看護管理会議開催、部内・拡大会 議、6 病院責任者会、教授会、保健看護学部オープンキャン パス支援（施設見学）、看護補助者の業者選定	看護部中間評価
10 月	就職説明会、看護管理会議開催、部内・拡大会議、6 病院 責任者会、教授会	6 病院合同師長・主任研修会
11 月	就職説明会、採用試験、看護管理会議開催、部内・拡大会 議、6 病院責任者会、教授会	看護師特定行為研修の進捗確認
12 月	採用試験、看護管理会議・主任会の開催、部内・拡大会議、 教授会 主任・師長キャリア面接	年末の見直しと新年からの年度評価準備
2026 年 1 月	職員実態調査、看護管理会議・主任会の開催、部内・拡大会 議、6 病院責任者会、教授会 次年度昇格者選定、主任・師長キャリア面接	
2 月	看護管理会議・主任会の開催、6 病院責任者会、部内・拡 大会議、教授会、師長・主任合同会議	看護部年間評価 次年度計画
3 月	看護管理会議開催、6 病院責任者会、部内・拡大会議教授 会、就職説明会（医療看護・保健看護学部）	看護師特定行為研修修了

2025 年度 看護部 年間総括

1. 主要な成果（看護の質向上と切れ目のない医療・看護）

- **入院前支援の機能強化**： 2025 年 6 月からの対象拡大に伴い、全入院の 21%（1,897 件）に対して早期介入を実現し、切れ目のない医療・看護の充実に寄与した。
- **看護の安全と質の向上**： 褥瘡対策の徹底により、自重褥瘡（128 件）および MDR-PU（144 件）を大幅に削減。また、一般病棟での身体拘束率を前年の 10.1%から 5.1%へと半減させ、特定病棟でも 22.2%（前年 26.0%）に低減した。
- **接遇・マナーの劇的改善**： 接遇改善への継続的な取り組みが実を結び、患者からの苦情は前年比 59.3%に減少。一方で賛辞は 392.3%と激増し、確かな成果として表れた。
- **組織の安定と専門性の発揮**： 平均勤続年数が 31.3 年へと延伸し、全体離職率は 7.9%へと低下した。管理者の QI 活動を軸とした研究体制の強化により、学会発表 49 演題、研究投稿 5 件と優れた業績を上げた。また、看護補助者の専門業務割合が 81.8%に達し、タスクシフト（業

務移管)の基盤が整った。

2. 継続・今後の課題（安全管理・労務・組織体制）

- **医療安全・リスク管理：** 薬剤誤認は減少したものの、個人情報誤認が 25 件（目標 8 件以下）と急増した。また、身体拘束の低減に伴い、転倒転落（レベル 2: 0.38%）が増加傾向にある。新アセスメントシートを活用したリスク予測精度の向上が求められる。
- **感染・災害対策の定着：** 手指衛生の部署目標達成が 17/27 部署にとどまり、VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）の水平感染抑制に向けた指導継続が急務である。防災面では、看護師の約 40%（289 名）が部署訓練に未参加・未認知であったほか、局所災害対応の運用面でも課題が露呈し、院内全体の災害・危機管理体制の再構築が必要である。
- **労務管理と心理的安全性：** 全体離職率が低下した一方、就業規則の変更による本採用条件改定の影響等により、早期離職率が 5.7%（前年 1.8%）へと上昇した。さらに、職員満足度調査において「ハラスメント経験あり」との回答が 4 割近くに上り、心理的安全性の確保に向けたコンプライアンス強化が不可欠である。
- **業務改善の格差とシステム制約：** 月平均超過勤務時間は 14 時間 40 分（前年 15 時間 45 分）と短縮傾向にあるものの、目標（12 時間）には未達であり、特に管理者層の超勤および打刻乖離の解消が遅れている。現在、師長会を中心に「申し送りの廃止」や「看護補助者へのタスクシフト・シェア」を展開しているが、部署間での導入進捗に格差がある。また、入院前支援における電子カルテのシステム制約（紙運用）や病棟の認識不足による運用の不継続、パス使用率の低迷など、システムと運用の双方に抜本的な見直しが必要である。

3. 次年度への展望

2026 年度は、入院前支援の定着や褥瘡抑制、マナー改善といったこれまでの成果を積み重ねながら、明確となった安全管理・労務・組織運営上の課題解決へ向け取り組む。具体的には、「5S 活動」を単なる環境整備に留めず、情報管理の徹底や業務動線の最適化など、業務効率化に直結する基盤改革として推進する。これと並行し、個人情報誤認や転倒転落に対するリスクマネジメントの再徹底、およびハラスメント撲滅に向けた意識改革を実施する。

また、師長会を軸とした業務改善の部署間格差を埋め、看護管理者自身の労働環境を是正していく。さらに、看看連携および地域連携の強化を目的として、看護協会の事業を積極的に活用する。訪問看護ステーションへの特定行為看護師の派遣などを通じて地域との強固なネットワークを構築し、当院における入退院支援体制のさらなる高機能化を図る。

これらの一連の改革を通じ、「安全で質の高い看護の提供」と「スタッフが心身ともに健やかに働き続けられる職場環境」の両立を確実なものとする。

2025年度 看護部目標と指標(QI:Quality Indicator)期末評価

誤差WG一部修正版

2026.4.13 看護部

目標1)患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を提供する

転倒転落発生率を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	①	損傷レベル2の転倒転落発生率(年間)	0.32%	0.32%未満	0.32%未満
	分子	損傷レベル2の転倒転落発生件数			
	分母	転倒転落インシデント・アクシデント報告件数			
			結果	6か月後	1年後
				0.36%	0.38%
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	①	トイレ・排泄関連の転倒転落発生率	37.7%	33.8%	30.0%
分子	トイレ・排泄関連の転倒転落発生件数				
分母	転倒転落インシデント・アクシデント報告件数				
		結果	6か月後	1年後	
			27.4%	28.9%	

誤薬発生率を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	①	薬剤に関連する事故発生率(年間)	21.2%	20.5%	19.1%
	分子	薬剤に関連する事故発生件数			
	分母	インシデント・アクシデント報告総件数			
			結果	6か月後	1年後
				22.9%	23.6%
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	①	注射薬に関連する誤薬事故発生件率(年間)	注射 58.4% インスリン5.3%	注射 55.5% インスリン5.1%	注射 52.6% インスリン4.8%
	分子	注射薬に関連する誤薬事故発生件数			
	分母	薬剤に関する誤薬事故発生件数			
			結果	6か月後	1年後
				注射 50.8% インスリン6.2%	注射 43.8% インスリン6.1%
	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	②	内服薬に関連する誤薬事故発生件数率(年間)	38.2%	37.0%	35.9%
	分子	内服薬に関連する誤薬事故発生件数			
	分母	薬剤に関する誤薬事故発生件数			
			結果	6か月後	1年後
				49.1%	52.2%
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	③	患者誤認に関連する誤薬事故発生件率(年間)	2.8%	6か月の結果をもって 1年後設定	1.3%
	分子	患者誤認に関連する誤薬事故発生件数			
	分母	薬剤に関する誤薬事故発生件数			
			結果	6か月後	1年後
				1.6%	0.8%

身体拘束割合を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	①	身体拘束延べ患者日数割合	一般:10.16% 特定:26.08%	一般:9.7% 特定:25%	一般:9% 特定:24%
	分子	1ヶ月間に身体的拘束を実施した 延べ患者日数			
	分母	1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数			
			結果	6か月後	1年後
				一般:7.8% 特定:29.9%	一般:5.3% 特定:23.3%
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	①	せん妄発症割合	7.5%	10% (定期的な判定を行う)	20.0%
	分子	せん妄/ハイリスク患者のせん妄発症数			
	分母	せん妄/ハイリスクケア加算対象患者数			
			結果	6か月後	1年後
				8.00%	7.50%
	②	身体拘束によるスキントラブルの発生数	未調査	6か月後	1年後
	分子	身体拘束によるスキントラブル発生数		未設定	0.02%
	分母	身体拘束実施患者数			
			結果	6か月後	1年後
				0.04%	1.00%

目標3)他職種と連携・協働

①安全・安心なタスクシフト・シェアをすすめる(看護補助者の活用)

タスクシフト・シェア	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	① タスクシフト実施に向けた業務の実態調査を行い、標準化を図る(介護士・看護助手)		なし	各部署毎の業務内容調査	調査結果から当院での看護補助者業務の実施基準と標準マニュアルを作成と現状との乖離調査
			結果	6か月後 部署毎で実施されている業務のばらつきを確認した。明確な職種別に業務基準を作成し、業務の標準化を図る。	1年後 当院の看護補助者業務を直接ケアと周辺業務に分類・整理した結果、部署間で実施状況や条件に差があり、条件明確化による標準化が安全なタスクシフト推進に必要と示された。
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	① 看護師超過勤務時間(DINQL非管理者)		18:00	(4～6月)18:03時間	(7～9月)17:06時間(－57分)
	② WLBインデックス調査(12月実施:看護ケアに費やす時間を十分にとることができる)		46.9%(そう思う10.3%)(ややそう思う36.6%)	調査中	60.6%(+13.7%)(そう思う11.8%)(ややそう思う48.8%)
	③ 患者満足度調査(10月実施:ナースコールは素早く対応対応したか)		79.4%	調査中	79.1%(－0.3%)
			結果	6か月後 看護師超過勤務時間(7月まで)一般病棟平均:17:19 特定病棟平均:13:10 WLBインデックス調査:未実施 患者満足度調査:未実施	1年後 超過勤務は減少しケア時間の確保は向上したが、ナースコール対応評価は低下しており、今後は看護補助者へのタスクシフト・シェアで対応体制の最適化と看護の質向上を図る。

①安全・安心なタスクシフト・シェアをすすめる(特定看護師等の活用)

タスクシフト・シェア 特定行為	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後(2026年2月まで)
	① 全ての特定看護師が活躍できることを目標に、特定行為、特定行為外の処置(Aライン抜糸、尿道留置カテーテル挿入、経鼻胃管カテーテル挿入、エコーガイド下の静脈路確保、血培養採取等)の実施件数		①特定行為・合計871件<内訳> 3AICU・278/ICU・CCU・228・手術室・142 創傷関連(多部署)・103 一般病棟・65 救急外来・43 ②特定行為外・合計1039件<内訳> 3AICU・482/ICU・CCU・379 手術室・71・HCU・11・8A・42 6A・9・5A・4・5B・10・9A・11 外来検査・8・外来E・1・救急外来・9・教育課・2	計画	全部署で特定行為件数、および特定行為外の処置件数が増加する
			結果	6か月後 タスク・シフト/シェアを推進するうえで、特定の部署や個人を対象するのではなく、どの特定看護師も活躍できるような体制作りが必要ながわかった。よって、QIを修正することとした。	1年後 2025年度と比較して、特定行為は約1.4倍、特定行為外の処置は約1.5倍に増加した。特定行為・特定行為外を含め、特定病床や手術室で約82%実施。部署や特定看護師間で実施数に大きな開きがあり、どの部署や全ての特定看護師が活躍できている状況ではない。
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	① 診療科別行為実施件数(定点点調査)		なし	計画	特定看護師がいる部署の実施率は約78%(53/68件)、いない部署の実施率は0%。実施率は、診療科に依存するのではなく、特定看護師の有無に依存している
	② 特定看護師自身の満足度		なし	計画	満足度は平均3.0/5.0であり、一般病棟や一般外来では52.5%が自己の能力が活用できていると回答
	③ 特定看護師のニーズや満足度調査(管理者)		なし	計画	特定看護師不在部署の管理者の65%は、DIV挿入、血培養採取、現性/リターン挿入等の活用を期待している。
			結果	6か月後 タスク・シフト/シェアを推進するうえで、特定の部署や個人を対象するのではなく、どの特定看護師も活躍できるような体制作りが必要ながわかった。よって、QIを修正することとした。	1年後 特定行為のすべてに対応できているわけではなく、特定看護師不在の部署においても一定のニーズがあることが明らかとなった。現在はクリティカル部門に集約しているが、配置とニーズのミスマッチが生じている。今後は組織機能的に活動できる体制を整備し、特定看護師の活躍を広げることで現場の満足度向上につなげる。

目標4)健康で安全な職場環境をつくる

業務効率化の推進(申し送り廃止・看護記録の見直し)

⑥ 超過勤務の削減を図る	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	① 申し送りの実態調査		一般:19.3時間 特定:18.3時間	前年度以下	16時間以下
			結果	6か月後 一般床:16.58時間 特定:13.1時間	1年後 一般:17.25 特定:17.02
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2024年度	6か月後	1年後
	① 申し送り削減に向けたトライアル病棟での実施		アンケート実施 人事交流研修	トライアルの実施	申し送り廃止
			結果	6か月後 ・4病棟でのトライアルの実施 ・全病棟トライアルに向けた運用マニュアルの作成 →10月の主任会でトライアル病棟の成果発表予定	1年後 ・申し送り廃止:2部署 ・短縮簡略化:5部署 調査・見学・準備段階:7部署 スタッフへの周知・説明:3部署 ・心理的安全性担保のための管理者への取り組み共有

2025年度 看護部委員年間評価

2026年3月 看護部

	成果指標	目標値	結果	年間評価
医療安全	患者誤認発生件数	薬剤:10件以下 個人情報:8件以下 検査:6件以下	薬剤:7件↓ 個人情報:25↑ 検査:6件→	今年度は、「患者誤認」「誤薬」「転倒転落」の3テーマでグループ活動を実施した。患者誤認では、患者搬送指示書の運用や患者確認・認証方法の指導、手元確認を徹底した結果、薬剤における誤認は減少したが、個人情報の誤認は約3倍に増加し、書類関連対策の強化が課題となった。誤薬では、内服薬およびインスリン投与手順の指導と手元確認を行い発生率は微減したが、内服薬の誤薬は依然として減少せず、背景要因の分析と新たな対策が必要である。転倒転落では、排泄関連の減少を目的に多職種で介助教育とカンファレンスを実施したが、損傷レベル2の発生率が増加したと共に転倒リスクの高い患者が多く存在している事がわかった。身体拘束低減により、今後も転倒転落患者数は減少しない可能性もあることから、改訂した転倒転落アセスメントスコアシートの活用によるリスク評価の精度向上と、個別性ある看護計画および安全な療養環境の整備が求められる。テーマ毎に明確になった課題を次年度に引継ぎ、更なる安全な看護の提供を目指し活動を継続していく。
	誤薬発生率	2.00%未満	2.00%	
	損傷レベル2転倒転落発生率	0.32%未満	0.38%	
	患者搬送指示書の作成と使用(入院業務課)	全部署で使用	全部署使用中	
	正しい患者確認・患者認証の実施率(外来業務課)	90%以上	100%	
	正しい手順での内服薬の準備から投与までの実施率	90%以上	89.6%	
	インスリンシステムに対応した手順動画の作成と使用	全部署で動画視聴	動画作成は完了 視聴未実施	
	正しい手順での血糖インスリンダブルチェックの実施率	90%以上	97.7%	
	転倒転落スコアシートの改訂と使用	全部署で試用	紙媒体で試用 (各部署2患者で実施)	
	安全な移乗及び移動の介助方法の動画作成と視聴	看護補助者・看護師は全員視聴	全員視聴済	
感染対策	KYTトレーニング実施	全員部署4回/年	全部署4回/年完了	各部署での手技の確認を積極的に行っており、オムツ交換の手技達成率は前年度より上昇した。また、ケアマイスターと新規にオムツマイスターの増員も図ることができた。しかしながら、アルコール使用回数は目標達成に至らず、耐性菌の新規発生の要因となり得るため、目標回数だけではなく実施率や遵守率を含め手指衛生の向上を図っていく必要がある。環境監査については入院病棟に重点を置き、VREに関連した項目の監査を行った。少しずつ改善傾向にある。リンクナースを中心に看護師だけでなく介護士、補助者に対しても教育的な関わりを行い部署のスタッフが自身のこととして捉え、改善に向け活動を継続していけるよう支援を行っていく。
	VRE感染症発生件数	0件	87件	
	環境監査80%以上達成	入院病棟80%以上	77.2%	
	「患者に触れる前」に「何もせず」を1回/年を達成	27部署達成	①20部署/③25部署達成	
	アルコール使用回数の部署目標達成	27部署達成	17部署達成	
	2割の看護師のケアマイスター取得	54名以上	新規ケアマイスター取得者152名	
褥瘡予防対策	ケアマイスターに寄るオムツ交換手技達成率	85%	88%	褥瘡対策チーム、特定看護師と協働し、自重褥瘡・MDR-PUの新規発生を減少できた。要因として、予防的ケアの介入を行うために、予防カンファレンスを各部署で行ったことや、新たに褥瘡のリスクアセスメントツールを活用し、患者状態の変化時にリスクアセスメントを行い、ケアの介入を早期に行うことができたと考えられる。また、情報共有する際に共通認識し、統一したケアができるように各部署、情報共有ツールの見直し、修正を行ったことで、継続的にケアの介入が行えていたと考えられる。 次年度も、リスクアセスメントツールの活用と、局所ケアだけでなく、ADLや療養環境などにも視点を当て、看護ケアを検討できるようにしていく必要がある。
	自重褥瘡発生件数	206件以下	128件	
	MDR-PU発生件数	181件以下	144件	
	褥瘡保有者の自立度評価の乖離割合	14%以下	18%	
	褥瘡ハイリスク取得件数	1001以上	1184件	
	新規褥瘡発生時のカンファレンス開催件数	指定した症例数	18/20症例	
災害対策	リンクナースのケアマイスター取得	リンクナース全員	17/18名	今年度新たな検討事項として、①火災訓練②局所災害③応援要件の見直し④看護部内規の見直しを行った。リンクナースに部署の意見を集約してもらい課題を明らかにすることはできたが、具体的な改善には院内・看護部を巻き込む必要があるため次年度に引き継いでいきたい。 例年実施している①初動シミュレーション②部署での机上シミュレーションは計画通り実施できた。参加人数には部署によるバラツキも大きくリンクナースの働きかけの差も大きく自己評価にも現れている。また、参集基準や場所など初動に関する知識の習得は目標達成に至らなかった。内規の改定に合わせ、次年度の教育内容を変更・見直し、教育を継続していく必要がある。
	医療関連機器圧迫創傷予防ケアの学習会	各部署1回以上	全部署	
	アンケートによるリンクナースの自己評価	75点以上	73.4点	
	動画聴講回数	1クーラー人2回以上(年2回/人以上)	全体2051回 Ns延べ1588回、その他463回	
	看護師の具体的参集人数・生活圏マッピングの把握が毎月できる	名簿更新5日まで100%	5日までに更新できていた平均88%	
	カード携帯状況	90%以上	98%	
	自分自身の参集基準を理解できた看護師割合	90%以上	98%	
	参集基準・場所の正答率	それぞれ80%以上	基準78%,場所86%	
クリニカルパス委員会	緊急連絡網での職員把握	90%以上	72%	今年度、リンクナースの8割が委員を経験したことがなく、クリニカルパスの作成から使用方法と基本的な学習が必要な状況であった。そこで、委員会の中でクリニカルパスとは、パスの作成方法、修正方法と勉強会を開催。日常で医師や患者との関わりを多く持つ看護師だからこそ気づける修正点を改善していくよう呼びかけた結果、既存パスの見直し件数も目標値を大きく上回る結果となった。今後は、使用しやすくなったパスの活用、看護の視点での看護計画に関わる修正もしていく必要がある。
	クリニカルパス使用率	48.5%	45.5%	
	患者パス見直し件数	50件	40件	
	新規パス作成件数	11件	17件	
	既存パス見直し件数	180件	334件	
	パス検証会実施件数	5診療科	3診療科	

		成果指標	目標値	結果	年間評価
記録委員会	看護記録	即時記録が出来ない要因の調査	調査	調査終了	看護記録の適性向上と効率化を目的に活動を実施した。看護記録に関して職員が困っている内容や改善をヨウする事項について調査を行い、看護業務の効率化やタイムリーな記録に繋がる課題の把握に取り組んだ。あわせて自部署における形式監査を2回、委員会師長における質監査を1回実施し、記録を振り返る器械を設けることで、看護実践を適切に記録する意識の向上に繋げた。さらに、看護記録記載基準の整備を進めるとともに、学習会を6回実施し、基準に則った記録の周知を図った。今後は、調査および監査結果をもとに、看護記録記載基準を完成させ周知していく必要がある。
		看護記録に対する改善内容の調査	調査	調査終了	
		看護記録形式監査	2回/年	2回/年	
		看護記録質監査	1回/年	1回/年	
		看護記録記載基準の作成	新規作成	作成中	
		看護記録記載基準に則った学習会の開催	6回/年	6回/年	
	看護必要度	重症度、医療・看護必要度監査	監査・修正率100%	監査・修正率100%	必要度判定の漏れのない適切な評価の定着を目指して活動を行った。必要度評価に関する監査・修正は100%実施し、eラーニング研修受講率は100%であった。必要度の登録漏れが多く、適時調査でも指導があった。しかし、リンクナースへの指導では個人の力量で部署への指導が統一出来ない事も考えられた為、師長にも取り込み漏れがないよう協力を依頼した。今後も監査と、学習会を継続し必要度の質の維持向上につなげていく。
		ナーシングスキルによる学習（重症、ハイケア、一般病棟に所属する看護師）	受講率100%	受講率100%	
マナー	苦情・賛辞・提言の件数	苦情・提言数 昨年比80% 賛辞 昨年比120%	苦情 59.26% 賛辞 392.3%	品位ある対応についてはあいさつ習慣などを取り入れ、ラウンドによる課題の抽出と対応策の実施、風土の醸成を中心に活動に行った。社会人として他業種へのマナーとしてユニフォームの出し方にも取り組んだ。カンファレンスについては各部署で苦情についてのカンファレンスを行った。管理者の参加も呼びかけた。評価指標の苦情・賛辞についてご意見箱が多く設置されたため賛辞が増えたと意見をいただいたが苦情も減少しているため取り組みの成果ととらえ評価する。ユニフォームのポケットの管理については引きつづき課題である。カンファレンスとあいさつ運動など主体性を重視した活動の継続が必要である。	
	対応についてのカンファレンス	総実施件数 100回以上 参加人数平均 10人以上	総実施回数 826回 参加人数平均 20.98人		
	身だしなみ、品位ある対応についての部署内評価	「×」の割合 全体1.2%以下 身だしなみ 0.25%以下 品位ある対応 2.0%以下	「×」の割合 全体1.15% 身だしなみ 0.93% 品位ある対応 1.56%		
	ユニフォームの出し方についての注意喚起・啓蒙活動の実践	クリーニング返却物 245点/月以下 （薬品5点:医療品3点:その他1点で計算）	クリーニング返却物平均 469点		
	ナーシングスキルの聴講	全員受講	全員受講		
キャリア開発委員会	・リーダートレーニングの標準化 ・学会（ポスター）形式による成果発表	実施	・リーダートレーニングマニュアルのマネジメントに関連する項目の抽出を実施 ・主任会年間取り組み発表 26演題（2/17ポスター形式）	①各部署の課題に対して管理的視点での取り組みを学会形式で発表した。リードマニュアルの現状調査実施。 ②各ラダーにおける研修内容の一貫性があるかを、研修計画の段階で主任やキャリア開発委員と調整し、ブラッシュアップながら進めた。 ③新クリニカルラダー運用に伴い、実践例を提示しながらトラブルなく本格運用に至った。 ④2025年度6病院管理者研修会の企画・運営、報告完了。 ⑤学会活動は、前年度以上の業績をあげ、研究倫理規定やフローチャートの修正を行った。 次年度は、引き続き主任会支援を行い管理能力を向上できるようにキャリア開発委員会メンバーと協力しながら取り組みをすすめる。新クリニカルラダー更新に伴い、現任研修との整合性を確認しながら研修を進める。引き続き学会等の院外研究活動を推進し、そのための支援を行う。	
	・研修終了後のOJT支援 ・現任教育のブラッシュアップ ・主任会、現任研修企画・運営サポート	実施	・現任教育研修はシリーズごとの共有と内容のブラッシュアップをキャリア開発委員メンバー中心に実施。 ・期末アンケートにおいてOJT状況を集計（次年度課題へ）		
	・新クリニカルラダー周知	周知	・新ラダーについては実践一覧を提示した。年度末評価から新ラダー使用開始した。		
	・2025年度6病院管理者研修会の企画・運営	実施	・9月23日研修終了。研修評価・まとめを行い、報告書作成済み。		
	・学会発表数 ・研究投稿数 ・研究評価	30演題以上	・学会発表（口演・ポスター・シンポジウム）49 ・研究投稿5 ・倫理評価27（9月までは教育課で実施、以後院内審査へ） ・看護研究のフローチャートを見直し、10月からは学内規定に則って実施することとした。		
基準手順委員会	各部署の基準・手順、パンフレットの監査	申請数すべて	承認8件	今年度適時調査、内部監査に向けて基準・手順の見直しを実施。 ①看護部業務基準は外出・外泊届けの変更を行い在庫終了次第更新予定②看護師長業務手順は全体の見直しを終了③看護基準は共有ファイル管理に統一する予定④検査手順はナーシングスキルに合わせ教育課と調整する⑤看護補助者、介護福祉士のマニュアルはラダー、WIPE法について追加した。 各部署・基準・手順、パンフレットの監査は申請方法の変更を行い、8件承認することができ、現在新規2件追加申請あり、次年度継続。院内で統一した手順・パンフレットが活用できるように推進していく。	
	5項目の見直し	5項目の見直し・終了	5項目見直し終了		
	院内・院外研修参加件数	1回以上の参加	1回参加		

看護部 2026 年度

I. 年間目標

1. 患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を提供する
2. 専門職としての責任と役割遂行が発揮できる人材育成
3. 多職種と連携・協働しチーム医療・地域貢献を推進
4. 健康で安全な職場作り
5. 健全な病院運営に参画
6. 災害（大規模災害・火災・パンデミックなど）に対する危機管理の強化

II. 目標に対する改善計画

看護総務課、看護外来業務課・看護入院業務課、看護安全管理課、看護教育課の計画に準じる。

III. 教育・研修計画

看護部各課の委員会活動、看護教育課の計画に準じる。

IV. 業務内容（主なもの）

1. 日常業務

- 1) 職員一人ひとりが、目標達成のための活動が出来るように環境を調整する。
- 2) 職員一人ひとりの能力特性の開発を行い、教育に関する調整を行う。
- 3) 患者の治療・看護がスムーズに実施できるように環境を調整する。
- 4) 患者の快適な環境を提供でき、施設・設備・備品を整える。
- 7) 患者及び職員の安全に関する事項。
- 5) チーム医療推進のため他部門と連携する。
- 8) 院内・部内の会議に関する事項。
- 6) 各課からの報告事項に関する指導・監督。
- 9) 6 病院看護部及び看護学部との教育体制の推進、F D の推進。

2. 月間・年間業務

- 1) 日常業務・月間業務計画に基づき実施
- 2) 年間目標・計画作成と評価（SWOT 分析より部署目標作成。戦略達成の評価とアクション）
次年度計画立案

3. その他

- 1) 順天堂 6 病院看護責任者会（年 7 回）、及び師長・主任研修会（年 1 回開催）
- 2) 東部看護管理者会、研修会（年 3 回）
- 3) 県看護管理者会（年 2 回）
- 4) ここいきサポートネットワーク会議（地域包括ケア推進事業）（年 3 回）

V. 学会・研修会など（外部）

- 1) 順天堂保健看護学部、「看護管理」科目担当（100 分 3 回）4 月
- 2) 順天堂保健看護学部、「看護管理」科目担当（100 分 2 回）10 月
- 3) 関連看護系学会参加

看護部

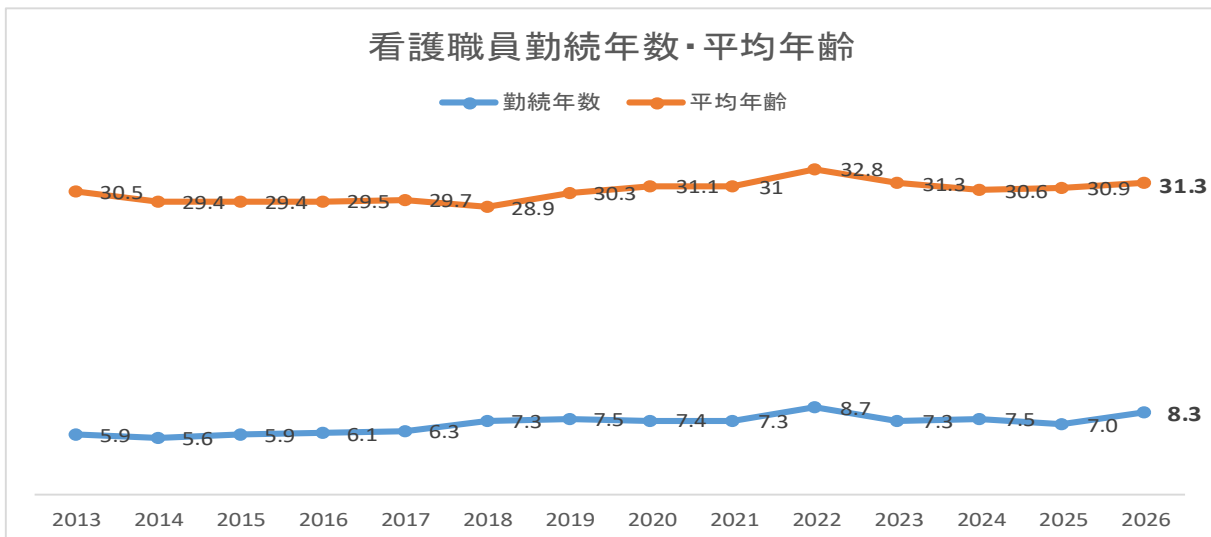
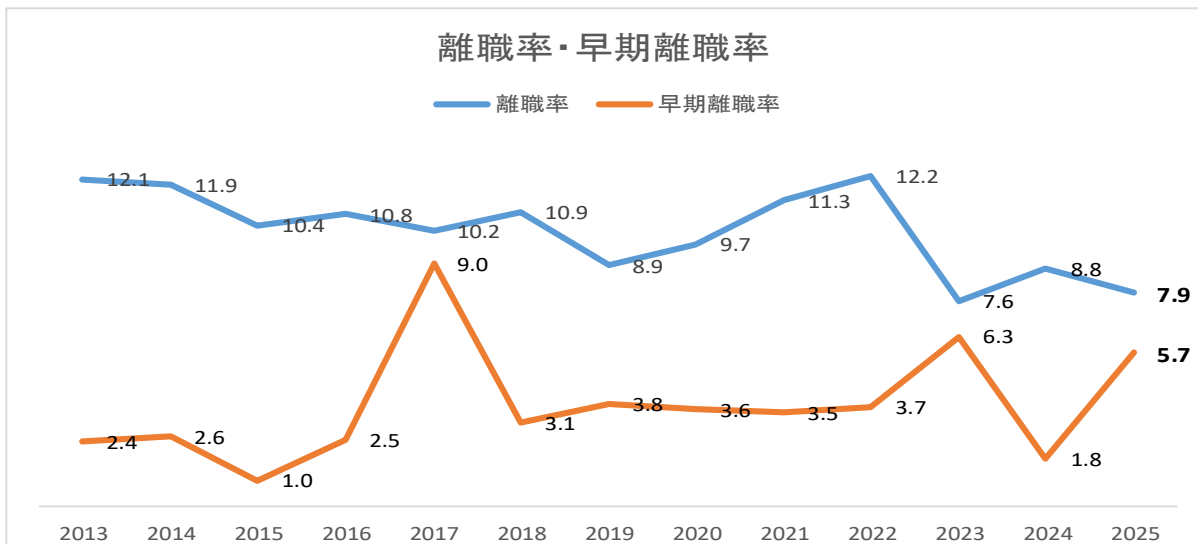
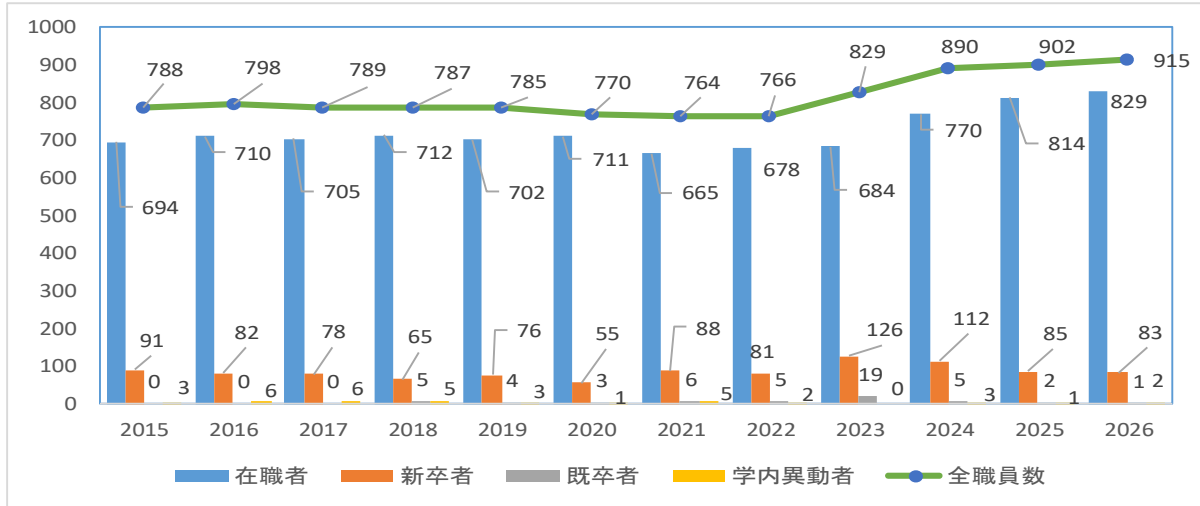
	業 務 内 容	業務改善計画・教育計画
2026 年 4 月	年度目標計画開始、看護職員新採用オリエンテーション 看護管理会議開催、教授会、6 病院責任者会 部内・拡大会議	各委員会の開催、昇格師長・主任オリエンテーション、中間管理者研修計画発表、看護師特定行為研修開講
5 月	休日体制の運営、看護管理会議開催、部内・拡大会議、 6 病院責任者会、教授会	看護師特定行為研修の進捗確認 保健看護学部実習開始
6 月	新入職員正規採用の勤務評価、看護管理会議・主任会の開催、部内・拡大会議、師長面接（入院・外来業務課）、 教授会、職員実態調査、師長・主任面接	順天堂大学看護部門内部監査の準備 中間管理研修開講
7 月	就職説明会、保健看護学部オープンキャンパス支援（施設見学）看護管理会議開催、部内・拡大会議、 6 病院責任者会、教授会、	内部監査、看護体制：ペア制の進捗確認
8 月	就職説明会、職員実態調査、保健看護学部オープンキャンパス支援（施設見学）	夏季休暇
9 月	就職説明会、看護管理会議開催、部内・拡大会議、6 病院責任者会、教授会、保健看護学部オープンキャンパス支援（施設見学）、看護補助者の業者選定	看護部中間評価
10 月	就職説明会、看護管理会議開催、部内・拡大会議、6 病院責任者会、教授会	6 病院合同師長・主任研修会
11 月	就職説明会、看護管理会議開催、部内・拡大会議、6 病院責任者会、教授会、次年度昇格者選定	看護師特定行為研修の進捗確認
12 月	看護管理会議・主任会の開催、部内・拡大会議、教授会 主任・師長キャリア面接、就職説明会（医療看護・保健看護学部）	年末の見直しと新年からの年度評価準備
2027 年 1 月	職員実態調査、看護管理会議・主任会の開催、部内・拡大会議、6 病院責任者会、教授会、主任・師長キャリア面接	
2 月	看護管理会議・主任会の開催、6 病院責任者会、部内・拡大会議、教授会、師長・主任合同会議	看護部年間評価 次年度計画
3 月	看護管理会議開催、6 病院責任者会、部内・拡大会議教授会、	看護師特定行為研修修了

【ビジョン】看護部は、看護部理念・行動指針に基づき大学附属病院、基幹病院（救急・高度・特殊・専門・地域医療等）の看護師として、自律した看護師の育成と、看護の質向上を目指す。

項 目	中期目標	長期目標		
	2027	2028	2029	2030
1. 患者さん、ご家族が満足する、安全で質の高い看護の実践				
1) 科学的根拠に基づいた看護実践（知識・技術）の提供と倫理観に基づいた態度を兼ね備えた看護師として成長し続ける	1) （1）看護指標を達成する （2）電カル更新によりシステムを改良しアクシデントを減らす	1) （1）看護指標の目標を達成する （2）アクシデントの件数を減らし、効率的な看護業務が実践できる		
2) DINQLを活用し、看護の質評価とベンチマークを活用し改善につなげる	2) DINQLからデータを分析し、改善にむけ活動する	2) DINQLからデータを分析し、改善にむけ活動する		
3) 多職種と協働し、チーム医療における看護師の役割を発揮する	3) （1）多職種協働のチーム活動を推進する （2）診療看護師・専門看護師・認定看護師・看護師特定行為研修の資格取得を支援し、看護スタッフの指導者となるよう育成する （3）リソースナースが組織横断的に活動できる環境を整備する （4）看護師特定行為研修修了者が活動できる体制を構築する （5）外来・入院・在宅が連携できるようシステム構築する （6）連携バス、他地域の多職種とのネットワークを推進する （7）他施設との人事交流を推進する 特定行為看護師の出向事業に参加する	3) （1）組織と個人のニーズを統合し、必要に応じて計画的に診療看護師・専門看護師・認定看護師、特定行為研修受講者を支援する （2）特定行為研修の実習指定施設として受講者を支援する （3）リソースナースが院内外で活躍できる環境を整備する （4）外来・入院・在宅の連携を推進する （5）連携バス、他地域の多職種とのネットワークを拡大する （6）他施設との人事交流を推進し看護の質向上を目指す 特定行為看護師の出向事業維持		
4) 研究活動を推進し、臨床における看護問題の解決を図り、看護を発展させる	4) 1) 学会発表55件/年を目指す（看護研究投稿増加）（2025：49件） （2）看護関係等雑誌の掲載を10件/年を目指す（2025：5件）	4) （1）学会発表60件/年を目指す（看護研究投稿増加） （2）看護関係等雑誌の掲載を15件/年を目指す		
5) 災害拠点病院の継続事業計画（BCP）策定に加わる	5) （1）看護部門BCPを見直し、災害発生に備えた訓練の企画・実施する （2）災害支援ナースの育成を促進をする	5) （1）看護部門BCPを充実させ、災害発生に備えた訓練の企画・実施をする （2）災害支援ナースの育成する		
6) 個人情報保護法に基づいた情報管理を徹底する	6) 職員として倫理観を持って、電子カルテシステムを活用する	6) 職員として倫理観を持って、電子カルテシステムを活用する		
2. 豊かな人間性をもった自律した看護師の育成				
1) メンター・エルダー・ペア制による新任者の育成	1) 常勤看護師離職7％以下、新卒看護師離職率3％以下を維持する	1) 常勤看護師離職6％以下、新卒看護師離職率3％以下維持		
2) JNAに副ったキャリアラダーアップの促進（卒後2年目～看護師の育成）	2) キャリアラダーアップ率35％以上を目指す（2025:31.1％）3～4へのアップ率向上	2) キャリアラダーアップ率の上昇を目指す。		
3) 看護業務の効率化と効果的なスタッフ育成を図るため、ペア制を柔軟に実践する	3) ペア制活用し効果的なスタッフ育成を図る	3) ペア制を発展させる		
4) 看護管理者の認定看護管理者取得及び大学院進学を推進する	4) 認定管理者取得・大学院進学を支援する。計画的に看護管理者教育の受講を促す	4) 認定管理者取得・大学院進学を支援する。計画的に看護管理者教育の受講を促す レベル研修が受講できるよう調整する		
5) マネジメントラダーを活用し、看護師長・主任のマネジメント力を高める	5) JNA看護管理ラダー活用し、実践力向上を図る	5) JNA看護管理ラダー活用し、実践力向上を図る		
6) 国際化に伴い、語学力向上を目指す	6) 国外での学会発表1例を目指す	6) 国外での学会発表2例を目指す		
7) 保健看護学部と連携し、臨床看護研究を推進する	7) （1）研究指導日を設け、研究を支援する	7) （1）研究指導日を設け、研究を支援する		
3. 働きがい・働きやすさを感じられる健康で安全（ヘルシーワークプレイス）な職場をつくる				
1) 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を意識し、活気ある職場環境づくり 2) 看護業務の効率化を図るために、勤務体制を見直す	1) 2) （1）平均有給休暇取得日数20日以上（2025：81.6％） （2）看護師一人当たり月超過勤務時間の削減（10時間以下/全国平均9.9時間） （2025：14:45） 月30時超えを減らす（10人/月以下）（2025：18.2人/月） （3）夜勤負担軽減に向けての取り組みをおこなう （4）デジタル技術による業務効率化と質の向上 （4）個々のキャリアデザインを把握し、キャリア支援を行う （5）ハラスメント対策指針（日本看護協会）を基に、ハラスメント対策を推進する ハラスメントに対する基本的な知識を学ぶ	1) 2) （1）平均有給休暇取得日数20日を目指す （2）看護師一人当たり月超過勤務時間の削減（10時間以下維持/全国平均9.9時間） 月30時超えの人数減少 （3）夜勤負担軽減に向けての取り組みをおこなう （4）デジタル技術による業務効率化と質の向上 （3）個々のキャリアデザインを把握し、キャリア支援を行う （4）ハラスメント（当院看護部）を基に、ハラスメント対策を推進する		
3) 順天堂人として優しさ、思いやる心を持ち、礼儀・接遇・マナーに取り組む	3) 順天堂人として優しさ、思いやる心を持ち、礼儀・接遇・マナーに取り組む	3) 順天堂人として優しさ、思いやる心を持ち、礼儀・接遇・マナーに取り組む		
4. 看護を取り巻く環境の変化に対応する（環境：社会・組織・医療チーム）				
1) サテライトクリニック建設に参画する	1) （1）診療がスムーズに行えるように、情報システムの運用や物流システムの構築に主体的に取り組む DX推進 （2）他部門と連携しチーム医療を推進する （3）三島サテライトクリニック（28.3月）に向け準備し協働する	1) （1）三島サテライトクリニックとの連携 （3）他部門と連携しチーム医療を推進する		
2) 院内外に看護部の取り組みや活動を発信する	2) （1）ホームページの更新、医療連携だより、Js（ジェイズ）等を活用し、看護部の情報提供とアピールする	2) （1）ホームページの更新、医療連携だより、Js（ジェイズ）等を活用し、看護部の情報提供とアピールする		

3-9(2) 看護総務課

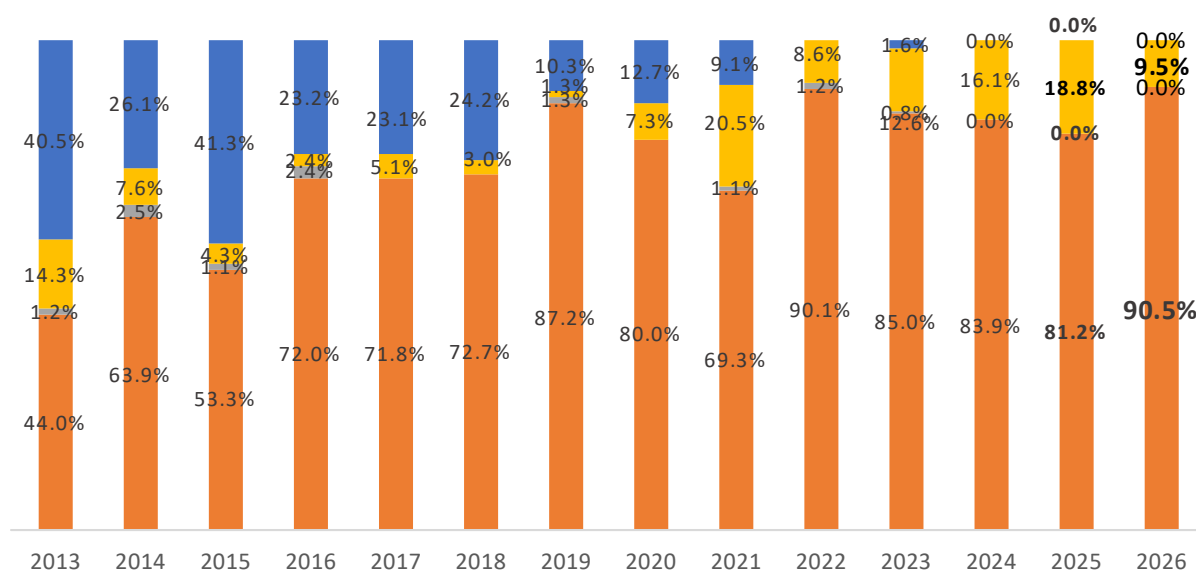
2025年 看護部年報



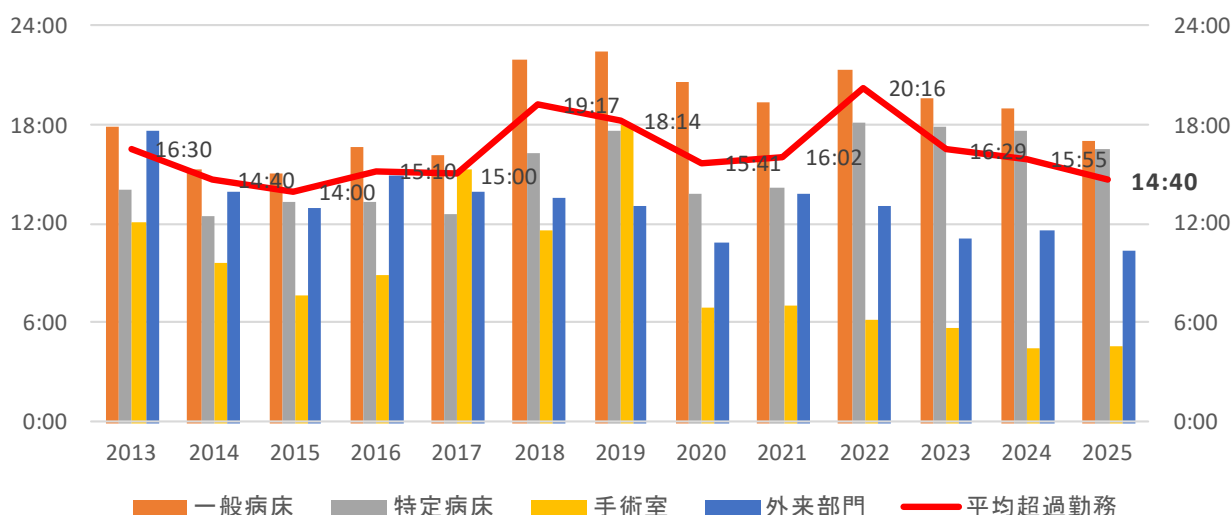
新入職看護職員 卒業校種別推移

4/1現在

大学 短期大学 専門学校 5年一貫校

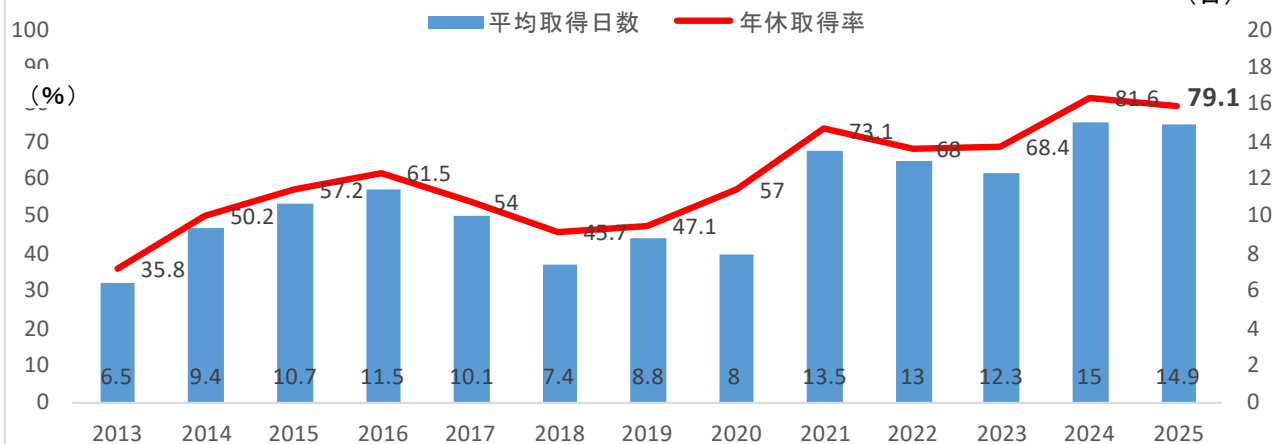


部署別時間外勤務時間



年休取得率と平均取得日数

(日)



2025 看護部の動向 年間計画

2026/4/13

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
就職	新卒	85												85	
	既卒	2												2	
	パート看護師													0	
	パート助産師													0	
	学内異動者	1												1	
月末退職	新卒						2					2	1	5	
	既卒	1		3	13	6	4	1		5	7	5	16	61	
	准看護師													0	
	学内異動者	1											4	5	
	介護福祉士													0	
看護職者内訳	看護補助者			1										1	
	常勤看護師	809	803	798	796	786	778	774	775	775	770	764	771		783.3
	常勤助産師	37	36	37	36	35	35	34	33	34	34	35	36		35.2
	パート看護師	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		4.0
	パート助産師	0													0.0
	時間短縮勤務	46	50	53	53	51	53	52	51	50	50	49	34		49.3
	准看護師	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6		6.0
	合計	902	899	898	895	882	876	870	869	869	864	858	851		877.8
介護福祉士		21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21		21.0
看護補助者（内派遣）		09 (99)	09 (99)	10 (101)	07 (99)	09 (101)	10 (102)	10 (102)	10 (102)	10 (102)	09 (101)	05 (97)	09 (100)		
病棟クランク		22	21	21	21	21	21	23	22	21	21	21	22		21.4
平均超勤時間		14:43	14:36	15:27	16:09	14:00	14:17	14:58	15:03	15:31	15:07	12:51	13:18		14:40
一般病棟看護職員数		391	411	411	408	402	397	393	392	396	390	383	380		
特定病棟看護職員数		197	249	250	241	233	235	236	233	226	225	228	226		
外来看護師数（Q外含）		122	123	124	124	124	123	122	123	124	121	113	124		
手術看護師数		49	66	66	64	61	60	60	59	59	57	56	55		
B:看護師実労働者数		759	849	851	837	820	815	811	807	805	793	780	785		809.3
休職者	産休（看・助産）	5	6	7	13	8	11	8	8	11	10	8	6		8.4
	育休（看・助産）	32	29	21	25	27	24	30	33	32	34	36	42		30.4
	パパ育休（内部署所属）					4	3	1	1	1	5 (2)	3	2		1.0
	産育休（介・助）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1.8
	長期療養者（看・助産・准）	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	6	4		0.9
	長期療養者（介・助）	1	1	1	1		1	1	1	1	1	0	1		2.5
	進学	3	2	3	3	3	2	3	2	3	2	2	2		
	年休消化（産休前・退職）					6	3		1	1	5	2			
A:合計		41	38	32	42	42	41	43	51	54	55	55	57		45.9
C:看護部		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9		9.9
看護総務課付						1	2	4	2	3	2	1	1		
D:出向（内直接雇用者数）		29(1)	29 (1)	30 (1)	30 (1)	30 (1)	30 (1)	30 (1)	30(1)	30 (1)	30 (1)	30 (1)	29 (1)		#DIV/0!

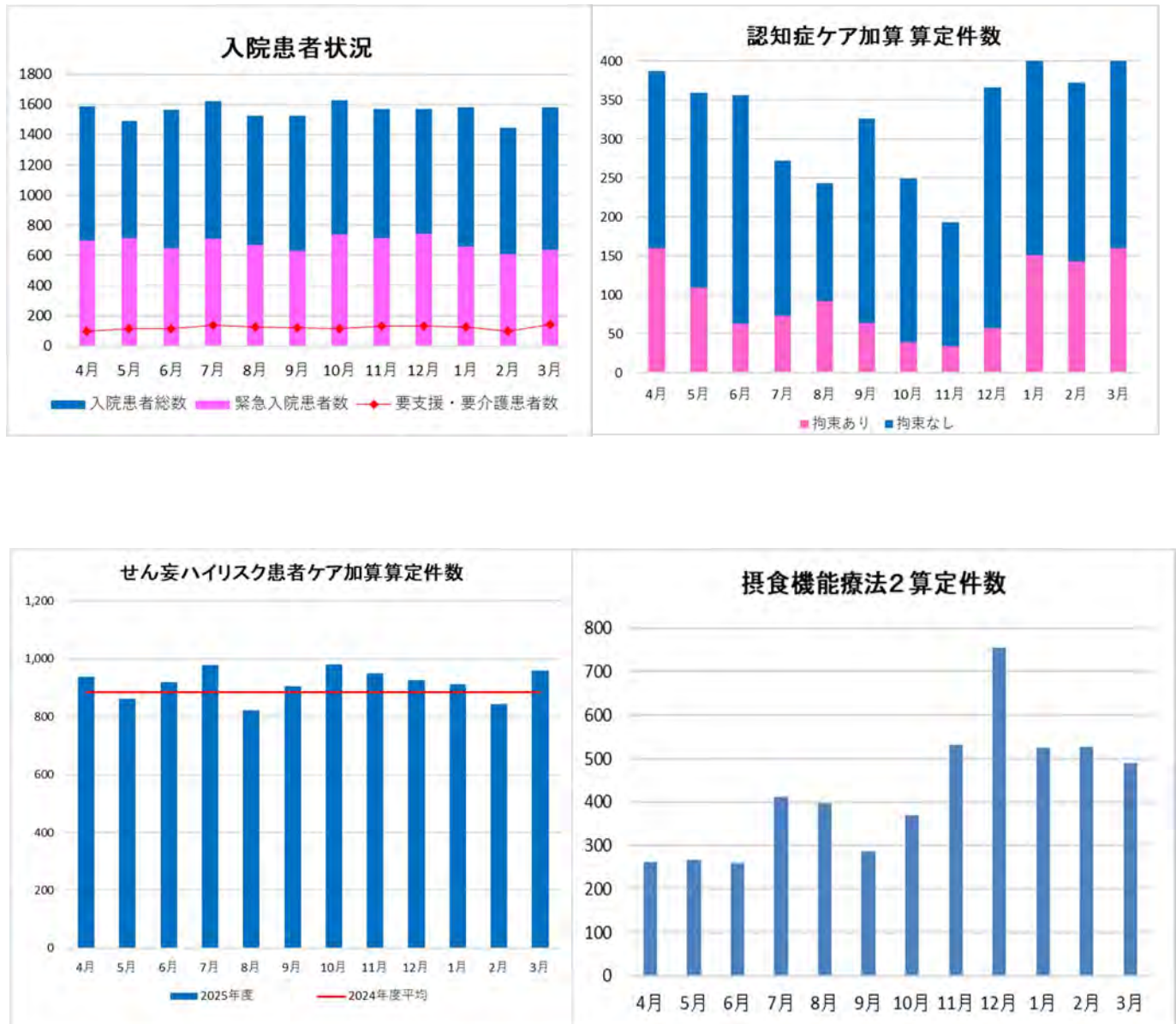
2025年度 一般病棟入院基本料1 各部署平均夜勤時間 ・ 夜勤専従者配置表

部署	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
3B	65.1	62.9	62.4	66	69.2	69.8	76.9	72	72.4	74.4	65.4	67.9	68.7
4B	71.4	62	64.4	72.1	67.5	64	68.4	69.2	71.2	71.4	65.2	72	68.2
4C	66.1	70.7	70.5	71.3	72.3	71.6	70.9	70.6	70.7	74.5	67.4	70.6	70.6
5A	70.3	66.8	63.1	71.6	66.4	63.1	66.3	69.5	68.1	71	63.6	73.4	67.8
5B	66.7	62.2	62.9	68.6	62.7	62.3	68.1	65.7	67.5	70.4	67.8	78	66.9
5H	58.3	56.5	66.7	70.2	73.7	69.1	65.7	72.7	71.8	67.2	68.9	70.7	67.6
6A	62.3	68.4	72.3	84.2	86.6	74.4	73.5	75.6	76.6	73.4	66.7	76.9	74.2
6H	64.8	61.7	62.5	70.3	63.4	63.2	68.7	65.7	66.4	63.9	63	68.2	65.2
6I	66.1	65.4	62.8	68.8	67.3	67.3	69.6	69.6	72.3	74.4	62.7	76.1	68.5
7A	63.1	68.8	62.3	66.1	62.1	61.9	66	65	69.7	69.2	62.3	76.9	66.1
8A	68	63.6	65.4	68.7	69.3	61	35	65.5	74.3	70	65.2	76.2	65.2
9A	67.1	68.7	72.8	75.1	75.1	72.1	69.6	70.7	71.3	75.5	66.3	73.8	71.5
一般病棟平均	65.8	64.8	65.7	71.1	69.6	66.7	66.6	69.3	71.0	71.3	65.4	73.4	68.4
夜勤専従者人数	29人	29人	29人	27人	32人	28人	27人	26人	26人	25人	28人	27人	28人

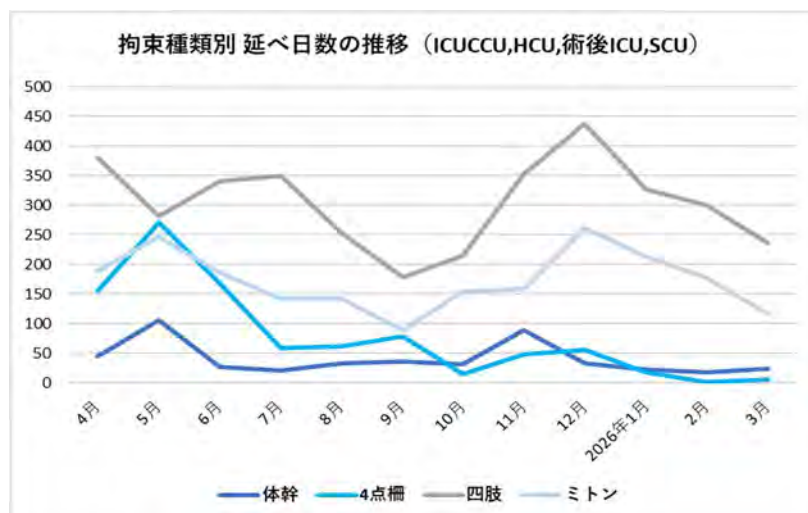
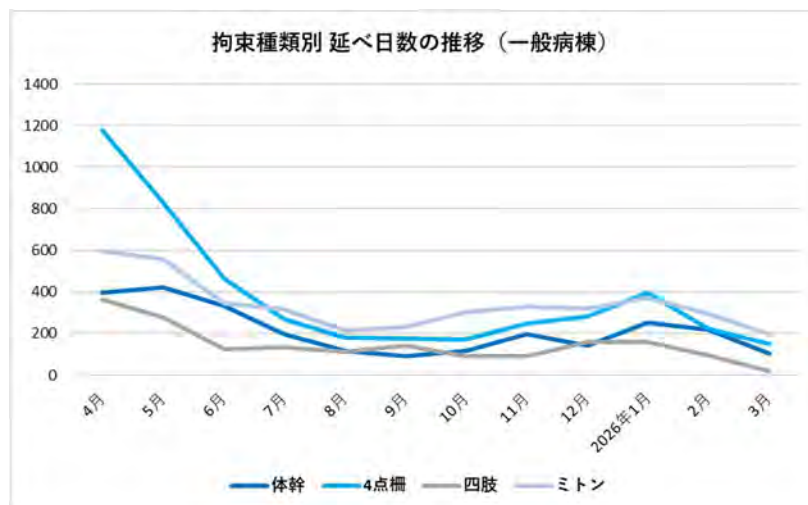
2025年度 特定病棟平均夜勤時間

		2020年度 特定医療機関平均受診時間												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2C	7対1	84.0	93.3	85.5	89.4	84.4	87.1	89.4	78.1	90.2	89.7	73.8	77.8	85.2
NICU	3対1	75.2	82.7	84.7	93.4	82.3	82.3	79.7	72.1	81.5	81.8	67.0	87.2	80.8
GCU	6対1	99.1	95.1	94.4	99.8	93.2	91.7	87.8	67.8	93.9	95.2	84.8	101.6	92.0
3AICU	4対1	73.2	86.1	85.4	86.5	85.2	84.8	89.0	82.4	89.2	89.4	77.5	90.5	84.9
10U/GCU	2対1	81.7	89.0	84.8	94.2	88.6	88.6	91.2	85.5	92.0	94.2	83.9	93.8	89.0
HCU	4対1	81.7	84.8	84.1	90.8	95.1	88.5	94.4	81.9	89.9	86.8	82.7	95.8	88.0
MFICU	3対1	53.1	70.1	50.6	74.0	62.7	58.4	62.8	45.9	52.3	56.0	45.6	75.9	59.0
SCU	4対1						69.4	79.8	62.7	63.2	66.6	59.2	76.3	68.2

3-9(3) 看護入院業務課



2025 年度も多くの緊急入院患者を受け入れられるよう、病棟間でコミュニケーションを密にとり、ベッドコントロールに協力した。手術目的入院や高齢者の入院が多く、せん妄発症リスクの高い患者や認知症患者の入院が多いが、各部署のリンクナースを中心に、患者の個別性に合わせた看護を計画し、実践した。2025 年度は SCU が開設となり、脳卒中患者への質の高い看護の提供にも取り組み、発症早期から経口摂取を目指したケアを計画的に実践した。



身体拘束削減に向けた取り組みでは、2025 年度は一般病床における転倒転落予防目的の拘束を減らすことに焦点を当てて活動した。患者が一人で動くことを予防するために体幹拘束や4点柵を使用するのではなく、患者が安全に動ける環境づくり、転んでも怪我をしないための対策を考えた。その結果、患者の視点で療養環境を整えることができるようになり、身体拘束の削減に繋がった。次年度は、特定病床に多いデバイス抜去予防目的の拘束の削減が課題である。

3-9(4) 看護外来業務課

1. 外来

1) 外来・地域連携および入院前支援の取り組み

2025 年度は、地域との連携強化および外来機能の充実を目的に、継続看護ならびに入院前支援の強化に取り組んだ。

地域連携については、情報連携シートによる返信 260 件、発信 87 件、電話対応 294 件を実施し、年間合計 641 件の連携を行った。前年度と比較して 140 件以上増加しており、地域の医療・介護機関との情報共有や連携体制の強化につながった。

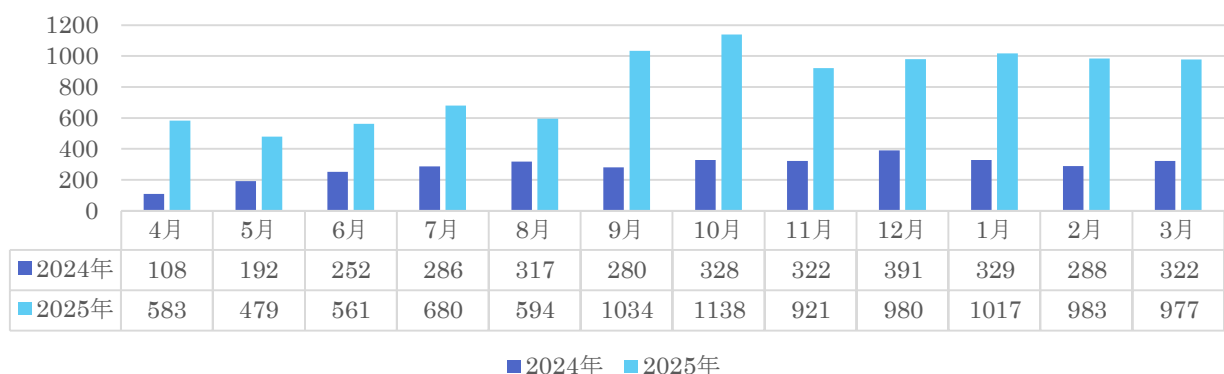
外来支援では、2021 年度より運用している「外来アセスメントシート」を活用し、支援が必要な患者に対して看護計画を立案し継続的な支援を実施した。2025 年度の実施件数は月平均 820 件となり、前年度を 500 件以上上回る実績となった。

また、2025 年 4 月より予定入院患者を対象とした入院前支援を開始した。患者情報の収集や入院生活に関する説明を外来で実施することで、安心して入院治療に臨める体制を整備した。

7 月以降は月平均 170 件の支援を実施し、前年度比約 660 件の増加となった。これに伴い、入院時支援加算 2 の算定件数も増加し、診療報酬上の成果にもつながった。

一方で、入院前支援の実施率は予定入院患者全体の約 20%にとどまっており、支援を希望しない患者も一定数存在している。今後は支援内容の周知や運用方法の見直しを進め、対象患者への介入率向上を図るとともに、月 200 件以上の入院前支援の実施を目標とする。また、患者サービスの向上を目的に、入院時支援加算 1 の算定に向けた運用体制や関連書類、マニュアルの整備を進めていく。

外来スクリーニングシート件数

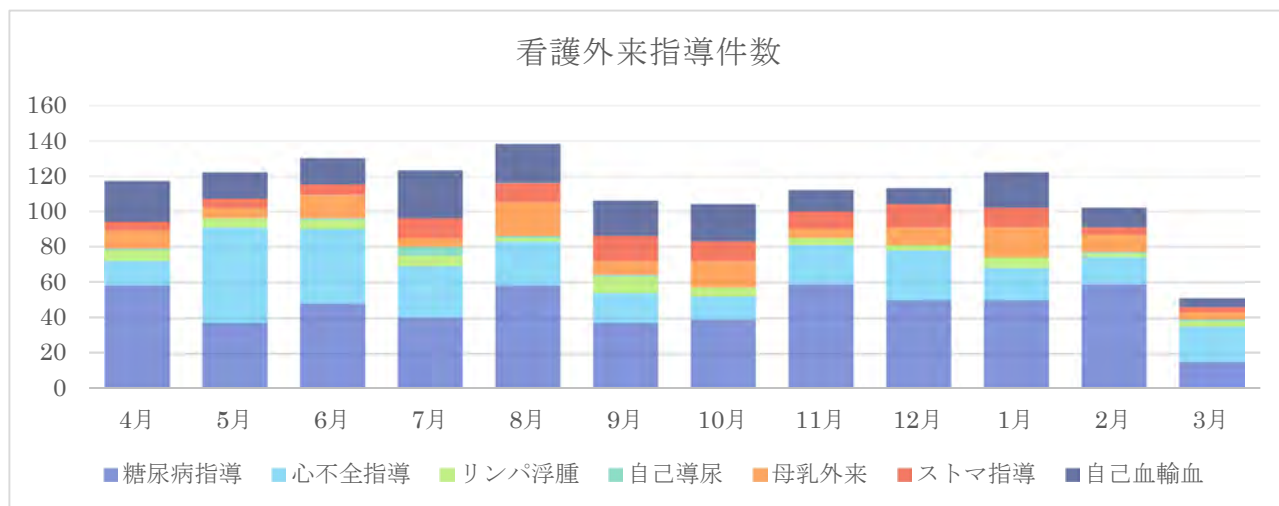


部署別 入院前支援件数と加算取得状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入退院支援室	117	91	106	23	2	3	3	3	4	1	1	3	357
外来	1	12	10	171	153	184	188	147	161	168	171	174	1540
合計	118	103	116	194	155	187	191	150	165	169	172	177	1897
(全体比%)	(16%)	(14%)	(15%)	(23%)	(21%)	(25%)	(23%)	(23%)	(22%)	(21%)	(23%)	(21%)	(21%)
入院時支援加算2 (200点)													
算定件数	107	95	111	136	154	143	175	193	143	114	126	126	1623

2) 専門分野による看護活動

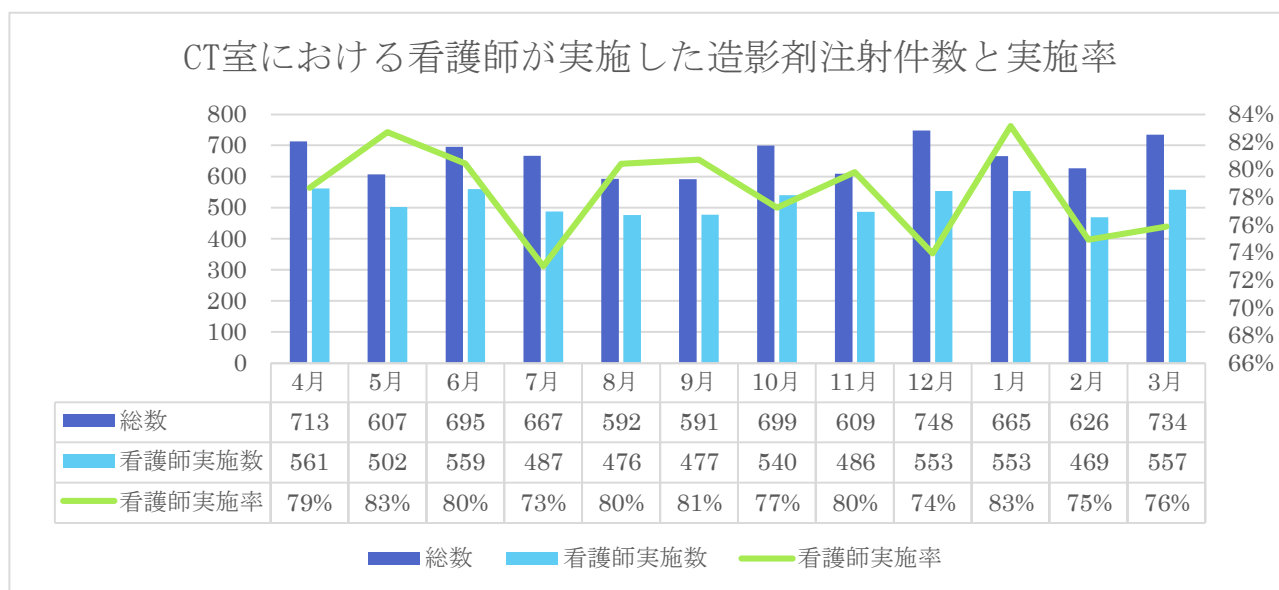
看護外来では、専門的な知識と技術を有する看護師が、医師や他職種と連携しながら、患者・家族に対する相談支援や療養指導を実施している。2024 年度より慢性心不全患者指導を開始し、療養生活の継続を支える支援に取り組んでいる。2025 年度の指導件数は月平均 111 件で、前年度の月平均 102 件を上回り、指導件数は着実に増加している。今後は、より多くの患者に支援を提供できるよう、スタッフ育成と体制強化に取り組んでいく。



3) 外来部門の専門資格者数と外来検査におけるタスクシフト

外来部門には、専門看護師 2 名、認定看護師 1 名、特定行為看護師 11 名をはじめ、災害支援ナース 11 名、糖尿病療養指導士 7 名、学会認定内視鏡検査技士 5 名など、多様な専門資格保有者が在籍している。このほか約 30 種類の資格取得者がおり、それぞれの専門性を活かして外来医療の質向上に取り組んでいる。

外来の静脈注射造影剤院内認定看護師は 20 名で、CT 検査における造影剤静脈注射の実施率は月平均 78% を維持した。今後も医師・放射線技師との協働のもと、安全性の確保と検査運営の充実に努め、質の高い医療提供を継続していく。



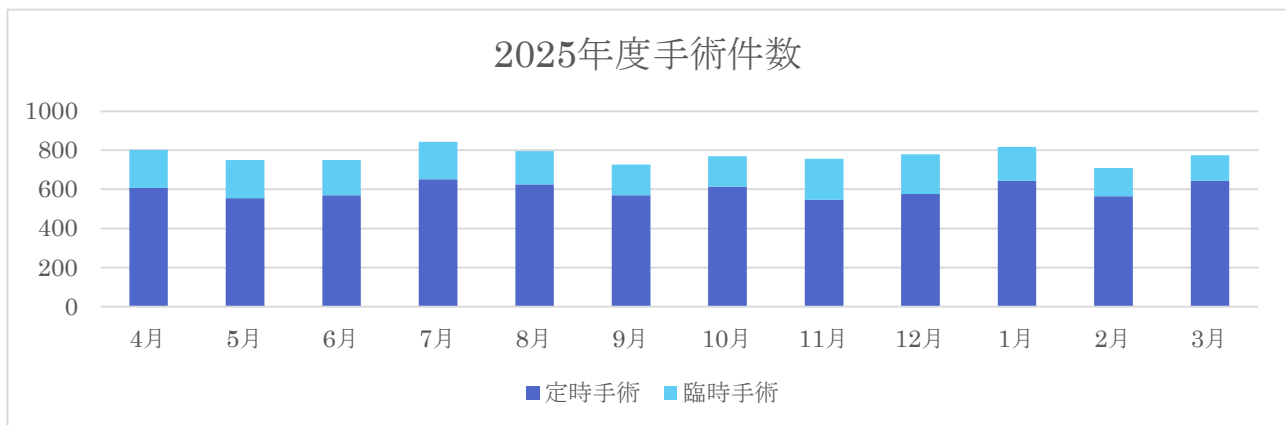
2. 手術室

1) 手術件数と手術室運営の現状

2025 年度の年間手術件数は 9,275 件であり、前年度と同水準を維持した。また、手術室全体の稼働率（定時外を含む）は 69.7%であったが、全身麻酔下手術に対応する H 棟手術室の稼働率は 87.6%と高い水準で推移した。

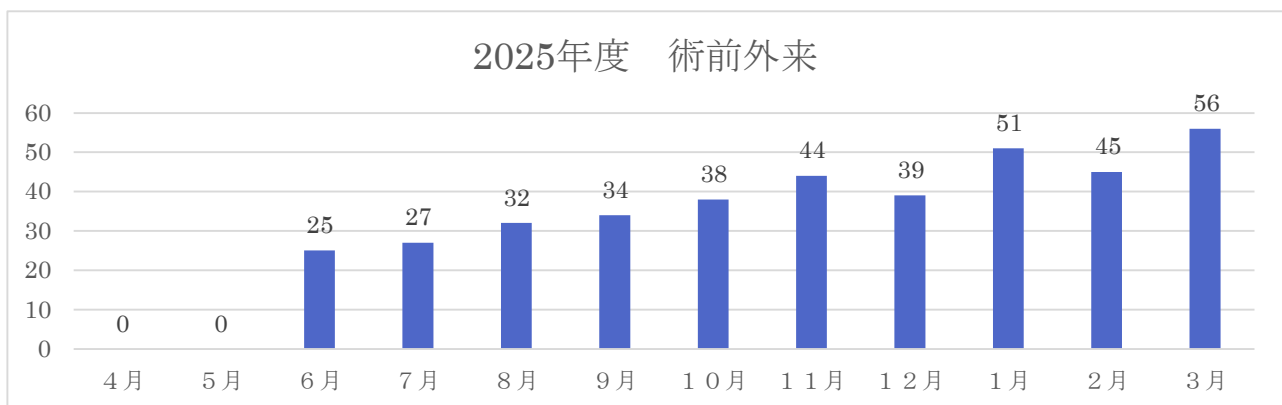
緊急手術については、看護師、医師、臨床工学技士、手術補助者など多職種が連携し、迅速かつ安全な受け入れ体制を維持した。また、術前から術後まで患者中心の周術期看護を実践し、安全で質の高い医療の提供に努めた。

今後も高度化する手術医療のニーズに対応できるよう、多職種が協働し、安全で質の高い周術期医療の提供と、効率的かつ安定した手術室運営に取り組む。



2) 術前外来・術前訪問・術後訪問の取り組み

2025 年度より、手術室看護師による入院前支援の充実を目的として術前外来を開始し、月平均 33 件を実施した。術前外来では、周術期合併症予防のため、禁煙指導、口腔ケアおよび歯科受診の推奨、呼吸訓練指導などを行った。

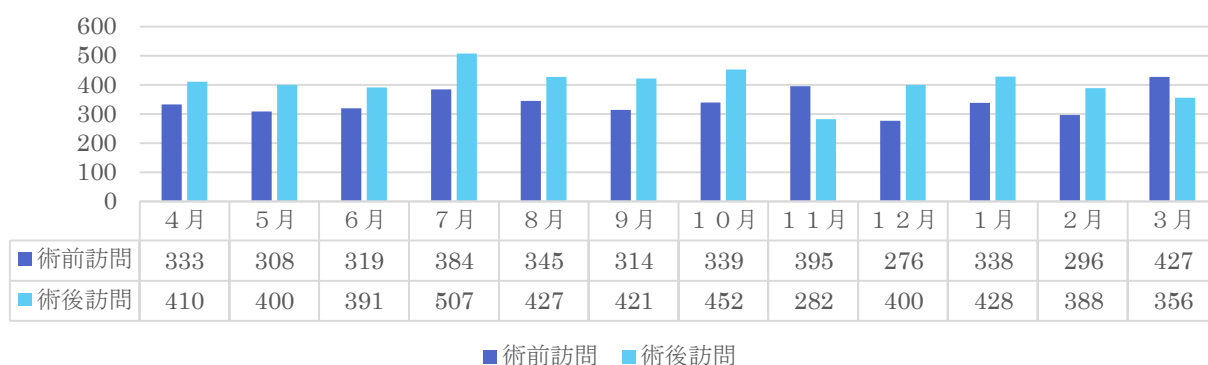


入院後に実施する術前訪問は月平均 340 件、術後訪問は月平均 405 件であった。術前・術後訪問は手術室看護師の活動として定着しており、周術期における患者支援の重要性に対する看護師の意識向上がみられた。

術前訪問では、患者から直接情報収集を行い、その情報を基に術中のポジショニングの工夫やスキンテア予防対策を実施した。また、不安の強い患者に対しては十分な説明と精神的支援を行い、不安の軽減に努めることで、安全で安楽な周術期看護の提供につなげた。

今後は、術前外来および術前訪問で得られた情報をより効果的に周術期看護へ反映できるよう、看護師一人ひとりのアセスメント能力の向上と人材育成を推進する。また、支援内容の標準化を進め、より効果的な運用体制の構築を図っていく。

2025年度 術前・術後訪問件数



3) 特定行為研修修了看護師の活動

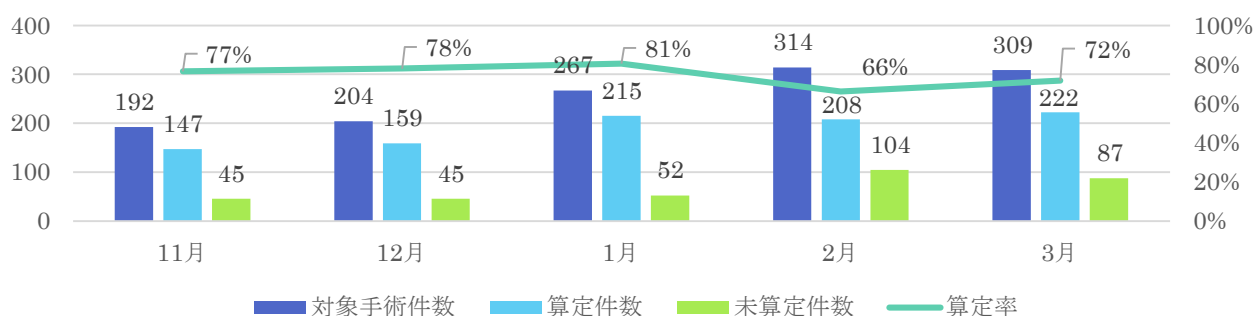
手術室には、看護師特定行為研修（術中麻酔管理領域パッケージ）を修了した看護師が3名配置されており、手術室看護師への教育的支援を行うとともに、麻酔科医師のタスクシフト・タスクシェアに貢献している。主な活動として、麻酔導入時の動脈ライン確保、輸血ルート確保、胃管挿入、血液ガス分析などの支援を実施している。また、緊急手術時や急変・重症症例への対応においては、麻酔科医師（研修医）のサポートとして薬剤・物品の準備、麻酔回路の組み立ておよびリークチェック、記録業務などを担い、安全な周術期医療の提供に寄与している。今後も手術室看護の質向上と周術期医療体制の充実に向けて活動を継続していく。

4) 術後疼痛管理チームの活動と今後の課題

2025年11月より術後疼痛管理チームによる活動を開始し、対象となる手術患者に対して月平均約75%の介入を実施した。術後の疼痛評価および疼痛緩和に向けた支援を継続的に行い、患者の苦痛軽減に努めた。

一方で、週末や担当者不在時には介入できないケースもみられたことから、今後はチームスタッフの育成および体制の強化を図り、より安定した介入体制の構築と介入率の向上を目指していく必要がある。

術後疼痛管理加算



3. 滅菌室

麻酔科アウトソーシング枠の手術開始に伴い手術室稼働率が上昇する中、委託業者との情報共有および課題への対応を継続し、安定した運用体制の維持に努めた。滅菌物の品質管理を徹底し、安全かつ円滑な手術室運営を支援するとともに、病棟・外来における診療支援業務についても適切に対応した。今後も滅菌室スタッフとの連携を強化し、安全性の確保と業務効率の向上に努める。

3-9(5) 看護教育課

2025 年度 現任教育必修研修一覧

月	日	曜日	研修時間	研修場所	ラダー	研修名	研修目的・内容	講師
4	24	木	9:00～12:00、 13:00～16:00	大会議室A	I	指導者研修 I	実地指導者、エルダー（相談役）になるために、アサーティブについて	藤本、天野淳
	30	水		大会議室A				
	30	水	16:30～18:00	大会議室A	IV 以上	看護管理研修 V (2024-25年度受講生)	⑨実践計画発表会（2024年度受講生）	教育課
5	1	木	13:00～16:00	大会議室B	II	看護研究 II-①2回コース	①ケーススタディ	池田、田爪
	7	水	13:00～16:00	大会議室B				
	9	金	13:00～16:00	大会議室A	IV	看護管理研修 IV-①2回コース	①自部署の課題解決策の立案・実践	田上、菊地麻
	16	金	9:00～12:00	大会議室A	III	指導者研修 III-①4回コース	実習指導者研修①基礎看護教育の位置付け・学生カンファレンスについて	鈴木由、稲葉亜、三島、梅原
	22	木	13:00～16:00	大会議室A	新人	フィジカルアセスメント	フィジカルイグザミネーションを使用しての問診とSBAR、アナムネ情報	飯田敏、松山 特定看護師(松尾麻実、大谷英史、金田雅大)
	23	金	9:00～12:00、 13:00～16:00	大会議室A				
	23	金	16:30～18:00	H棟会議室	IV 以上	看護管理研修 V-①10回コース	マネジメント研修①看護管理の基礎知識	教育課
6	6月1日～6月25日			動画配信	I	看護研究 I (動画配信)	文献検索、事例の記載方法	上田、加藤
	5	木	16:30～17:30	大会議室A	IV	看護研究 IV-①	研究計画、研究発表について	鈴木英師長
	10	火	13:00～16:00	大会議室B	III	看護倫理 III-①2回コース	①自部署の倫理的問題について考える機会をつくる	CNS (担当者)
	5	木	9:00～12:00、 13:00～16:00	大会議室A	介護福祉士、 看護補助者 (助手・クラーク)	看護補助者技術研修1回目	マナー、整容、移乗・移送	松岡、福澤、持田師長 特定看護師(伊藤彰浩、古田聖典)
	13	金	9:00～12:00	第1会議室	III	指導者研修 III-②4回コース	②指導 3 観作成方法	鈴木由、稲葉亜、三島、梅原
	27	金	16:30～18:00	教育課(1B3C)	IV 以上	看護管理研修 V-②10回コース	マネジメント研修 ②社会保障制度について、地域包括ケアシステムについて	教育課
	28	土	9:00～15:30	第1会議室	師長推薦者	院内認定呼吸ケア看護師コース①3回コース	院内認定呼吸ケア看護師コース	土佐谷、石田、金子、鈴木英師長
	16	月	13:00～16:00	大会議室A・B	新人	急変対応 I	1次救命処置（講義・演習）	平子、菊地あ 特定看護師(池田、草薙、伊里)
	19	木	9:00～12:00、 13:00～16:00					
	18	水	8:00～12:00、 12:00～16:00	大会議室A・B	新人以外	学内認定看護師教育課程 静脈注射コース1回目（56名/回）	学内認定看護師教育課程 静脈注射コース	土屋、鬼塚、渡邊あ、神田、 勝間田、杉山 特定看護師(長谷川裕美、良知拓郎、渡邊昭徳)
7	2	水	13:00～16:00	大会議室A	介護福祉士	介護福祉士研修	食事介助、口腔ケア（ワイブ法）、感染管理、報告・連絡・相談	沢田、大川、福田由
	4	金		大会議室B				
	7	月	13:00～16:00	大会議室A	II	看護倫理 II 1回目（1月にも同様の研修あり）	日常ケアに潜む倫理	CNS (田村師長)
	10	木	13:00～16:00	大会議室A	III	看護管理研修 III	問題解決技法(ロジカルシンキング)	鈴木め、小島、辻村、土屋師長
	24	木	9:00～12:00、 13:00～16:00	大会議室A	新人	3ヶ月の振り返り・多重課題	多重課題解決、3ヵ月の振り返り	飯田沙、三角
	25	金	13:00～16:00	大会議室A				
	25	金	16:30～18:00	教育課(1B3C)	IV 以上	看護管理研修 V-③10回コース	マネジメント研修 ③医療安全管理、災害看護	教育課
	26	土	9:00～15:30	大会議室A	師長推薦者	院内認定呼吸ケア看護師コース②3回コース	院内認定呼吸ケア看護師コース	土佐谷、石田、金子、鈴木英師長
8	8月1日～8月25日			動画配信	I	看護倫理 I (動画配信)	ナーシングスキル視聴	CNS (担当者)
	1	金	13:00～16:00	第1会議室	III	看護記録 III	記録の監査	渡邊和、勝又
	4	月	13:00～16:00	大会議室A	IV 以上	看護倫理 IV-①2回コース	①部署の倫理的問題の解決に向けた取り組み	CNS (担当者)
	23	土	9:00～15:30	大会議室B	師長推薦者	院内認定呼吸ケア看護師コース③3回コース	院内認定呼吸ケア看護師コース	土佐谷、石田、金子、鈴木英師長
9	11	木	9:00～12:00、 13:00～16:00	大会議室A	II	看護管理研修 II	問題とは	内田、山崎
	18	木		大会議室A				
	17	水	9:00～12:00、 13:00～16:00	大会議室B	介護福祉士、 看護補助者 (助手・クラーク)	看護補助者技術研修2回目	マナー、整容、移乗・移送	松岡、福澤、持田師長 特定看護師(伊藤彰浩、古田聖典)
	19	金	9:00～12:00、 13:00～16:00	大会議室A	新人	急変対応 2・6ヶ月の振り返り	2次救命処置、6ヶ月の振り返りについて	黒田、渡辺雅、中村 特定看護師(福田)
	22	月	13:00～16:00	大会議室A				
	24	水	16:30～18:00	教育課(1B3C)	IV 以上	看護管理研修 V-④10回コース	マネジメント研修 ④看護の質サービス、感染管理	教育課
	30	火	8:00～12:00、 12:00～16:00	大会議室A・B	新人以外	学内認定看護師教育課程 静脈注射コース2回目（56名/回）	学内認定看護師教育課程 静脈注射コース	土屋、鬼塚、渡邊あ、神田、 勝間田、杉山 特定看護師(長谷川裕美、渡邊昭徳)

10	9	木	13:00~16:00	大会議室A	Ⅳ	指導者研修Ⅳ	人材育成、臨床推論から問題解決に向けた看護指導	森島、石田
	10	金	13:00~16:00	第1会議室	Ⅲ以上	看護研究Ⅲ	クリティーク、研修手法	岩瀬、田代、松尾師長
	10	金	16:30~17:30	第1会議室、視聴覚室	全スタッフ	看護研究Ⅲ（公開講座）		保健看護学部・林先生
	17	金	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A	Ⅱ	臨床推論	病態の思考プロセスから看護ケアに結びつける	土佐谷、松本 特定看護師（川井智貴）
	20	月		大会議室A				
	24	金	16:30~18:00	教育課（IB3C）	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-⑤10回コース	マネジメント研修 ⑤労務管理	教育課
	28	火	13:00~16:00	大会議室A	Ⅲ	看護記録Ⅲ	記録の監査	渡邊和、勝又
	28	火	16:30~17:30	大会議室A	Ⅲ	指導者研修Ⅲ-③4回コース	実習指導者フォローアップ研修（全実習指導者対象）	鈴木由、稲葉亜、三島、梅原
11	5	水	16:30~17:30	救急外来	院内認定 呼吸ケアナース	呼吸ケアフォローアップ研修①	呼吸ケアフォローアップ研修	土佐谷、石田、金子、鈴木英 師長
	14	金	9:00~12:00	大会議室A	新人	入退院支援研修	入退院支援・多職種連携について、 看護補助者との協働について	渡邊光、平馬、教育課
	20	木	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A				
	17	金	16:30~17:30	大会議室A・B	全スタッフ	看護教育研究会1回目（口演）	看護研究	教育課
	27	木	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A	Ⅱ	看護記録Ⅱ	正しい記録の書き方	稲葉施、岡本
	28	金	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A	介護福祉士、 看護補助者 （助手・クラーク）	看護補助者技術研修3回目	マナー、整容、移乗・移送	松岡、福澤、持田師長 特定看護師（伊藤彰浩、古田 聖典）
	28	金	16:30~18:00	教育課（IB3C）	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-⑥10回コース	マネジメント研修 ⑥看護実践における倫理	教育課
	28	金	16:30~17:30	救急外来	院内認定 呼吸ケアナース	呼吸ケアフォローアップ研修②	呼吸ケアフォローアップ研修	土佐谷、石田、金子、鈴木英 師長
12	5	金	9:00~12:00、 13:00~16:00	第1会議室	Ⅱ	看護研究Ⅱ-②	②ケーススタディ発表会	池田、田爪
	12	金	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A				
	17	水	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A	Ⅱ	看護記録Ⅱ	正しい記録の書き方	稲葉施、岡本
	15	月	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A	Ⅲ	看護倫理Ⅲ-②2回コース	②実践発表	CNS（担当者）
	19	金	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A	新人	逝去時の看護、看護記録Ⅰ（後半）	エンゼルケア、グリーフケア、看護記録Ⅰ-②	沢田、高島、渡邊師長、教育 課
	25	木	13:00~16:00	大会議室A				
	24	水	16:30~18:00	教育課（IB3C）	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-⑦10回コース	マネジメント研修 ⑦チームマネジメント、リー ダーシップ	教育課
	24	水	16:30~17:30	救急外来	院内認定 呼吸ケアナース	呼吸ケアフォローアップ研修③	呼吸ケアフォローアップ研修	土佐谷、石田、金子、鈴木英 師長
1	13	火	13:00~16:00	大会議室B	Ⅱ	看護倫理Ⅱ2回目（7月にも同じ研修あり）	日常ケアに潜む倫理	CNS（担当者）
	15	木	13:00~16:00	大会議室A	Ⅳ以上	看護倫理Ⅳ-②	②取り組み発表	CNS（担当者）
	16	金	9:00~12:00、 13:00~16:00	第1会議室	Ⅰ	看護管理研修Ⅰ	リーダーシップとは、リーダーになるための心構え	大木、本間
	23	金	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A				
	23	金	16:30~18:00	教育課（IB3C）	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-⑧10回コース	マネジメント研修 ⑧人材育成	教育課
	23	金	16:30~17:30	大会議室A・B	全スタッフ	看護教育研究会2回目（ポスター予定）	研究発表	教育課
2	6	金	16:30~17:30	大会議室A・B	全スタッフ	看護教育研究会2回目（ポスター予定）	研究発表	教育課
	12	木	13:00~16:00	大会議室A	新人	メンバーシップ研修・1年の振り返り	メンバーシップとは、1年の振り返り	林、井上、天野嘉
	13	金	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A				
	12	木	16:00~17:00	大会議室A	Ⅳ	看護研究Ⅳ-②	研究発表	鈴木英師長
	19	木	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室B	Ⅲ	指導者研修Ⅲ-④4回コース	③成果発表	鈴木由、稲葉亜、三島、梅原
	27	金	13:00~16:00	大会議室A	Ⅳ	看護管理研修Ⅳ-②	②成果発表	田上、菊地麻
	27	金	16:30~18:00	大会議室A	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ（2024-25年度受講生）	マネジメント研修 ⑩実践発表会	教育課
3	9	月	9:00~12:00、 13:00~16:00	大会議室A	Ⅱ	指導者研修Ⅱ	メンターの役割、コーチング・ティーチングについて	山本、佐野
	16	月		大会議室A				

2025 年度 院外教育活動

1. 学会発表

No.	テーマ	発表場所 (学会・研究会名)	発表日	部署	発表者
1	内視鏡洗浄往路セスの評価と看護師の遵守状況に関する調査	第93回日本消化器内視鏡技師学会	2025年5月10日	外来検査	草ヶ谷靖恵
2	シンポジウム NICUにおける早産児とその家族に対する多職種支援	第27回母性看護学会学術集会	2025年6月14日	新生児センター	大木直美
3	主任看護師が考える身体拘束の3原則「切迫性」の判断	日本老年看護学会第30回学術集会	2025年6月28日	8A	古屋曜子
4	脳死下臓器提供におけるドナー家族の体験	第21回日本クリティカルケア看護学会学術集会	2025年7月5日	ICUCCU	森田康敬
5	人工呼吸器装着中の集中治療室入室患者が感じるコミュニケーション上の困難と対処及び医療者に求める役割	第21回日本クリティカルケア看護学会学術集会	2025年7月5日	HCU	村瀬大樹
6	NICU看護師が考える母親の自立	日本小児看護学会第35回学術集会	2025年7月6日	2C	田代まり絵
7	シンポジウム リンクナース経験のない看護師と取り組んだ活動～次世代リンクナース育成を目指して～	第40回日本環境感染学会総会・学術集会	2025年7月12日	感染対策室	平馬知実
8	日常に潜む倫理的課題を言語化し、カンファレンスへと導くことができるファシリテーターの育成を目指した取り組み	第1回日本高度実践看護学会学術集会	2025年8月2日	3B	池田定代
9	動画事例を用いた看護倫理研修－日常に潜む看護倫理の問題に気付くスタッフの育成を目指して－	第1回日本高度実践看護学会学術集会	2025年8月3日	8A	古屋曜子
10	看護管理者に対するCNSせん妄ケアラウンドの効果	第1回日本高度実践看護学会学術集会	2025年8月3日	8A	岩瀬明音
11	内視鏡検査における鎮静剤使用患者の退室基準の評価	第16回静岡県消化器内視鏡技師研究会	2025年8月3日	外来検査	中菜摘紀
12	看護業務の看護補助者へのタスクシフト・シェアの拡大に向けて～勤務環境の整備と教育の充実により定着を図る～	第29回日本看護管理学会学術集会	2025年8月23日	看護教育課	濱口真知子
13	風水害対策フロー活用後のアンケート結果から見えた今後の課題	第29回日本看護管理学会学術集会	2025年8月23日	6A/SCU	鈴木英子
14	合理的行動理論を活用した一般病棟看護師への手指衛生遵守率向上への取り組み	第25回日本感染看護学会学術集会	2025年8月24日	5B	三浦直樹
15	主任看護師の社会人基礎力向上に向けた管理日直業務実践報告	第56回日本看護協会学術集会	2025年9月13日	6I	三枝英美
16	主任看護師の看護管理力向上のためのコンピテンシー学習会の効果～202X年と202X年+1年のコンピテンシー評価スコアの比較～	第56回日本看護協会学術集会	2025年9月13日	7A	佐々木史乃
17	転倒転落における医療安全対策～外来での転倒予防に対する取り組みについて～	第56回日本看護協会学術集会	2025年9月13日	外来E	稲葉亜衣
18	看護管理者のデータ活用に関する思考のプロセス～リスクアセスメントシートを活用した師長・主任の思考の可視化～	第56回日本看護協会学術集会	2025年9月13日	看護総務課	持田奈津美
19	外科病棟看護師のストーマケアに関するスキル向上のための取り組み	第56回日本看護協会学術集会	2025年9月13日	看護入院業務課	杉山裕貴
20	新人の状況とペア制に合わせた指導者研修後の評価と課題	第56回日本看護協会学術集会	2025年9月14日	HCU	天野淳
21	中堅看護師の内発的動機づけを高める教育的支援	第56回日本看護学会学術集会	2025年9月14日	ICUCCU	岡本有子
22	現任研修を各病棟で活かすための主任が行うOJTの取り組み～キャリア開発委員会の支援～	第56回日本看護学会学術集会	2025年9月14日	5A	石田桃子
23	Instagramを活用したドクターヘリの啓蒙活動～現場のリアルを届社会的理解へつなぐ取り組み～	第32回日本航空医療学会学術集会	2025年10月13日	5A	石田桃子
24	フライトナースラダー評価の導入と自己教育力に着目した課題の可視化	第32回日本航空医療学会学術集会	2025年10月14日	5A	石田桃子
25	集中治療室所属の看護師が緩和ケアリンクナース会に参加する効果と課題	第48回日本死の臨床研究会年次大会	2025年11月1日	がん治療センター	高島信世
26	担当看護師に求められるチーム医療における役割～重症妊産婦への看護実践を振り返って～	第27回日本救急看護学会学術集会	2025年11月8日	ICUCCU	遠藤双葉
27	再転倒転落発生率低下への取り組み～転倒転落予防体操実施件数増加と周知活動を通して～	第20回医療の質・安全学会学術集会	2025年11月8日	4C病棟	長谷川智美
28	「災害未経験地域における看護師の不安と教育的支援の課題」	第27回日本救急看護学会学術集会	2025年11月8日	外来	加藤清美
29	「患者様を迎える会」から考える救命の連鎖のあり方	第27回日本救急看護学会学術集会	2025年11月8日	HCU	植木健太郎
30	てんとう虫シールを活用しての外来患者の転倒・転落予防について	第20回医療の質・安全学会学術集会	2025年11月8日	医療安全管理室	杉山希

31	口頭指示によるインシデント事象からみた口頭指示書の改訂	第20回医療の質・安全学会学術集会	2025年11月8日	医療安全管理室	杉山希
32	人生の最終段階に向けた「生ききる」ための在宅支援	静岡県東部支部看護実践報告会	2025年11月29日	5B	尾鷲春香
33	RRS要請の分析からみる現状と課題	第28回日本救急医学会中部地方会学術集会	2025年11月29日	看護教育課	多田 真也
34	急性型終末期の転機を迎える患者と家族への看護～予期悲嘆の段階での思い出づくり～	第28回日本救急医学会中部地方会学術集会	2025年11月29日	ICUCCU	足立香純
35	看護師の提案により行われた当院からA病院までのドクターヘリによる新生児搬送の一例	第28回日本救急医学会中部地方会学術集会	2025年11月29日	新生児センター	鬼塚味佳
36	災害時にドクターヘリによる新生児搬送の可能性の検討	第28回日本救急医学会中部地方会学術集会	2025年11月29日	9A	渡邊和信
37	救急外来におけるデジタル簡易無線導入の効果と災害時の運用拡大にむけて	第28回日本救急医学会中部地方会学術集会	2025年11月29日	救急外来	松元拓登
38	シンポジウム 【Time-Limited Trial（時間制限付き治療）における看護の実際】～事例を通じて終末期医療について考える～偶発的に発見された膀胱がん stage IV の患者への看護介入～	第28回日本救急医学会中部地方会学術集会	2025年11月29日	ICUCCU	森田康敬
39	脳神経外科術後管理における看護師特定行為実践の一考察	第28回日本救急医学会中部地方会学術集会	2025年11月29日	3AICU	中村沙織
40	特定行為実践からACPについて検討した一例	第28回日本救急医学会中部地方会学術集会	2025年11月29日	3AICU	岡室恵子
41	手指衛生の遵守率を上昇させるための取り組み～感染カンファレンスと行動変容～	第14回静岡県看護学会	2026年1月10日	HCU	土屋侑子
42	HCUにおける新人看護師のリアリティーショックと支援体制の課題	第14回静岡県看護学会	2026年1月10日	HCU	勝呂可菜
43	がん患者への身体的・精神的苦痛の軽減について～薬物療法とタッチングの効果～	第14回静岡県看護学会	2026年1月10日	5B	中山智裕
44	CPA蘇生後患者との退院後の語り合いからの学び～患者様を支える会に参加して～	第14回静岡県看護学会	2026年1月10日	5B	渡辺雅代
45	ウロストミー造設とセクシャリティの問題に対する精神的支援の一例	第43回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	2026年2月7日	3B	上田歩
46	当院における高齢ストーマ造設患者の退院支援、在宅調整介入状況からみる今後の課題	第43回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	2026年2月7日	3B	上田歩
47	当院の特定看護師によるエコーを用いた栄養管理への活用に向けた取り組みと課題	第41回日本栄養治療学会学術集会	2026年2月13日	6A/SCU	鈴木英子
48	シンポジウム 足病再発×他職種連携 大学病院の現状と課題	第6回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	2026年2月27日	看護入院業務課	杉山裕貴
49	危険度3b以上の転倒転落低減に向けた取り組み	第11回日本医療安全学会学術総会	2026年3月15日	医療安全管理室	杉山希

2. 執筆活動

No.	雑誌名・テーマ	書籍・雑誌名	発行	部署	氏名
1	日本難病看護学会誌・LCIG療法を受けるパーキンソン病患者に対する看護	日本難病看護学会	2025年6月	看護入院業務課	宮澤初美
2	令和6年度静岡災害医学研究センター紀要・教育工学に基づいた災害看護教育プログラムの開発	静岡災害医学研究センター	2025年9月	9A	渡邊和信
3	エキスパートナース2026年2月号 骨粗鬆症の知識アップデート	照林社	2026年1月20日	6H	井上大輔
4	新体系看護学全書「呼吸器」改訂作業	メヂカルフレンド社	2026年3月1日	ICUCCU	田村美紀
5	これならわかるICU看護 第2版(3.人工呼吸管理：基礎知識／観察ポイントとケア)	株式会社照林社	2026年3月25日	救急外来	長崎祐士

3. 外部講師派遣

No.	活動内容	主催・活動場所	活動日	部署	氏名
1	救急看護学（インホスピタルケア：救急外来・EICUにおける看護）	駒沢女子大学	2025年4月16日	ICUCCU	森田康敬
2	救急看護学 講義	駒沢女子大学	2025年4月16日	救急外来	鈴木めぐみ
3	循環のフィジカルアセスメント	順天堂大学保健看護学部	2025年4月18日	HCU	村瀬大樹
4	看護職キャリア開発論	医療看護学部	2025年4月21日	看護部	堀込克代
5	手術室看護について	順天堂大学保健看護学部	2025年4月22日	手術室	内田佳月
6	回復期看護論	東都大学沼津ヒューマン学部	2025年4月25日	6A/SCU	伊藤彰浩
7	看護職のキャリア開発論「急性期病院における入退院支援の実際」	医療看護学部	2025年4月25日	入退院支援室	山下小夜子
8	呼吸のフィジカルアセスメント	順天堂大学保健看護学部	2025年4月25日	HCU	村瀬大樹
9	看護職キャリア開発論 診療看護師（NP）というキャリア	医療看護学部	2025年5月2日	看護教育課	多田 真也
10	看護師のためのミニ看護政策セミナー「看護連盟と静岡県予算について」	静岡県看護連盟	2025年5月2日	6H	井上大輔
11	救急看護学（プレホスピタルケア、インホスピタルケア、他）	東都大学	2025年5月7・14・21日	ICUCCU	森田康敬
12	基礎看護学 脳神経フィジカルアセスメント	順天堂大学保健看護学部	2025年5月9日	6A/SCU	伊藤彰浩
13	ACP アドバンスケアプランニング～患者の思いと医療者の思い～	中伊豆温泉病院	2025年5月22日	3B	池田定代
14	静岡県立看護専門学校助産学科 助産管理講義	静岡県立看護専門学校	2025年6月3・9日	5H	古谷華菜
15	NICU、GCUの看護	保健看護学部	2025年6月5日	新生児センター	大木直美
16	看護師のためのミニ看護政策セミナー「参議院選挙の仕組みについて」	静岡県看護連盟	2025年6月6日	6H	井上大輔
17	認定看護師から学ぶ基礎知識：クリティカルケア	静岡県看護協会	2025年6月11日	HCU	土佐谷忍
18	第3回 静岡心不全多職種ネットワークS-HFnetの会	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社	2025年6月14日	8A	杉下美久
19	災害時の感染対策～基本を知って応用しよう～	静岡県消防協会	2025年6月14日	感染対策室	平馬知実
20	不安・スピリチュアルケア	保健看護学部	2025年6月20日	3B	池田定代
21	令和7年度第1回静岡県DMAT看護師研修	静岡県DMAT事務局	2025年6月22日	外来検査	勝間田敏宏
22	高齢者看護方法論Ⅱ	順天堂大学保健看護学部	2025年6月23日	8A	古屋曜子
23	看護師のためのミニ看護政策セミナー「看護師の国会議員について」	静岡県看護連盟	2025年7月4日	6H	井上大輔
24	慢性疾患（呼吸器系）をもつ患者についての診断・治療・予防と包括的アセスメントの実際と事例検討	順天堂大学医療看護学研究科	2025年7月12日	ICUCCU	田村美紀
25	高齢者看護方法論Ⅱ スキンケアについて	保健看護学部	2025年7月15日	3AICU	間部幸
26	CNS演習～循環器疾患～	順天堂大学医療看護学研究科	2025年7月19日	8A	岩瀬明音
27	静岡県看護職員認知症対応力向上研修	静岡県看護協会	2025年7月31、8月12・13日	8A	古屋曜子
28	施設内（介護施設）学習資料活用研修	感染症管理センター	2025年8月8日	感染対策室	杉山美和
29	令和7年度静岡県看護協会東部地区支部災害看護研修	静岡県看護協会東部地区支部	2025年8月23日	外来検査	勝間田敏宏
30	感染看護（3年）講義	保健看護学部	2025年9月1日	感染対策室	平馬知実
31	日本救急医学会 ICLSコースインストラクター	保健看護学部	2025年9月5日	3AICU	田上佑一
32	日本救急医学会 ICLSコースインストラクター	保健看護学部	2025年9月6日	3AICU	岡室恵子
33	順天堂大学保健看護学部公開講座「ヘリナースのお仕事」	保健看護学部	2025年9月7日	救急外来	脇元悠輔
34	日本救急医学会 ICLSコースインストラクター	保健看護学部	2025年9月7日	3AICU	中村沙織
35	おむつ交換研修	伊豆赤十字病院	2025年9月8日	新生児センター	長友節子
36	特定行為とMidela	テルモ株式会社	2025年9月9日	看護教育課	多田 真也
37	薬剤師のための感染管理勉強会	杏林製薬	2025年9月9日	感染対策室	平馬知実
38	看護におけるリスクマネジメント	保健看護学部	2025年9月24日	看護安全管理課	萩島真弓
39	看護の質向上促進研修 フィジカルエグザミネーションをアセスメントにつなげよう	静岡県看護協会	2025年9月25日	看護教育課	多田 真也
40	「災害看護」 災害の基礎的知識と災害サイクル	保健看護学部	2025年9月25日	9A	渡邊和信
41	「災害看護」 避難所における支援	保健看護学部	2025年9月25日	9A	渡邊和信
42	「災害看護」 防災、災害の備えについて	保健看護学部	2025年10月2日	9A	渡邊和信
43	「災害看護」 災害時の心のケア	保健看護学部	2025年10月2日	9A	渡邊和信
44	診療援助技術（個人防護具の着脱演習）	保健看護学部	2025年10月8日	感染対策室	平馬知実
45	災害看護	順天堂大学保健看護学部	2025年10月9日	ICUCCU	森田康敬

46	「災害看護」 避難所運営図上訓練	保健看護学部	2025年10月9日	9A	渡邊和信
47	災害看護学 講義	保健看護学部	2025年10月9日	救急外来	鈴木めぐみ
48	成人看護方法論慢性期Ⅱ	順天堂大学保健看護学部	2025年10月10日	ICUCCU	田村美紀
49	看護におけるリスクマネジメント	保健看護学部	2025年10月14日	感染対策室	杉山美和
50	災害看護 発災後の実際 DMAT派遣事例から	保健看護学部	2025年10月16日	看護教育課	多田 真也
51	災害看護 災害支援ナース活動報告（能登半島地震）	保健看護学部	2025年10月16日	4B	松尾正人
52	災害看護 災害支援ナース活動報告	保健看護学部	2025年10月16日	4C	長谷川智美
53	令和7年度静岡県看護協会災害一般研修Ⅱ	静岡県看護協会	2025年10月16日	外来検査	勝間田敏宏
54	災害について	順天堂大学保健看護学部	2025年10月16日	外来	加藤清美
55	保健看護学部学内演習補助者	保健看護学部	2025年10月22日	救急外来	三浦美知子
56	「救命救急看護」 救命救急看護の概念	保健看護学部	2025年10月23日	9A	渡邊和信
57	救急看護学 講義	保健看護学部	2025年10月23日	救急外来	鈴木めぐみ
58	保健看護学部 学内演習補助者「診療援助技術：皮下注射演習筋肉内注射演習」	順天堂大学保健看護学部	2025年10月29日	外来E	三橋礼奈
59	救命救急看護	順天堂大学保健看護学部	2025年10月30日	ICUCCU	森島克明
60	救命救急看護 4年後期 プレホスピタルとインホスピタルケアの連携②	保健看護	2025年10月30日	5A	石田桃子
61	新生児蘇生法講習会	清陵クリニック	2025年11月1日	新生児センター	大木直美
62	令和7年度第2回静岡県DMAT看護師研修	静岡県DMAT事務局	2025年11月1日	外来検査	勝間田敏宏
63	成人看護学Ⅵ 終末期の看護	静岡済生会看護専門学校	2025年11月09日	5B	渡邊美佐子
64	慢性看護学特論Ⅲ CNSによるコンサルテーション、コーディネーション	順天堂大学大学院医療看護学研究科	2025年11月10・17日	看護入院業務課	宮澤初美
65	保健看護学部学内演習補助者	保健看護学部	2025年11月12日	外来検査	野中明日香
66	診療援助技術の補助	保健看護学部	2025年11月12日	看護教育課	野中明日香
67	日本航空医療学会フライトナース勉強会ファシリテータ	日本航空医療学会フライトナース委員会	2025年11月15日	看護教育課	多田 真也
68	第35回フライトナース勉強会	フライトナース委員会	2025年11月15日	ICUCCU	田村美紀
69	高齢者看護方法論	保健看護学部	2025年12月1日	看護入院業務課	宮澤初美
70	保健看護学部 学内演習補助者「診療援助技術：浣腸演習座薬挿入演習」	順天堂大学保健看護学部	2025年12月3日	外来B	福澤恵美
71	呼吸療法	順天堂大学保健看護学部	2025年12月10日	HCU	村瀬大樹
72	院内感染対策研修会（VRE）	菰山温泉病院	2025年12月12日	感染対策室	杉山美和
73	ハンズオンセミナー ミッドラインカテーテル「サーフローMidela（ミデラ）」挿入体験	日本NP学会第3回中部地方会	2025年12月13日	看護教育課	多田 真也
74	利用者の尊厳ある生活を支えるケアと看護③一急変時の対応一	静岡県看護協会	2025年12月13日	ICUCCU	森田康敬
75	高齢者権利擁護推等推進事業「看護実務者研修」	静岡県看護協会	2025年12月13日	8A	古屋曜子
76	令和7年度静岡県災害医療従事者研修	静岡県	2025年12月13・14日	外来検査	勝間田敏宏
77	多数傷病者発生事案対応訓練	御殿場市・小山町広域行政組合消防庁	2025年12月16日	ICUCCU	森田康敬
78	多数傷病者発生事案対応訓練	御殿場市・小山町広域行政組合	2025年12月16日	救急外来	脇元悠輔
79	療養を支え、看護をつなぐ退院支援	静岡県看護協会	2025年12月17日	8A	古屋曜子
80	がん講座 がんの基礎知識と予防について	県立田方農業高等学校	2025年12月19日	5B	渡邊美佐子
81	東海北陸手指衛生消毒セミナー	テルモ	2025年12月20日	感染対策室	杉山美和
82	疾病と治療 薬物治療Ⅱ 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整のための治療管理とケア	愛知医科大学大学院看護学研究科	2025年12月22日	看護教育課	多田 真也
83	クリティカルケア特論 航空医療における診療看護師（NP）の活動	愛知医科大学大学院看護学研究科	2025年12月22日	看護教育課	多田 真也
84	慢性看護学演習 CNSによる実践	順天堂大学大学院医療看護学研究科	2025年12月27日	看護入院業務課	宮澤初美
85	スペシャリストから学ぶ「クリティカルケア看護」 動画コンテンツの作成・講師	株式会社ジョブメドレーアカデミー	2026年1月1日	救急外来	長崎祐士
86	成人看護方法論急性期Ⅱ	順天堂大学保健看護学部	2026年1月5日	ICUCCU	森田康敬
87	「成人看護方法論急性期Ⅱ」 急性呼吸近傍障害にある患者の看護	保健看護学部	2026年1月7日	9A	渡邊和信
88	駿東田方地域MC協議会第3回救急隊員等研修会（第9回駿東田方MCLS標準コース）	駿東田方地域MC協議会	2026年1月10日	外来検査	勝間田敏宏
89	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校 がん講座「がんという病気について知ろう」	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校	2026年1月21日	がん治療センター	安間亜希
90	思春期から始める・未来を支える健康教育：若年妊娠の事例紹介	東部健康福祉センター	2026年1月23日	5H	寺尾さか江

91	静岡県看護協会ボランティアナース研修	静岡県看護協会	2026年1月25日	外来検査	勝間田敏宏
92	地域でつなぐ心不全ケア in 伊豆 心不全患者が住み慣れた地域で暮らしていくために必要な 地域連携と今後の課題	ノバルティスファーマ 株式会社/大塚製薬株 式会社	2026年1月27日	8A	杉下美久
93	令和7年度静岡DMAT-TL隊員養成研修	静岡県	2026年2月14・15日	外来検査	勝間田敏宏
94	「屋根瓦 in Shizuoka2025」	静岡県医師会	2026年2月15日	5A	櫻井操
95	家庭生活支援員養成研修 健康管理と緊急対応	静岡県健康福祉部こども 未来局	2026年2月15日	医療安全管理室	杉山希
96	看護師のメンタルヘルス	社団法人日本精神科看護 協会	2026年2月21日	看護総務課	宮澤久美子
97	職業講和	伊豆の国市立長岡中学校	2026年2月26日	ICUCCU	田村美紀
98	令和7年度第3回静岡県DMAT看護師研修	静岡県DMAT事務局	2026年2月28日	外来検査	勝間田敏宏
99	新生児蘇生法講習会	富士市立病院	2026年3月8日	新生児センター	大木直美
100	第24回静岡県MCLS標準コース	日本災害医学会	2026年3月8日	外来検査	勝間田敏宏
101	イムデトラ界隈の看護師さん 現場の「困った」を「できた」にアップデートしません か!? ー看護師だからできる安全な投与のための準備と実践ー	アムジェン株式会社	2026年3月3・13日	5B	渡邊美佐子

4. その他の活動

No.	活動内容	役割	主催・活動場所	部署	氏名
1	広報委員	役員	日本NP学会中部地方 会	看護教育課	多田 真也
2	日本災害看護学会・ネットワーク活動・調査調整部	委員	日本災害看護学会	9A	渡邊和信
3	航空安全管理委員会	役員	日本航空医療学会	救急外来	鈴木めぐみ
4	第32回日本航空医療学会総会・学術集会	実行委員	日本航空医療学会	ICUCCU	田村美紀
5	第32回日本航空医療学会総会・学術集会	実行委員	日本航空医療学会	ICUCCU	森田康敬
6	クリティカルケア看護学高度実践実習Ⅱ	実習指導者	京都大学	ICUCCU	田村美紀
7	クリティカルケア看護学高度実践実習Ⅱ	実習指導者	京都大学	ICUCCU	森田康敬
8	第21回日本クリティカルケア看護学会学術集会(講演会場3 会場責任者)	実行委員	日本クリティカルケ ア看護学会	救急外来	長崎祐士
9	2026年度役員選挙に係る業務 選挙管理委員会	委員	日本看護教育学学会	7A	佐々木史乃
10	精神看護②	座長	日本看護学学術集会	看護総務課	近藤津枝
11	第32回日本航空医療学会総会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	救急外来	鈴木めぐみ
12	第32回日本航空医療学会総会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	救急外来	脇元悠輔
13	第32回日本航空医療学会総会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	救急外来	松尾基樹
14	第32回日本航空医療学会総会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	救急外来	杉山遥
15	第32回日本航空医療学会総会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	救急外来	服部杏里
16	第32回日本航空医療学会総会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	救急外来	中村沙織
17	第32回日本航空医療学会総会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	救急外来	田上佑一
18	第32回日本航空医療学会学術集会・実行委員	委員	第32回日本航空医療 学会総会・学術集会	9A	渡邊和信
19	第32回日本航空医療学会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	4B	山田真実
20	第32回日本航空医療学会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	4B	久米なつみ
21	第32回日本航空医療学会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	4B	楠木俊稀
22	第32回日本航空医療学会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	4B	松尾正人
23	学会ボランティア	実行委員	第32回日本航空医療 学会総会・学術集会	看護教育課	多田 真也
24	第32回日本航空医療学会総会学術集会	実行委員	日本航空医療学会	救急外来	望月佳澄
25	学会運営に係る応援要員	実行委員	第32回日本航空医療 学会総会・学術集会	7A	森田琉斗
26	実行委員長	役員	日本NP学会第3回中部 地方学術集会	看護教育課	多田 真也
27	日本看護学会	査読員	日本看護学会	ICUCCU	森田康敬

5. 研修・臨地実習受け入れ状況

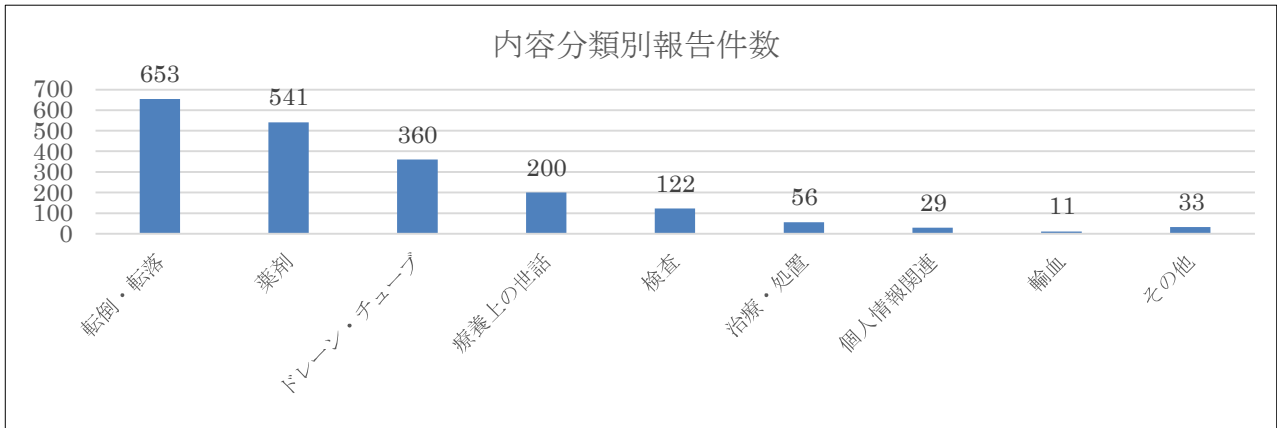
1) 臨地実習

実習内容	期間	人数
地域包括ケア探索実習(1年)	4/22、4/23	142名
生活行動援助実習(2年)	9/8～10/3	122名
領域実習(4年) (3年)	5/12～7/4 10/14～12/18	566名 (延べ人数)
地域包括統合看護実践実習(4年)	7/8～7/28	50名
多職種連携医療体験実習(1年)	1/13～1/23	94名
ハイリスク新生児実習	7/28～8/8(各3日間)	12名
助産分娩実習	8/25～10/10(7週間)	2名
ハイリスク新生児実習	8/19.8/20	6名
助産分娩実習	10/14～12/19	3名
感染管理認定看護師教育課程	11/4～12/5	2名
クリティカルケア看護学高度実践実習Ⅱ	6/16～7/11	1名
皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程	11/4～11/28	2名

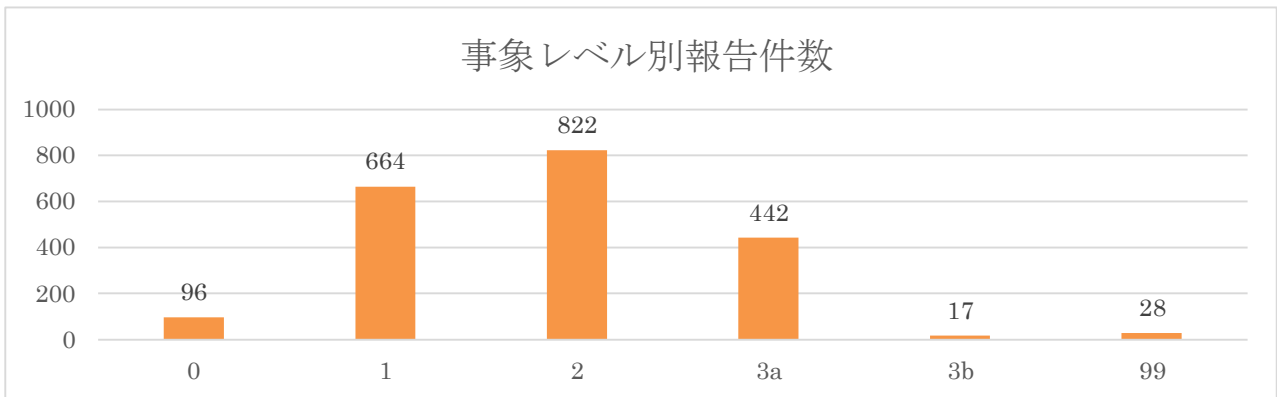
2) 就職前職場体験等の受け入れ

就職前職場体験 インターンシップ	8/6.8/7.8/13.8/14.8/15.8/18. 8/20.8/21.8/25.8/26.8/27.9/1 .9/4	58名
職場訪問	11月	1名
職場体験	11/19	5名
高校生1日ナース体験	7/30 7/31(津波警報発令で中止)	20名

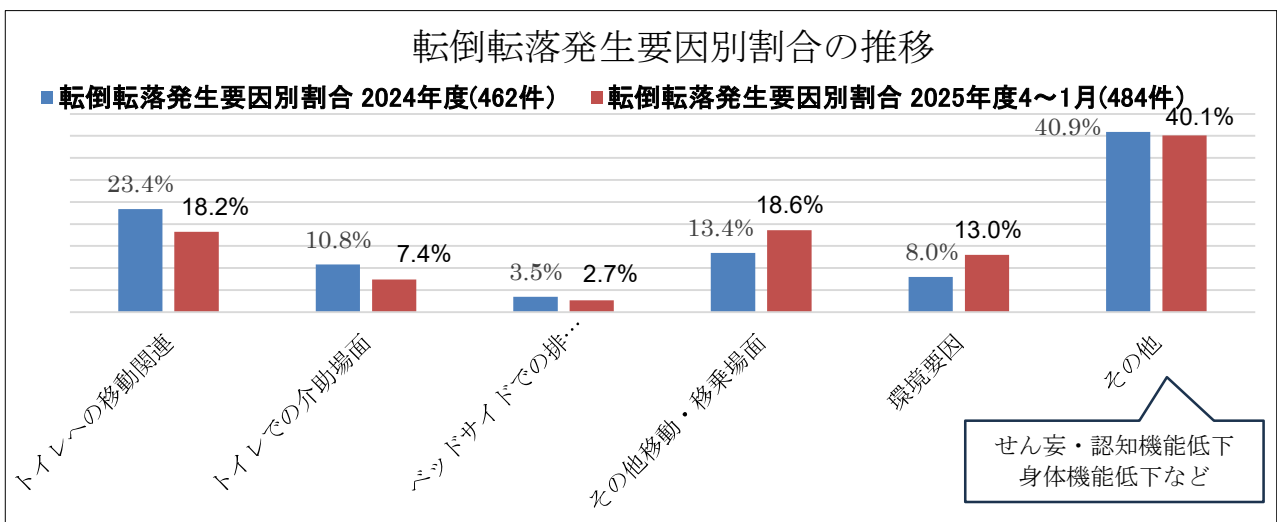
3-9(6) 看護安全管理課



インシデント報告の内容分類件数では、「転倒・転落」が653件と最も多く、全報告の中で大きな割合を占めていた。次いで「薬剤」が542件、「ドレーン・チューブ」が360件、「療養上の世話」が200件、「検査」が122件等であった。全体として、転倒・転落、薬剤、ドレーン・チューブに関する報告が多く、これらの分野の重点的な安全対策を要する領域である事が示された。

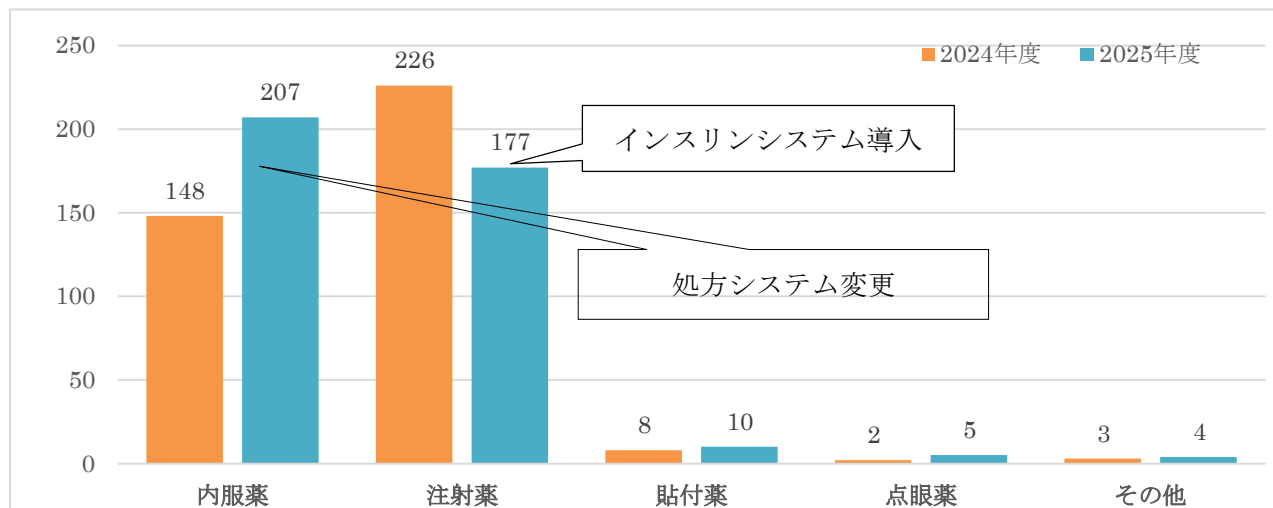


事象レベル別では、レベル2が822件と最も多く、次いでレベル1が664件の報告が大半を占めており、レベル0も96件であった。患者への影響が軽微で処置や観察を要したレベル1、2が大半を占めており、報告意識が定着し、安全文化の醸成にもつながっていると考えられる。一方レベル3a以上の事象も一定数発生していることから、発生要因の分析と再発防止策を継続し、重大事故の未然防止に繋げていくことが重要である。



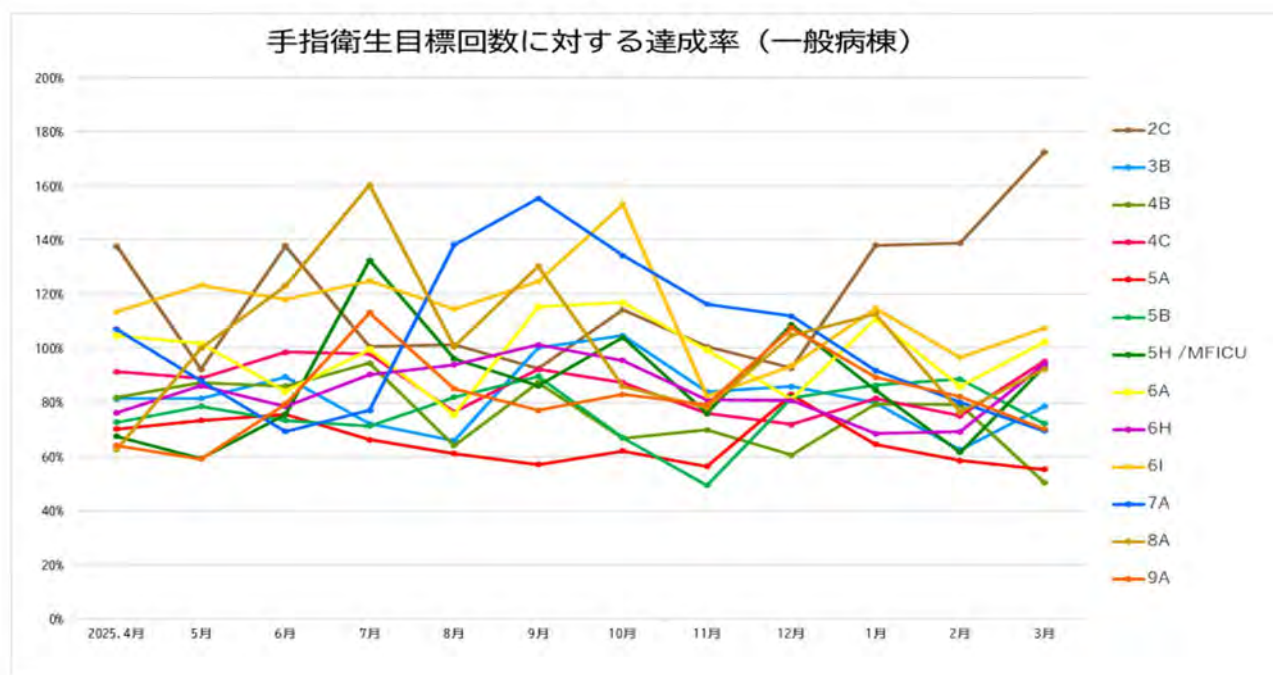
排泄行動は日常生活動作の中でも頻度が高く、実際に、「トイレに行こうとした」「一人で行けると思った」際の転倒が多く見られたため、2025年度はトイレ介助場面での転倒・転落防止対策に取り組んだ。

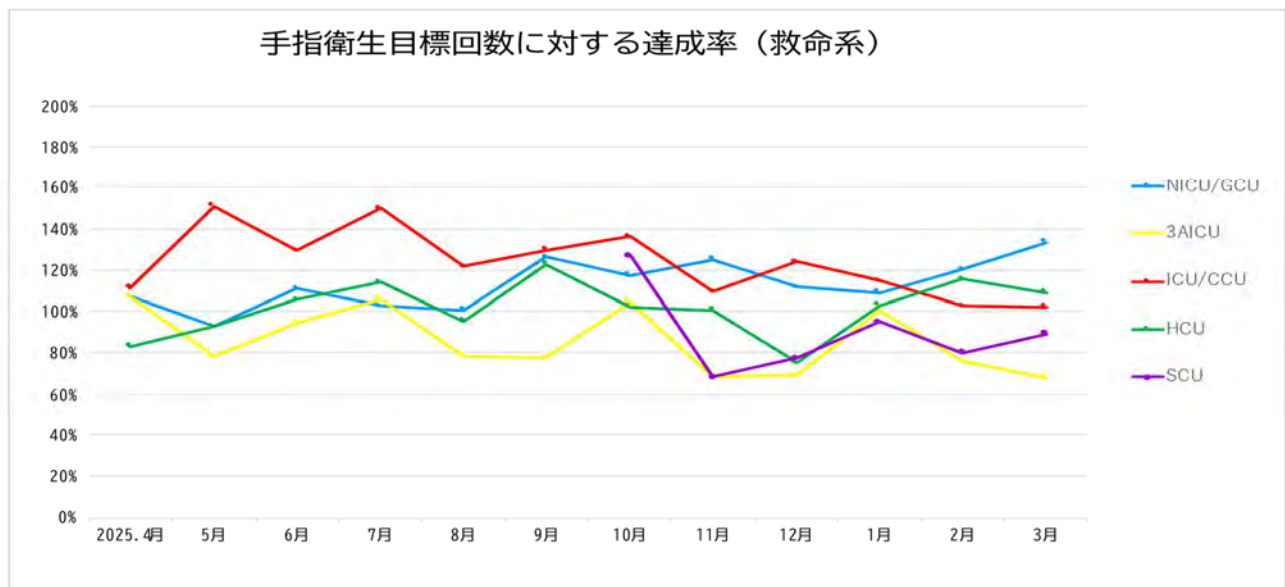
具体的対策としては、転倒転落リスクの高い患者を早期から抽出するために、転倒転落アセスメントスコアシートの見直しと、転倒・転落の危険度の高い患者の看護計画の個別性を高めることに重点を図った。さらに、看護部安全ラウンドを行いながら、看護計画の個別性立案の状況を確認し、部署内での安全な介助方法の共有と、統一を図った。結果、トイレへの移動や排泄に関連する要因は23.4%から18.2%、トイレでの介助場面は10.8%から7.4%、ポータブルトイレでの排泄関連は3.5%から2.7%へ減少した。



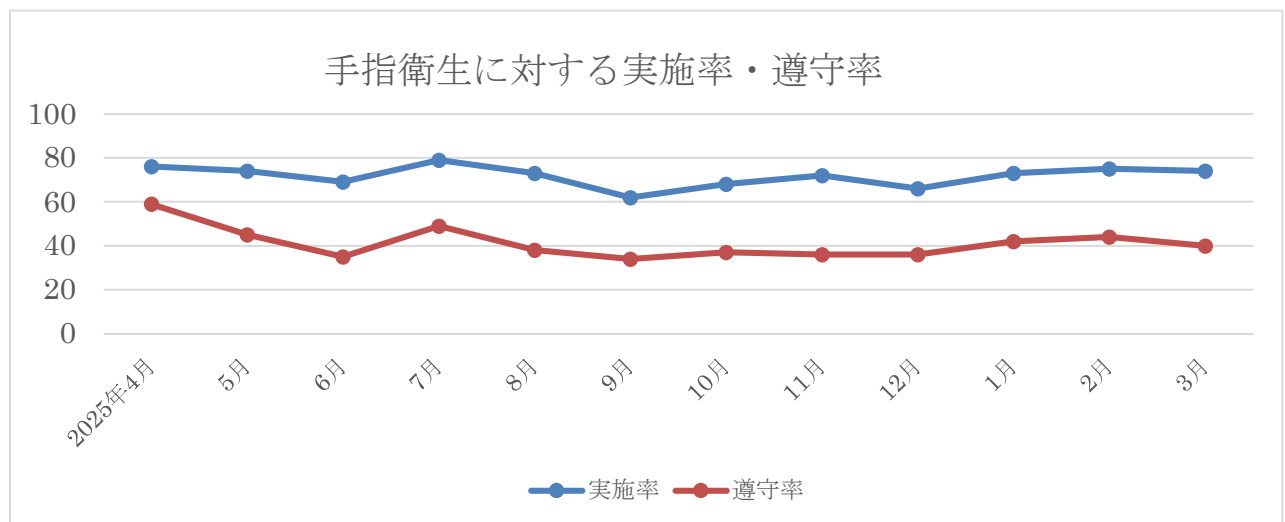
2024年度から処方システムが変更され、処方カレンダーが導入された結果、内服薬に関する報告件数が149件から207へ増加した。要因として患者のベッドサイドで電子カルテを開きながら配薬できる体制へと変更したため、処方カレンダー表示の煩雑化による見間違いや、確認不足、配薬時間帯が他の業務と集中する時間であったなど、様々な要因が考えられた。

一方インスリンシステム導入後、インスリンに関する報告件数は前年度226件から177件への減少した。スケールが標準化され、投与量の指示もわかりやすくなり、減少へ繋がったことが示された。

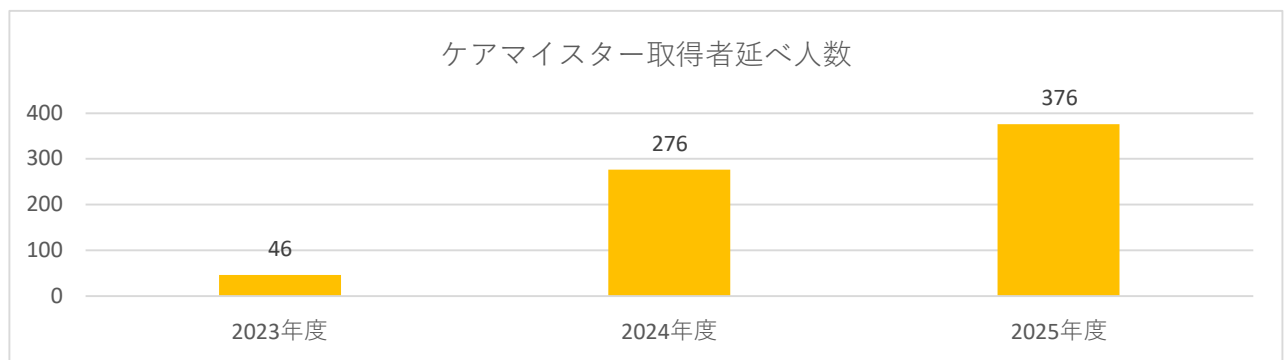




手指衛生目標回数達成に向け、各部署では業務調査を実施し、目標回数を算出し取り組んでいる。部署によりばらつきが見られるが、目標達成できていない部署については、更なる実施に向けた取り組みが必要である。



手指衛生の実施率は年間を通して約60%～80%で推移しているが、遵守率は35～50%前後と低かった。手指衛生を実施していても必要なタイミングで適切に実施出来ていないことが課題である。感染対策の基本である手指衛生の遵守向上に向けて「5つのタイミング」を意識した継続的な教育や部署への声掛け、ラウンド時のフィードバック等取り組みを強化する必要がある。



感染と安全に配慮し看護ケアの均一化を図り、質の向上を目的に2023年度より静岡病院独自のケアマイスター制度を設けている。年々取得者は増加しており、引き続き取得に向け育成を継続する。

3-10 救命救急センター

業務内容

静岡県東部地域の救急医療の「最後の砦」の三次救急医療機関として、院内全診療科と各部門の協力・連携のもと、「断らない救急医療」の実践を継続している。二次救急医療についても駿東田方地域の広域輪番制で対応不能な場合は当センターが対応しており、同様に一次救急医療を担当する休日夜間急患センターなどの対象外地域や診療時間の空白時は、当センターが対応することが多い。

病院前救急医療としては、静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院として、医師及び看護師の現場派遣と迅速な搬送を行うことで、特に伊豆半島と静岡市山間部の救急医療に重要な役割を果たしている。

入院診療では救急専用病床 34 床を利用し、重症傷病者の診療を行っている。

業務実績

2025 年度

救急外来受診患者総数	13,065 人
救急入院患者総数	6,605 人
救急車搬送件数	7,373 件
ドクターヘリ運航件数	1,029 件

メディカルコントロール活動

消防機関とのメディカルコントロール（MC）体制を確保・発展するために、当院に搬送された症例を中心に、救急救命士の技術指導を行った。

次年度目標

- 救急搬送収容業務の円滑化と迅速化のため、救急応答事務員による救急対応体制への移行を順次実施する。
- 周辺地域における救急医療連携を強化し、医療情報ネットワークを構築する。
- ドクターヘリ活動と研究により積極的に介入し、適正かつ有効なドクターヘリ業務を推進する。
- 新救急救命センターへ円滑に業務体制を移行する。

3-11 ドクターヘリ運航対策室

業務内容

当院は静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院である。当院のフライトドクター及びナースがヘリでいち早く救急現場の傷病者と接触し、トリアージと応急処置を行い、適切な医療施設を選定して、目的地まで安全に搬送できるよう注意深い観察と対応を行っている。平成 16 年の指定以降、出動件数は年々増加傾向であり、当院を中心とする半径 70 km の医療圏から年間 700 件以上の重症救急患者の広域ヘリ搬送を実施し、その約 7 割の患者を当院の救命救急センターに収容している。

次年度目標

- ・ドクターヘリ活動周知、啓発活動の継続
- ・消防との更なる連携強化
- ・県防災ヘリとの連携強化
- ・大規模災害、AACN等の訓練への参加
- ・海上保安庁との連携強化
- ・自衛隊との連携強化

2025 年度ドクターヘリ出動件数・搬送人数

転 帰	人 数	
入 院	606	56.9%
外 来	294	27.6%
転 送	105	9.9%
キャンセル	60	5.6%
合 計	1065	100%

要請内容	件 数
現場搬送	783
現場キャンセル	59
病院間搬送	186
病院間キャンセル	1
合 計	1029

令和7年/令和8年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	/1 月	/2 月	/3 月	合計 (人)
入 院	52	60	55	54	50	50	38	58	44	44	41	60	606
外 来	25	20	20	24	26	19	20	24	16	38	29	33	294
転 送	6	9	9	9	13	9	9	10	5	7	13	6	105
キャンセル	5	3	5	10	9	4	5	3	6	5	1	4	60
月別合計	88	92	89	97	98	82	72	95	71	94	84	103	1065

令和7年/令和8年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	/1 月	/2 月	/3 月	合計 (件)
救急現場	68	67	69	70	76	65	48	63	55	67	55	80	783
転院搬送	11	18	14	17	13	12	16	24	10	15	19	17	186
キャンセル	5	3	5	10	9	4	5	3	6	5	1	4	60
月別合計	84	88	88	97	98	81	69	90	71	87	75	101	1029

出動実績

I-1 (件数)

出 動 内 容	
現 場	783 (キャンセル 59件含む)
病院間	186 (キャンセル 1件含む)
現 場	783
病院間	186
小 計	969
キャンセル	60
合 計	1029

II-1 (人数) (診療科別)

診 療 科 名	(人数)
循環器科	189
脳神経外科	130
整形外科	32
外 科	8
呼吸器内科	16
小児科	30
膠原病内科	
呼吸器外科	
腎臓内科	2
消化器内科	1
心臓血管外科	14
脳神経内科	14
産婦人科	2
眼科	
泌尿器科	2
形成外科	
耳鼻咽喉科	
皮膚科	
新生児科	1
血液内科	
糖尿病・内分泌内科	1
救急診療科	563
合 計	1005

／1005名 (キャンセル60件を除く)

I-2 (件数)

(消防本部別)

消 防 本 部 名	転 院 搬 送		現場出動	計
	病 院	診療所		
下田消防	55	11	159	225
駿東伊豆消防	20	7	274	301
熱海市消防	13	0	33	46
富士山南東消防	1	0	156	157
御殿場市・小山町消防	7	4	97	108
富士宮市消防	2	0	44	46
富士市消防	3	1	15	19
静岡市消防	0	0	5	5
その他消防	1	0	0	1
小 計	102	23	783	908
消防との合流なし	61	0	0	61
合 計	163	23	783	969

II-2 (人数)

(収容先別)

出動別	当 院 (人数)	他 院 (人数)	合 計 (人数)
現 場	659	45	704
病院間	126	60	186
小 計	785	105	890
現場のみ	33	82	115
合 計	818	187	1005

疾患別搬送件数

内因性疾患	件 数	内因性疾患	件 数
急性心筋梗塞	67	胆嚢炎	1
心筋梗塞	4	喀血	1
狭心症	6	膵炎	1
急性冠症候群	3	低酸素血症	1
心不全	37	性器出血	1
急性大動脈解離	25	ショック	18
大動脈瘤	3	肝細胞癌破裂	1
大動脈瘤破裂	6	腎盂腎炎	4
完全房室ブロック	5	ギランバレー症候群	1
洞不全症候群	3	過換気症候群	1
頻脈	2	胸水	1
心房細動	2	肝硬変	1
心房粗動	1	急性腹症	1
不整脈	1	下肢動脈閉塞症	1
心室頻拍	7	尿路感染症	2
発作性上室頻拍	2	硬膜外膿瘍	1
心室細動	2	喘息	1
心肺停止	50	後腹膜腫瘍	1
急性動脈閉塞症	1	横紋筋融解症	1
肺塞栓症	2	腹腔内膿瘍	1
急性循環不全	1	大血管転位症	1
心筋症	1	脱水	9
大動脈弁狭窄症	1	肝膿瘍	2
脳内出血	25	特発性血小板減少性紫斑病	1
くも膜下出血	11	心窩部痛	8
脳梗塞	59	肺気腫	2
意識消失発作	12	幽門狭窄症	1
脳腫瘍	2	めまい症	2
けいれん発作	33	尿管結石症	2
脳血管障害	1	口腔底膿瘍	1
意識障害	10	脳炎脳症	1
一過性脳虚血発作	4	腹腔内出血	1
てんかん	8	不明	32
もやもや病	1		
失神	7		
脳卒中	5		
緑内障	1		
COVID-19	1		
肺炎	16		
呼吸不全	5		
消化管穿孔	1		
消化管出血	9		
低血糖	2		
下血	2		
髄膜炎	2		
嘔吐症	2		
腎不全	2		
敗血症	8		
胸痛	8	内因性疾患 小 計	573

疾患別搬送件数

外因性疾患	件 数	外因性疾患	件 数
交通外傷	3	一酸化炭素中毒	2
頭部外傷	21	手指骨折	2
溺水	7	上腕挫滅創	2
薬物中毒	7	鎖骨骨折	13
急性硬膜外血腫	1	顔面挫創	3
頭部打撲	3	股関節脱臼	1
頸髄損傷	18	脳振盪	17
脊髄損傷	4	肝損傷	2
頭蓋骨骨折	1	前腕挫創	2
減圧症	10	下腿打撲	1
蜂刺症	3	胸部打撲	3
外傷性気胸	1	外傷性消化管穿孔	2
下腿骨骨折	5	膝蓋骨骨折	1
頸椎骨折	5	胸部刺創	1
顔面外傷	5	手関節開放骨折	1
多発外傷	4	肩甲骨骨折	1
胸部外傷	1	大腿骨骨折	8
脾損傷	2	動脈損傷	3
縊首	1	頸部打撲	4
熱傷	10	上肢挫創	2
全身打撲	37	上肢打撲	1
熱中症	8	腹部刺創	2
膝開放性骨折	1	コンパートメント症候群	1
頸椎捻挫	1	転落外傷	2
胸腰椎骨折	2	化学熱傷	1
外傷性心肺停止	8	電撃傷	1
急性硬膜下血腫	7	足関節骨折・脱臼	2
肋骨骨折	27	アナフィラキシー	23
低体温	2	足部骨折	2
腰部打撲	5	頭部挫創	11
骨盤骨折	13	足関節開放性骨折	2
上腕骨骨折	2	腹部打撲	2
外傷性くも膜下出血	22	四肢挫創	2
股関節打撲	1	前腕骨折	1
足指開放骨折	1	擦過傷	1
心肺停止	1	出血性ショック	5
下腿開放骨折	10	血胸	1
胸骨骨折	2	臀部打撲	1
脳挫傷	1	胸椎骨折	5
手指切断	11	大腿骨開放骨折	3
血気胸	5	不明（外因）	28
腰椎骨折	18		
アナフィラキシーショック	5		
慢性硬膜下血腫	1		
手指挫創	1		
腹腔内損傷	2		
下肢挫創	7		
窒息	9	外因性疾患 小 計	492
大動脈損傷	2	内・外因性疾患 合 計	1065

3-12 新生児センター

業務実績

総入院数と院内/院外出生の割合

	入院数
総入院数	321
院内出生	197
院外出生	124

出生体重別の入院数

	入院数
超低出生体重児 (1000g 未満)	26
極低出生体重児 (1000g-1500g 未満)	22

在胎週数別の入院数

在胎週数	入院数
22-23	7
24-27	14
28-31	20
32-36	68
37-40	212

新生児救急車

	出動件数
総出動件数	182
入院数	75
三角搬送	64

研究・教育活動

【和文総説】

1. 荒井美輝、東海林宏道. 【常在微生物叢と小児疾患～腸内細菌叢の先にあるもの～】総論 プロバイオティクス、プレバイオティクス. 小児内科, 2025;57(8):1029-1033.

【学会発表（国際）】

1. Ikeda N, Suganuma H, Sugiyama M, Shoji H. Analysis of oxylipins in neonates who experienced asphyxia: a prospective observational study. 6th Taiwan-Japan-Korea Joint Meeting of Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition and 2025 TSPGHAN Annual Meeting, Taipei, Taiwan, 2025/9/12-13.

【学会発表（国内）】

1. 池田奈帆, 菅沼広樹, 村野弥生, 米岡大輔, 大川夏紀, 東海林宏道. 新生児仮死児における血中脂肪酸代謝産物の測定. 第128回日本小児科学会学術集会, 名古屋, 2025/4/18.

2. 池田奈帆, 菅沼広樹, 村野弥生, 大川夏紀, 荒井美輝, 東海林宏道. 新生児仮死児における血中脂肪酸代謝産物の解析. 第 61 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 大阪, 2025/7/13.
3. 池田奈帆, 菅沼広樹, 東海林宏道. 新生児仮死における血中オキシリピンの解析. 日本脂質栄養学会第 34 回大会, 東京, 2025/9/19.
4. 池田奈帆, 菅沼広樹, 東海林宏道. 魚油含有の経静脈脂肪製剤が早産児の臨床アウトカムに及ぼす影響についての文献的レビュー. 第 69 回日本新生児成育医学会・学術集会, 横浜, 2025/11/14.
5. 佐藤浩之. 当院における最近の超早産児. 第 55 回東部周産期研究会, 静岡, 2025/9/25.
6. 石上順平, 戸田方紀, 竹原英駿, 杉山茉莉香, 中村果歩, 佐藤浩之, 池田奈帆, 大川夏紀, 佐藤洋明. 周産期重症型低ホスファターゼ症の 1 男児例. 第 161 回日本小児科学会静岡地方会, 静岡, 2025/11/30.
7. 戸田方紀, 池田奈帆, 相原久人, 杉山茉莉香, 大川夏紀, 村山圭, 佐藤洋明, 東海林宏道. 既報バリエーションによる新規表現型を示した周産期重症型低ホスファターゼ症の 1 例. 第 69 回日本新生児成育医学会・学術集会, 横浜, 2025/11/13.
8. 橋本わかば, 谷本亮輔, 平岡由衣, 田中智秀, 杉山茉莉香, 中村果歩, 木村寛太郎, 荒井美輝, 佐藤恵也, 谷河純平, 村上良子, 大川夏紀, 東海林宏道. 高 ALP 血症とてんかんを契機に診断した先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症の 1 例. 第 128 回日本小児科学会学術集会, 名古屋, 2025/4/20.
9. 中村果歩, 大川夏紀, 杉山茉莉香, 池田奈帆, 佐藤洋明, 東海林宏道. 早産児未熟網膜症に対する抗 VEGF 療法の短期予後についての検討〜ラニビズマブとアフリベルセプトの比較〜. 第 69 回日本新生児成育医学会・学術集会, 横浜, 2025/11/14.
10. 杉山茉莉香, 荒井美輝, 中村果歩, 杉山洋平, 池田奈帆, 大川夏紀, 村山圭, 東海林宏道. 生後早期より治療介入を要した OTC 欠損症の新生児女児例. 第 61 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 大阪, 2025/7/13-15.
11. 杉山茉莉香, 荒井美輝, 中村果歩, 杉山洋平, 池田奈帆, 大川夏紀, 村山圭, 東海林宏道. 早期治療介入により発症を予防し得た OTC 欠損症の新生児女児例. 第 69 回日本新生児成育医学会・学術集会, 横浜, 2025/11/15.

【講演会】

1. 池田奈帆. 新生児期の脂肪製剤は将来の成長・神経学的予後を改善させるか?. 第 24 回新生児栄養フォーラム, 東京, 2025/6/22.

3-13 がん治療センター

業務実績

【がん治療センター運営委員会】

6回／年

【がん診療委員会（カンサーボード・レジメン審査）】12回／年

【周辺機関合同研修会・カンファレンス・連絡会等】

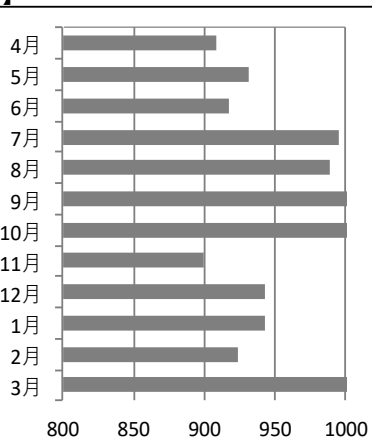
12月2日	合同カンファレンス
1月25日	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会
3月	がん治療研修会（動画配信） 「がん放射線療法の副作用対応」

【がん登録件数】（2025.1.1～2025.12.31）

総登録数	5大がん内訳	肺がん	211	大腸がん	269	乳がん	137
1,934		胃がん	111	肝がん	67		

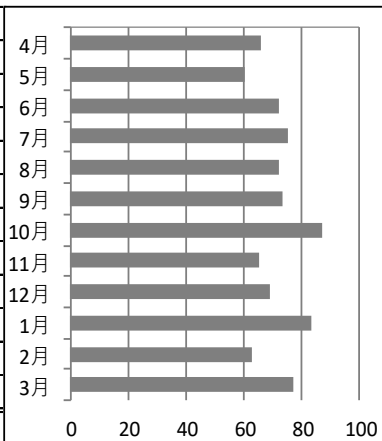
【化学療法実施件数】

4月	909
5月	931
6月	918
7月	995
8月	989
9月	1018
10月	1095
11月	899
12月	943
1月	943
2月	924
3月	1028
合計	11,592



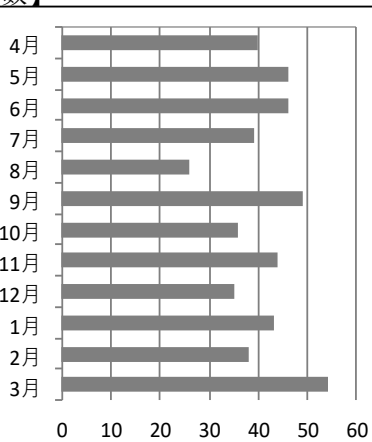
【がん手術件数】

4月	66
5月	60
6月	72
7月	75
8月	72
9月	73
10月	87
11月	65
12月	69
1月	83
2月	63
3月	77
合計	862



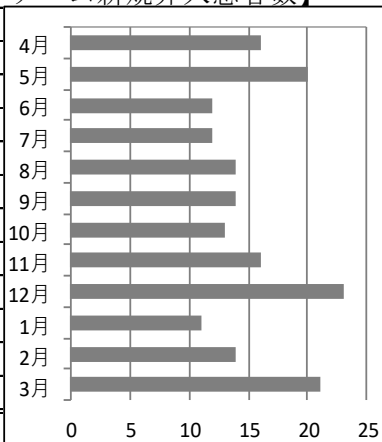
【放射線治療新規件数】

4月	40
5月	46
6月	46
7月	39
8月	26
9月	49
10月	36
11月	44
12月	35
1月	43
2月	38
3月	54
合計	496

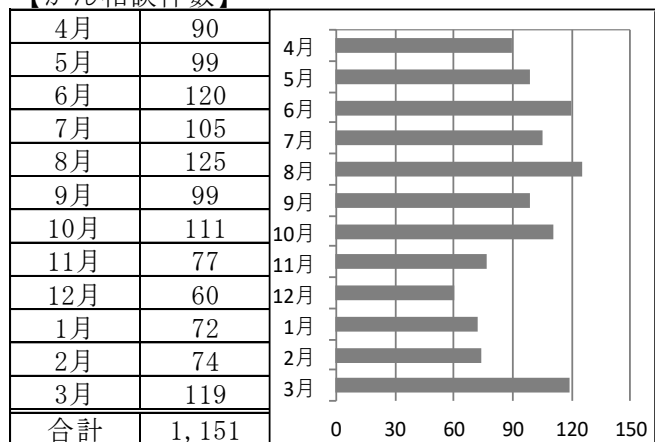


【緩和ケアサポートチーム新規介入患者数】

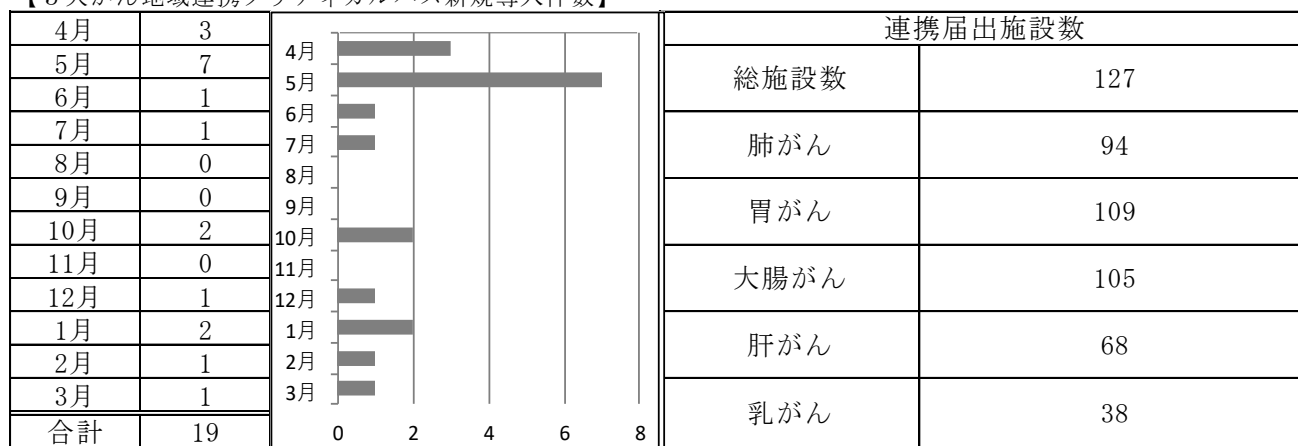
4月	16
5月	20
6月	12
7月	12
8月	14
9月	14
10月	13
11月	16
12月	23
1月	11
2月	14
3月	21
合計	186



【がん相談件数】



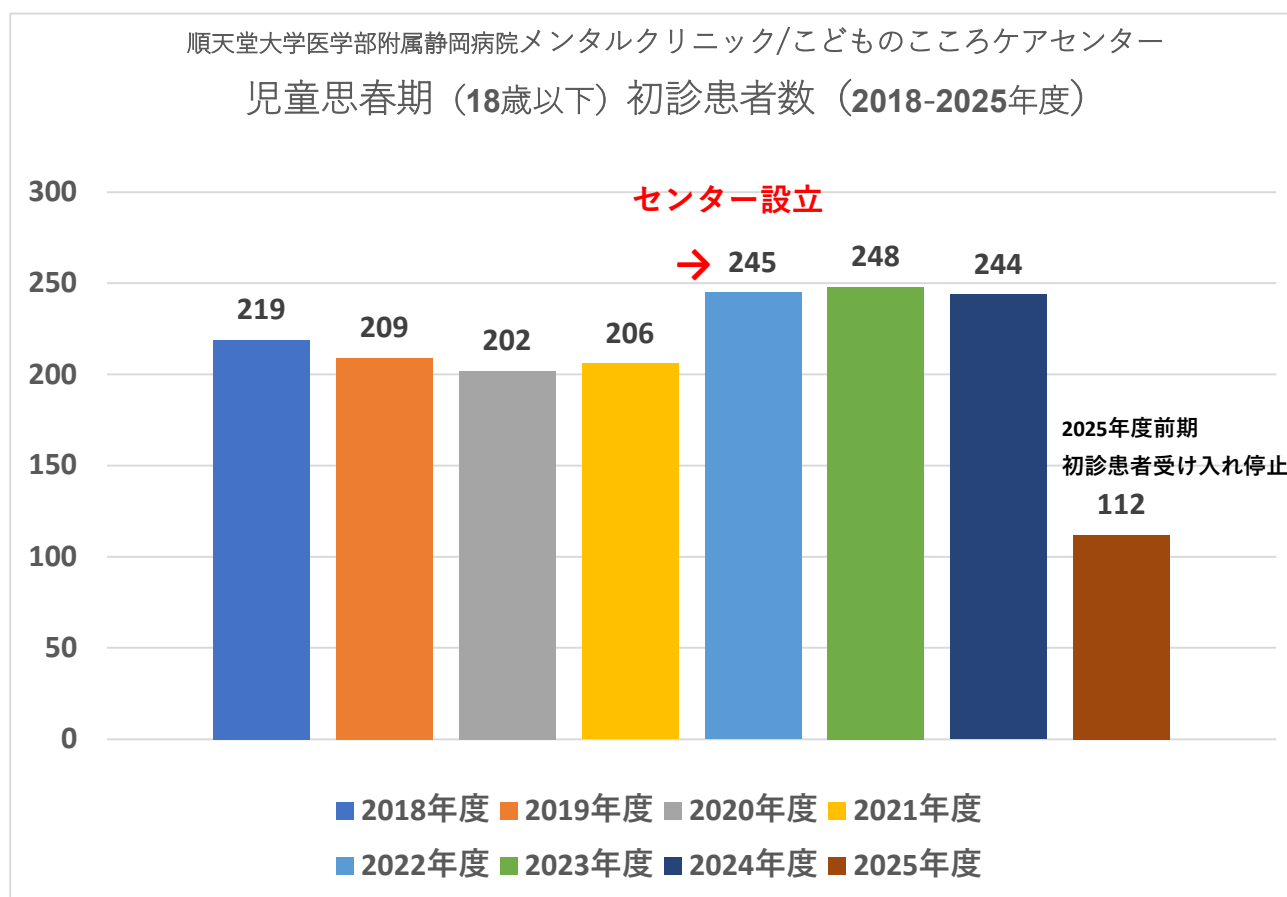
【5大がん地域連携クリティカルパス新規導入件数】



3-14 こどものこころのケアセンター

業務内容

発達障害・不登校など児童・思春期のメンタル面でのケアを求めるニーズはますます高まっています。当院メンタルクリニックでも児童思春期の患者が増加傾向にあります。静岡県東部地区では児童精神科を標榜している医療機関は少なく、どこを受診してよいかわからない保護者や教育関係者が多かったようです。当センターでは「こどもの支援」・「親への支援」・「学校地域支援」を3つの軸としています。従来行っていた遊戯療法・ペアレントトレーニング・学習障害支援プログラムなどの治療プログラムに加えて、デイケア・ソーシャルスキルトレーニング（SST）・ストレスマネジメント・親のための心理教室・コーディネーショントレーニングを用いた運動教室・個別の心理面接・保護者や教育関係者への心理支援などのプログラムを開設しています。



センター開設後4年経ちましたが、グラフに示すように2022年当センター設立以降、児童思春期の初診患者数は増加しています。（2025年度前期は諸事情により初診患者受け入れを停止していましたが、後半から再開しています。）さらに新たな治療プログラムとして、選択性緘黙のためのクラス、コーディネーショントレーニングを用いた運動教室、個別の心理療法などが加わりました。選択性緘黙とは家族以外とうまく会話ができない子どもたちですが、治療プログラムでは、うまく話せなくても自信を無くさないで必要な意思表示ができるように一緒に考えていきます。運動教室ではコーディネーショントレーニングを主に指導します。コーディネーショントレーニングは、行動を調整する能力を高めるト

レーニングで、児童思春期では身体と脳神経系統のバランスのよい発育を促し、成人期では運動を円滑に正確に行なう能力を向上させ技術の習得を促します。協調運動の改善と自分で体をコントロールする達成感を得ることが精神症状の改善につながることで、発達障害などの精神疾患への効果が報告されています。個別の心理療法では、ご本人への心理療法だけでなく、保護者や教育者への心理支援として接し方の工夫などをアドバイスしています。

業務実績

当センター開設後新たなプログラムも加わり、児童思春期の初診患者数は増加しています。ホームページやパンフレットなどの広報活動により、教育・行政機関からの問い合わせが連日あります。またセンター長は地域自治体のいじめ問題対策専門委員会委員を務めており、行政機関・教育機関・各市町の発達障害支援センターと連携しています。センター設立によりこれらの連携がさらにスムーズになっています。

3-15 肝疾患相談支援センター

静岡県肝疾患診療連携拠点病院とは

厚生労働省健康局長通達では、各都道府県知事に対して、肝疾患に関する医療連携体制の構築と各都道府県に対する情報提供や相談支援の充実を図ることを目的とし、拠点病院を選定することとされています。

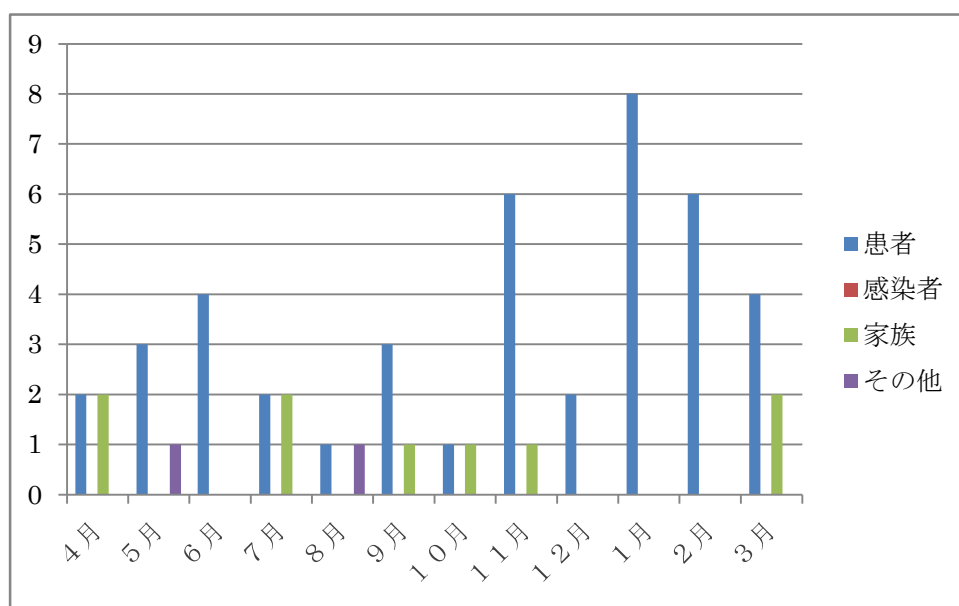
そこで、静岡県では令和3年5月現在28の医療機関を拠点病院に選定しています。そのうち2施設を静岡県肝疾患診療連携拠点病院に、26施設を静岡県地域肝疾患診療連携拠点病院としています。

なお、静岡県全体の肝疾患診療における医療ネットワークの中心となるべく、静岡県肝疾患診療連携拠点病院に順天堂大学医学部附属静岡病院と浜松医科大学医学部附属病院の2病院が指定されています。

相談件数

令和7年度 肝疾患相談支援センターへの相談件数

相談方法	相談件数（件）				
	患者	感染者	家族	その他 (保健所等)	計
電話	14	0	3	1	18
面談	26	0	5	1	32
その他 (Mail と FAX)	2	0	1	0	3
計	42	0	9	2	53



1. 医療従事者・地域住民等を対象とした研修会等

開催時期 (令和 7 年)	種別／事項	対象者	参加人数
6 月 18 日 (水) 【静岡市】	静岡県肝炎医療コーディネーター 登録更新研修会	県内肝炎医療 コーディネーター	22 名
11 月 7 日 (金) ～ 11 月 30 日 (日) 【e-ラーニング】	静岡県肝炎医療コーディネーター 養成研修会	医師・看護師・助産師 薬剤師・臨床検査技 師・栄養士・医療ソー シャルワーカー・事務 員・保健師・患者会等	119 名
11 月 24 日(月)～ 12 月 14 日(日) 【e-ラーニング】	静岡県肝炎医療コーディネーター 登録更新研修会	県内肝炎医療 コーディネーター	96 名

2. 医療従事者・地域住民等を対象とした講演会等

開催時期 (令和 7 年)	種別／事項	対象者	参加人数
7 月 1 日(火)～ 7 月 31 日(木) 【Web 配信】	ミニレクチャー	一般市民	再生回数 308 回
7 月 26 日 (土) 【三島市】	ミニ講演会 街頭キャンペーン ・ 肝炎体操 : 16 名 ・ 体組成測定 : 151 名 ・ 握力測定 : 144 名 ・ ベジメータ測定 : 186 名 ・ 栄養相談 : 40 名	一般県民	18 名
10 月 22 日 (水) 【Web 開催】	肝炎医療講演会	医療従事者	6 名
10 月 26 日 (日) 【静岡市】	出張肝臓病教室	B 型肝炎患者とその家 族、弁護士	35 名
12 月 20 日 (土) 【沼津市】	肝炎予防医療講演会	肝炎患者とその家族	14 名

3-16 予防医学センター

人間ドック集計(2025 年度)

(1)-1人間ドック男女別、月集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率(%)
日帰りコース	男	8	4	16	16	10	13	16	12	7	6	10	8	126	60.6%
	女	10	4	7	7	8	11	11	4	5	5	5	5	82	39.4%
	小計	18	8	23	23	18	24	27	16	12	11	15	13	208	
1泊2日コース	男	2	7	2	4	2	3	2	5	6	6	4	6	49	67.1%
	女	2	0	1	2	2	1	2	4	2	3	2	3	24	32.9%
	小計	4	7	3	6	4	4	4	9	8	9	6	9	73	
がんコース	男	1	1	0	0	0	1	1	1	2	1	1	1	10	66.7%
	女	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	5	33.3%
	小計	2	2	0	0	0	2	1	1	2	2	1	2	15	
PET-CTコース	男	0	1	0	1	1	1	1	0	1	0	1	2	9	75.0%
	女	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3	25.0%
	小計	0	1	1	1	2	1	1	0	1	0	2	2	12	
脳ドックコース	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(1)-2 人間ドック年齢別、男女別集計表

年齢 区分		20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上	合計	比率(%)
総合日帰りコース	男	0	1	13	30	31	41	10	126	40.51%
	女	0	2	5	28	19	27	1	82	26.37%
	小計	0	3	18	58	50	68	11	208	66.88%
	比率(%)	0.00%	0.96%	5.79%	18.65%	16.08%	21.86%	3.54%	66.88%	
総合1泊2日コース	男	0	0	8	9	17	13	3	50	16.08%
	女	0	1	4	5	7	6	1	24	7.72%
	小計	0	1	12	14	24	19	4	74	23.79%
	比率(%)	0.00%	0.32%	3.86%	4.50%	7.72%	6.11%	1.29%	23.79%	
がんコース	男	0	0	1	2	4	2	1	10	3.22%
	女	0	0	1	2	2	1	1	7	2.25%
	小計	0	0	2	4	6	3	2	17	5.47%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.64%	1.29%	1.93%	0.96%	0.64%	5.47%	
PET-CTコース	男	0	0	0	3	2	4	0	9	2.89%
	女	0	0	0	1	1	1	0	3	0.96%
	小計	0	0	0	4	3	5	0	12	3.86%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.00%	1.29%	0.96%	1.61%	0.00%	3.86%	
脳ドックコース	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
合計	男	0	1	22	44	54	60	14	195	63%
	女	0	3	10	36	29	35	3	116	37%
	小計	0	4	32	80	83	95	17	311	100.0%
	比率(%)	0.00%	1.29%	10.29%	25.72%	26.69%	30.55%	5.47%	100.0%	

(1)-3 年齢別総合判定区分集計

区分	～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～65	66～	合計
A: 異常はありません	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B: わずかな変化を認めますが 日常生活上心配ありません	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C: 経過観察を必要とします	0	1	0	0	0	0	0	0	1
D: 二次検査・精密検査を必要とします	0	2	5	7	13	7	2	13	49
E: 治療を必要とします	0	0	3	7	5	5	5	4	29
F: 治療・経過観察を継続してください	0	2	3	10	17	30	38	119	219
合 計	0	5	11	24	35	42	45	136	298

3-17 GCPセンター

業務内容

当センターでは、治験や製造販売後臨床試験に関しては、試験の倫理性・安全性・科学的妥当性を審査するために、順天堂大学医学部附属静岡病院治験審査委員会を運営しています。治験の依頼者である製薬企業や実施者である医師等の相談にも対応しています。また治験が安全かつ円滑に実施されるために、治験コーディネーターを配置し、医師や各部署と協力して治験を進め、被験者をサポートしています。さらに適切に治験を実施されている事を保証するために、製薬企業からの監査やモニタリングを受け入れています。

倫理指針下の臨床研究に関しては、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会の事務局をしています。臨床研究を予定している研究者からの相談や申請の窓口も担当しています。

特定臨床研究に関する報告、患者への侵襲的処置の新規導入および未承認薬・禁忌薬・医薬品の適応外使用に関しては、順天堂大学医学部附属静岡病院倫理審査委員会を運営しています。

その他、症例報告、製薬会社からの医薬品等の製造販売後調査の申請の窓口も担当しています。

業務実績

治験審査委員会

治験や製造販売後臨床試験を行う場合には、治験に参加される方々の安全と人権を守るために、国が定めた「医薬品の臨床試験の実施の基準（GCP といいます。）」を遵守しなければなりません。このGCPに従って、科学的および倫理的な観点から、治験の実施や継続について調査・審議するため、順天堂大学医学部附属静岡病院治験審査委員会を設置しています。本治験審査委員会により治験実施計画書の内容が審議され、病院長より許可された治験のみが実施されます。毎月1回(8月休会)開催しています。

審議内容・審議件数

	安全性 報告	内容変更	継続審査	重篤な 有害事象	逸脱 (除 緊急の 危険回避)	その他の 審議事項	報告事項
治験	82 件	36 件	6 件	4 件	2 件	19 件	23 件
製造販売後 臨床試験	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
合計	82 件	36 件	6 件	4 件	2 件	19 件	23 件

新規件数・予定症例数

	新規件数	予定症例数
治験	4 件	20 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例
合計	4 件	20 症例

終了件数及び終了治験の実施症例数・同意取得数

	終了件数	実施症例数	同意取得数
治験	0 件	0 症例	0 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例	0 症例
合計	0 件	0 症例	0 症例

監査・モニタリング受け入れ回数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
治験	2 回	1 回	0 回	2 回	3 回	0 回	1 回	1 回	7 回	5 回	2 回	2 回	26 回
製造販売後臨床試験	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回
合計	2 回	1 回	0 回	2 回	3 回	0 回	1 回	1 回	7 回	5 回	2 回	2 回	26 回

医学系研究等倫理委員会

順天堂大学医学部の 6 附属病院により構成される順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会では、患者さんが参加する臨床研究について、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、研究の計画および実施が適切かどうかを中立かつ公正な立場から審議しています。病院長の許可を受けた臨床研究のみが実施されます。毎月 1 回(8 月休会)開催しています。

順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会での審議内容・審議件数

新規	変更申請	実施状況	その他	重篤な有害事象	不適合報告	終了報告
45 件	102 件	39 件	2 件	3 件	3 件	70 件

他機関で一括審査を受け、当院が分担機関ある臨床研究について

COI について	実施許可	変更報告	実施状況報告	重篤な有害事象報告	終了報告
8 件	10 件	20 件	3 件	1 件	3 件

試料・情報を他の研究機関へ提供するのみの試験について

実施許可	変更申請	終了報告
3 件	2 件	1 件

倫理審査委員会

治験や倫理指針下の臨床研究を除く特定臨床研究に関する利益相反や研究についての報告、患者への侵襲的処置の新規導入、未承認薬・禁忌薬・医薬品の適応外使用申請について審議され、病院長より許可された申請のみが実施されます。毎月 1 回(8 月休会)開催しています。

特定臨床研究の審議内容・報告件数

COI について	実施許可	変更報告	定期報告	軽微変更	公開報告	疾病等報告	その他の報告	終了報告
33 件	8 件	71 件	14 件	27 件	30 件	13 件	5 件	3 件

患者への侵襲的処置の新規導入申請における審議内容・審議件数

実施許可	終了報告
9 件	5 件

未承認薬・禁忌薬・医薬品の適応外使用申請における審議内容・審議件数

実施許可	終了報告
8 件	4 件

症例報告

他の医療従事者への情報共有を図るため、所属する機関内の症例検討会、機関外の医療従事者同士の勉強会や関係学会、医療従事者向け専門誌等で個別の症例を報告しています。

症例報告件数

件数
50 件

製造販売後調査

医薬品が治験を経て承認・販売された後も、販売前の治験や臨床研究では十分に把握できなかった有効性や安全性について引き続き調査しています。

製造販売後調査件数

新規契約 13 件	使用成績調査・特定使用成績調査	9 件
	副作用詳細調査	4 件

3-18 臨床研修センター

■研修内容

＜レクチャー＞

「イブニングレクチャー」として 23 回、各科長クラスによるレポート提出症例に沿った内容を講義いただく「研修医レクチャー」を 19 回実施した。

又、インタラクティブなレクチャーとして、レジデントアワーを実施しており、内容については学会発表を行った研修医数名が、発表した症例を他の研修医に向けレクチャーし、研修医同士でディスカッションを行う。更に学会発表の指導を行った各科医師にご協力いただき、補足等の意見を述べていただくというもので、活発な意見交換がなされた。

【イブニングレクチャー】

	日	担当科	担当者		講義名
4月	10	呼吸器内科	岩神 直子	助教	胸部レントゲンについて
5月	1	感染対策室	鈴木 美沙子	主任	血液培養採取について
	8	脳神経外科	黒田 清隆	助手	脳卒中の初期対応
6月	10	医療安全管理室	高橋 真紀子	師長	患者誤認防止について
	12	消化器内科	巖 理華	助手	救急外来で遭遇する消化器疾患
7月	3	放射線科	高橋 正洋	准教授	放射線関連のインシデントの内学びになることを教訓として
	10	脳神経内科	椎名 健太	助教	救急での神経学的アプローチ 意識障害を中心に
8月	7	膠原病・リウマチ内科	片桐 彰	准教授	膠原病疾患のコンサルトの仕方
	14	形成外科	大森 愛	助手	形成外科における創傷管理
9月	4	メンタルクリニック	前嶋 仁	先任准教授	せん妄・不眠の対応について
	11	血液内科	古川 芳樹	助手	FNについて
10月	2	糖尿病・内分泌内科	岩本 達也	助教	糖尿病とは
	9	臨床検査科	田内 一民	特任教授	検査値の読み方・考え方
11月	13	消化器内科	池田 裕至	大学院生	腹部エコー手技
			巖 理華	助手	
			寺井 雄一郎	大学院生	
12月	4	救急診療科	柳川 洋一	教授	エコー（FAST）
			田中 規子	大学院生	
	11	循環器内科	谷津 翔一朗	助教	心エコー実技
1月			島袋 あずさ	専攻生	
	8	麻酔科	米川 耕太郎	助手	各種麻酔科で用いる薬剤について
	15	皮膚・アレルギー科	長谷川 敏男	教授	外用薬について
2月	5	新生児科	田中 智秀	大学院生	新生児心エコー（座学）
	12	腎臓内科	廣瀬 樹	助手	研修医向け腎臓内科Tips
3月	5	呼吸器外科（予定）	曾和 嵩	大学院生	胸部Xpの見方のコツ 胸腔ドレーン手技について
	12	産婦人科（予定）	田嶋 俊彬	助手	救急外来で診る女性の急性腹症について

【研修医レクチャー】

	日	担当科	医師		講義名
4月	21	産婦人科	田中 里美	准教授	産婦人科のママ知識
5月	19	整形外科	石井 悠也	助手	腰・背部痛
	26	小児科	馬場 洋介	准教授	成長・発達障害
6月	16	エチコン（縫合トレーニング）			
	23	呼吸器外科	渡邊 敬夫	助教	肺癌
7月	14	腎臓内科	清水 芳男	教授	浮腫
8月	18	血液内科	三澤 恭平	准教授	終末期の徴候について
	25	泌尿器科	永島 優生	助手	排尿障害
9月	22	消化器内科	山口 征大	助手	嘔気・嘔吐・吐血
10月	20	呼吸器内科	岩神 直子	助教	咳・痰
	27	心臓血管外科	奥 龍一郎	助手	胸痛
11月	17	外科	仁平 高翔	助手	下血・血便
12月	15	膠原病・リウマチ内科	西岡 雄仁	助教	発熱
	22	眼科	市川 浩平	助手	視力障害
1月	19	血液内科	岩尾 憲明	先任准教授	リンパ節腫脹
	26	脳神経内科	井関 賛	助手	けいれん発作
2月	16	耳鼻咽喉科	服部 宗孝	助手	めまい
3月	18	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	興奮・せん妄・抑うつ
	23	救急診療科	大森 一彦	准教授	ショック

【レジデントアワー】

月	日	学会発表者	指導医	発表科	内容
9	20	沢 彩南 二宮 遼太郎	高野 弥奈 馬場 洋介	血液内科 小児科	WM/LPLの治療中に発生したBing-Neel症候群の一例 髄液細胞数増多を伴わない細菌性髄膜炎における髄液糖低下の診断的意義
12	20	阿部 寛	櫻庭 駿介	外科	腸管子宮内膜症により回腸重積をきたした一例
3	21	岡田 奈津美	大森 一彦	救急診療科	当院で経験した2例のダニ感染症

＜CPC・CRCデスカンファレンス（臨床病理・臨床放射線合同カンファレンス）＞

年3回開催した。

No.	開催日	担当科	医師		備考
第1回	10月30日	病理診断科 放射線科	和田 了 高橋 正洋	教授 助教	①バレット食道腺癌、②アルコール性肝硬変、透析腎・糖尿病性腎症、心筋炎、肺出血
第2回	12月18日	病理診断科 放射線科	和田 了 萩原 慧	教授 大学院生	①C型慢性肝炎～肝硬変、結核（肺＞肝・脾）②両側性の出血壊死性肺炎（真菌）、C型慢性肝炎、溶血性貧血compatible
第3回	2月19日	病理診断科 放射線科	和田 了 池之内 穰	教授 准教授	①膀胱癌、多発性嚢胞腎、肺出血 ②急性前骨髄性白血病治療後状態、びまん性肺胞障害、多臓器出血

＜日本救急医学会認定 ICLS コース＞

8月12日、21日、27日、9月10日の4日間に分散し、臨床研修医1年目全員参加にて実際に即したシミュレーション実習を行った。

＜臨床研修医のための学術集会＞

7月4日（金）順天堂大学4基幹病院全研修医による学術集会がWEBにより開催され、静岡病院としてR1高木 聖士 先生による「外傷性骨盤骨折を合併した大動脈解離の1例」の発表と救急診療科加藤 万佐士 先生による「ショックとどう向き合うか」のミニレクチャーを行った。

＜研修医・指導医のための研修会＞

9月6日（土）東京ドームホテルにて順天堂大学4基幹病院合同の研修があり、研修医1年目32名、2部構成にて下記講演会後に懇親会で指導医及び演者と交流を行った。

①「ふつうを極める ER の極意」

（地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院 救急救命科医長/臨床研修センター副センター長 坂本 壮 先生）

②「臨床研究の視点から見た医師のキャリア・デザイン考」

（福島県立医科大学 低侵襲腫瘍制御学講座 教授 本多 通孝 先生）

＜臨床研修修了証書授与式＞

令和8年3月19日（木）順天堂大学4基幹病院合同で一部WEBにて行い、修了証書授与式は各附属病院での挙行となった。静岡病院では大会議室にて研修医30名が授与された。

■研修管理委員会

令和8年3月2日（月）研修管理委員会をWEBにより開催し、令和7年度の研修報告が行われた。

■臨床研修病院合同説明会への参加

令和7年度はイベント開催に10回参加、WEB説明会は5回参加した。説明会では、医学生が当院研修医と、気軽に臨床研修について質問、相談できる雰囲気を作り、医学生に参加していただいた。

		イベント内容	場所	参加者
2025年	4月	レジナビオンライン	ZOOM開催	65
		マイナビレジデント大阪	グランキューブ大阪	43
	5月	マイナビレジデント東京	新宿NSビルB1イベントホール	62
		レジナビフェア福岡	マリンメッセ福岡B館	42
	6月	レジナビフェア2025東京夏	東京ビックサイト南1～4ホール	91
	7月	レジナビフェア大阪	インデックス大阪1・2号館	20
		レジナビオンライン	ZOOM開催	59
		静岡県医師臨床研修病院合同説明会夏	静岡グランシップ	17
	8月	レジナビオンライン専門研修（外科）	ZOOM開催	27
		レジナビオンライン専門研修（内科）	ZOOM開催	19
		レジナビオンライン専門研修（救急）	ZOOM開催	26
2026年	1月	マイナビレジデント札幌	札幌パークホテル パークプラザ	50
	2月	マイナビレジデント東京	東京都立産業貿易センター浜松町館	85
	3月	静岡県医師臨床研修病院合同説明会春	静岡グランシップ	38
		レジナビフェア2026東京春	有明GYM-EX	92

■令和7年度 初期臨床研修医採用について

静岡県東部地域で地域医療の最前線で日々奮闘している順天堂大静岡病院で多くの研修医が研修することには大きな意義がある。しかし、現在の傾向として都会の順天堂の関連病院や母校以外のより優秀な研修医が集まる有名病院で研修する人達が増加してきている。

そうした現状の中で、静岡病院での研修を積極的に希望する研修医がしだいに増加しつつある。

静岡病院の特徴は、静岡県東部地区の基幹病院として、救急車やドクターヘリにより連日多くの患者が運ばれ、救急外来、病棟で多くの患者さんの治療を経験することができ、またその際に実践的に実技を習得することができる。科間の垣根が低く、迅速に全身の治療ができることにある。さらに指導医は専任のチューターを中心に、教育に力をいれており、レクチャー、症例発表会なども定期的に行った。その上、静岡病院では、研修医のための宿舎が整備され、部屋は広く、備品も整い、病院に近く、希望者全員が生活しているため、研修医同士の絆が形成し易く、相互に研鑽して有意義な研修生活を送っている。

<採用結果>

(マッチング結果)

定員	本学	他学	男子	女子	合計	マッチング率
37名	19	18	22	15	37	100%

令和7年度医師臨床研修医は、マッチング結果では37名の100%であったが、採用では基本プログラム31名、産婦人科・新生児・小児科プログラム4名、計35名となった。(令和8年度採用)

3-19 看護師特定行為研修センター

■業務内容

2020 年 4 月に当院は厚生労働省の認可を受けて看護師特定行為研修センターを開設し、特定看護師の育成を開始しました。当初からの 5 区分 11 行為（呼吸器（気道確保に係るもの）関連、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、創傷管理関連、動脈血液ガス分析関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）に加えて、2021 年度より血糖コントロールに係る薬剤投与関連、2022 年度より術中麻酔管理領域、集中治療領域、救急領域、2023 年度より精神及び神経症状に係る薬剤投与関連、2024 年度より感染に係る薬剤投与関連、ろう孔管理関連、栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連が追加されました。

2025 年度は呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連が加わり、12 区分 28 行為（3 パッケージ）を開講しています。

当院以外の医療機関からも受講生を受け入れており、当研修センターの教育を静岡県東部地域の看護師のレベルアップとキャリアアップにつなげていきたいと考えています。

■業務実績（2025 年度）

受講生数：17 名（院内 15 名（特定看護師追加受講者 4 名含む）、院外 2 名）

修了生：17 名（院内 15 名（特定看護師追加受講者 4 名含む）、院外 2 名）

＜看護師特定行為研修管理委員会＞

開催日：2025 年 5 月 21 日、9 月 26 日、2026 年 3 月 11 日、3 月 30 日（臨時）

特定行為研修計画の作成、特定行為区分の相互間の調整、受講者の履修状況の管理、修了の際の評価等、特定行為研修の実施の統括管理が行われた

■開講区分

特定行為区分	特定行為	定員	受講者数
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	5 人	—
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更	5 人	1 人
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更		
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		
	人工呼吸器からの離脱		
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	気管カニューレの交換	3 人	2 人
ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	2 人	2 人
	膀胱ろうカテーテルの交換		
栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	4 人	2 人

創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	3 人	3 人
	創傷に対する陰圧閉鎖療法		
創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去	5 人	2 人
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血	5 人	4 人
	橈骨動脈ラインの確保		
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	8 人	8 人
	脱水症状に対する輸液による補正		
感染に係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与	3 人	1 人
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整	5 人	5 人
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時的投与	3 人	1 人
	抗精神薬の臨時的投与		
	抗不安薬の臨時的投与		
術中麻酔管理領域パッケージ		3 人	1 人
救急領域パッケージ		3 人	5 人
集中治療領域パッケージ		2 人	3 人

■研修スケジュール

共通科目：2025 年 4 月～9 月

区分別科目：2025 年 10 月～2026 年 3 月

開講式：2025 年 4 月 16 日（水） 14：30 ～

症例発表会：2026 年 3 月 18 日（水） 13：00 ～

修了式：2026 年 3 月 19 日（木） 10：00 ～

■研修内容

< 共通科目 >

研修日		時限	科目	シラバス 回	授業 種別	学習内容	学習内容(細)	2025 担当 指導者
4月14日 (月)	①	1時限	臨床病態生理学	第28回	演習	4.臨床病態生理学 演習	臨床病態生理学の演習	清水
	②	2時限	臨床病態生理学	第29回	演習	4.臨床病態生理学 演習	炎症	清水
	③	3時限	臨床薬理学	第5回	演習	1.薬物動態の理論と演習	薬物動態の演習	勝又
	④	4時限	臨床薬理学	第10回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	精神神経系 演習	芹澤
	⑤	5時限	看護師特定行為研修について					
5月8日 (木)	①	1時限	臨床推論	第17回	演習	2.臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(1)	岩神 _医
	②	2時限	臨床推論	第18回	演習	2.臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(2)	岩神 _医
	③	3時限	臨床推論	第19回	演習	2.臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(3)	岩神 _医
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第11回	演習	1.特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全 (4)法的側面とケアの質保証に関する判例を分析する	④ケアの質保証 (4)法的側面とケアの質保証に関する判例を分析する	橋田
5月23日 (金)	①	1時限	臨床推論	第22回	演習	3.医療面接の理論と演習・実習	ロールプレイをもとにした討議(1)	中尾
	②	2時限	臨床推論	第23回	演習	3.医療面接の理論と演習・実習	ロールプレイをもとにした討議(2)	中尾
	③	3時限	臨床推論	第24回	実習	3.医療面接の理論と演習・実習	医療面接の実習	中尾
	④	4時限	臨床薬理学	第15回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	心・血管系 演習	水口
	⑤	5時限	臨床薬理学	第20回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	呼吸器系 演習	山口
	⑥	6時限	臨床薬理学	第25回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	消化器系 演習	杉本

研修日		時限	科目	シラバス 回	授業 種別	学習内容	学習内容(細)	2025 担当 指導者
6月3日 (火)	①	1時限	疾病・臨床病態概論	第28回	演習	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	主要疾患の病態と臨床診断・治療の演習(1)	山崎
	②	2時限	疾病・臨床病態概論	第39回	演習	2.在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	在宅医療の臨床診断・治療の演習	山崎
	③	3時限	臨床推論	第33回	演習	4.各種臨床検査の理論と演習	各種臨床検査の演習	山崎
	④	4時限	臨床薬理学	第29回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	内分泌・代謝系 演習	木下
	⑤	5時限	臨床薬理学	第34回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	骨・関節系／腎・泌尿器系 演習	小林 ^{清司}
6月18日 (水)	①	1時限	臨床薬理学	第39回	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	抗がん薬・抗菌薬 演習	杉本 機
	②	2時限	フィジカルアセスメント	第40回	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	全身状態・緊急度の評価	中村
	③	3時限	フィジカルアセスメント	第41回	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	問診	中村
	④	4時限	フィジカルアセスメント	第42回	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	フィジカルアセスメント	中村
	⑤	5時限	疾病・臨床病態概論	第29回	演習	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	主要疾患の病態と臨床診断・治療の演習(2)	中尾
	⑥	6時限	疾病・臨床病態概論	第34回	演習	1.救急医療の臨床診断・治療の特性と演習	救急医療の臨床診断・治療の演習	中尾
6月27日 (金)	②	2時限	医療安全学／特定行為実践	第12回	実習	1.特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ	⑤医療安全の実習 ・特定行為実践に関連する医療安全の実習	荻島
	③	3時限	臨床薬理学	第44回	演習	4.主要薬物の安全管理と処方の理論と演習	主要薬物の安全管理と処方の演習	星野 ^{剛史}
	④	4時限	臨床推論	第39回	演習	5.画像検査の理論と演習	画像検査の演習	大坂
	⑤	5時限	臨床推論	第44回	演習	6.臨床疫学の理論と演習	臨床疫学の演習	大坂
	⑥	6時限	臨床推論		実習	超音波装置の取扱手技など		大坂
7月11日 (金)	①	1時限	医療安全学／特定行為実践	第15回	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	②チーム医療の事例検討 ・チームとしての最大を発揮する 演習	多田
	②	2時限	医療安全学／特定行為実践	第18回	実習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の実習(1)	多田
	③	3時限	医療安全学／特定行為実践	第19回	実習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の実習(2)	多田
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第20回	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の演習【実習の振り返り】(1)	多田
	⑤	5時限	医療安全学／特定行為実践	第21回	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の演習【実習の振り返り】(2)	多田
	⑥	6時限	フィジカルアセスメント	第43回	実習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	適切な問診、意識の評価	中村
	⑦	7時限	フィジカルアセスメント	第44回	実習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	腹部、胸部のアセスメント	中村
7月18日 (金)	①	1時限	医療安全学／特定行為実践	第24回	演習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 ・演習	杉山 ^希
	②	2時限	医療安全学／特定行為実践	第25回	実習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 ・実習	杉山 ^希
	③	3時限	医療安全学／特定行為実践	第26回	演習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 ・演習【実習の振り返り】	杉山 ^希
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第28回	演習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書の評価し、見直すプロセスについて学ぶ	②手順書の作成演習 ペーパーシミュレーションによる演習	山崎
	⑤	5時限	医療安全学／特定行為実践	第30回	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書の評価し、見直すプロセスについて学ぶ	④手順書の作成・評価・改良 ・実習(1) 作成	山崎
	⑥	6時限	医療安全学／特定行為実践	第31回	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書の評価し、見直すプロセスについて学ぶ	④手順書の作成・評価・改良 ・実習(2) 評価	山崎
	⑦	7時限	医療安全学／特定行為実践	第32回	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書の評価し、見直すプロセスについて学ぶ	④手順書の作成・評価・改良 ・実習(3) 改良	山崎
7月25日 (金)	①	1時限	医療安全学／特定行為実践	第36回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	②特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ ・特定行為実践課程の演習(1)	多田
	②	2時限	医療安全学／特定行為実践	第37回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	②特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ ・特定行為実践課程の演習(2)	多田
	③	3時限	医療安全学／特定行為実践	第39回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	③特定行為実践のアウトカム ・演習(1)	多田
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第40回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	(3) 特定行為実践のアウトカム ・演習(2)	多田
9月3日 (木)	①	1時限	医療安全学／特定行為実践	第41回	実習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践 ・実習(1)	間部
	②	2時限	医療安全学／特定行為実践	第42回	実習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践 ・実習(2)	間部
	③	3時限	医療安全学／特定行為実践	第43回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践 ・実習の振り返り(1)	間部
	④	4時限	医療安全学／特定行為実践	第44回	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践 ・実習の振り返り(2)	間部
9月8日 (月)	①	1時限	臨床病態生理学	第30回	筆記試験	1.科目修了試験		
	②	2時限	臨床推論	第45回	筆記試験	2.科目修了試験		
	③	3時限	フィジカルアセスメント	第45回	筆記試験	3.科目修了試験		
	④	4時限	臨床薬理学	第45回	筆記試験	4.科目修了試験		
	⑤	5時限	疾病・臨床病態概論	第30回第40回	筆記試験	5.科目修了試験		
	⑥	6時限	医療安全学／特定行為実践	第45回	筆記試験	6.科目修了試験		

<区分別科目>

研修日		時限	科目	シラバス	授業種別	S-QUE 動画№	学習内容	学習内容(細)	2025 担当 指導者
10月1日 (水)	②	2時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	第11回	演習	<独自設定> 動画教材無	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 <術中麻酔パッケージVer>	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 (OSOE前演習)<術中麻酔パッケージVer>	中村
	③	3時限	動脈血液ガス分析関連	第59回	演習	<独自設定> 動画教材無	(A) 直接動脈穿刺法による採血 <術中麻酔パッケージVer>	直接動脈穿刺法による採血 (OSOE前演習) <術中麻酔パッケージVer>	
	④	4時限	循環動態に係る薬剤投与関連	第124回	演習	19-24	(D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	
	⑤	5時限	動脈血液ガス分析関連	第71回 第101回	演習	<独自設定> 動画教材無	(D) 接骨動脈ラインの確保 <術中麻酔パッケージVer>	接骨動脈ラインの確保 (OSOE前演習) <術中麻酔パッケージVer>	
10月2日 (木)	⑥	6時限	栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連 GYG	第84回	演習	<独自設定> 動画教材無	(A) 中心静脈カテーテルの抜去	中心静脈カテーテルの抜去の実施	大石
	⑤	5時限	循環器関連	第69回	演習	4-8	(A) 一時的ペースメーカーの操作及び管理	一時的ペースメーカーの操作及び管理方法(ペーパーシミュレーション)	設楽
10月3日 (金)	⑥	6時限	ろう孔管理関連	第32回 第35回	演習	<独自設定> 動画教材無	(B) 膀胱ろうカテーテルの交換	膀胱ろうカテーテルの交換 (OSOE前演習)	廣瀬
10月7日 (火)	①	1時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第41回 第23回	演習	16	(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	非侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(1)	岩神 _{あす}
	②	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第42回 第24回	演習	17	(B) 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	非侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(2)	
	④	4時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	第15回	演習	14	(A) インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(1) (ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
	⑤	5時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	第16回	演習	15	(A) インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(2) (ペーパーシミュレーションを含む)	
	⑥	6時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	第17回	演習	16	(A) インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(3) (ペーパーシミュレーションを含む)	
10月9日 (木)	④	4時限	循環動態に係る薬剤投与関連	第121回	演習	19-12	(A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	谷津
	⑤	5時限	循環動態に係る薬剤投与関連	第131回	演習	19-16	(B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	
	⑥	6時限	循環動態に係る薬剤投与関連	第141回	演習	19-20	(C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	
10月14日 (火)	②	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第29回	演習	2-10	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更 <術中麻酔パッケージVer>	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(1) <術中麻酔パッケージVer>	山崎
	③	3時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第30回	演習	2-11	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更 <術中麻酔パッケージVer>	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(2) <術中麻酔パッケージVer>	
	④	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第41回	演習	2-28	(D) 人工呼吸器からの離脱 <術中麻酔パッケージVer>	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベシエント)(1) <術中麻酔パッケージVer>	
	⑤	5時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第42回	演習	2-29	(D) 人工呼吸器からの離脱 <術中麻酔パッケージVer>	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベシエント)(2) <術中麻酔パッケージVer>	
	⑥	6時限	術後疼痛管理関連	第105回	演習	18-8	(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	ペーパーシミュレーション(硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整)	
10月15日 (水)	②	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第53回 第35回	演習	22	(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整(ペーパーベシエント)(1)	榎庭
	③	3時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第54回 第42回 第36回	演習	23	(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整(ペーパーベシエント)(2)	
	④	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第29回 第29回 第11回	演習	10	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(1)	大板
	⑤	5時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第30回 第30回 第12回	演習	11	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(2)	
	⑥	6時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	第12回 第11回	演習	<独自設定> 動画教材無	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 (OSOE前演習)	
10月16日 (木)	①	1時限	感染に係る薬剤投与関連	第29回	演習	28	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む): CDI	杉本
	②	2時限	感染に係る薬剤投与関連	第30回	演習	29	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む): MRSA	水口
	③	3時限	感染に係る薬剤投与関連	第27回	演習	26	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む): 肺炎	岩神 _{あす}
	④	4時限	感染に係る薬剤投与関連	第28回	演習	27	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む): 尿路感染症	若林
	⑤	5時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	第33回	演習	26	(B) 抗精神病薬の臨時的投与	病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	桐野
	⑥	6時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	第45回	演習	32	(C) 抗不安薬の臨時的投与	病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	

研修日		時限	科目	シラバス	授業種別	S-QUE 動画№	学習内容	学習内容(細)	2025 担当 指導者
10月17日 (金)	②	2時限	ろう孔管理関連	第18回	演習	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換(＜OSOE前演習＞)	上田
	③	3時限	創傷管理関連	第44回	演習	＜独自設定＞ 動画教材無	(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	創傷に対する陰圧閉鎖療法の実施	大森
	④	4時限	創傷管理関連	第28回	演習	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去(＜OSOE前演習＞)	大森
	⑤	5時限	動脈血液ガス分析関連	第11回	演習	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血 (＜OSOE前演習＞)	大坂
	⑥	6時限	動脈血液ガス分析関連	第23回	演習	＜独自設定＞ 動画教材無	(B) 桃骨動脈ラインの確保	桃骨動脈ラインの確保 (＜OSOE前演習＞)	
10月20日 (月)	②	2時限	呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	第10回	演習	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 気管カニューレの交換	気管カニューレの交換(＜OSOE前演習＞)	城所
	③	3時限	栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 PICC	第10回	演習	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入(＜OSOE前演習＞)	加藤
10月22日 (水)	①	1時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	第135回	演習	19	(A) 抗けいれん剤の臨時の投与	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)(1)	中尾
	②	2時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	第136回	演習	20	(A) 抗けいれん剤の臨時の投与	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)(2)	
	④	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第65回 第53回 第47回	演習	28	(D) 人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベシエント)(1)	大坂
	⑤	5時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	第66回 第54回 第48回	演習	29	(D) 人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベシエント)(2)	
10月30日 (木)	①	1時限	創部ドレーン管理関連	第7回	演習	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 創部ドレーンの抜去	創部ドレーンの抜去(実習前の演習)	伊藤
	②	2時限	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	第12回	演習	11A	(A) 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	＜選択式＞高カロリー輸液の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	
	③	3時限	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	第90回 第109回 第23回	演習	18A	(B) 脱水症状に対する輸液による補正	＜選択式＞脱水症状に対する輸液による補正の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	
10月24日 (金)	②	2時限	創傷管理関連	第29回	OSOE	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去(＜OSOE＞)	大森 中川(外部)
11月5日 (水)	④			第12回 第12回 第12回	OSOE	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整(＜OSOE＞)	中村 大坂 吉田(外部)
	⑤		呼吸器(気道確保に係るもの)関連						
11月5日 (水)	⑥	6時限	ろう孔管理関連	第19回	OSOE	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換(＜OSOE＞)	加藤 吉田(外部)
11月5日 (水)	⑦	7時限	ろう孔管理関連	第33回			(B) 膀胱ろうカテーテルの交換	膀胱ろうカテーテルの交換(＜OSOE＞)	永島 吉田(外部)
11月6日 (木)	②			第60回	OSOE	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 直接動脈穿刺法による採血 ＜術中麻酔パッケージVer＞	直接動脈穿刺法による採血 (＜OSOE＞) ＜術中麻酔パッケージVer＞	中村 神谷(外部)
	③		動脈血液ガス分析関連	第72回 第101回	OSOE	＜独自設定＞ 動画教材無	(B) 桃骨動脈ラインの確保 ＜術中麻酔パッケージVer＞	桃骨動脈ラインの確保 (＜OSOE＞) ＜術中麻酔パッケージVer＞	
11月6日 (木)	②			第84回 第12回	OSOE	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血 (＜OSOE＞)	大坂 神谷(外部)
	③		動脈血液ガス分析関連	第96回 第24回	OSOE	＜独自設定＞ 動画教材無	(B) 桃骨動脈ラインの確保	桃骨動脈ラインの確保 (＜OSOE＞)	
11月6日 (木)	④		栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 PICC	第11回	OSOE	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入(＜OSOE＞)	伊藤 神谷(外部)
11月6日 (木)	⑤		呼吸器(長期呼吸療法にかかもの)関連	第11回	OSOE	＜独自設定＞ 動画教材無	(A) 気管カニューレの交換	気管カニューレの交換(＜OSOE＞)	城所 神谷(外部)

実習期間：2025 年 11 月 17 日～2026 年 2 月 28 日

■広報活動

SNS、ホームページの更新

＜2026 年度看護師特定行為研修オンライン説明会（Web 開催）＞

診療看護師 多田、事務局

2026 年 2 月 12 日（木）17：00～18：30 （特定行為研修実習室）

■次年度受講生募集活動（2026 年度受講生）

願書受付期間：2025 年 10 月 14 日（火）～ 2025 年 11 月 6 日（木）

二次募集期間：2025 年 11 月 10 日（月）～ 2025 年 11 月 22 日（土）

筆記試験・面接：2025 年 12 月 4 日（木）

■その他の活動

＜症例発表会＞（ハイブリッド開催）

対象：2025 年度受講生

聴講：診療科医師、協力施設、特定看護師

2026 年 3 月 18 日（水） 13：00 ～ 16：30

＜指定研修機関相互の情報共有や支援等を目的とした説明会

「事前準備から運営に至る知恵の共有」＞（Web 開催）

聴講：診療看護師 多田、事務局

第 1 回 2025 年 9 月 8 日（月） 13：30 ～ 15：30

第 2 回 2026 年 2 月 6 日（金） 13：30 ～ 15：30

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関協議会

＜2025 年度特定行為研修シンポジウム

「特定行為研修修了者の力を“連携”で活かす～多様な現場から見る実践と成果～」＞（Web 開催）

聴講：診療看護師 多田、事務局

2025 年 12 月 16 日（金） 13：00 ～ 15：00

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関協議会

＜看護師の特定行為に係る指定研修機関連絡会総会 臨時総会＞（Web 開催）

聴講：診療看護師 多田、事務局

2026 年 2 月 27 日（金） 10：30 ～ 12：00

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関協議会

＜令和 7 年度補正予算事業「離島・へき地における看護師の特定行為推進モデル事業」説明会＞

聴講：看護部長、診療看護師 多田、事務局

2026 年 3 月 4 日（水） 10：00 ～ 11：00

主催：厚生労働省医政局看護課看護サービス推進室

3-20 地域医療連携室

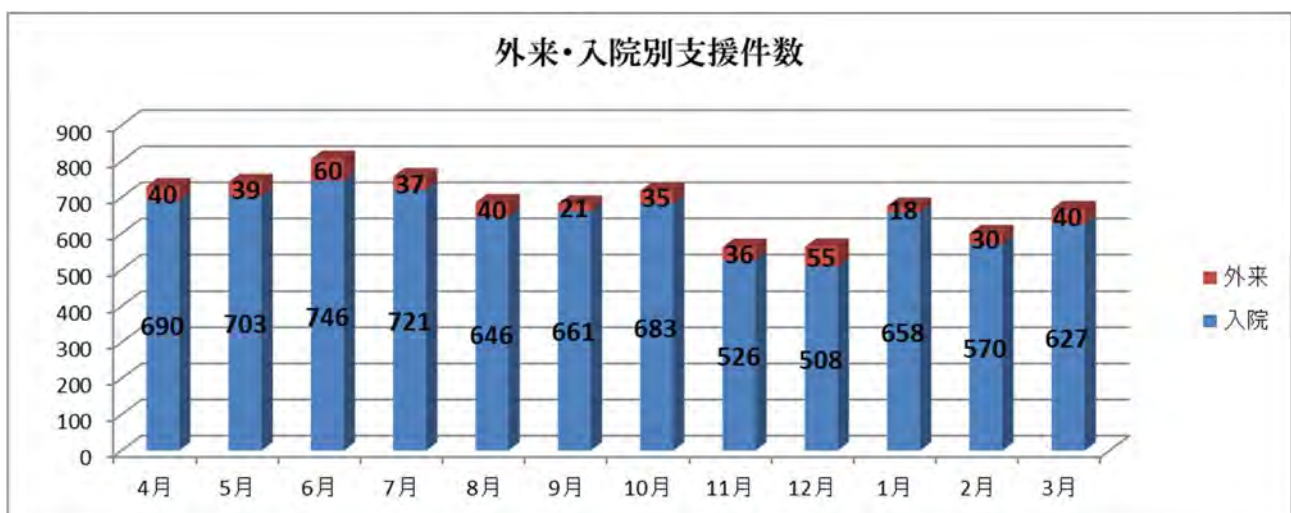
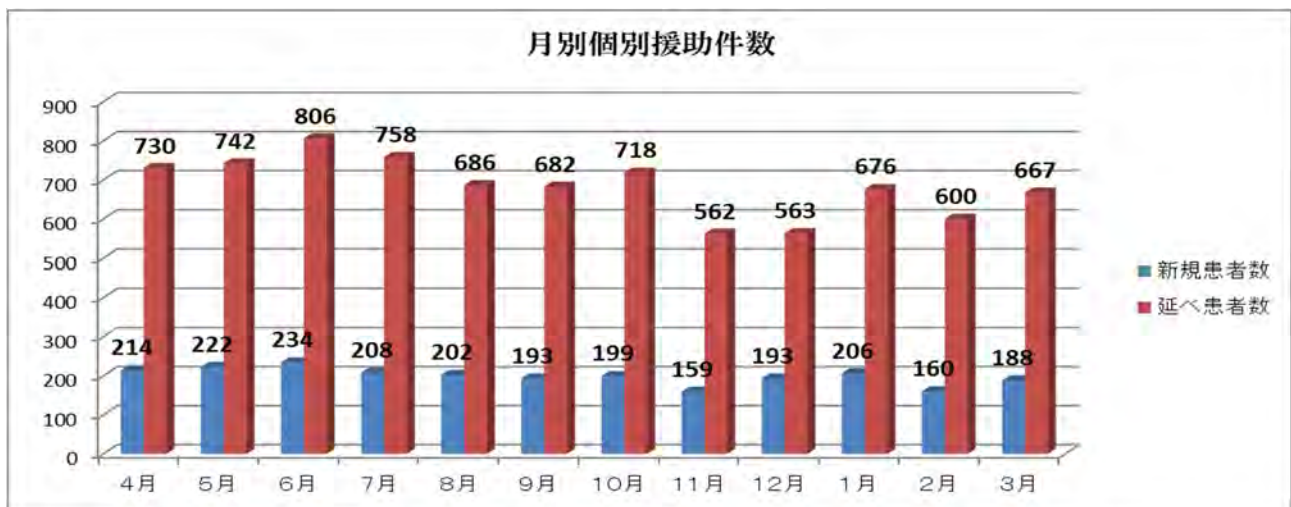
地域別紹介患者数

	2 次保健医療圏	市町村	2023 年度	2024 年度	2025 年度
静岡県	賀茂	下田市	888	1,059	1,056
		賀茂郡東伊豆町	267	287	257
		賀茂郡河津町	475	500	456
		賀茂郡南伊豆町	47	64	68
		賀茂郡松崎町	27	48	35
		賀茂郡西伊豆町	574	555	592
		小計	2,278	2,513	2,464
	熱海伊東	熱海市	582	701	649
		伊東市	2,232	2,406	2,548
		小計	2,814	3,107	3,197
	駿東田方	沼津市	2,785	2,892	2,865
		三島市	3,384	3,634	3,347
		御殿場市	1,155	1,323	1,343
		裾野市	801	799	724
		伊豆市	2,169	2,527	2,490
		伊豆の国市	3,116	3,350	3,452
		田方郡函南町	2,086	2,067	2,237
		駿東郡清水町	929	935	963
		駿東郡長泉町	855	915	896
		駿東郡小山町	59	54	56
		小計	17,339	18,496	18,373
		富士	富士宮市	125	111
	富士市		529	539	526
	小計		654	650	635
	その他		330	371	336
	県内合計		23,415	25,137	25,005
県外		892	922	919	
総計		24,307	26,059	25,924	

3-21 医療福祉相談室（社会福祉士）

社会福祉士（ソーシャルワーカー）9名にて、入院・外来患者家族・地域の各種機関からの相談や調整業務を行っている。入退院支援において退院支援看護師と社会福祉士が協働し病棟別に対応している。主な業務は、転院・退院支援（地域連携パス含む）・外来相談、各種福祉制度・社会保障制度の紹介、経済的な問題についての相談・助言、治療と仕事の両立支援である。心理的・社会的背景や傷病によって生じる生活上の課題を把握し、社会資源を活用しながら個別に支援を行っている。

2025 年度業務実績

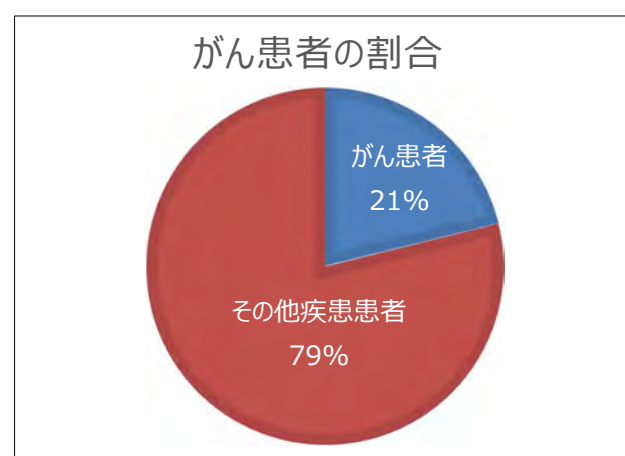
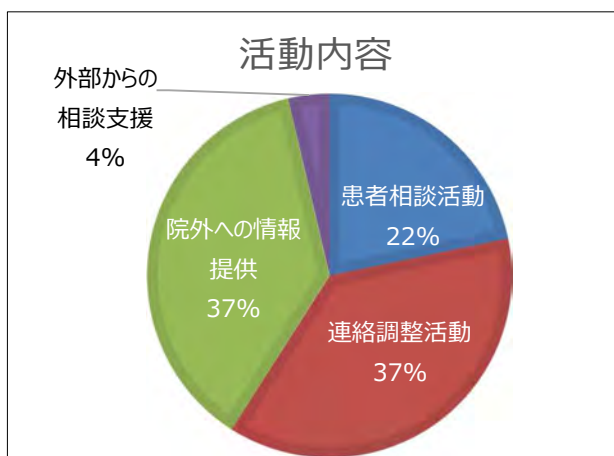
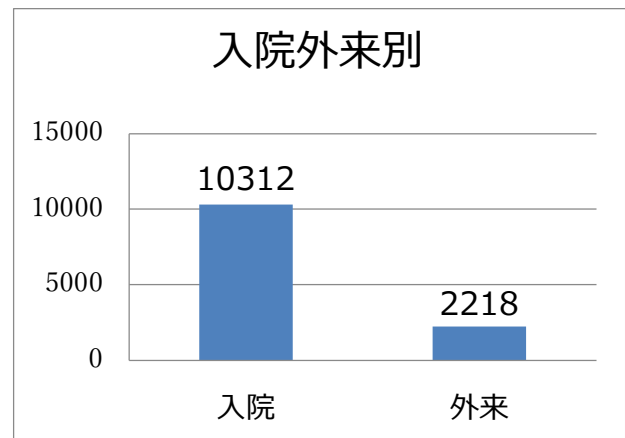
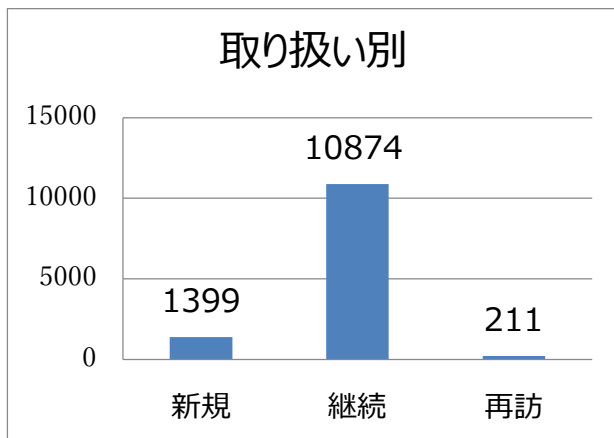


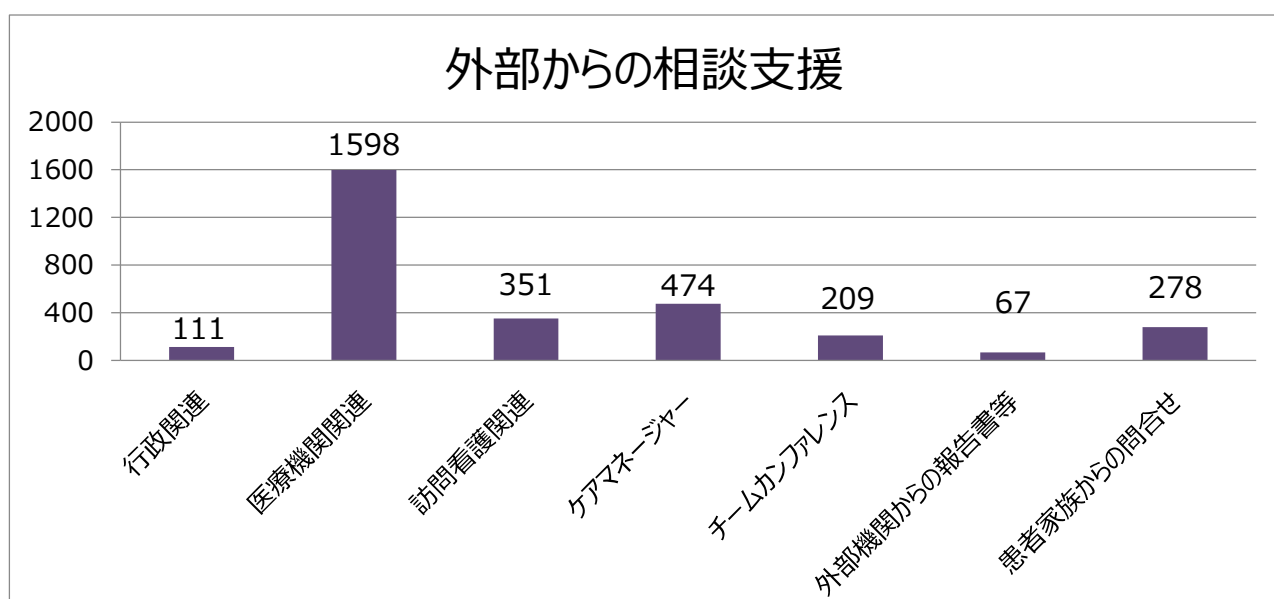
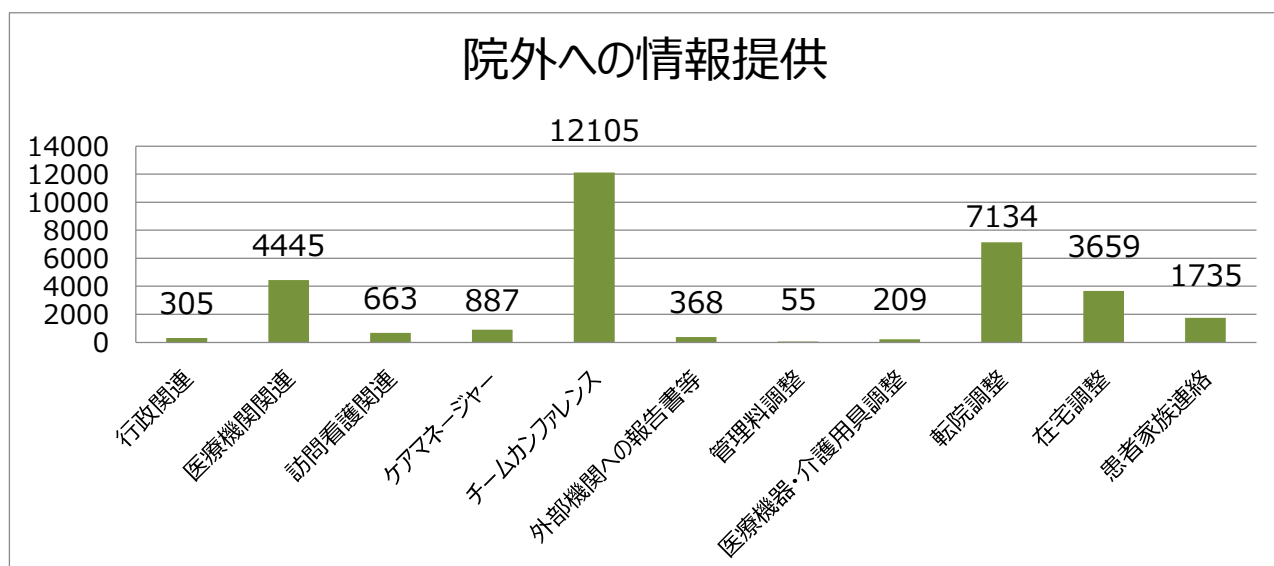
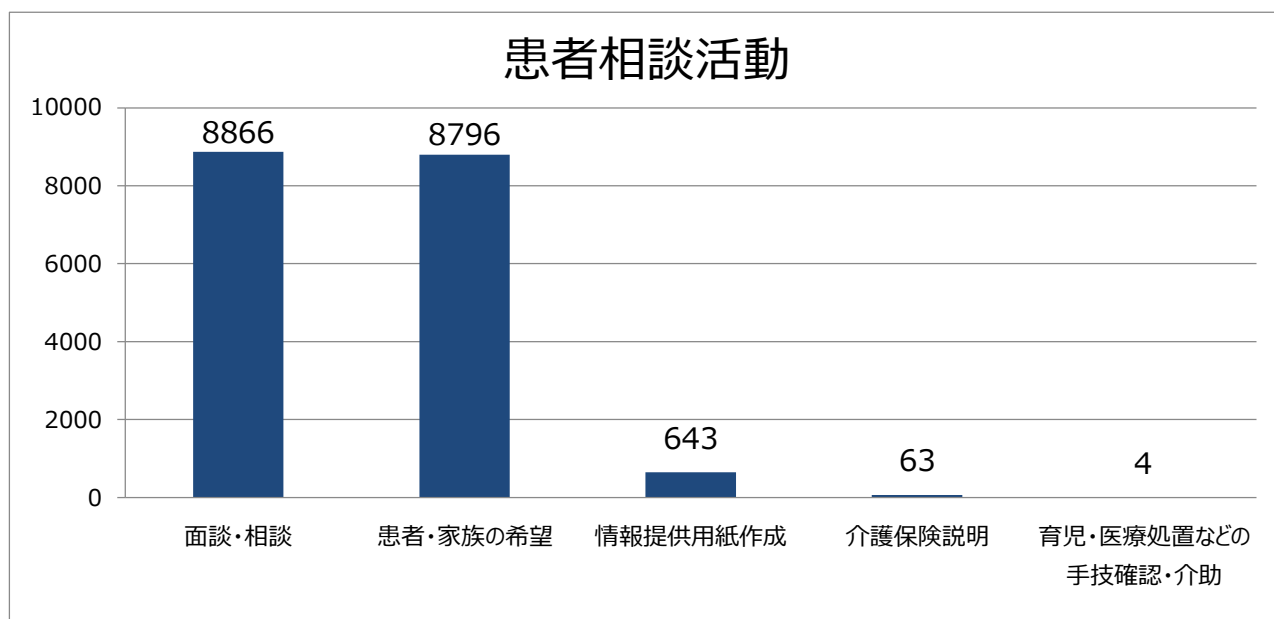
3-22 入退院支援室（入退院支援看護師）

2024年度からの課題であった「入院予定患者への入院前支援」の機能強化に向け、4月より入院前支援専任看護師が3名配置された。これにより、2018年の導入時より担ってきた入退院支援看護師の負担軽減が実現した。結果として2025年度は、入退院支援看護師7名（専従1名、専任6名）が、本来の役割である外来および入院患者の退院支援・調整に注力できる体制が確立された。

この体制強化に伴う具体的な成果として、まず挙げられるのが平均在院日数の短縮である。当院では、「11日未満」を目標に掲げていたものの、達成に至らない状況が続いていた。そこで2024年4月より、退院ステージⅢ超・2SD超、および30日以上長期入院患者を毎週抽出し、担当医・看護師長・入退院支援専任者を中心に、患者・家族の意向を確認しながら治療方針や退院の方向性、進捗状況を「見える化」する取り組みを開始した。この結果を各部署および各診療科へフィードバックしたことにより、2025年度の平均在院日数は10.8日へと短縮し、目標を達成することができた。今回の可視化と情報共有が成果に直結したものと考え、本年3月をもって取り組みを一旦中断し、今後の経過を注視した上で再開・運用のあり方を検討する予定である。

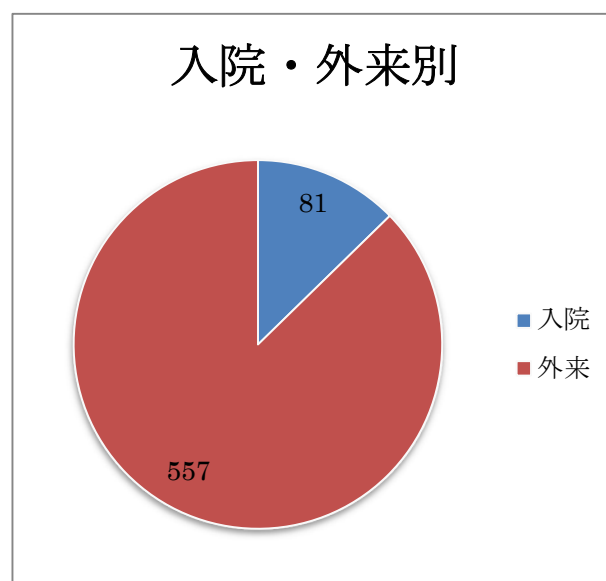
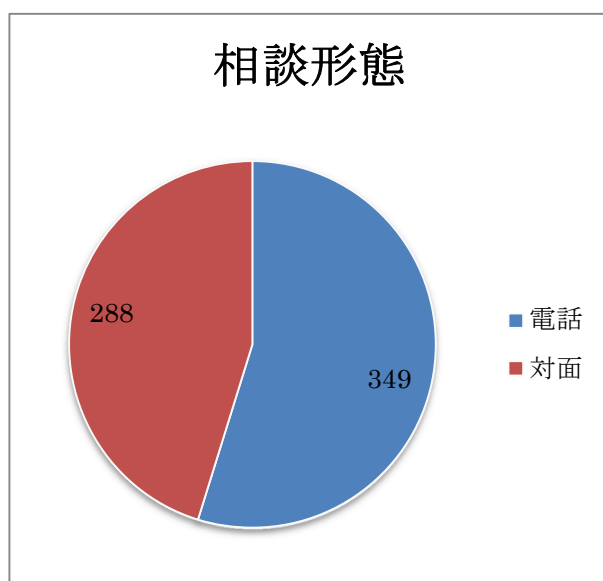
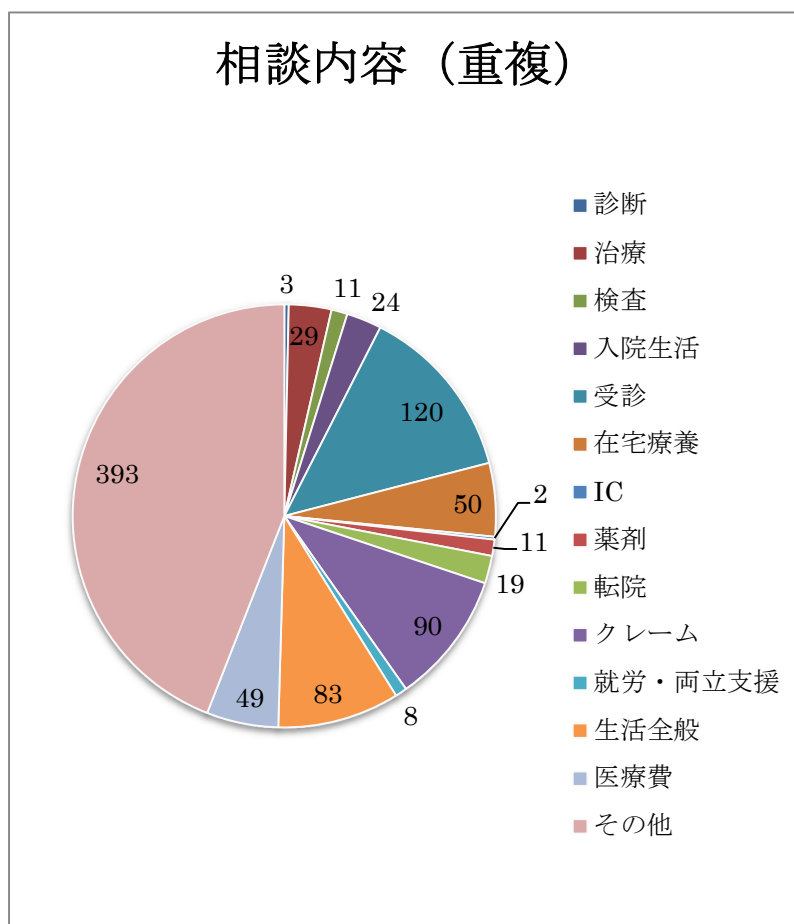
次に、入院時に介護認定を取得している患者を対象に、入院時および退院前カンファレンスを推進してきた。その結果、カンファレンス件数は2023年度1,074件、2024年度1,222件、2025年度1,319件と着実に増加している。一方で、厚生労働省が推進する「地域包括ケアシステム」の構築、および「ときどき入院、ほぼ在宅」の実現に向け、今後は外来と地域との連携強化が不可欠である。患者が安心して在宅療養生活を送れるよう、今後は外来患者の在宅調整においても、リモートツール等を活用したタイムリーな情報共有と緊密な地域連携を重視していきたい。





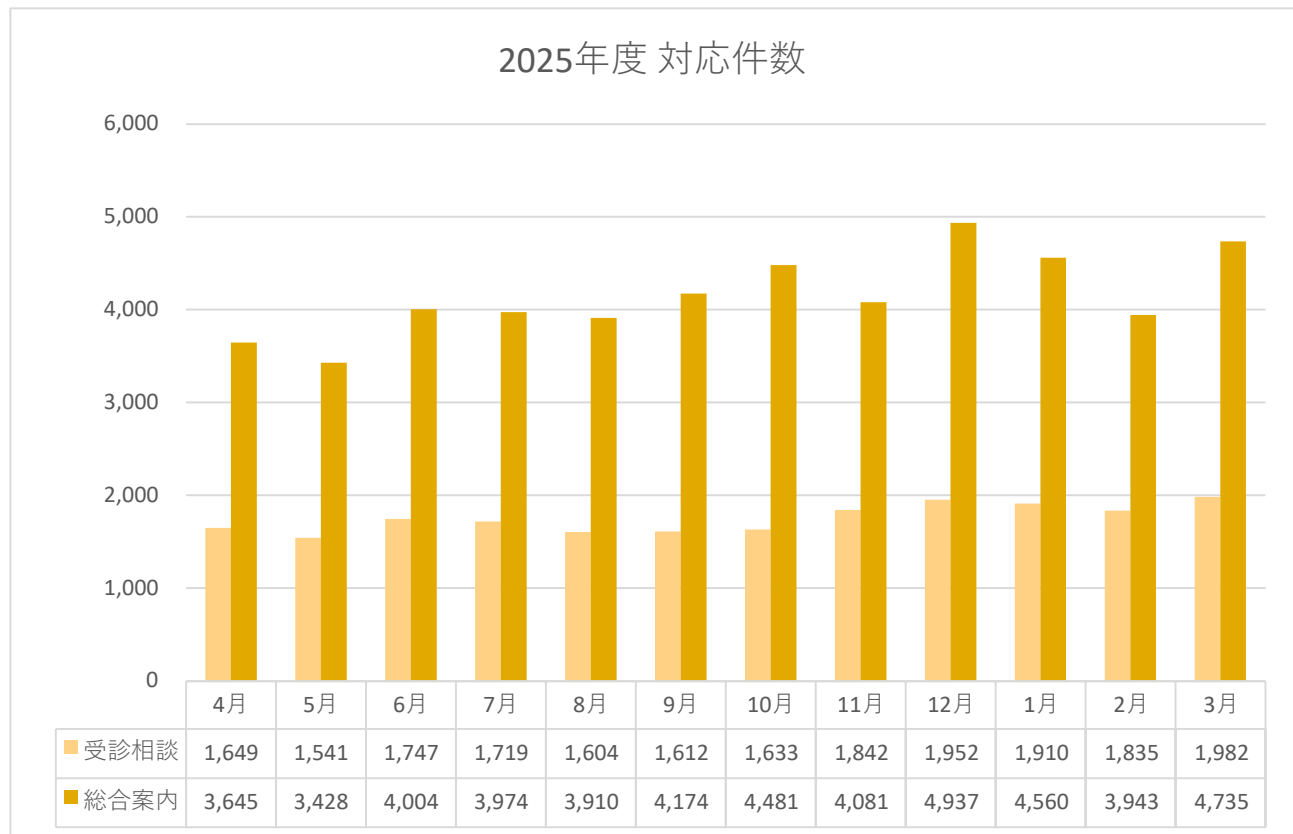
3-23 患者・看護相談室

業務実績



3-24 受診相談・総合案内

業務実績



内訳		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受診相談	受診相談	193	210	223	257	257	223	218	190	226	242	185	198
	電話相談	126	116	140	145	153	134	123	99	113	107	102	90
	院内案内	419	356	462	355	294	293	309	333	370	382	338	411
	面会者対応	163	155	145	176	183	145	169	184	197	173	205	216
	受付	284	258	266	269	238	310	268	266	291	321	314	343
	その他の相談等	464	446	511	517	479	507	546	770	755	685	691	724
総合案内	院内案内	1,956	1,874	2,188	2,023	2,042	2,094	2,218	2,194	2,763	2,525	2,194	2,599
	面会者対応	449	375	498	610	543	624	728	587	645	654	550	668
	受付	1,227	1,166	1,293	1,293	1,305	1,435	1,521	1,276	1,501	1,357	1,176	1,438
	その他の相談等	13	13	25	48	20	21	14	24	28	24	23	30

3-25 医療安全管理室

主な活動と実績

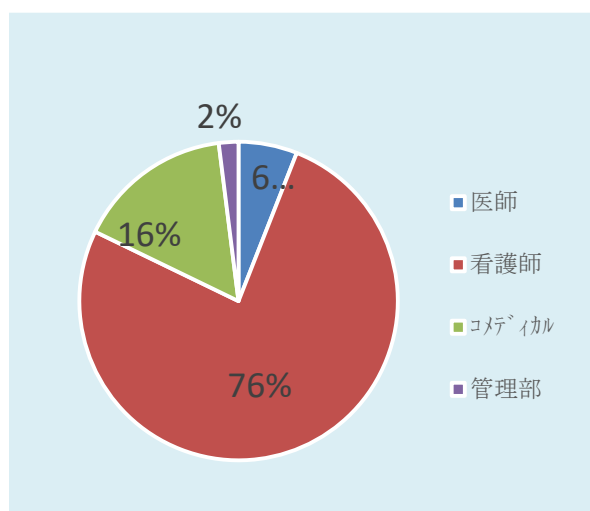
医療安全管理室では、安全で質の高い医療を提供するため医師2名、看護師2名、臨床工学技士1名、薬剤師1名、事務員3名を配置し、①医療の安全を確保するための改善方策に関すること②医療安全管理のための職員への企画・運営および院内広報等の企画・実施③医療事故発生時の対応に関すること④医療安全・危機管理委員会の円滑な運営に関すること⑤医療安全管理に関する院内の連絡調整⑥医療安全に係るカンファレンスを週1回程度開催⑦その他医療安全管理に関する業務に取り組んでいる。

この他、医療安全危機管理委員会を毎月、医療安全研修会を5回開催した。委員会はWEB および集合方式、研修会はオンライン上にて視聴による開催とした。医療安全に関する院内広報紙（リスクマネジメントレター）を毎月発行し、医療場面での注意喚起を行った。苦情・クレーム対応では、公平中立な立場で対応し、適正な接遇への指導および信頼回復に努めた。

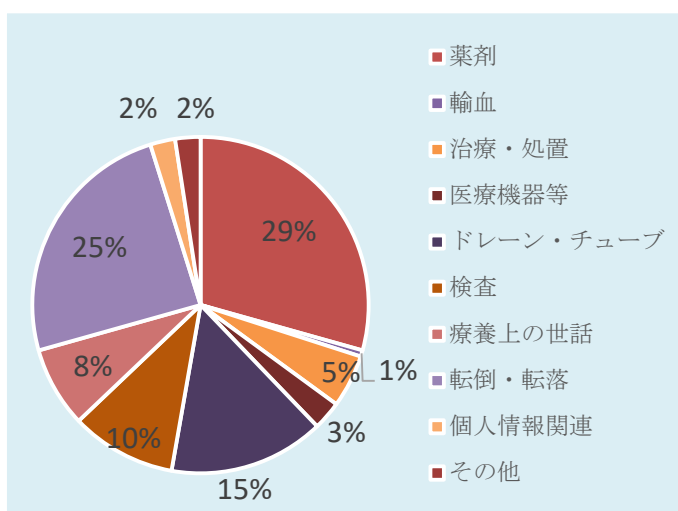
2025年度 インシデント・アクシデントレポート報告

部門	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計	部門別率
医師	22	3	58	2	11	26	3	3	6	14	148	5.6%
看護師	530	11	49	61	372	119	183	637	38	38	2038	76.6%
コメディカル	226	2	29	10	15	117	13	13	3	5	433	16.3%
管理部	3	0	0	1	0	8	7	0	16	8	43	1.6%
合計	781	16	136	74	398	270	206	653	63	65	2662	
項目別率	29.3%	0.6%	5.1%	2.8%	15.0%	10.1%	7.7%	24.5%	2.4%	2.4%		

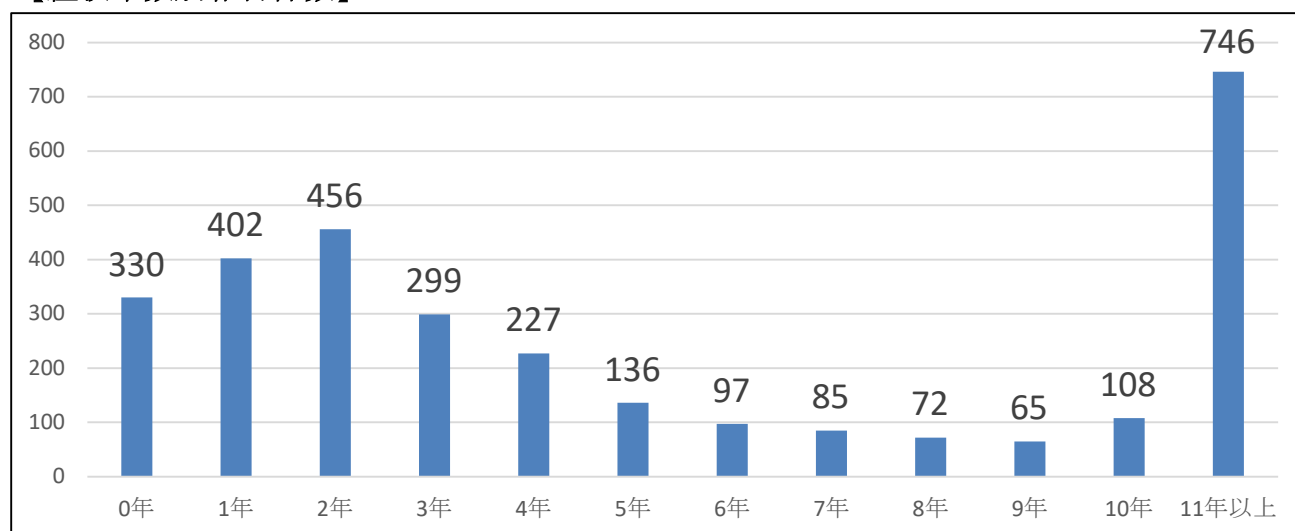
【職種別報告件数】



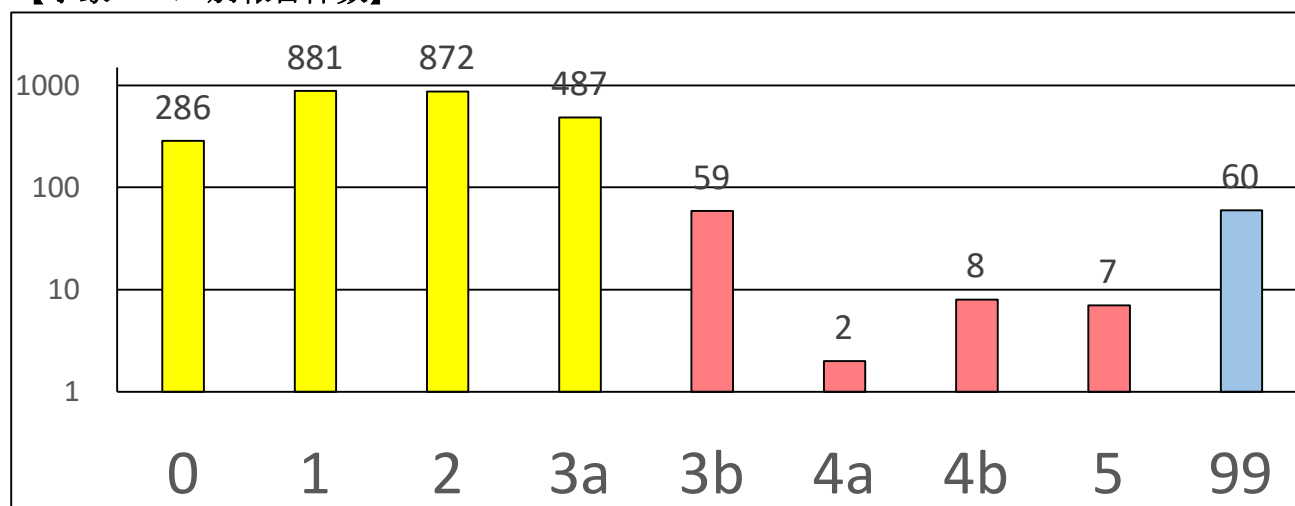
【内容分類別報告件数】



【経験年数別報告件数】



【事象レベル別報告件数】



【2025年度 医療安全対策研修会】

No	研修テーマ	対象	開催日	主催（講演）
1	転倒・転落予防について	全職員	5月16日～	リハビリテーション室
2	苦情・迷惑行為等への対応	全職員	7月11日～	医療安全管理室
3	採血時の検体取り扱いの注意点	全職員	10月6日～	検査室
4	二層バッグ製剤の開通忘れを防ぐ	全職員	10月6日～	薬剤科
5	情報セキュリティ研修	全職員	12月8日～	NEC フィールディング

2025年度 医療安全研修会

全体受講率**93.1%**

医師：86.0%、コメディカル：94.5%、看護部：99.9%、事務部：89.7%、委託業者：76.6%
独立部署（その他）：96.3%

3-26 感染対策室

感染対策室では以下のような活動を行っている。

1. 患者に対して安全な医療環境を提供するために、診療上問題となる病原微生物が発生・伝播・拡散することを防ぐ活動。
 - 病原微生物の感染経路に応じて感染拡大を防止する対策を行う。
 - 手指衛生モニタリングを行い定期的に職員と結果を共有、アルコールゲルの使用状況も確認し、各部署に指導を行う。
 - 耐性菌の発生率を減少させるために、広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用に際して適正な使用状況にあるか、週 1 回程度のラウンドを行う。
 - 年間計画に沿って院内のいずれかの部署の環境ラウンドを週 1 回程度行い、病原微生物が繁殖する温床がないかチェックを行う。ハイリスク病棟は 1 回/週、他の病棟も 1 回/月、病棟以外のハイリスク部署は 1 回/2 ヶ月の頻度で行う。
 - 細菌検査室が耐性菌を中心とした報告書を週 1 回感染対策室に提出し、各病棟で問題となる病原微生物のアウトブレイクがないかチェックを行う。もし、アウトブレイクと判断した場合は、当該部署に指導を行う。
2. 職員を感染曝露から防ぐための活動。
 - 安全衛生管理室と連携して針刺し、切創、粘膜曝露予防策及び発生時の対応方法を職員に指導している。
 - 安全衛生管理室と連携して職業感染予防のためのワクチン接種を推進している。
3. 院内感染対策の広報活動。
 - 院内感染対策を職員に浸透させるための定期的な研修会（e-ラーニング）を開催している。
 - 「新型コロナウイルス」「VRE」に関する対策等は院内通達を通し適時更新している。
4. 近隣病院・施設との連携。
 - 連携をしている近隣病院との合同カンファレンス及び訪問指導を通して、各施設が抱えている問題点を提示し、それに対する対策に関して意見交換を行う。
 - 連携病院と相互に院内ラウンドを行い、第三者の目から改善点を指摘しあう。

業務実績

月	日（曜日）	
4 月	3 日（木）	新入職員オリエンテーション
	4 日（金）	新任研修医オリエンテーション
5 月	1 日（木）	研修医イブニングレクチャー
	26 日（月）	東部地区感染対策担当者会議①
	27 日（火）	6 病院 J-ICT 会議①
6 月	12 日（木）	訪問指導①（中伊豆温泉病院）
	20 日（金）	感染対策向上加算合同カンファレンス①
	26 日（木）	訪問指導（香山産婦人科）

7 月	11 日 (金)	訪問指導② (伊豆赤十字病院)
	15 日 (火)	訪問指導③ (伊豆保健医療センター)
8 月	7 日 (木)	訪問指導 (岡村記念病院)
	25 日 (月)	東部地区感染対策担当者会議②
	26 日 (火)	私立医科大学病院感染対策協議会改善支援
9 月	13 日 (土)	私立医科大学病院感染対策協議会総会
	18 日 (木)	訪問指導 (三島中央病院)
	19 日 (金)	感染対策向上加算合同カンファレンス②
10 月	2 日 (木)	訪問指導 (伊豆赤十字病院)
	9 日 (木)	訪問指導 (つちやクリニック)
	20 日 (月)	感染対策向上加算相互ラウンド (沼津市立病院受入)
	28 日 (月)	訪問指導 (三島総合病院)
	30 日 (木)	訪問指導 (安田内科小児科医院)
11 月	4 日 (月)	静岡県看護協会感染管理認定看護師教育課程実習受入 (-12/5)
	5 日 (水)	保健所立ち入り
	12 日 (水)	訪問指導 (いなずさ診療所)
	20 日 (木)	訪問指導④ (中伊豆リハビリテーションセンター)
	25 日 (月)	6 病院 J-ICT 会議 東部地区感染対策担当者会議③
12 月	2 日 (火)	感染対策向上加算相互ラウンド (静岡医療センター訪問)
	3 日 (水)	東部地区 VRE 対策会議
	17 日 (水)	私立医科大学病院感染対策相互ラウンド (昭和大学藤が丘病院受入)
	18 日 (木)	私立医科大学病院感染対策協議会改善支援
	19 日 (金)	感染対策向上加算合同カンファレンス③
1 月	21 日 (水)	私立医科大学病院感染対策相互ラウンド (昭和大学藤が丘病院訪問)
2 月	5 日 (木)	静岡県東部地区地域連携カンファレンス
	16 日 (月)	東部地区感染対策担当者会議④
3 月	27 日 (金)	感染対策向上加算合同カンファレンス④
	通年	感染対策研修会・抗菌薬研修会を DVD 等で実施
	月 1 回	感染対策委員会
	月 1 回	VRE 対策委員会
	月 1 回	VRE 対策チーム活動報告会

次年度目標（2025 年度の総括と次年度の目標）

1. 2025 年度の総括

- VRE については私立医科大学病院感染対策協議会の改善支援を受けたが、未だアウトブレイク終息の見込みが立っていない。
- 抗菌薬ラウンド及び抗菌薬適正使用支援チームの活動を通し、広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用適正化を進めた。
- 手指衛生の向上は重点課題として取り組み、年々使用量は増加している。
- 環境衛生については ICT ラウンドの実施、各部署と協働し衛生的な病院環境の提供に努め、再ラウンド時に改善を確認している。特に点滴に関する環境と共有物品除染が継続した課題である。
- CLA-BSI/CA-UTI サーベイランスでは、ほとんどの部署で感染率が横ばい状態。

2. 2026 年度の目標

- VRE の新規発生を「ゼロ」にする。
- 手指衛生、環境衛生、物品管理を重点対策の 3 本柱とし取り組む。
- 安全な処置やケアの提供に向けて、より細かな場面での指導に注力する。
- CLA-BSI/CA-UTI 感染率は昨年度データを下回る。
- アウトブレイクマニュアルを活用し、各部署が耐性菌等の対策遵守を自主的に実施できるよう活動を促し、実践能力の向上を目指すための支援を行う。
- 抗菌薬ラウンドと血液培養陽性症例のラウンドを行い、抗菌薬の適正使用の更なる推進を図る。

3-27 健康安全推進センター

2025 年度 健康安全推進センター行事

年 月	日	曜 日	行 事
2025 年 4 月	1 21～23 23	火 月～水 水	新入職員オリエンテーション B 型肝炎ワクチン接種 安全衛生委員会
5 月	19～ 19～21 28 中旬～下旬	月～ 月～水 水 月～金	胃検診(胃内視鏡検査) B 型肝炎ワクチン接種 安全衛生委員会 新入職員面談
6 月	2～30 上旬 1～30 25	月～月 月～金 月～土 水	春季健康診断、ストレスチェック 新入職員面談 胃検診(胃内視鏡検査) 安全衛生委員会
7 月	～18 24	～金 木	胃検診(胃内視鏡検査) 安全衛生委員会
8 月	20 28	水 木	全地区合同健康安全推進センター担当者協議会 安全衛生委員会
9 月	25	木	安全衛生委員会
10 月	20～22 23 27 30～	月～水 木 月 月～	B 型肝炎ワクチン接種 安全衛生委員会 校医会・法人安全衛生委員会 インフルエンザ予防接種
11 月	～2 27	～木 木	インフルエンザ予防接種 安全衛生委員会
12 月	1～5 24	月～金 水	秋季健康診断 安全衛生委員会
2026 年 1 月	28	水	安全衛生委員会
2 月	2～4 25	月～水 水	流行性ウイルス性疾患 (麻疹・風疹・ムンプス・水痘) ワクチン接種 安全衛生委員会
3 月	9～11 25	月～水 水	流行性ウイルス性疾患 (麻疹・風疹・ムンプス・水痘) ワクチン接種 安全衛生委員会

【月毎定例行事】 飲食物取扱従事者検便《毎月第 2 火曜日》

※6 月～9 月は、第 2・4 火曜日（月 2 回）実施

託児所業務従事者検便《毎月第 2 火曜日》

【随 時】 雇い入れ時健康診断

業務実績

定期健康診断受診率

	春 季			秋 季		
実施期日	2025年6月2日～6月30日			2025年12月1日～12月5日		
実施項目	身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査、心電図検査、胸部X線、胃透視検査(40歳以上希望者)、内科診察			身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査、内科診察		
受 診 率	全 体	1,567/1,567	(100.0%)	全 体	947/947	(100.0%)
	医 師	288/288	(100.0%)	医 師	210/210	(100.0%)
	コメディカル	232/232	(100.0%)	コメディカル	74/74	(100.0%)
	看護部	916/916	(100.0%)	看護部	661/661	(100.0%)
	事務部	131/131	(100.0%)	事務部	2/2	(100.0%)

4. 統計

4-1 病床利用率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
病 床 数	633	633	633	633	633	633	633	633	633	633	633	633	633
病 床 利 用 率	96.4%	94.5%	95.7%	95.4%	94.7%	92.7%	95.5%	95.7%	95.8%	96.9%	97.3%	95.6%	95.5%

4-2 在院日数

(単位:日)

診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科・リウマチ科	12.1	14.1	16.6	15.9	8.5	10.9	8.9	15.1	13.3	10.3	9.4	8.3	12.0
血 液 内 科	22.7	16.8	15.0	17.8	15.3	21.4	20.1	18.5	15.2	16.4	20.8	15.9	18.0
消 化 器 内 科	10.5	10.4	10.2	9.7	10.1	9.5	10.1	10.4	9.3	9.5	8.6	9.6	9.8
呼 吸 器 内 科	16.0	13.8	14.0	12.8	16.0	18.7	13.3	13.9	14.0	14.4	16.8	17.9	15.1
腎 臓 内 科	13.8	15.4	17.4	17.3	15.7	14.1	14.6	11.9	12.0	16.1	16.4	19.2	15.3
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	8.7	9.8	9.4	8.6	11.6	7.4	10.6	7.5	9.9	12.0	11.2	10.1	9.7
循 環 器 内 科	7.8	8.5	7.5	7.9	8.1	8.0	7.8	8.3	8.2	9.3	8.2	7.8	8.1
小 児 科	7.2	6.3	7.3	5.9	4.6	5.8	6.4	6.3	6.7	6.3	8.2	5.0	6.3
小 児 外 科	2.5	4.2	5.6	6.4	3.1	5.1	4.2	4.6	7.8	6.6	5.2	5.9	5.1
新 生 児 科	29.2	37.1	40.5	46.1	30.0	22.9	20.5	28.3	23.9	22.7	19.6	23.7	28.7
外 科	9.7	10.0	9.9	10.3	10.8	9.7	11.0	10.4	10.4	11.7	11.3	10.7	10.5
脳 神 経 外 科	18.6	17.2	15.2	15.6	18.3	18.6	15.5	15.3	18.7	20.1	16.2	19.5	17.4
整 形 外 科	16.6	18.6	16.0	16.8	16.5	15.9	16.0	18.9	16.4	18.0	20.5	19.1	17.4
脳 神 経 内 科	15.9	25.1	17.7	18.5	15.6	15.3	15.8	14.6	15.2	14.5	12.2	17.6	16.5
心 臓 血 管 外 科	13.0	15.7	16.7	11.7	15.0	15.3	13.6	11.9	13.2	13.6	11.7	12.4	13.7
呼 吸 器 外 科	10.1	12.0	7.8	9.2	11.6	8.7	11.0	9.3	8.2	9.7	10.7	8.4	9.7
形 成 外 科	11.3	13.4	13.4	14.3	13.0	22.0	14.8	16.4	23.9	14.7	18.6	15.4	15.9
眼 科	5.3	5.2	5.5	5.3	5.6	5.9	5.4	5.0	5.9	5.1	5.3	4.9	5.4
耳 鼻 咽 喉 科	7.3	7.3	8.1	7.8	7.9	7.8	7.3	5.8	6.2	9.5	9.4	6.4	7.6
麻 酔 科 ・ ペインクリニック	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1
放 射 線 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メ ン タ ル ク リ ニ ッ ク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮 膚 ・アレルギー科	6.1	6.2	6.8	7.4	6.6	6.6	7.4	5.7	7.1	7.5	8.0	7.3	6.9
泌 尿 器 科	8.4	9.1	6.6	7.6	7.4	7.5	8.3	7.5	8.2	9.8	8.2	7.2	8.0
産 婦 人 科	6.8	8.1	7.1	6.9	7.4	6.8	6.8	7.7	7.7	8.4	6.3	8.2	7.4
救 急 診 療 科	7.0	10.2	11.1	9.9	13.0	13.0	11.7	11.0	10.8	12.5	12.3	13.8	11.4
歯 科 口 腔 外 科	2.8	4.9	4.3	2.8	3.4	2.6	3.2	3.8	2.4	2.7	2.4	2.5	3.2
合 計	10.5	11.3	10.7	10.7	10.9	10.8	10.5	10.4	10.7	11.5	10.9	10.9	10.8

4-3 診療科別延患者数（外来）

（単位：人）

診療科		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月 平均	当年度 計	前年度 計	前年比
内 科			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病・内臓科			1,619	1,589	1,524	1,631	1,530	1,488	1,623	1,463	1,592	1,510	1,411	1,564	1,545	18,544	18,461	100.4%
血液内科			1,561	1,611	1,531	1,736	1,609	1,675	1,673	1,415	1,535	1,537	1,462	1,673	1,585	19,018	18,324	103.8%
消化器内科			2,275	2,116	2,144	2,291	2,117	2,364	2,496	2,096	2,285	2,180	1,973	2,321	2,222	26,658	25,668	103.9%
呼吸器内科			1,993	1,903	1,942	2,061	1,744	2,053	2,047	1,875	2,039	1,911	1,760	1,881	1,934	23,209	22,559	102.9%
腎臓内科			1,161	1,181	1,066	1,218	1,173	1,199	1,207	1,112	1,147	1,163	1,104	1,216	1,162	13,947	13,514	103.2%
糖尿病・内分泌内科			2,555	2,438	2,452	2,586	2,545	2,564	2,606	2,437	2,605	2,531	2,366	2,647	2,528	30,332	30,066	100.9%
循環器内科			4,412	4,291	4,392	4,587	4,188	4,356	4,568	4,094	4,493	4,217	4,016	4,378	4,333	51,992	51,556	100.8%
小児科			1,185	1,195	1,302	1,352	1,352	1,292	1,183	1,107	1,189	1,135	1,046	1,265	1,217	14,603	17,528	83.3%
小児外科			114	93	105	112	109	107	112	110	141	122	111	132	114	1,368	1,312	104.3%
新生児科			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	2	-
外 科			2,120	2,018	2,117	2,302	2,023	2,062	2,315	2,008	2,240	2,126	2,012	2,175	2,127	25,518	25,256	101.0%
脳神経外科			1,986	1,873	1,969	1,953	1,824	1,901	2,005	1,777	1,852	1,814	1,680	1,946	1,882	22,580	23,155	97.5%
整形外科			2,711	2,699	2,878	2,771	2,563	2,742	2,721	2,354	2,687	2,530	2,367	2,678	2,642	31,701	32,858	96.5%
脳神経内科			2,177	2,016	2,129	2,255	1,984	2,148	2,215	1,969	2,135	2,096	1,994	2,164	2,107	25,282	25,416	99.5%
心臓血管外科			360	339	347	401	313	369	392	355	348	334	323	416	358	4,297	4,230	101.6%
呼吸器外科			291	275	313	316	276	296	314	260	297	282	248	289	288	3,457	3,388	102.0%
形成外科			315	267	333	333	308	338	303	297	299	315	296	309	309	3,713	4,227	87.8%
眼 科			2,934	2,670	2,731	2,984	2,726	2,665	2,758	2,373	2,758	2,621	2,516	2,861	2,716	32,597	34,979	93.2%
耳鼻咽喉科			1,291	1,254	1,346	1,418	1,300	1,252	1,353	1,160	1,226	1,207	1,216	1,405	1,286	15,428	16,809	91.8%
麻 酔 科			161	142	141	155	131	121	149	125	117	125	105	127	133	1,599	1,677	95.3%
放射線科			300	289	320	268	206	323	236	296	313	219	294	426	291	3,490	3,885	89.8%
メンタルクリニック			2,420	2,262	2,167	2,276	2,081	2,100	2,154	1,823	1,991	1,924	1,824	2,099	2,093	25,121	28,135	89.3%
皮膚・アレルギー科			2,891	2,821	2,826	3,075	2,889	2,835	3,064	2,709	2,810	2,717	2,620	2,996	2,854	34,253	35,210	97.3%
泌尿器科			1,833	1,770	1,727	1,864	1,814	1,734	1,835	1,565	1,769	1,611	1,557	1,728	1,734	20,807	21,693	95.9%
産婦人科			2,757	2,790	2,914	2,987	2,689	2,868	2,913	2,536	2,823	2,503	2,265	2,729	2,731	32,774	33,949	96.5%
救急診療科			137	135	130	144	168	133	141	104	134	140	111	132	134	1,609	1,480	108.7%
リハビリテーション科			70	66	64	55	44	43	36	32	29	43	45	50	48	577	956	60.4%
歯科口腔外科			558	511	564	583	504	569	653	516	573	607	559	598	566	6,795	5,084	134%
合 計			42,187	40,614	41,474	43,714	40,210	41,597	43,072	37,968	41,427	39,520	37,281	42,205	40,939	491,269	501,377	98.0%

4-4 診療科別延患者数（入院）

（単位：人）

診療科	月 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月 平均	当年度 計	前年度 計	前年比
膠原病内科 ・リウマチ科	340	459	491	481	318	346	464	414	427	376	358	365	403	4,839	4,064	119.1%
血液内科	844	800	807	854	802	758	848	747	816	771	743	776	797	9,566	9,978	95.9%
消化器内科	930	910	888	903	948	984	1,151	1,174	983	955	861	1,066	979	11,753	12,255	95.9%
呼吸器内科	869	826	890	736	893	1,011	853	940	802	873	827	979	875	10,499	10,532	99.7%
腎臓内科	511	402	494	586	638	561	461	430	511	550	459	647	521	6,250	5,892	106.1%
糖尿病・内分泌内科	229	226	219	200	313	244	243	235	237	262	306	263	248	2,977	2,985	99.7%
循環器内科	1,906	1,877	1,646	1,855	1,695	1,651	1,927	2,104	2,028	2,055	1,828	1,787	1,863	22,359	21,111	105.9%
小児科	466	399	305	406	302	322	335	381	372	382	329	319	360	4,318	4,563	94.6%
小児外科	51	46	72	121	88	79	121	108	97	69	82	113	87	1,047	946	110.7%
新生児科	829	915	828	896	851	673	654	748	735	722	568	640	755	9,059	9,855	91.9%
外科	1,758	1,630	1,772	1,770	1,754	1,685	2,055	1,815	1,867	1,938	1,848	1,920	1,818	21,812	22,900	95.2%
脳神経外科	2,107	1,963	1,806	1,811	1,949	1,716	1,805	1,716	2,053	2,252	1,947	2,007	1,928	23,132	22,232	104.0%
整形外科	1,728	1,700	1,611	1,888	1,696	1,644	1,529	1,643	1,571	1,681	1,676	1,597	1,664	19,964	19,447	102.7%
脳神経内科	686	849	790	760	596	615	693	527	644	623	594	699	673	8,076	8,842	91.3%
心臓血管外科	581	525	535	479	570	534	470	385	370	345	348	448	466	5,590	6,055	92.3%
呼吸器外科	205	163	167	199	222	160	199	136	148	186	187	169	178	2,141	1,990	107.6%
形成外科	185	186	175	236	218	254	293	289	349	299	244	296	252	3,024	3,262	92.7%
眼科	718	675	679	668	731	760	672	763	821	752	649	801	724	8,689	8,529	101.9%
耳鼻咽喉科	385	338	431	389	405	332	330	233	304	338	374	260	343	4,119	4,878	84.4%
麻酔科	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	50.0%
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メンタルクリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮膚・アレルギー科	230	183	292	254	192	224	287	219	216	227	275	266	239	2,865	2,955	97.0%
泌尿器科	636	781	674	790	743	672	658	661	780	797	584	760	711	8,536	8,088	105.5%
産婦人科	1,237	1,640	1,542	1,386	1,502	1,295	1,417	1,530	1,556	1,520	1,224	1,333	1,432	17,182	16,331	105.2%
救急診療科	856	1,031	1,022	1,016	1,125	1,056	1,222	929	1,077	1,001	894	1,194	1,035	12,423	10,883	114.2%
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	19	20	34	31	37	28	46	43	41	46	40	55	37	440	152	289.5%
合計	18,306	18,544	18,172	18,715	18,588	17,604	18,733	18,170	18,805	19,020	17,245	18,760	18,389	220,662	218,729	100.9%

4-5 新患者数（外来）

（単位：人）

診療科	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科・リウマチ科		59	39	37	51	52	51	51	35	53	55	46	58	49	587	513	114.4%
血液内科		56	63	51	62	68	67	51	28	47	55	47	44	53	639	710	90.0%
消化器内科		91	90	93	102	117	112	111	82	90	98	82	89	96	1,157	1,161	99.7%
呼吸器内科		66	64	68	69	65	66	64	77	66	56	65	56	65	782	892	87.7%
腎臓内科		33	36	23	43	36	49	40	27	40	53	45	34	38	459	506	90.7%
糖尿病・内分泌内科		53	48	46	47	55	35	41	39	40	42	39	48	44	533	522	102.1%
循環器内科		122	93	100	93	93	114	108	111	97	128	103	108	106	1,270	1,256	101.1%
小児科		83	103	112	121	110	88	70	72	71	69	80	88	89	1,067	1,415	75.4%
小児外科		11	8	11	15	10	10	15	6	17	18	11	17	12	149	140	106.4%
新生児科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外科		69	72	85	82	69	65	74	82	88	82	59	56	74	883	898	98.3%
脳神経外科		91	80	72	76	70	65	70	76	64	86	70	76	75	896	970	92.4%
整形外科		186	197	215	200	175	202	187	135	182	192	144	184	183	2,199	2,465	89.2%
脳神経内科		57	58	65	65	61	68	57	54	67	68	48	50	60	718	661	108.6%
心臓血管外科		10	13	18	21	13	11	26	16	14	16	12	8	15	178	197	90.4%
呼吸器外科		8	7	11	6	3	6	4	6	5	4	5	8	6	73	59	123.7%
形成外科		29	28	36	38	29	37	29	40	27	29	30	33	32	385	452	85.2%
眼科		163	118	137	149	140	159	122	132	144	148	114	128	138	1,654	1,719	96.2%
耳鼻咽喉科		72	89	122	90	96	87	82	82	63	107	113	101	92	1,104	1,221	90.4%
麻酔科		1	4	8	5	4	1	7	1	2	1	3	2	3	39	38	102.6%
放射線科		22	9	14	14	17	11	20	13	12	9	13	20	15	174	197	88.3%
メンタル・クリニック		53	7	1	4	5	2	1	8	9	7	25	37	13	159	607	26.2%
皮膚・アレルギー科		165	159	178	162	158	157	149	139	115	114	125	143	147	1,764	1,833	96.2%
泌尿器科		72	60	60	54	60	83	70	54	62	68	56	68	64	767	709	108.2%
産婦人科		144	153	160	144	134	116	134	115	125	125	89	136	131	1,575	1,791	87.9%
救急診療科		77	71	80	87	98	76	71	74	75	79	68	65	77	921	815	113.0%
リハビリテーション科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
歯科口腔外科		194	192	202	207	182	187	215	176	195	229	193	213	199	2,385	2,088	114.2%
合計		1,987	1,861	2,005	2,007	1,920	1,925	1,869	1,680	1,770	1,938	1,685	1,870	1,876	22,517	23,836	94.5%

4-6 新患者数（入院）

（単位：人）

診療科	月 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月 平均	当年度 計	前年度 計	前年比
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科 ・リウマチ科	26	31	29	29	29	29	53	22	32	31	35	37	32	383	287	133.4%
血液内科	32	44	50	46	45	37	35	41	45	47	31	48	42	501	479	104.6%
消化器内科	81	79	80	83	82	98	104	94	92	98	91	95	90	1,077	1,035	104.1%
呼吸器内科	47	57	59	53	54	55	56	61	52	60	45	55	55	654	639	102.3%
腎臓内科	33	23	30	32	36	35	30	30	43	29	28	30	32	379	394	96.2%
糖尿病・ 内分泌内科	23	21	21	22	26	28	21	27	19	24	24	22	23	278	254	109.4%
循環器内科	228	191	199	214	189	189	232	226	213	217	200	210	209	2,508	2,409	104.1%
小 児 科	58	53	36	56	55	48	46	53	46	55	34	52	49	592	687	86.2%
小児外科	14	7	11	18	22	13	24	20	11	8	15	17	15	180	177	101.7%
新生児科	29	23	21	17	28	25	32	25	29	31	25	27	26	312	359	86.9%
外 科	155	155	159	160	147	158	172	156	161	159	142	173	158	1,897	1,826	103.9%
脳神経外科	107	105	107	117	95	90	107	115	108	106	116	91	105	1,264	1,196	105.7%
整形外科	91	81	93	103	87	96	81	77	82	86	70	78	85	1,025	1,073	95.5%
脳神経内科	38	31	39	41	30	42	35	36	36	44	45	35	38	452	396	114.1%
心臓血管外科	41	25	27	33	34	28	29	24	24	21	28	33	29	347	350	99.1%
呼吸器外科	18	12	20	20	16	17	16	11	15	18	16	18	16	197	174	113.2%
形成外科	15	14	10	17	14	10	17	15	13	18	13	17	14	173	158	109.5%
眼 科	117	106	107	109	111	113	101	126	111	129	107	136	114	1,373	1,434	95.7%
耳鼻咽喉科	43	39	49	45	41	42	37	33	42	36	35	34	40	476	496	96.0%
麻 酔 科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	50.0%
放 射 線 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メンタル クリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮膚・アレルギー科	30	30	38	28	26	31	36	32	25	29	30	32	31	367	386	95.1%
泌尿器科	72	77	88	92	84	82	71	71	84	78	61	95	80	955	865	110.4%
産婦人科	164	185	188	173	181	166	183	178	173	165	163	146	172	2,065	2,082	99.2%
救急診療科	123	98	96	106	82	89	101	89	104	78	82	87	95	1,135	1,106	102.6%
リハビリ テーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	5	4	7	7	9	9	9	9	12	13	11	17	9	112	31	-
合 計	1,590	1,491	1,565	1,621	1,523	1,530	1,628	1,571	1,572	1,580	1,447	1,585	1,559	18,703	18,295	102.2%

4-7 退院患者数

(単位:人)

診療科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科 ・リウマチ科	26	30	27	28	37	29	42	29	28	35	34	41	32	386	292	132.2%
血液内科	39	46	51	45	53	31	45	36	55	42	37	44	44	524	489	107.2%
消化器内科	81	81	79	86	88	91	104	110	99	86	88	106	92	1,099	1,040	105.7%
呼吸器内科	55	55	60	54	51	48	63	65	55	54	48	49	55	657	644	102.0%
腎臓内科	36	26	24	32	40	39	29	36	36	35	25	34	33	392	391	100.3%
糖尿病・ 内分泌内科	24	21	21	20	24	30	21	28	24	17	26	25	23	281	253	111.1%
循環器内科	206	203	188	203	184	181	208	225	227	186	196	199	201	2,406	2,290	105.1%
小児科	56	56	37	61	53	47	45	52	50	51	37	54	50	599	689	86.9%
小児外科	15	10	11	15	21	13	23	19	11	10	12	16	15	176	180	97.8%
新生児科	26	25	19	21	27	31	29	26	30	30	30	25	27	319	359	88.9%
外科	173	143	165	154	149	157	171	162	165	148	157	156	158	1,900	1,839	103.3%
脳神経外科	108	110	115	102	106	85	111	97	101	107	111	104	105	1,257	1,196	105.1%
整形外科	105	92	96	109	106	98	98	88	98	91	85	81	96	1,147	1,182	97.0%
脳神経内科	43	34	45	37	41	34	47	32	43	37	45	40	40	478	424	112.7%
心臓血管外科	42	37	33	42	37	37	35	35	28	26	27	34	34	413	430	96.0%
呼吸器外科	19	13	18	19	19	16	17	15	17	17	16	18	17	204	186	109.7%
形成外科	15	12	14	14	17	12	20	18	15	20	12	19	16	188	170	110.6%
眼科	112	111	103	105	111	108	107	127	125	120	100	137	114	1,366	1,432	95.4%
耳鼻咽喉科	49	42	46	44	49	34	42	35	42	29	37	36	40	485	488	99.4%
麻酔科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メンタル クリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮膚・アレルギー科	34	22	37	32	25	28	33	33	28	25	31	32	30	360	387	93.0%
泌尿器科	64	77	90	91	92	76	70	84	85	70	65	90	80	954	887	107.6%
産婦人科	154	178	193	177	177	167	180	176	183	158	170	145	172	2,058	2,079	99.0%
救急診療科	95	87	75	82	79	64	92	68	80	71	55	75	77	923	931	99.1%
リハビリ テーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	5	3	6	9	8	7	12	9	12	12	12	15	9	110	31	-
合 計	1,582	1,514	1,554	1,582	1,594	1,463	1,644	1,605	1,637	1,477	1,456	1,575	1,557	18,683	18,291	102.1%

4-8 年齢別延患者数（外来）

（単位：人）

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度 計	前年度 計	前年比
0 歳	389	391	427	411	340	361	350	310	338	335	287	355	358	4,294	5,811	73.9%
1-6 歳	673	675	704	746	653	688	641	611	619	625	621	666	660	7,922	9,164	86.4%
0-9 歳	1,340	1,378	1,449	1,498	1,359	1,344	1,256	1,200	1,250	1,233	1,165	1,345	1,318	15,817	18,660	84.8%
10-19 歳	1,154	1,123	1,102	1,226	1,436	1,129	1,115	1,001	1,217	1,033	977	1,307	1,152	13,820	14,867	93.0%
20-29 歳	1,604	1,612	1,568	1,641	1,564	1,546	1,583	1,370	1,510	1,432	1,377	1,573	1,532	18,380	19,846	92.6%
30-39 歳	2,389	2,325	2,303	2,478	2,307	2,356	2,466	2,241	2,427	2,318	2,167	2,391	2,347	28,168	28,285	99.6%
40-49 歳	3,252	3,056	3,208	3,320	3,017	3,167	3,252	2,768	3,045	2,960	2,749	3,086	3,073	36,880	40,181	91.8%
50-59 歳	5,778	5,521	5,797	5,963	5,591	5,859	6,022	5,355	5,815	5,489	5,083	5,768	5,670	68,041	67,809	100.3%
60-64 歳	3,061	3,057	3,060	3,331	3,070	3,203	3,332	2,929	3,232	3,131	2,892	3,265	3,130	37,563	36,493	102.9%
65-74 歳	8,599	8,348	8,464	8,991	8,123	8,749	8,847	7,839	8,386	8,123	7,601	8,566	8,386	100,636	104,290	96.5%
75 歳以上	15,010	14,194	14,523	15,266	13,743	14,244	15,199	13,265	14,545	13,801	13,270	14,904	14,330	171,964	170,946	100.6%
合 計	42,187	40,614	41,474	43,714	40,210	41,597	43,072	37,968	41,427	39,520	37,281	42,205	40,939	491,269	501,377	98.0%

4-9 年齢別延患者数（入院）

（単位：人）

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度 計	前年度 計	前年比
0 歳	891	1,049	957	1,047	958	860	797	899	926	856	721	772	894	10,733	11,820	90.8%
1-6 歳	382	219	206	230	165	145	179	266	208	250	221	203	223	2,674	2,815	95.0%
0-9 歳	1,348	1,341	1,216	1,327	1,241	1,069	1,058	1,260	1,185	1,149	978	1,013	1,182	14,185	15,420	92.0%
10-19 歳	196	275	255	331	472	350	337	230	263	296	219	363	299	3,587	3,329	107.8%
20-29 歳	483	657	618	658	551	395	319	467	516	566	481	527	520	6,238	5,989	104.2%
30-39 歳	927	972	1,005	794	909	940	951	1,023	874	890	904	903	924	11,092	11,045	100.4%
40-49 歳	954	920	900	945	935	708	867	811	909	772	697	861	857	10,279	9,803	104.9%
50-59 歳	2,040	1,623	1,821	1,765	1,737	1,959	1,788	1,697	1,945	1,805	1,742	1,783	1,809	21,705	20,852	104.1%
60-64 歳	1,267	1,113	1,351	1,482	1,323	1,119	1,307	1,088	1,235	1,341	1,266	1,240	1,261	15,132	14,715	102.8%
65-74 歳	3,708	3,960	4,046	4,281	4,112	3,766	3,714	3,440	3,735	3,745	3,550	3,985	3,837	46,042	47,157	97.6%
75 歳以上	7,383	7,683	6,960	7,132	7,308	7,298	8,392	8,154	8,143	8,456	7,408	8,085	7,700	92,402	90,419	102.2%
合 計	18,306	18,544	18,172	18,715	18,588	17,604	18,733	18,170	18,805	19,020	17,245	18,760	18,389	220,662	218,729	100.9%

4-10 地区別延患者数（外来）

（単位：人）

市町村	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
下田市		1,070	1,023	1,034	1,051	913	1,061	1,077	983	1,083	931	868	1,124	1,018	12,218	12,573	97.2%
東伊豆町		824	775	786	777	724	793	794	704	759	726	644	717	752	9,023	9,198	98.1%
河津町		506	420	498	534	406	468	509	419	491	467	377	475	464	5,570	5,725	97.3%
南伊豆町		471	417	462	468	384	420	423	377	438	391	323	448	419	5,022	5,213	96.3%
松崎町		406	343	367	420	357	360	392	369	374	386	311	394	373	4,479	4,337	103.3%
西伊豆町		567	558	632	613	546	587	618	524	596	558	532	606	578	6,937	6,869	101.0%
熱海市		896	847	872	914	815	874	904	788	892	830	766	833	853	10,231	10,333	99.0%
伊東市		3,762	3,590	3,689	4,038	3,481	3,658	3,902	3,419	3,667	3,425	3,180	3,692	3,625	43,503	44,560	97.6%
沼津市		4,950	4,829	4,876	5,149	4,703	4,841	4,991	4,323	4,613	4,547	4,286	4,702	4,734	56,810	57,390	99.0%
三島市		4,672	4,474	4,659	4,936	4,502	4,804	4,850	4,180	4,579	4,437	4,231	4,704	4,586	55,028	56,700	97.1%
御殿場市		1,397	1,329	1,385	1,456	1,324	1,426	1,423	1,291	1,333	1,287	1,258	1,418	1,361	16,327	16,919	96.5%
裾野市		1,048	1,066	1,044	1,077	1,081	1,056	1,071	987	1,065	975	965	1,078	1,043	12,513	12,195	102.6%
伊豆市		4,552	4,383	4,324	4,517	4,258	4,332	4,569	3,970	4,384	4,196	3,881	4,533	4,325	51,899	53,808	96.5%
伊豆の国市		9,178	8,841	8,997	9,611	8,972	9,125	9,493	8,259	9,200	8,736	8,376	9,333	9,010	108,121	110,539	97.8%
函南町		3,540	3,450	3,552	3,591	3,432	3,467	3,680	3,301	3,589	3,330	3,266	3,513	3,476	41,711	42,501	98.1%
清水町		1,007	942	985	1,000	894	989	1,004	915	988	945	854	1,049	964	11,572	11,530	100.4%
長泉町		867	897	912	943	918	893	871	818	925	874	796	879	883	10,593	10,798	98.1%
小山市		239	235	239	276	258	229	259	235	273	250	245	259	250	2,997	2,902	103.3%
富士宮市		222	218	245	258	206	232	218	228	240	229	206	225	227	2,727	2,967	91.9%
富士市		578	554	553	649	600	596	584	569	573	583	563	656	588	7,058	7,018	100.6%
県内その他		512	485	462	444	449	447	492	415	446	436	414	482	457	5,484	5,530	99.2%
県外		923	938	901	992	987	939	948	894	919	981	939	1,085	954	11,446	11,772	97.2%
合計		42,187	40,614	41,474	43,714	40,210	41,597	43,072	37,968	41,427	39,520	37,281	42,205	40,939	491,269	501,377	98.0%

4-11 地区別延患者数（入院）

（単位：人）

市町村	月													月平均	当年度計	前年度計	前年比
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
下田市		661	769	665	589	462	457	704	660	641	832	781	878	675	8,099	7,802	103.8%
東伊豆町		436	350	448	598	421	470	462	564	342	366	291	369	426	5,117	5,243	97.6%
河津町		179	296	244	231	292	370	248	210	225	290	243	315	262	3,143	2,635	119.3%
南伊豆町		384	314	264	172	343	244	194	220	297	308	323	347	284	3,410	2,691	126.7%
松崎町		178	159	223	176	120	135	177	254	187	280	194	110	183	2,193	2,441	89.8%
西伊豆町		279	301	340	481	418	313	322	390	373	344	362	371	358	4,294	4,098	104.8%
熱海市		326	469	439	457	385	390	348	327	326	330	379	357	378	4,533	4,479	101.2%
伊東市		1,600	1,694	1,745	1,750	1,491	1,693	1,837	1,953	1,995	1,876	1,918	1,891	1,787	21,443	20,899	102.6%
沼津市		2,207	2,229	2,344	2,349	2,562	2,276	2,499	2,293	2,559	2,002	2,181	2,157	2,305	27,658	26,250	105.4%
三島市		1,939	2,148	1,891	1,763	1,905	1,808	1,597	1,610	1,920	2,041	1,727	2,098	1,871	22,447	23,520	95.4%
御殿場市		778	1,018	935	899	886	659	777	821	970	1,109	848	1,074	898	10,774	11,234	95.9%
裾野市		659	574	677	682	596	516	499	658	605	640	448	570	594	7,124	7,295	97.7%
伊豆市		1,792	1,681	1,571	1,486	1,767	1,821	1,991	1,755	1,662	1,951	1,547	1,750	1,731	20,774	20,160	103.0%
伊豆の国市		2,791	2,634	2,558	2,788	2,695	2,515	2,977	2,796	2,745	2,794	2,665	2,722	2,723	32,680	34,408	95.0%
函南町		1,522	1,514	1,402	1,569	1,495	1,482	1,384	1,258	1,535	1,367	1,294	1,361	1,432	17,183	15,705	109.4%
清水町		643	417	294	509	471	554	642	490	387	442	315	323	457	5,487	5,579	98.4%
長泉町		403	334	470	504	390	302	387	518	640	463	390	388	432	5,189	5,169	100.4%
小山市		146	155	174	183	151	130	84	209	190	175	272	207	173	2,076	1,840	112.8%
富士宮市		150	183	276	293	267	273	219	195	139	99	114	130	195	2,338	2,772	84.3%
富士市		396	482	408	430	499	458	519	348	274	345	256	344	397	4,759	5,192	91.7%
県内その他		201	178	140	256	219	201	190	220	342	338	162	316	230	2,763	2,132	129.6%
県外		636	645	664	550	753	537	676	421	451	628	535	682	598	7,178	7,185	99.9%
合 計		18,306	18,544	18,172	18,715	18,588	17,604	18,733	18,170	18,805	19,020	17,245	18,760	18,389	220,662	218,729	100.9%

